

# 2017年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



法政大学

# 科目一覽

【発行日：2021/6/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

基幹	【C2001】	行政法の基礎 [後藤 彌彦] 秋学期	1
基幹	【C2002】	民法 I [花立 文子] 春学期	1
基幹	【C2003】	民法 II [花立 文子] 秋学期	2
基幹	【C2004】	国際法 I [岡松 暁子] 春学期	3
基幹	【C2005】	国際法 II [岡松 暁子] 秋学期	4
基幹	【C2006】	市民社会と政治 [谷本 有美子] 春学期	4
基幹	【C2007】	行政学 [山口 二郎] 年間授業	5
基幹	【C2008】	国際関係論 [岡松 暁子] 春学期	6
基幹	【C2010】	地方自治論 [谷本 有美子] 秋学期	7
基幹	【C2011】	憲法の基礎 [土屋 志穂] 秋学期	8
基幹	【C2012】	刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期	9
政策	【C2013】	環境法 I [後藤 彌彦] 春学期	10
政策	【C2015】	環境法 III [後藤 彌彦] 春学期	10
政策	【C2016】	環境法 IV [今井 康介] 秋学期	11
政策	【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期	12
政策	【C2018】	比較環境法 [後藤 彌彦] 秋学期	12
政策	【C2019】	労働環境法 [水野 圭子] 春学期	13
政策	【C2020】	自治体環境政策論 I [小島 聡] 春学期	14
政策	【C2021】	自治体環境政策論 II [小島 聡] 秋学期	15
政策	【C2022】	日本公害史と法 [後藤 彌彦] 秋学期	17
政策	【C2024】	エネルギー政策論 [菊地 昌廣] 春学期	17
政策	【C2025】	地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期	18
政策	【C2026】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期	19
基幹	【C2100】	ミクロ経済学 I [大瀧 雅之] 春学期	20
基幹	【C2101】	ミクロ経済学 II [大瀧 雅之] 秋学期	21
基幹	【C2102】	マクロ経済学 I [大瀧 雅之] 春学期	22
基幹	【C2103】	マクロ経済学 II [大瀧 雅之] 秋学期	22
基幹	【C2104】	現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期	23
基幹	【C2105】	ビジネスヒストリー [長谷川 直哉] 秋学期	23
基幹	【C2106】	経営学入門 [金藤 正直] 春学期	24
基幹	【C2107】	環境経営と会計 [金藤 正直] 秋学期	25
基幹	【C2108】	公共経済学 [小田 圭一郎] 秋学期	26
基幹	【C2109】	簿記入門 I・II [平井 裕久] 年間授業	27
政策	【C2110】	環境経済論 I [國則 守生] 春学期	28
政策	【C2111】	環境経済論 II [國則 守生] 秋学期	28
政策	【C2112】	環境経営論 I [金藤 正直] 春学期	29
政策	【C2113】	環境経営論 II [金藤 正直] 秋学期	30
政策	【C2114】	環境経営実践論 I [花田 正明] 春学期	31
政策	【C2115】	環境経営実践論 II [花田 正明] 秋学期	32
政策	【C2116】	CSR 論 I [長谷川 直哉] 春学期	33
政策	【C2117】	CSR 論 II [長谷川 直哉] 秋学期	34
政策	【C2118】	国際環境政策 I [國則 守生] 春学期	35
政策	【C2119】	国際環境政策 II [内山 勝久] 秋学期	35
政策	【C2122】	国際経済協力論 I [武貞 稔彦] 春学期	36
政策	【C2123】	国際経済協力論 II [武貞 稔彦] 秋学期	37
政策	【C2126】	環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期	38
基幹	【C2127】	平和学 [山本 和也] 春学期	39
政策	【C2128】	人間の安全保障 [山本 和也] 秋学期	40
政策	【C2129】	環境マネジメントスタディーズ I [池原 庸介] 春学期	41
政策	【C2130】	環境マネジメントスタディーズ II [池原 庸介] 秋学期	42
基幹	【C2131】	簿記入門 I [平井 裕久] 年間授業	43
基幹	【C2132】	簿記入門 II [平井 裕久] 年間授業	44
基幹	【C2200】	現代社会論 I [田中 勉] 秋学期	45

基幹	【C2202】	現代社会論Ⅲ [田中 勉] 秋学期	46
基幹	【C2203】	NPO・ボランティア論 [川崎 あや] 秋学期	47
基幹	【C2204】	フィールド調査論 [傅 凱儀] 春学期	48
基幹	【C2205】	フィールド調査論 [田中 勉] 秋学期	49
基幹	【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 春学期	50
基幹	【C2208】	ファシリテーション論 [三田地 真実] 秋学期	51
基幹	【C2209】	グローバル・コミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 春学期	52
政策	【C2210】	地域形成論 [石神 隆] 春学期	53
政策	【C2211】	地域経済論 [石神 隆] 秋学期	54
政策	【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期	55
政策	【C2213】	地域コモンズ論 [山下 詠子] 秋学期	56
政策	【C2214】	都市環境論Ⅰ [石神 隆] 春学期	57
政策	【C2215】	都市環境論Ⅱ [石神 隆] 秋学期	58
政策	【C2216】	都市デザイン論 [田中 大助] 春学期	59
政策	【C2217】	環境社会論Ⅰ [西城戸 誠] 秋学期	60
政策	【C2218】	環境社会論Ⅱ [西城戸 誠] 秋学期	61
政策	【C2219】	環境社会論Ⅲ [西城戸 誠] 秋学期	62
政策	【C2220】	労働環境論Ⅰ [金子 良事] 春学期	63
政策	【C2221】	労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 秋学期	64
政策	【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 秋学期	65
政策	【C2225】	ローカルスタディーズⅠ [船戸 修一] 秋学期	66
政策	【C2226】	ローカルスタディーズⅡ [後藤 純] 秋学期	67
政策	【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期	68
政策	【C2228】	科学技術社会論 [詫間 直樹] 秋学期	70
政策	【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 秋学期	71
政策	【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 春学期	72
政策	【C2232】	国際社会学 [新藤 慶] 秋学期	73
基幹	【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 春学期	74
基幹	【C2301】	仏教思想 [高堂 晃壽] 秋学期	74
基幹	【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期	75
基幹	【C2303】	比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期	76
政策	【C2304】	比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期	77
基幹	【C2307】	日本美術史論 [豊田 和平] 秋学期	78
基幹	【C2308】	西洋美術史論 [板橋 美也] 秋学期	79
基幹	【C2309】	生命の現在と倫理 [鶴岡 健] 春学期	80
基幹	【C2310】	環境倫理学 [鶴岡 健] 秋学期	81
基幹	【C2312】	日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 春学期	81
政策	【C2313】	日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 秋学期	82
基幹	【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [梅原 秀元] 春学期	82
政策	【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [梅原 秀元] 秋学期	83
基幹	【C2316】	環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期	84
政策	【C2317】	環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期	85
政策	【C2321】	環境人類学Ⅲ [高橋 五月] 秋学期	86
基幹	【C2322】	環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期	87
政策	【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期	88
基幹	【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期	89
基幹	【C2401】	サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期	90
基幹	【C2402】	サイエンスカフェⅢ [中井 達郎] 春学期	91
基幹	【C2403】	自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦] 春学期	92
基幹	【C2404】	自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦] 秋学期	93
基幹	【C2405】	自然環境論Ⅲ [杉戸 信彦] 秋学期	93
基幹	【C2406】	エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 春学期	94
基幹	【C2407】	地球科学史Ⅰ [谷本 勉] 春学期	95
基幹	【C2408】	地球科学史Ⅱ [谷本 勉] 秋学期	95
基幹	【C2409】	環境健康論Ⅰ [朝比奈 茂] 春学期	96
基幹	【C2410】	環境健康論Ⅱ [朝比奈 茂] 秋学期	97
基幹	【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期	98

基幹	【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期	99
政策	【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [廣瀬 光子] 春学期	100
政策	【C2414】	自然環境政策論Ⅱ [新井 雄喜] 秋学期	101
政策	【C2416】	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期	102
政策	【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期	103
政策	【C2418】	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期	104
政策	【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期	104
政策	【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期	105
政策	【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期	106
政策	【C2422】	エネルギー論Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期	107
政策	【C2423】	大気と社会Ⅰ [丸本 美紀] 春学期	108
政策	【C2424】	大気と社会Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期	108
基幹	【C2429】	サイエンスカフェⅣ [渡邊 誠] 春学期	109
基幹	【C2430】	環境モデル論Ⅰ [渡邊 誠] 春学期	110
基幹	【C2431】	環境モデル論Ⅱ [渡邊 誠] 秋学期	111
基幹	【C2432】	自然災害論 [杉戸 信彦] 春学期	112
政策	【C2433】	自然環境論Ⅳ [中井 達郎] 秋学期	113
政策	【C2500】	公害防止管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期	114
政策	【C2501】	公害防止管理論Ⅱ [大野 香代] 秋学期	115
政策	【C2502】	廃棄物・リサイクル論 [鎗木 儀郎] 秋学期	116
政策	【C2503】	環境教育論 [野田 恵] 春学期	117
政策	【C2505】	食と農の環境学Ⅰ [今井 麻子] 秋学期	118
政策	【C2506】	食と農の環境学Ⅱ [船戸 修一] 秋学期	119
政策	【C2507】	食と農の環境学Ⅲ [吉田 岳志] 春学期	120
政策	【C2508】	スポーツビジネス論Ⅰ [千田 利史] 春学期	121
政策	【C2509】	スポーツビジネス論Ⅱ [千田 利史] 秋学期	122
政策	【C2554】	アーティストと社会貢献 [庄野 真代] 春学期	123
政策	【C2557】	グローバルスタディーズⅠ [吉田 秀美] 春学期	124
政策	【C2558】	グローバルスタディーズⅡ [吉田 秀美] 秋学期	125
基幹	【C2559】	現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期	126
政策	【C2560】	現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期	127
政策	【C2561】	人間環境特論 (海の環境再生) [坂本 昭夫] 秋学期	128
政策	【C2562】	人間環境特論 (ジェンダーから考える現代日本社会) [佐伯 英子] 春学期	129
政策	【C2563】	キャリアチャレンジ [人間環境学部教員]	129
フレッシュマン	【C2600】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期	130
フレッシュマン	【C2602】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期	131
フレッシュマン	【C2700】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期	132
スキルアップ	【C2800】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期	132
スキルアップ	【C2801】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期	133
スキルアップ	【C2802】	情報処理基礎 [松本 倫明] 春学期	134
スキルアップ	【C2803】	情報処理基礎 [松本 倫明] 秋学期	135
スキルアップ	【C2804】	情報処理基礎 [渡邊 誠] 秋学期	136
スキルアップ	【C2805】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期	137
スキルアップ	【C2806】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期	138
スキルアップ	【C2807】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 春学期	139
スキルアップ	【C2808】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 秋学期	140
スキルアップ	【C2809】	統計とデータ分析 [渡邊 誠] 春学期	141
スキルアップ	【C2900】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [平野井 ちえ子] 春学期	142
スキルアップ	【C2903】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [板橋 美也] 春学期	143
スキルアップ	【C2909】	英語Ⅱ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期	144
スキルアップ	【C2915】	英語Ⅲ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 春学期	145
スキルアップ	【C2921】	英語Ⅳ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期	146
スキルアップ	【C2950】	テーマ別英語 1 (スキルアップ科目) [板橋 美也] 春学期	146
スキルアップ	【C2953】	テーマ別英語 2 (スキルアップ科目) [竹原 正篤] 春学期	147
スキルアップ	【C2956】	テーマ別英語 3 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 春学期	148
スキルアップ	【C2959】	テーマ別英語 4 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 秋学期	149
政策	【C3000】	研究会 (A) [朝比奈 茂] 年間授業	150

政策	【C3002】	研究会 (A)	[石神 隆]	年間授業	151
政策	【C3003】	研究会 (A)	[板橋 美也]	年間授業	152
政策	【C3004】	研究会 (A)	[杉戸 信彦]	年間授業	153
政策	【C3005】	研究会 (A)	[岡松 暁子]	年間授業	154
政策	【C3006】	研究会 (A)	[梶 裕史]	年間授業	154
政策	【C3007】	研究会 (A)	[北川 徹哉]	年間授業	155
政策	【C3009】	研究会 (A)	[國則 守生]	年間授業	156
政策	【C3010】	研究会 (A)	[小島 聡]	年間授業	157
政策	【C3011】	研究会 (A)	[小島 聡]	年間授業	158
政策	【C3012】	研究会 (A)	[ESTHER STOCKWELL]	年間授業	159
政策	【C3013】	研究会 (A)	[後藤 彌彦]	年間授業	160
政策	【C3015】	研究会 (A)	[武貞 稔彦]	年間授業	161
政策	【C3016】	研究会 (A)	[田中 勉]	年間授業	162
政策	【C3017】	研究会 (A)	[平松 英人]	年間授業	163
政策	【C3018】	研究会 (A)	[永野 秀雄]	年間授業	164
政策	【C3019】	研究会 (A)	[永野 秀雄]	年間授業	165
政策	【C3020】	研究会 (A)	[長峰 登記夫]	年間授業	166
政策	【C3021】	研究会 (A)	[西城戸 誠]	年間授業	167
政策	【C3022】	研究会 (A)	[西城戸 誠]	年間授業	168
政策	【C3023】	研究会 (A)	[根崎 光男]	年間授業	169
政策	【C3024】	研究会 (A)	[長谷川 直哉]	年間授業	170
政策	【C3025】	研究会 (A)	[日原 傳]	年間授業	171
政策	【C3026】	研究会 (A)	[平野井 ちえ子]	年間授業	172
政策	【C3027】	研究会 (A)	[藤倉 良]	年間授業	173
政策	【C3028】	研究会 (A)	[金藤 正直]	年間授業	173
政策	【C3029】	研究会 (A)	[松本 倫明]	年間授業	175
政策	【C3030】	研究会 (A)	[宮川 路子]	年間授業	176
政策	【C3031】	研究会 (A)	[宮川 路子]	年間授業	177
政策	【C3034】	研究会 (A)	[渡邊 誠]	年間授業	178
政策	【C3035】	研究会 (A)	[高田 雅之]	年間授業	179
政策	【C3036】	研究会 (B)	[杉戸 信彦]	年間授業	180
政策	【C3037】	研究会 (B)	[岡松 暁子]	年間授業	181
政策	【C3038】	研究会 (A)	[梶 裕史]	年間授業	181
政策	【C3039】	研究会 (B)	[北川 徹哉]	年間授業	182
政策	【C3040】	研究会 (B)	[ESTHER STOCKWELL]	年間授業	183
政策	【C3041】	研究会 (B)	[後藤 彌彦]	年間授業	184
政策	【C3043】	研究会 (B)	[武貞 稔彦]	年間授業	185
政策	【C3044】	研究会 (B)	[田中 勉]	年間授業	186
政策	【C3046】	研究会 (A)	[谷本 勉]	年間授業	187
政策	【C3047】	研究会 (B)	[長峰 登記夫]	年間授業	188
政策	【C3048】	研究会 (B)	[根崎 光男]	年間授業	189
政策	【C3049】	研究会 (B)	[長谷川 直哉]	年間授業	190
政策	【C3052】	研究会 (B)	[高田 雅之]	年間授業	191
政策	【C3055】	研究会 (B)	[日原 傳]	秋学期	192
政策	【C3057】	研究会 (B)	[谷本 有美子]	秋学期	192
政策	【C3058】	研究会 (B)	[石神 隆]	年間授業	193
政策	【C3060】	研究会 (B)	[渡邊 誠]	年間授業	194
政策	【C3062】	研究会 (B)	[金藤 正直]	年間授業	195
政策	【C3063】	研究会 (A)	[國則 守生]	年間授業	196
政策	【C3064】	研究会 (B)	[高橋 五月]	年間授業	197
政策	【C3065】	研究会 (B)	[石神 隆]	春学期	198
政策	【C3066】	研究会 (B)	[石神 隆]	秋学期	198
政策	【C3071】	研究会 (A)	[高橋 五月]	年間授業	199
政策	【C3072】	研究会 (A)	[竹本 研史]	年間授業	200
政策	【C3073/C3076】	研究会 (B)	[竹原 正篤]	春学期	201
政策	【C3130】	研究会修了論文	[人間環境学部教員]	秋学期	202
政策	【C3150】	コース修了論文	[人間環境学部教員]	秋学期	202

政策【C3200】人間環境セミナー「地域づくりの新潮流 -実践の現場から考える-」[人間環境学部教員] 春学期	203
政策【C3201】人間環境セミナー「文化・芸術の現場」[人間環境学部教員] 秋学期	203
政策【C3202】インターンシップ [人間環境学部教員]	204
政策【C3204】人間環境セミナー「現代社会と健康」[人間環境学部教員] 秋学期	204
政策【C3300】フィールドスタディ [人間環境学部教員]	205
SCOPE【C3500】Japanese Environmental Policy 1 [藤倉 良] 秋学期	206
SCOPE【C3502】Japanese Society and Sustainability 1 [佐伯 英子] 秋学期	207
SCOPE【C3503】Japanese Society and Sustainability 2 [Eiko SAEKI] 春学期	208
SCOPE【C3504】Japanese Society and Sustainability 3 [Eiko SAEKI] 春学期	209
SCOPE【C3505】Business and Sustainability in Japan 1 [竹原 正篤] 秋学期	210
SCOPE【C3508】Social Development and Sustainability 1 [松村 智雄] 秋学期	211
【C3510】Practice of Environmental Economics and Japan [國則 守生] 秋学期	212
SCOPE【C3513】Japanese Rural Society [傅 凱儀] 秋学期	213
SCOPE【C3514】Subsistence, Resource Use and Sustainability [Regina FU] 春学期	214
SCOPE【C3551】Global Human Resources Management [長峰 登記夫] 秋学期	215
SCOPE【C3554】Human and Environment [Satsuki TAKAHASI] 春学期	216
SCOPE【C3555】Area Studies [松村 智雄] 秋学期	217
SCOPE【C3600】Studies for Environment and Society [傅 凱儀] 秋学期	218
SCOPE【C3601】Business and Society [竹原 正篤] 秋学期	219
SCOPE【C3602】Introduction to Energy and Resources [TETSUYA Kitagawa] 春学期	220
SCOPE【C3650】Research Methods 1 [佐伯 英子] 秋学期	221
SCOPE【C3651】Research Methods 2 [Regina FU] 春学期	222
SCOPE【C3700】Field Workshop [学部教員]	223
SCOPE【C3750】Co-creative Workshop A I [竹原 正篤] 秋学期	223
SCOPE【C3751】Co-creative Workshop A II [竹原 正篤] 春学期	224
SCOPE【C3802】SCOPE Seminar [傅 凱儀] 秋学期	225
SCOPE【C3803】SCOPE Seminar [傅 凱儀] 春学期	226
SCOPE【C3806】SCOPE Seminar [佐伯 英子] 秋学期	227
SCOPE【C3808】SCOPE Seminar [竹原 正篤] 秋学期	228
政策【C7314】文化経営論 [荒川 裕子] 秋学期	229



LAW200HA

## 行政法の基礎

後藤 彌彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国民生活が大きく行政に依存するようになった現代国家において、国民と行政との間の法律関係は行政法と呼ばれる。行政法では、私人間の利害調整に関する民事法とは異なった基礎原理の理解が必要となる。この行政法の基礎を学ぶ。

## 【到達目標】

行政法の原理、行為形式等を理解することにより、現代国家に生きるものとして今後行政と関わる際の基本的な仕組みが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

行政主体とその組織構造、法律による行政の原理と適正手続の確保等の原理、行政の行為形式、行政との紛争の裁断など行政法の各分野を概観する。講義形式により行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	現代行政の特徴 行政法とは何か 行政の担い手
第2回	行政の組織Ⅰ	①中央政府
第3回	行政の組織Ⅱ	行政の担い手 ②地方自治体
第4回	行政作用の一般理論Ⅰ	法律による行政の原理
第5回	行政作用の一般理論Ⅱ	適正手続きによる行政の透明性の確保
第6回	行政作用の一般理論Ⅲ	情報公開 個人情報保護
第7回	行政の行為形式Ⅰ	行政処分（行政行為）
第8回	行政の行為形式Ⅱ	行政裁量
第9回	行政の行為形式Ⅲ	行政指導 要綱行政
第10回	行政の行為形式Ⅳ	行政立法 法規命令と行政規則
第11回	行政の行為形式Ⅴ	行政計画 行政契約
第12回	行政活動の実現	行政の実効性の確保
第13回	行政救済法Ⅰ	行政不服審査法 行政事件訴訟法
第14回	行政救済法Ⅱ	国家賠償法 損失補償
第15回	まとめ	授業の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを通読しておく。授業内容の復習に力を入れ、テキストに判例が紹介されている場合は判例を調べる等発展的な学習をする。

## 【テキスト（教科書）】

開講時指定。行政法の改正が頻繁に行われるため、できるだけ最新のものを教科書とする。教科書によっては、授業計画の順序を変更することがある。

## 【参考書】

特に指定しない。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験による。

## 【学生の意見等からの気づき】

具体的事例、条文をあげ、初めて法律に接するものにわかりやすくなるように努める。

## 【その他の重要事項】

環境政策を実現する手段として環境法が重要ですが、今後環境法などの勉強を進める上でも、行政法の基礎知識が不可欠である。是非行政法に取り組んでほしい。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

## 民事法Ⅰ

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:市民間の法律問題について、解決するための考え方や基礎知識の習得

## 【到達目標】

到達目標:市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度や基礎知識を習得し、自ら問題点を調べ法知識を用いてトラブル等を解決する能力及び法的な考え方の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

## 授業の進め方

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考えます。たとえば、お金を貸したが返って来ない、貸した本を返してもらえない、買った物に傷があった、アルバイト代の遅配、等のトラブル問題です。これは、普段になげなく行っている取引から生じる問題です。また、自転車で人にぶつかって怪我をさせたしまった、ということもあるでしょう。これは取引ではなく、市民間で生じたトラブルです。

このように、トラブルには様々なものがあり、法律的に解決することが求められることがあります。このような法律問題が、どのように解決されることになるのか、民法や民法関連法を用いて検討し、それを通じて法的な考え方、法律の構造・全体像の理解を深めます。

## 授業の方法

(1) テーマごとに具体的な問題を通じて、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられている基本事項を理解し、市民間の法律問題の解決の仕方を考えます。また問題の背景となる社会問題についても考えます。さらに、授業の終わりには、リアクションペーパーを配布し、法律問題について考察したこと、また質問や感想等を書いていただきます。質問については次回に回答し、理解を深めることとし、また関心を持っていただいたことを共有します。

(2) 授業では、六法を用います。六法の見方、調べ方、条文の探し方や読み方等も勉強します。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進めます。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、関心の強いテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 民事法上の問題と司法制度	授業の進め方や六法、成績評価について説明する。 その後、民事法とは何か、一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかかわってくるかを概観する。
第2回	トラブルの解決基準となる法体系	問題解決に向け、どのように手続が進められるか、裁判制度（民事）の全体像をみる。民事法、行政法、刑事法にもふれ、法の体系を概観する。
第3回	契約とは	最も生活に密着する契約とは何か。契約はいつどこでどのようにして成立するか。契約が成立したときの契約責任を概観する。
第4回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはどれか、いつ主体となるか等を見る。また、人の出生に関わる問題も、社会問題とあわせてみる。
第5回	人の権利義務消滅時期	民法上、人が有する権利義務が消滅する死亡について、社会の認識や科学の進歩によってその捉え方が変化していること、臓器移植等現代的な問題を含めて、人の死亡と法律との関係を概観する。
第6回	人の死亡と法律効果	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる（死亡・認定死亡）。また、行方不明になった人の権利義務の行方についてもみる。
第7回	代理制度について	契約を通して権利を取得したいとしても、自ら契約を締結できない場合がある。このような場合にそなえた代理制度についてみる。



- 第 8 回 取引における条件と取引期間について 取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる(条件・期間・時効)
- 第 9 回 ①ここまでのまとめ。②個人情報について 身近なスマートフォンや携帯電話等の問題を通じて、民事上の責任と個人情報について考える。
- 第 10 回 取引上の権利の確保方法① 権利を確保するための方法として、物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
- 第 11 回 取引上の権利の確保方法② 権利を確保するための方法として、保証、相殺、債権譲渡等がある。それらの方法を概観する。
- 第 12 回 契約における法律の効力を発生させない場合 契約締結前に考えていたことが契約に反映していないとか、だまされたり脅されて契約を締結した場合に、効力を発生させない場合について考える。
- 第 13 回 夫婦の問題 法律上、夫婦とはどのようにして成立するのか、各々どのような義務を負うのか等、夫婦に関する問題をみる。
- 第 14 回 死亡の際の家族の財産の行方 死亡した場合に、その財産がどのようなものか、相続問題を考える
- 第 15 回 まとめ ここでは、全体のまとめをみる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

**【テキスト（教科書）】**

六法

**【参考書】**

授業の際、必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(適宜課題を出しレポートを提出してもらう。また、毎回法律問題について考察したことを提出していただき授業への取組度をみる)(40%)、および最後に行なわれる試験(60%)で総合評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し、自ら考えられるようになると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また関心がもてると、難易度の高い問題でも真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

**【関連の深いコース】**

サステイナブル経済・経営コース(旧・エコ経済経営コース)、ローカル・サステイナビリティコース(旧・地域環境共生コース)

LAW200HA

**民法法Ⅱ**

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テーマ:市民間の法律問題と法律知識の習得

**【到達目標】**

到達目標：市民間の取り引きやトラブル等に対応する法の全体像を理解する。法律制度を理解し、自ら問題を法的に考え解決する力を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。そして、具体的な問題を通して、自ら考えて解決できる力を養う。内容は、民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみることに、関連する法律問題をみる。たとえば、成年となる年齢とはどのような意味を有するのか、成年となる年齢はどのようにして決められたのか、今後変更の可能性はあるのか、未成年と成年とで法的にどのように違ってくるのか、未成年者の法律行為の問題、成年の法律行為の問題等のように、テーマごとに検討する。その過程で、法律の役割、法的な考え方を習得していきたい。

市民間には、様々なトラブルがある。具体的にどのような点が法律問題となるか、そのような法律問題をどのように解決すべきか、民法や民法関連法も含めて考える。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、社会問題として考える。また、授業の終わりに考察したことをかいていただく。また、質問や感想等を書いていただき、次回に応えることで理解を深め、また関心を大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、社会問題となっているテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 民法法の体系、法体系の概観	まず、授業の進め方、六法、成績評価等について説明する。 次に、民法法の授業での対象、民法法とは何か、民法法の中の民法法について、民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第 2 回	契約責任について	契約が成立するとどのような責任が生じるか、責任体系を概観する。
第 3 回	未成年者の契約について	未成年者の取引は法律上どのように考えられているかをみる。あわせて、成人年齢について考える(成人年齢決定の背景、成人年齢の変更の可能性、各種法律との関係)。
第 4 回	成年の契約問題について	成年後見制度の概観をみる。あわせて、成年後見制度と高齢社会を考える。
第 5 回	贈与契約を通してみる。	契約の際に予定したことと、異なる結果となった場合の契約について考える。
第 6 回	契約を消滅させる場合について	賃貸借を通じて、解除と解約告知についてみる。
第 7 回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら、悪質商法等の社会における問題点を考える。
第 8 回	消費貸借契約について	リボルビング払いを通じて金銭消費貸借契約と利息について考える。
第 9 回	労働契約について	現代の多様な労働形態と、雇用契約、請負契約、および労働法の体系をみる。
第 10 回	和解契約について	自転車走行中の事故に関する事件を通じて示談することの意味を考え、和解契約と不法行為責任について概観する。
第 11 回	委任契約について	具体的な近隣問題に関する判例を通して、法が近隣問題にどうかかわるのかを考え、委任契約についても検討する。

第 12 回	不法行為制度	自動車事故の判例を読み、交通事故について考え、民法の不法行為制度の知識を取得する。
第 13 回	家族と法について	家族について考える。親族、夫婦、親子について、法律上どのように規定しているかをみて、家族について考える。
第 14 回	忘れられる権利について	インターネット上の契約の成立時期、SNS の諸問題、知的財産件について考える。
第 15 回	まとめ	ここでは、授業全体をまとめ、民事法の役割について考え、自らの言葉で問題を考え、記述してもらう機会とする。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

#### 【テキスト（教科書）】

六法

#### 【参考書】

適宜指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（適宜課題を出しレポートを提出してもらう。また、毎回法律問題を考察したことを書いていただき、取組度をみる）(40%)、および最後に行なわれる試験（60%）で総合評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心をもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。また、リスク管理の重要性についても考えられるような内容にしたいと考えている。

#### 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

## 国際法 I

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

#### 【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の特徴、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第 15 回	期末試験	筆記試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

#### 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様のやり方で行います。

#### 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

LAW200HA

## 国際法Ⅱ

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

## 【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的發展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海
第4回	海洋法（3）	大陸棚、深海底
第5回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第6回	個人の管轄（1）	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄（2）	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第12回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第13回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第15回	期末試験	筆記試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法〔第2版〕』有斐閣、2010年。  
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選〔第2版〕』有斐閣、2011年。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

## 【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進めます。

## 【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

POL200HA

## 市民社会と政治

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、この講義では1990年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に学びます。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及びNPO・NGO（市民セクター）と政府セクターとの協働ないし緊張関係に焦点を当てながら、日本の統治機構の伝統的な態様を理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策形成・決定に対する市民セクターの関与のあり方について、多面的な統治（ガバナンス）という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

## 【到達目標】

・市民社会が政策形成に与える影響やその手法を学ぶ  
・政治・行政に関して当事者意識を持った判断や行動ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

前半は、日本における市民社会と政府・自治体との関係性について歴史的变化を学んだ上で、市民社会と政府・自治体・国際政治の各レベルにおける連携・緊張関係を示す具体的事例を取り上げ、政策形成過程への市民社会の関与の意義を検討していきます。

中盤では、2010年代に行われた諸外国の国民投票や日本の自治体における住民投票の事例を取り上げて、政府・自治体の意思決定に関わる直接民主制の諸課題を検討し、市民社会と民主政治をめぐる問題に目を向けていきます。終盤では、自治体レベルでの市民参加の実際を学びながら、間接民主制のもとでの有権者の参加のあり方を実践的に考えてみます。

最後に市民社会の多様性を念頭に置きながら、政策形成への関与について多角的な側面からアプローチして、市民社会のガバナンスに関わる問題を考察します。

授業は講義形式で行います。なお、取り扱った事例に関連して適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	市民社会と政治をめぐる事象について、民主主義の観点から認知していく
第2回	市民社会を表す概念の整理	講義で扱う「市民社会」「市民セクター」等の用語を理解する
第3回	市民セクターの活動と政府	戦後日本の歴史を踏まえつつ、市民社会と政府との関係形成の時代的特性を知る
第4回	市民セクターの活動と政策形成への影響	市民社会の取組みが政策展開に一定の影響をもたらした国内の事例を検討する
第5回	市民セクターの活動と国際政治の場	グローバルに活動するNGOの動きと国際政治との関わりについて事例から学ぶ
第6回	市民セクターと直接民主制	直接民主制の手段として、近年諸外国で行われた国民投票の例を題材にしなが、日本における国民投票の可能性と課題を考える
第7回	市民セクターと住民投票	近年の住民投票の運用事例から、市民社会の自治体政策への関与の可能性と諸課題を検討する
第8回	自治体レベルの「民意」と国政との関係	自治体レベルの「民意」と国政との相関関係を具体的事例から考える
第9回	市民参加のあゆみと市民社会の適応	1970年前後に市民参加を先駆けた自治体の事例から参加の理念と運用の実際を学ぶ
第10回	21世紀の市民参加と自治体の政策形成	1990年代半ばからの地方分権の時代に活発化した市民参加の手法を取り上げ、その傾向と今後の可能性を考える
第11回	市民セクターの合意形成	討議性民主主義の観点で進められている市民参加の新たな試みを取り上げながら、市民間の合意形成に関わる諸課題を検討する
第12回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の取り組みを学び、議会への市民の関わり方を考える

- 第 13 回 市民社会のガバナンスを  
考える (1) 社会的マイノリティや参加から排除されがちな人々の参加の機会や人権の問題について、社会的包摂の視点を踏まえて検討する
- 第 14 回 市民社会のガバナンスを  
考える (2) 寄付に対する税制優遇のしくみと市民の活動を支える資金の流れを概説した上で、市民社会への資金供給とガバナンスの問題について検討する
- 第 15 回 まとめ 全体の振り返り

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

#### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

#### 【参考書】

授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介いたします。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末の論述試験（80％）に、授業内の小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ビデオや新聞記事等を活用して、具体的な事例から考える機会を提供します。

#### 【その他の重要事項】

地方自治論、NPO・ボランティア論及び NGO 活動論を履修済みか、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めます。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

POL100AC

## 行政学

山口 二郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は政策行政系の科目である。行政府の役割と活動について説明し、行政府を担う官僚組織について、その構造、歴史、特徴、動態を解説する。また、政府における政策形成過程についても、解説する。

#### 【到達目標】

政府の役割と限界についての確に理解すること。  
現代官僚制の役割と限界についての確に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

現代行政の構成要素、官僚組織、行政制度、政府体系、政策形成過程について講義を展開する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	I 行政とは何か 1 リスクと行政	近現代におけるリスクの変容と政府活動の拡大
第 2 回	1 リスクと行政 続	グローバル化とリスクの変化及び行政活動の変質
第 3 回	2 政府の役割	政府と市場の比較にもとづく、政府の役割と限界についての説明
第 4 回	2 政府の役割 続	公共性の意義と政府の役割
第 5 回	3 行政の発展段階と行政概念の展開	民主化、産業化がもたらす行政活動の拡大 福祉国家と行政
第 6 回	II 近代官僚制と行政 1 近代官僚制の成立とウェーバーの官僚制論	官僚制の概念の歴史的展開 マックス・ウェーバーの官僚制概念
第 7 回	1 近代官僚制の成立 続	官僚制と合理性
第 8 回	2 官僚制の構造と機能	グローバル化と官僚制の変容 官僚制における整理と病理、機能と逆機能
第 9 回	2 官僚制の構造と機能 続	官僚制における服従と自発、忠誠と反逆
第 10 回	3 行政責任と行政裁量	官僚制の裁量と民主的統制
第 11 回	3 行政責任と行政裁量 続	日本の行政における責任の概念と政策の失敗
第 12 回	4 官僚組織と現代社会	20 世紀文明としての官僚制 フォードイズムと官僚制組織
第 13 回	5 ポスト 311 の官僚制と行政	科学技術の発達と専門権力 民主政治と専門権力の関係
第 14 回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	政策決定における個人と組織
第 15 回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	日本官僚制における無責任体制 官僚制の「優越性」とは何か
第 16 回	III 政策と行政 1 政策の概念	政策の定義
第 17 回	1 政策の概念 続	政策の類型化
第 18 回	2 政策の循環	政策類型と政策決定過程の対応 政治システムと政策の循環 政策の連鎖
第 19 回	3 政策課題の形成	フィードバックの重要性 政策の守備範囲
第 20 回	3 政策課題の形成 続	作為と不作為をめぐる権力 行政需要とは何か
第 21 回	4 政策の形成と作成	行政需要の充足と政策 合理的政策作成モデル 多元的政策形成モデル
第 22 回	5 政策の選択	政策選択の合理化モデル 合理性の意義と限界
第 23 回	6 政策の実施	政策実施と官僚制の裁量 政策実施に対する市民的統制
第 24 回	7 政策の評価	政策評価の基準 政策評価の活用方法とその限界 官僚制と自己修正能力

発行日：2021/6/1

第 25 回	IV 日本における行政の構造と動態	日本における行政制度の歴史的展開 日本官僚制の歴史的特徴
	1 日本統治機構と官僚制	
第 26 回	2 議院内閣制と官僚制	議院内閣制における行政府 議院内閣制と政官関係
第 27 回	2 議院内閣制と官僚制	戦後日本における「官僚支配」の実態 政権交代と政治主導の意味
第 28 回	3 日本における市場と官僚制	日本における市場と官僚制
第 29 回	4 日本官僚制の文化的特徴	遅れてきた福祉国家と官僚制 日本の行政における文化的特徴
		衆議制 官民間係
第 30 回	5 暴力装置	警察、軍隊と官僚制

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を事前に読んでおく  
講義で言及される政治、行政現象に関して、新聞、テレビ、雑誌等の報道をフォローする。  
参考文献をなるべくたくさん読む

#### 【テキスト（教科書）】

西尾勝 行政学 有斐閣

#### 【参考書】

開講時に文献リストを配布する

#### 【成績評価の方法と基準】

筆記試験による

#### 【学生の意見等からの気づき】

現実にかかる行政にかかわる問題を取り上げ、適宜学生からの意見を求めて、双方向的な議論も行いたい。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

POL100HA

## 国際関係論

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。

#### 【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第 2 回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第 3 回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第 4 回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第 5 回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第 6 回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際関係の特徴
第 7 回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第 8 回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第 9 回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第 10 回	南北問題の歴史の変遷	南北問題と南南問題
第 11 回	貧困と開発	途上国問題
第 12 回	人権	国際人権保障の困難性
第 13 回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第 14 回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み
第 15 回	国際社会における課題	国際社会における諸問題と今後の課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で行った範囲をよく復習すること。

#### 【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

#### 【参考書】

適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

#### 【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

POL200HA

## 地方自治論

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000年の地方分権改革や平成の大合併を経て、現在の地方自治では、地域の特性を活かしつつ、自律的な自治体運営を行うことが期待されています。また、人口減少問題への対策を本格化させた政府が、「地方創生」の観点から自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体は地域経営についても積極的な取り組みを求められています。この講義では、受講生がそうした自治体の主人公の「市民（Citizen）」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

### 【到達目標】

- 地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける。
- 地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

前半の授業では、地方自治の成り立ちや歴史の変遷を知り、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その後、地方自治の基本的な制度・しくみについて解説した上で現場の運用事例等を紹介しながら、市民の視点で実践的に検討していきます。

後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の政府関係の問題も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。

それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要とされるシステムについて、運用の情報を提供しながら、見識を深めていきます。

授業は講義形式で行い、内容にはビデオや新聞記事等を活用しながら地方自治の最近の動きも交えていきます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第2回	欧米諸国の地方自治と日本の地方自治	日本の地方自治に大きな影響を与えた欧米諸国の地方自治制度を取り上げ、比較を通じて、日本の地方自治制度の特色を認識する
第3回	近代日本の地方自治の成り立ち	明治維新以降、戦後地方自治制度の施行までの間に規定されていた地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を認識する
第4回	中央集権的な地方自治と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、戦後復興期からの中央集権的な時代を経て、高度成長期以降に自治体が国に先駆けて取り組んだ都市政策を取り上げ、自治体の役割の変容を検討する
第5回	大都市自治体の特例と都市問題	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第6回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表による機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップについて考察する
第7回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性を考察する
第8回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する

第9回	全国画一の政策と自治体の政策決定～地方分権改革を踏まえて～	対人サービスを中心とする福祉分野の政策を取り上げ、第1次地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとでの、国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、実施主体となる基礎自治体の政策決定のあり方について検討する
第10回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担の関係性を検討する
第11回	民に広がる公共サービスと自治体の役割	公共サービスの担い手が民へと拡大し、公民の役割分担が大きく変化する中で、自治体が果たすべき役割とは何かについて、子ども子育ての政策分野を題材に考えていく
第12回	平成の大合併と小規模町村	平成の大合併で市町村数は3分の1に減少し、合併の功罪にはさまざまな論議がある。ここでは合併を行わなかった小規模町村にも着目しながら、住民自治と行政サービス提供体制の問題から考察する
第13回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第14回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールの活用事例を参考にしながら、今後の可能性を考えていく
第15回	まとめ	全体の振り返り

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努める
- 自分の住んでいる自治体の状況を調べる
- 日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につける

### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配布します。

### 【参考書】

- 『ホーンブック 地方自治（第3版）』（北樹出版、2014年）
- その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80%）に授業内のレポート提出状況等（20%）を加味し、総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

ビデオや新聞記事等を活用し、事例を紹介しながら具体的に考える機会を提供します。

### 【その他の重要事項】

- 旧科目名称「地方自治論Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

## 憲法の基礎

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法とはどのような法であるか、どのように成り立っているのかを学ぶ。憲法の基本的な構造や枠組みを理解する。日本国憲法がどのような憲法であるかを知る。

### 【到達目標】

現実の具体的な社会問題がどのように憲法と関連付けられているかを学び、日本における法の支配について理解することを目的とする。  
憲法と関連して問題となっている社会問題について理解を深めることにより、将来の社会問題を法的に分析する視点を持つことを目指す。  
日本だけでなく、国際社会を広く意識して憲法や法律の視点で物事を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

配布資料を使用しながらの講義形式による。  
場合によっては、映像などを取り入れることもある。  
シラバスは進度によって多少変更する可能性もある。  
憲法の条文を暗記する必要はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 日常生活と法 憲法とは？	法学はどのような学問か。 憲法はどのような法律か。
第2回	憲法の基礎 日本国憲法の成り立ち	憲法の定義 日本国憲法の成立過程 日本国憲法の概要
第3回	天皇の国事行為 平和主義	天皇と国民主権 日本国憲法と自衛隊
第4回	平和主義（続き） 統治機構①	自衛隊と国際社会 権力の分立 選挙と政党
第5回	統治機構②	立法権としての国会
第6回	統治機構③	行政権としての内閣 裁判所 裁判員制度
第7回	統治機構④	裁判所（続き） 地方自治制度
第8回	統治機構⑤	地方自治制度（続き）
第9回	基本的人権の尊重① 基本的人権の尊重②	基本的人権概論 人権に対する制約 新しい人権（憲法に書かれていない人権の保障）
第10回	基本的人権の尊重③	平等権 思想・良心の自由 表現の自由
第11回	基本的人権の尊重④	表現の自由（続き） 身体の自由
第12回	基本的人権の尊重⑤	身体の自由（続き） 財産権
第13回	基本的人権の尊重⑥	社会権とは 生存権
第14回	基本的人権の尊重⑦	教育・労働
第15回	日本国憲法と国際社会	統治機構及び基本的人権の保障（まとめ） 日本国憲法上の規定と国際社会の問題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事等で憲法問題に関係のある社会問題を常に意識しておくこと。  
（必要がある際には、授業のときに指示します）  
資料として配布された新聞記事には必ず目を通しておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

授業で配布する資料による。教科書の指定はしない。

### 【参考書】

芦部信喜『憲法【第6版】』（高橋和之補訂版、岩波書店、2016年）  
ポケット六法（有斐閣）などの六法。  
その他授業の際に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

原則として、試験期間内の学期末試験による。  
ただし、任意提出のレポート課題で加点する。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様に行う。  
プリントが多くなってしまったため、整理に注意を払うように十分な注意喚起を行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントや映像機器を使用する可能性もある。  
講義資料として配布したものは、授業支援システム上に随時アップロードする。

### 【その他の重要事項】

【関連する科目・分野】  
行政法、国際法などの法律関連科目  
政治学、社会制度論等の国家の組織に関わる学問

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

LAW200HA

## 刑法の基礎

渡辺 靖明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、端的に言えば、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律のことです。しかし、この世の中の「悪いこと」のすべてが刑法上の犯罪として処罰されるわけではありません。例えば、前日の遊びで疲れて寝坊したため、授業への出席をサボるのは良くないことではありますが、これを処罰する法律はありません。それでは、刑法上処罰の対象となる「犯罪」は、いかなるもので、どのような要件の下で成立し、あるいはその成立が否定されるのでしょうか。この授業では、これについて具体的な事例を検討しながら学んでいきます。

## 【到達目標】

「刑罰」は、これが科される市民にとって「害悪」でもあり、その執行には社会的なコストがかかります。また、刑罰は、犯罪を防止して、よりよい社会を築くための最適な手段とは限りません。それでも刑罰を科さなければならぬ「犯罪」とは、どのようなものなのでしょうか。

これを考えるためには、法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割、刑罰の目的、刑法と他の法律との関係や刑法の一般原則及び犯罪の一般的ないし個別的な成立要件等を理解する必要があります。これらの基礎知識の習得を通じて、私たちの社会にとって最も大切な価値観・利益とは何かを多角的な視野を持って考えられるようになる。これこそが、この授業の最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

各回ごとにレジュメを配布し、刑事裁判の事件等を素材に作成した具体的な事例について検討して、各テーマごとの理解をはかります。また、授業で特に分からなかった点については、リアクション・ペーパー等で適宜質問してもらい、これに対して可能な限りさらに説明を加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／なぜ刑法が必要なの？	倫理・道徳に反する行為と犯罪行為との異同、社会的非難と刑罰との異同などを学ぶ。
第2回	「損害賠償」と「刑罰」との違いって？	民事不法行為に対する損害賠償と犯罪に対する刑罰との違い、刑罰の目的（応報か予防か）、また刑罰による犯罪予防の限界などを学ぶ。
第3回	人を「わざと」殺したときと、「うっかり」殺してしまったときで、刑の重さが異なるのはなぜ？ —故意・過失	刑法における「故意」と「過失」の内容、両者の違いを学ぶ。
第4回	「法律なければ犯罪なし、犯罪なければ刑罰なし」ってどういう意味？ —罪刑法定主義	「罪刑法定主義」の基礎を学ぶ。例えば、学校や駅でのスマホ等の無断の充電行為は、「財物」の窃盗になるか。
第5回	人を殺しても処罰されないことがある？ —犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件の「構成要件」、「違法性」、「責任」の基礎を学ぶ。
第6回	「何もしない」のに処罰される？ —不作為犯	「作為犯」と「不作為犯」との異同、不作為犯の成立に「作為義務」の要求される根拠等を学ぶ。
第7回	別れるつもり恋人に「後から自分も死ぬから。」と嘘を言って、自殺させたら、殺人罪？ それとも自殺関与罪？ —被害者の同意	「被害者の同意」によって違法性が阻却（否定）され、あるいは減少する根拠とその限界を学ぶ。
第8回	「少年」や「心神喪失者」だと、どうして処罰されないの？ —責任	刑法における「責任」の意義、「責任能力」の内容・判定方法等について学ぶ。
第9回	人を殺そうとして、その人の飲み物に「毒」を入れたつもりが実はただの「砂糖」だった。それでも処罰される？ —未遂犯	「未遂犯」の処罰される根拠、その成立要件、「未遂犯」と「不能犯」との区別等を学ぶ。
第10回	人を殺しに行くと言っている友人を励ましたら処罰される？ —共犯	複数人が犯罪事実の実現に関与する「共犯」の種類（教唆・幫助・共同正犯・共謀共同正犯）を学ぶ。

第11回	刑法では、「胎児」と「人」とはどのように区別される？ —生命に対する罪	殺人罪、自殺関与罪、過失致死傷罪等の基礎を学ぶ。また「胎児性致死傷」についても学ぶ。
第12回	人の髪の毛を勝手に切ったら「傷害罪」？ —身体に対する罪	暴行罪、傷害罪等の基礎を学ぶ。
第13回	「大地震が来るぞ！」と脅かすと「脅迫罪」になる？ —自由に対する罪①	脅迫罪、強要罪、逮捕・監禁罪等の基礎を学ぶ。
第14回	ビザ店のバイトで宣伝チラシを配るため、マンションに立ち入ったら「住居侵入罪」？ —自由に対する罪②	住居侵入罪の基礎を学び、住居権・住居の平穏と表現の自由との関係等についても学ぶ。
第15回	いやがらせのために友人のレポートを持ち去ってすぐにゴミ箱に捨てたら、「窃盗罪」？ それとも「器物損壊罪」？ —財産に対する罪	財産犯罪の分類やその基礎（保護法益、不法領得の意思等）を学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメ等に基づく予習・復習をしてください。

## 【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

## 【参考書】

特に指定はしません。お勧めの参考書は、授業時に説明します。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業に関連するレポート（2回）60%、知識確認の試験（授業期間内実施）30%及び平常点10%を総合して行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、授業改善アンケート回答者のほぼ全員に、この講義を履修して「良かった」と評価してもらえました。また、この講義で「刑法」について学んでから、犯罪や刑事裁判等に関するニュースに接した際に、人を処罰するとはどういうことかを深く考えるようになったとの声もありました。

他方で、もっと学生に質問して、学生が主体的に考えるような機会を設けて欲しい、との意見も複数ありました。本年度は、この意見を踏まえて、受講者の皆さんにできるだけ質問を投げかけて、積極的に答えてもらうよう努めたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムでは、本授業に関する連絡や、各回の終了した毎にその回のレジュメのアップなどをします。支援システムをこまめにチェックしてください。

## 【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目も併せて履修しておく、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講の「環境法Ⅳ」（環境刑法）では、主として環境犯罪について学びます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）



LAW300HA

## 環境法Ⅰ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有害物質、廃棄物、地球環境問題などわれわれのまわりには、解決をせまられている環境問題が山積する。我が国の公害・環境法の生成、現在の体系、環境法の特徴、基本理念などを学び、環境政策を考えるうえでの基礎的な到達点を把握する。

## 【到達目標】

環境法政策の生成、体系等の基礎を学ぶことにより、持続可能な社会に生きていくための基本が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

高度経済成長のひずみとして現れてきた公害、自然破壊などの環境問題に対し、公害対策基本法などの公害法や自然保護法が生成した。さらに地球環境問題を迎え、環境基本法を中心とした法体系が完成した。また、大量生産大量消費から生じてきた廃棄物問題に対しては循環型社会の形成が要請される。歴史的視点に立ってこれらの環境法体系を俯瞰するとともに、環境法の基本原則・理念を学ぶいわば、環境法の総論である。講義形式により行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方と概要
第2回	公害法の萌芽	戦前の公害問題とその対応
第3回	戦後の復興と公害法	公害防止条例と水質二法
第4回	公害事例と法Ⅰ	イタイイタイ病と鉱業法 公害裁判
第5回	公害事例と法Ⅱ	水俣病と水質二法等 公害裁判
第6回	公害事例と法Ⅲ	四日市公害とばい煙規制法 公害裁判
第7回	公害対策基本法	全総計画 新産業都市 三島沼津コンビナート計画 公害対策基本法の制定
第8回	公害国会	公害14法の整備
第9回	自然保護法の歩み	国立公園制度、自然公園制度の整備
第10回	環境法の発展	都市生活型公害 地球環境問題
第11回	環境基本法	環境基本法の概要
第12回	循環型社会形成推進基本法	循環型社会形成推進基本法の概要、体系
第13回	生物多様性基本法	生物多様性基本法の概要、体系
第14回	近年の環境法	環境法の体系と新しい動き
第15回	まとめ	授業の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にプリント、参考書を学習する。事後興味をもった事例、制度を掘り下げて調べてみる。

## 【テキスト（教科書）】

プリント

## 【参考書】

授業内で紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験による。

## 【学生の意見等からの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

## 【その他の重要事項】

この講義は、各論として環境法Ⅲ、比較環境法へ発展する。また、過去の公害経験やそれに対する対応は、詳しくは「日本公害史と法」で扱う。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

## 環境法Ⅲ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別の公害法、廃棄物法などの国内環境法の内容を学び、環境汚染を防止するための仕組みや政策を把握する。

## 【到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

公害、廃棄物、リサイクルに関連する主要な法律に関連して、これに対する法の仕組み（規制対象、規制基準、規制を遵守させる仕組み）などの概要を把握するとともに、大気汚染等の状況や廃棄物リサイクルの状況を学び、現行政策の内容と問題点を考える。講義形式により行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	紛争処理と法	豊島の事例と公害紛争処理法
第2回	被害救済と法	公害被害救済法から公害健康被害補償法への発展
第3回	費用負担と法	補償法の費用負担 公害防止事業者負担法の費用負担
第4回	大気汚染防止法Ⅰ	固定発生源の規制
第5回	大気汚染防止法Ⅱ	移動発生源の規制
第6回	その他大気汚染諸法	自動車NOxPM法など
第7回	水質汚濁防止法Ⅰ	工場事業場規制
第8回	水質汚濁防止法Ⅱ	生活排水対策
第9回	その他水質汚濁諸法	瀬戸内法、湖沼法、下水道法など
第10回	地盤沈下、土壌汚染と法	地盤沈下二法 土壌汚染二法
第11回	感覚公害と法	騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法
第12回	廃棄物処理法Ⅰ	一般廃棄物
第13回	廃棄物処理法Ⅱ	産業廃棄物
第14回	リサイクルと法	容器包装リサイクル法など
第15回	まとめ	授業の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にプリント、参考書を学習する。事後興味をもった制度を掘り下げて調べてみる。

## 【テキスト（教科書）】

プリント

## 【参考書】

授業内で紹介。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験による。

## 【学生の意見等からの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

## 【その他の重要事項】

この講義は、環境法Ⅰの各論にあたる。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW300HA

## 環境法Ⅳ

今井 康介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題について法律的なアプローチを行う場合、3つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑法的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。環境法Ⅳの授業では、刑法的なアプローチの独自性、特殊性、そしてその限界を扱います。

この授業で環境刑法の基礎、罰則の概要、現在の問題点等を学ぶことにより多角的な視点から環境問題を考えられるようになることが、最終的な目標です。

## 【到達目標】

例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、廃棄物処理法違反（不法投棄罪）なのは明らかですが、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？

また夜中に、こっそりとゴミ処分場に忍び込み、処分場で処分されているものと同種のを処分してくるのは、処分場という性格上問題がなさそうですが、なお廃棄物処理法違反なのでしょうか？

この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

特定の教科書を指定しないので、毎回配布物を配り、説明を行います。また多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 環境保護の手段としての刑法	授業の進め方、評価方法についての説明。環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、環境刑法の機能について説明します。
第 2 回	環境刑法の基礎理論①	環境刑法の前提となる刑法の基本原則について学びます。例えば罪刑法定主義、故意犯処罰の原則といった原則です。
第 3 回	環境刑法の基礎理論②	環境刑法を理解する上で不可欠の刑法概念について説明を行います。具体的／抽象的危険犯、未遂犯、過失犯、行政従属性など。
第 4 回	環境刑法の基礎理論③	環境刑法の歴史、公害刑法から環境刑法へと展開が行われた経緯、議論を学びます。また、環境刑法の特別な機能についても取り扱います。
第 5 回	空気、大気等の保護について	大気汚染や、悪臭、騒音、振動の発生を防止する規定を紹介し、検討します。
第 6 回	水の保護について	水質汚濁、海洋汚染などの水に関連する規制を紹介し、検討します。
第 7 回	土の保護について、文化財、自然環境の保護について	土壌汚染や農業用地の汚染についての規制を紹介し、さらに文化財や自然環境の保護に関する規定を扱います。
第 8 回	化学物質、原子力に関する規制など	化学物質や原子力、生物の種を保護する規定等について、最近の動向を中心に取り扱います。
第 9 回	廃棄物処理法①	おからは食品？ 廃棄物？ 廃棄物処理法の対象となるかどうか、「廃棄物の定義」の問題を検討します。
第 10 回	廃棄物処理法②	廃棄物処理法の罰則規定、とくに不法投棄罪の諸問題を検討します。
第 11 回	廃棄物処理法③	廃棄物処理法の罰則規定、不法焼却罪、無許可収集・運搬、処分、その他の罰則などを検討します。
第 12 回	環境刑法の保護法益	環境刑法が保護しようとしているものは何なのか？ という点について検討します。
第 13 回	取り締まり、刑事訴訟、執行上の問題	環境刑法罰則が運用されている現状、運用される際の問題、執行現場の問題などを紹介します。

第 14 回 比較法的に見た日本の環境刑法の問題点

ドイツ、オーストリア、中国等の環境刑法から見た日本の環境刑法の罰則規定、学問の違いを明らかにします。

第 15 回 環境刑法と環境アプローチ、新しい環境刑法の領域

環境刑法の概要を総括し、環境への法的アプローチの可能性を探ります。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で、簡単な小テストを実施します（第 8 回と第 15 回を予定）。それ以前の授業で配付した資料等に目を通して来てください。

## 【テキスト（教科書）】

指定なし。

## 【参考書】

北村喜宣『環境法（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2015 年）、1944 円がおすすめです。その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

最終の筆記試験は実施しません。授業内で行う 2 回の小テスト（選択式）及び平常点で評価します。場合によってはレポート（任意提出）も加味して、総合判断します。

## 【学生の意見等からの気づき】

初年度につき、なし。

## 【その他の重要事項】

環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期開講科目「刑法の基礎」（渡辺靖明先生）の履修をおすすめします。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

LAW200HA

**国際環境法**

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

**【到達目標】**

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質（3）	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	貿易と環境	GATT/WTOと環境問題
第14回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第15回	期末試験	筆記試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書の該当部分を読んでおくこと。

**【テキスト（教科書）】**

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005年。  
奥脇直也・岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

**【学生の意見等からの気づき】**

これまでと同様の方法で進める。

**【その他の重要事項】**

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

**【関連の深いコース】**

グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

LAW300HA

**比較環境法**

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

今日の環境問題の主要なテーマである環境影響評価、自動車環境対策、有害物質対策などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。

**【到達目標】**

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識を習得するとともに地球社会の一員として国際的に協調して取り組む重要性を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第2回	国際的な環境保護の歩みⅠ	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第3回	国際的な環境保護の歩みⅡ	原子力事故 国際会議
第4回	環境影響評価制度Ⅰ	わが国の制度とNEPA①
第5回	環境影響評価制度Ⅱ	わが国の制度とNEPA②
第6回	環境影響評価制度Ⅲ	SEA
第7回	自動車排出ガス規制Ⅰ	マスクー規制
第8回	自動車排出ガス規制Ⅱ	ディーゼル規制
第9回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第10回	有害物質対策Ⅰ	DDT等の農薬 PCBと化審法
第11回	有害物質対策Ⅱ	外国の制度 ダイオキシン 水銀 REACH PRTTR
第12回	有害物質対策Ⅲ	スーパーフンド法とわが国の制度
第13回	土壌汚染対策	温室効果ガス算定報告
第14回	地球環境問題 新エネルギー	RPS法、FIT法など
第15回	むすび	授業の総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前にプリント、参考書で日本の制度を学習する。事後興味を持った外国の制度を掘り下げて調べてみる。

**【テキスト（教科書）】**

プリント

**【参考書】**

授業内で紹介

**【成績評価の方法と基準】**

定期試験による。

**【学生の意見等からの気づき】**

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

**【その他の重要事項】**

・旧科目名称「国際環境法Ⅱ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

**【関連の深いコース】**

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

LAW300HA

**労働環境法**

水野 圭子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメントなど人格権に対する対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

**【到達目標】**

1. 「労働環境法」とかかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようになる。
3. その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くないものであれば、解答できるようになる。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

PowerPoint を用いながら講義を行う。労働環境について、学生である皆さんは明確なイメージを持ちにくいと思うので、ドキュメンタリーなどの映像資料を使用する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、「労働環境法」に関する説明。	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。
第2回	法学の基礎知識	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。
第3回	労働環境を構築する労働法の仕組み	労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第4回	労働時間・休憩・休暇・休息時間といった労働環境	労働時間規制について
第5回	労働時間・休憩・休暇・休息時間といった労働環境	法定労働時間と時間外労働
第6回	柔軟な労働時間制度について	休憩・休息時間・休日・年次有給休暇 休むことについて
第7回	労働安全衛生法（概要）	変形労働時間制やみなし労働時間制などの多様な労働時間規制について。
第8回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害）	労働者の安全衛生の確保。産業医の問題点。
第9回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害）	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか
第10回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害）	過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について
第11回	少子化とワークライフバランス	過労死・過労自殺の事例検討
第12回	少子化とワークライフバランス	女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について検討する
第13回	障害・マイノリティと労働環境	女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について検討する
第14回	ハラスメントといった人格権侵害	障害を持った労働者に対する合理的配慮等について検討する
第15回	まとめ	セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメント・マタニティハラスメントに対する法的規制と判例 本講義全体を通したまとめを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので、教科書の該当する部分を熟読し、講義に臨むこと。

**【テキスト（教科書）】**

高橋賢司『労働法講義』（中央経済社 2015年）  
六法を用意すること。六法についてはガイダンスで説明する。

**【参考書】**

1. 浜村彰ほか『ベーシック労働法（第6版）』（有斐閣、2015年）1,900円＋税
2. 下記のサイトは「成績評価の方法と基準」に関連する。

・ワークルール検定

<http://workrule-kentei.jp/>

**【成績評価の方法と基準】**

1. 「試験」（80％）

期末試験として1回実施。論述形式の問題を出題する。

2. 「授業中に実施する確認問題」（20％）

講義中に確認問題を出題する（1回の講義で1～2問程度）。これらの問題を学期を通じて実施する。問題の難易度は、ワークルール検定の初級レベルとなる。

**【学生の意見等からの気づき】**

具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

**【その他の重要事項】**

講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

**【関連の深いコース】**

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

POL300HA

## 自治体環境政策論 I

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、環境政策は、自治体において極めて重要な政策領域になってきている。しかもここでの環境政策は幅広い内容を有しており、自治体には総合的な政策展開がもたらされている。

この講義では、第1に、「政策型思考」を身につけるために、「政策」の概念と総合的な地域環境空間づくりをプロログとして、次に自治体環境政策を素材としながら、公共政策の基本的な構造や体系性・総合性、政策過程について検討する。第2に、環境政策の個別領域の動向、自治体の新たな政策実践について検討する。

第3に、高度経済成長期以降の自治体環境政策の政策開発の軌跡について歴史社会的な視点を交え検討し、さらに現在の政策動向を確認しながら、これからの方向性や課題について検討する。

取り上げる個別政策領域としては、緑化・緑地（農地）保全、ヒートアイランド対策、下水道整備、廃棄物や公害に関する環境規制、公園政策、景観政策などである。

この授業の目的・意義は、学生が、「持続可能な地域社会」の構築に重要な役割を果たす自治体の環境政策に関する基礎知識を身につけ、さらに政策型思考を身につけることで、アクティブに政策問題に取り組む力を養うことである。

## 【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・政策構造や政策過程に関する行政学・公共政策学などの学問的なとらえ方を理解する。
- ・自治体環境政策の政策開発の軌跡に関する知識を習得し、歴史社会的な見方を習得する。
- ・自治体環境政策の動向と課題に関する知識を習得する。
- ・様々な立場の社会人（市民・生活者、地域における公務従事者、NPO関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、授業の前半ではワークショップも実施し、また適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに授業で提示した論点や、各地の自治体環境政策の動向に関するリアクションペーパーの提出を数回ともめ、授業に活用する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「政策」とは何か	自治体環境政策が公共政策であることをふまえ、「政策」の概念とその基本的な構造について検討し、この講義の導入とする。
第2回	政策の体系性と総合性	政策の基本構造をふまえて、自治体の政策体系を確認した後、政策の総合性について検討する。
第3回	自治体環境政策の体系性・総合性を考えるためのワークショップ	自治体環境政策の体系性と総合性を体感するために、政策体系のうち緑に関する部分を学生自身が作成し共有するワークショップを行う。
第4回	地域環境空間の形成と総合的なプロデュースに向けた自治体の政策的役割	地域環境空間の形成について緑化・緑地（農地）保全、川づくり、都市景観などの視点で俯瞰的にシミュレーションしながら、政策実践のケースを確認し、さらに総合的なプロデューサーとしての自治体の政策的役割を検討する。
第5回	政策過程の循環モデルと「問題の定義」	公共政策としての自治体環境政策の動態を理解するために、政策過程の循環モデルを提示した上で、初期のステージである「公共問題の構造化」について検討する。
第6回	ヒートアイランドの問題構造と公共政策	ヒートアイランドを手がかりとして、「公共問題の構造化」について具体的に理解し、問題解決のための自治体環境政策の構造を検討する。

第7回	「政策課題の設定」と自治体環境政策	「政策の窓が開く」時である「政策課題の設定」の局面について、NPO・NGOの役割、環境正義との関連性をふまえながら検討する。
第8回	「政策立案」と自治体環境政策における政策選択・政策責任	政策立案過程における政策手段の選択について説明した上で、自治体環境政策における「二重の不確実性」と政策責任について検討する。
第9回	自治体環境政策の手段類型とポリシーミックス	自治体環境政策の手段類型を検討し、さらにポリシーミックスの重要性について言及する。
第10回	自治体環境政策の表現形態	自治体環境政策が、行政計画、条例などのローカル・ルール、予算など多様な表現形態をとることを確認しながら、自治体の環境基本計画や環境政策関連の条例の動向などに言及する。
第11回	政策実施と自治体の環境規制	政策過程における政策実施の局面の重要性を確認した上で、産業廃棄物や公害などに関する自治体の環境規制について検討する。
第12回	政策実施と地域の環境創造	地域の「環境創造」に関する政策実施について、公園政策を中心として、市民参加やNPOとの協働などに言及しながら検討する。
第13回	第1世代の自治体環境政策と現代の「環境再生」	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を主たる目的として登場した第1世代の自治体環境政策の政策開発について、当時の社会情勢と現代への示唆をふまえながら検討する。さらに、今日の「環境再生」の時代における自治体環境政策の方向性について検討する。
第14回	第2世代の自治体環境政策と現代の景観政策	1960年代後半から80年代において、地域環境空間の質の重視を目的として登場した第2世代の自治体環境政策の政策開発について、「環境政策の多次元化」という文脈で、当時の社会情勢を踏まえながら歴史的町並み保全を中心として検討し、さらに現代の景観政策の動向と課題について言及する。
第15回	アーバンデザインと現代の都市政策	第2世代の自治体環境政策の時代からはじまったアーバンデザインについて検討し、地域の持続可能性という視点から、現代の都市政策の課題について言及する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・リアクションペーパーを作成する。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。
- ・講義で言及した自治体環境政策に関連する報道などの情報収集に努める。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

## 【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
  - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
  - ・『自治体環境行政法（第6版）』第一法規、2012年。
  - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（90%）+リアクションペーパーによるミニレポート（10%）で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

- ・自治体環境政策のみならず自治体について知識を得る機会になるようです。
- ・自治体政策の理論を理解するために、全国の具体的な事例紹介は役立ちようです。
- ・配布するレジュメの目的と利用方法、パワーポイントとレジュメの関係性は初めに説明しますが、この点の説明を適宜行うように留意したいと思います。
- ・リアクションペーパーの活用を含め対話型授業をある程度取り入れています。さらに工夫をしていきたいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

## 【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目をあわせて履修することを推奨します。
- ・「自治体環境政策論I」から「自治体環境政策論II」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。
- ・旧科目名称「地方自治論II」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

POL300HA

## 自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自治体環境政策論Ⅰ」の各論として、「自治体環境政策論Ⅱ」では、「持続可能な地域社会」とは何かということを考えながら、そのような社会を構築するための自治体環境政策と自治体の政策全体について総合的に検討する。「自治体環境政策論Ⅰ」で提示する政策の歴史的発展モデルにあるように、今日の自治体環境政策は多次元化している。さらに「持続可能性」という概念をふまえるならば、「持続可能な地域社会」を構築するための自治体政策では、ほぼ全ての政策領域を含む包括性が重要であり、「持続可能な自治体政策」「持続可能な地域政策」といった言い換えが可能である。

「自治体環境政策論Ⅱ」では、第1に、「持続可能な地域社会」の概念構成、社会像、政策規範（政策原則）について説明した上で、「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説、都市的地域と非都市的地域（農山村、漁村等）のそれぞれの持続可能性、多元的な主体による「協治」といえるマルチステークホルダー・プロセスにおける自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携、などについて検討する。

「グローバル」な自治体環境政策については、「自治体環境政策論Ⅰ」で述べた第1世代、第2世代に続く第3世代の政策として、地球環境問題に対応する自治体の政策動向を取り上げる。

第2に、「持続可能な地域社会」に向けた自治体の総合政策について、トリプル・ボトムラインといわれる「持続可能性」の多面性（環境、社会、経済）と「環境政策統合」の視点で検討する。

第3に、具体的な政策展開として、「持続可能な地域社会」に関する都市的地域と非都市的地域のそれぞれの取り組みについて、海外と国内の動向を検討する。さらに自治体環境政策の個別テーマのうち、「循環型社会」の構築を取り上げる。

この授業の目的・意義は、学生が人間環境学部在籍中に、何度もふれるであろう「持続可能な地域社会」という言葉の意味を理解し、あるべき社会像をイメージしながら、アクティブに具体的な政策問題に取り組む力を養うことである。

## 【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・「持続可能な地域社会」にかかわる概念と政策規範（政策原則）を理解する。
- ・地域の持続可能性にかかわる自治体環境政策・自治体政策全般の動向と課題に関する知識を習得する。
- ・様々な立場の社会人（生活者・市民、地域における公務従事者、NPO関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに授業で提示した論点や、「持続可能な地域社会」に向けた各地の政策動向に関するリアクションペーパーを数回もとめ、授業に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	台頭する政策シンボルとしての「持続可能な地域社会」と政策規範	この講義の導入として、様々なシーンで台頭してきた「持続可能な地域社会」という政策シンボルとともに、この言葉に結びつく政策規範としての「持続可能性・持続可能な発展」の概念を再検討する。
第2回	「持続可能な地域社会」の多様性と過疎地域の持続可能性リスク	地域の多様性（大都市から過疎地域まで）をふまえた「持続可能な地域社会」への社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示し、さらに過疎地域の持続可能性リスク（非持続可能性）について検討する。
第3回	政策規範としての「グローバル」言説と自治体政策	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。

第4回	「グローバル」な時代における第3世代の自治体環境政策	「グローバル」な時代において、地球環境問題（特に地球温暖化への「緩和策」と「適応策」など）に対応する第3世代の自治体環境政策について検討する。
第5回	地域分散型エネルギーシステムと自治体の政策イノベーション	東日本大震災とその後の再生エネルギー特別措置法を契機として、全国各地で始まった自治体のエネルギー政策の動向を検討する。
第6回	「持続可能な社会」への多元的主体责任間の責任共有や、地域間の責任共有に関する論理と自治体の政策責任・政策協調・政策連携	「環境ガバナンス」に大きくかわる多元的な主体（自治体、市民、企業、NPOなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第7回	持続可能性の多面的構成（トリプル・ボトムライン）と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	トリプル・ボトムラインといわれる持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第8回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」を構築するために多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第9回	「持続可能な都市」の提唱とトレンド	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱と動向、国内への政策波及について検討する。
第10回	「持続可能な都市」への政策実践	「持続可能な都市」に関する政策実践について、公共交通政策を中心として検討する。
第11回	「持続可能な都市」と災害・「縮小都市」等の長期的な都市の持続可能性リスクの回避	「持続可能な都市」というコインの裏側にある災害、人口減少社会における「縮小都市」などの長期的な都市の持続可能性リスクとその回避について検討する。
第12回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域環境	過疎地域の持続可能な発展政策について、「内発的発展」の論理を再考しながら適用し、さらに地域環境資源を活用した先進ケースについて検討する。
第13回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域間連帯	過疎地域の持続可能な発展政策について、生態系サービスの考え方に基づく地域間連帯モデルを提示し、都市自治体との協力関係を強化していく方向性について展望する。
第14回	循環型社会と自治体の政策責任	循環型社会への移行に関する自治体の政策責任について理論的に整理した上で、家庭系一般廃棄物の有料化や容器包装リサイクル法などに関する政策動向について検討する。
第15回	「地域循環圏」の提唱と自治体環境政策の多様性	「地域循環圏」という政策原則の提唱について検討した上で、地域特性に応じた自治体環境政策による圏域構築の可能性について展望する。

#### 【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
- ・「自治体環境政策論Ⅰ」から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させていますので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外活動を行う。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・リアクションペーパーを作成する。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

#### 【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
  - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
  - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時及び授業中に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（90%）+リアクションペーパーによるミニレポート（10%）で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- ・全国の事例について、ほぼ毎回、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解する方法として役だつようです。
- ・対話型授業をある程度取り入れています。講義内容の伝達とのバランスに留意しながら、さらに工夫していきたいと思っています。
- ・パワーポイントを利用していますが、視覚的な見やすさと学生の集中力の維持のバランスについて、さらに工夫していきたいと思っています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配布資料以外の情報をスクリーンで投影する。

LAW300HA

## 日本公害史と法

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国は殖産興業政策のもとで明治時代から鉱害や産業公害に対応してきたが、戦後経済成長期にそのスケールを増して被害を引き起こした。この授業では、これらの産業公害に対する企業の対応、行政の対応、法の生成、役割を学ぶ。

## 【到達目標】

我が国は明治時代から現代に至るまで様々な公害に関する経験をしてきた。この経験を学び伝えることが、持続可能な社会の構築に向けて生きる我々にとって重要である。また、この経験は他の分野の環境政策や今公害に苦しむ途上国に適用することも可能になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

我が国が経験してきた鉱害や産業公害について具体的事例に関して企業の対応、行政の対応、法の生成、役割を学ぶ。その内容は単に公害環境法の歴史ではなく、日本公害史であるとともに産業史の側面を有している。この授業は環境法Ⅰの高次科目であり、講義ののうち学生からの意見、感想、質問を求めることにより講義と研究会の中間形態を目指している。このため、受講者は環境法Ⅰを受講済みであるものを優先し、かつ最大27人の人数制限を設ける。（多数の場合他の講義の受講状況等により選考する）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ 概要
第2回	殖産興業政策	たたら製鉄 富岡製糸場等 財閥 三井、三菱 倉敷
第3回	紡績	足尾銅山
第4回	鉱業と鉱害1	別子銅山
第5回	鉱業と鉱害2	小坂鉱山
第6回	鉱業と鉱害3	日立鉱山
第7回	石炭と鉱害	筑豊炭坑 三池炭坑
第8回	製鉄と公害	八幡製鉄等 北九州の公害
第9回	自動車	トヨタと日産
第10回	都市公害	大阪、東京のばい煙 浅野セメント
第11回	東京の都市形成	後藤新平
第12回	電気化学工業	野口遵
第13回	化学工業	水俣病、新潟水俣病
第14回	石油化学工業	コンビナート公害 水島、徳山等
第15回	まとめ	授業の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にプリント、参考書を学習する。事後興味をもったテーマを掘り下げて調べてみる。

## 【テキスト（教科書）】

プリント

## 【参考書】

授業内で紹介

## 【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度とレポート（公害事件とその対応に関するもの）

## 【学生の意見等からの気づき】

学生間の意見交流の機会をふやす

## 【その他の重要事項】

受講者多数の場合は、初回授業において受講者を選考するので初回授業に必ず出席すること。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

POL300HA

## エネルギー政策論

菊地 昌廣

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

## 【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。

90分授業の最初の80分を講義に当て、残りの10分程度を受講生と質疑応答を行うことによって講義内容の理解を深める。講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第2回	エネルギー消費と産業構造	GDPとエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。
第3回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自律した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第4回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第5回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第6回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。
第7回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。



第 8 回	電力自由化政策とその影響評価	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第 9 回	電力自由化メカニズムと課題	昨年 4 月から導入された電力自由化のメカニズムと諸課題について議論する。
第 10 回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のパリ合意の内容を比較しつつ議論する。
第 11 回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。
第 12 回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。
第 13 回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第 14 回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。
第 15 回	講義内容のレビューと質疑応答	これまでの講義内容をレビューし質疑応答を行うことにより講義内容の理解を深める。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事業日前に次回講義で使用する資料を授業支援システムを介して配信する。受講生は、授業支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までその内容をよく予習し、授業後半の質疑応答に応じられるように予習することを求める。

#### 【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

#### 【参考書】

本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。

- 1) 十市 勉 (2005) 『21 世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
- 2) 小池康郎 (2011) 『文系人のためのエネルギー入門』（勤草書房）
- 3) 三浦隆利、他 (2008) 『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
- 4) 藤原淳一郎 (2010) 『エネルギー法研究』（松岳社）
- 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所 (2012)
- 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点：10 点  
期末試験結果 90 点（論述式試験による）

#### 【学生の意見等からの気づき】

予習しておくことが受講に効果的である。

#### 【学生が準備すべき機器他】

事前に授業支援システムで配信する講義レジメのプリント

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

POL300HA

## 地球環境政治論

横田 匡紀

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みやパリ協定、気候変動問題、トランプ政権などの事例により理解して行くことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題と考え、グローバル市民社会の一員として持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

#### 【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、トランプ政権などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？ 米国でのトランプ政権の誕生は環境政策にどのような影響を及ぼすのでしょうか？ 地球環境問題への解決に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題など）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球環境政治論総論	地球環境政治とは何か
第 2 回	地球環境政治へのアプローチ (1)	地球環境政治の見方：リアリズムとリベラリズム
第 3 回	地球環境政治へのアプローチ (2)	地球環境政治の見方：コンストラクティヴィズム
第 4 回	地球環境政治へのアプローチ (3)	グローバル・ガバナンスとは何か
第 5 回	地球環境政治のメカニズム (1)	地球環境レジーム形成のメカニズム
第 6 回	地球環境政治のメカニズム (2)	地球環境レジーム間の相互関係
第 7 回	地球環境政治のメカニズム (3)	地球環境政治のアクター、国際政治と国内政治の連関
第 8 回	アメリカの地球環境外交：トランプ政権 (1)	アメリカの地球環境外交の基礎
第 9 回	アメリカの地球環境外交：トランプ政権 (2)	トランプ政権による影響、課題
第 10 回	地球環境政治のイシュー (1)	アジアと欧州における環境リジョナリズムの動向
第 11 回	地球環境政治のイシュー (2)	安全保障の緑化
第 12 回	地球環境政治のイシュー (3)	地球環境政治とジェンダー
第 13 回	パリ協定をめぐる国際関係 (1)	全体像の把握
第 14 回	パリ協定をめぐる国際関係 (2)	グローバル・ガバナンスからみた現状と課題
第 15 回	地球環境政治の展望	地球環境政治の将来の方向性

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の各項目について理解できるようにしておく。

#### 【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論（第 2 版）』弘文堂、2016 年

## 【参考書】

亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年  
 亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015年  
 新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015年  
 古沢広祐・足立治郎・小野田真二編『ギガトン・ギャップ』オルタナ、2015年  
 角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国籍交渉』法律文化社、2015年  
 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年  
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年  
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013年  
 三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論』泉文社、2013年  
 足立研幾『国際政治と規範』有信堂、2015年  
 大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提として、期末試験 90%、授業態度 10%で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

## 【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いています。  
 進度により講義内容を変更することがあります。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）・環境サ  
 イエンスコース

POL300GA

## 地域協力・統合

大中 一彌

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパという概念の由来から説きおこし、20世紀中葉における統合の制度化までの歴史を学習する。ただし、担当者の専攻を反映して、(ア)思想が政治に果たす役割、(イ)ヨーロッパとフランスの関係、の2点をめぐる考察に割かれる時間が多くなる。

## 【到達目標】

地中海やアフリカ大陸、またロシアや中東地域を含むユーラシア大陸といった隣接地域との交流も念頭に置きながら、時事問題として取り上げられることの多いヨーロッパ統合の問題を、より包括的、原理的な視点において考える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつづじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、時事問題との関連づけ①（難民問題やイギリス EU 離脱、ギリシア危機などを過去の年度では取り上げた）※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	支配と人の移動	講義内容への導入、時事問題との関連付け② ※プリント「人権と治安のあいだ」を参照
3	この講義で扱うもの【講義の対象】の提示	「ヨーロッパ」をめぐる思想と歴史 ※プリント：大中「越境するシティズンシップとポスト植民地主義」を参照
4	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ①	古典古代における「ヨーロッパ」という用語の誕生、ケルト的世界 ※プリント「ヨーロッパとは」を配布
5	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ②キリスト教の広がり	後期古代からキリスト教の中世へ → 「ヨーロッパ」意識の目覚め？ ※プリント「ヨーロッパの円」を参照
6	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ③非ヨーロッパ圏との出会いと「人間」の概念	大航海時代、ルネサンス、宗教改革、30年戦争 ※プリント：「ヨーロッパの地理的・宗教的・政治的定義」を配布
7	さまざまな平和構想と市民革命の到来	シュリー、サン・ピエール、カントら ※プリント：カント関連を配布
8	【期末レポート課題の発表】ウィーン会議から二月革命まで：大陸諸国におけるナショナリズムの息吹と社会主義の登場	Confederation と Federation、サン・シモン、ギリシア独立戦争（1821-）、マツイーニ、自由貿易 vs 保護貿易、ヴィクトル・ユゴー ※プリント：ユゴー「平和会議の開会演説」を配布
9	19世紀後半の西ヨーロッパ①	ナポレオン3世、クリミア戦争、普仏戦争、ビスマルク時代 ※ボランニエ「大転換」参照
10	19世紀後半の西ヨーロッパ②	スペンサー、ブルードン、ヨーロッパ合衆国、黄禍論など人種論の流行、ユダヤ人差別 ※プリント「ブルードン 連盟の原理」を配布
11	世紀転換期から第1次世界大戦まで	エンジェル「大いなる幻想」、ベネディクトゥス 15世、ドゥマンジョン、シュベングラー、ヴァレリー（Cf. アルベール・カラン『奇跡の映像④塹壕から見た人類発の大戦』）国際連盟、ルール占領 ※プリント：トインビーとシュベングラー関連を配布

- 12 戦間期のヨーロッパ①  
1920年代 社会主義側、欧州合衆国論側の統合論、ブリアン＝シュトレゼマン時代 (Cf. アルベール・カーン『奇跡の映像 ⑥勝者と敗者』)、各国財界からの統合論 ※プリント：レーニン、トロツキー、クーデンホーフ・カレルギー関連を配布
- 13 戦間期のヨーロッパ②  
1930年代 ファシズム側、レジスタンス側の統合論
- 14 第二次世界大戦から冷戦へ 鉄のカーテン (チェコのクーデタ、ベルリン危機)、インドシナ戦争、チャーチルの諸演説、ヨーロッパ審議会、ザール問題、ルールの国際管理 → ECSC の成立
- 15 まとめ 学生発表 (希望者のみ) 含む。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・毎回の講義で取り上げる「ヨーロッパ」概念の変遷についての説明は、文明論や平和論の古典的な素材の抜粋からなっています。ぜひそうした古典のテクストに親しむ機会を作って下さい。

・1920年代から1930年代に至る「ヨーロッパ」概念をめぐる変遷の歴史は、今日の国際情勢を理解する上で示唆に富んでいます。ぜひ新聞やニュースなどをつうじて最新のヨーロッパ情勢に触れるようにして下さい。

#### 【テキスト (教科書)】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008年。

#### 【参考書】

金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996年。

ジェラルド・ノワリエル『フランスというつぼ』法政大学出版局、2015年。

エティエンヌ・バリバル『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社、2006年。

#### 【成績評価の方法と基準】

・小テストの受験【全員必須。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%

・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%

・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%

・レポート【希望者のみ】35%

#### 【学生の意見等からの気づき】

高校や大学1年時の学習との橋渡しを意識し、NHKの高校講座世界史を参照するなどしている。

#### 【学生が準備すべき機器他】

・パソコンかスマートフォンが必要

・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。

・「授業支援システム」>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることが出来る。

・Twitter上で質問を受け付ける。@kazouille

#### 【その他の重要事項】

・シラバスを熟読してください。

#### 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース (旧・国際環境協力コース)

ECN200HA

## ミクロ経済学 I

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ミクロ経済学は、個人や企業が利己的な動機で経済活動をしたとき、それが経済全体にどのような影響を与えるかを分析する分野である。利己的動機に経済を委ねたとき、希少な資源である労働や資本が無駄にされることはないのか (失業とは労働という資源の無駄遣いである)、あるいは公正な所得を得ることができるのか、こうした問題を考えるのが講義の目的である。

#### 【到達目標】

需要曲線・供給曲線とその背後にある消費者行動・生産者行動について学び、現実の様々な経済現象や政策の効果を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

講義による。随時関連資料を配布する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義のガイダンス。
第2回	ミクロ経済学の考え方	理論と実証、機会費用、埋没費用の考え方など。
第3回	貿易と比較優位1	経済主体の相互依存関係と貿易について、比較優位の概念を用いて考える。
第4回	貿易と比較優位2	前回に続き、経済主体の相互依存関係と貿易について、比較優位の概念を用いて考える。
第5回	需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線とは何なのか考える。また関数やグラフの見方について解説をする。
第6回	市場均衡	市場均衡はどのようにして決まるのか、どのような性質を持つのか考える。
第7回	価格規制と税金1	政府による価格規制や税金の効果を、需要曲線や供給曲線を用いて考える。
第8回	価格規制と税金2	前回に続き、政府による価格規制や税金の効果を、需要曲線や供給曲線を用いて考える。
第9回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰1	消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第10回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰2	前回に続き、消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第11回	需要曲線と効用最大化1	需要曲線についてより深く考察する。消費者の効用最大化問題から需要曲線を導く。
第12回	需要曲線と効用最大化2	前回に続き、需要曲線についてより深く考察する。消費者の効用最大化問題から需要曲線を導く。
第13回	供給曲線と利潤最大化1	供給曲線についてより深く考察する。生産者の利潤最大化問題から供給曲線を導く。
第14回	供給曲線と利潤最大化2	前回に続き、供給曲線についてより深く考察する。生産者の利潤最大化問題から供給曲線を導く。
第15回	総括	本講義の総括と「ミクロ経済学II」の案内。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

さらなる学習のための参考文献を適宜指示する。

#### 【テキスト (教科書)】

大瀧雅之 『基礎からまなぶ 経済学・入門』 有斐閣

#### 【参考書】

適宜指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

最終回の講義で、講義内容と自ら講義で獲得したものを4000字以上でまとめたレポートを提出するのが義務である。それで成績を評価する (100パーセント)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

2015年度より担当。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN200HA

## ミクロ経済学Ⅱ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不完全競争市場での理論を学ぶ。外部性と環境、独占市場、寡占市場や公共財と環境などの経済現象を、需要曲線、供給曲線やゲーム理論を用いて分析する。

## 【到達目標】

不完全競争市場での経済行動やその結果起こる資源配分の歪みについて学び、現実の様々な経済現象や政策の効果を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義による。必要資料は随時配布する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義のガイダンス。
第2回	「ミクロ経済学Ⅰ」の復習	完全競争市場での理論、特に需要曲線や供給曲線を用いた部分均衡分析を復習する。
第3回	一般均衡分析概説1	一般均衡分析について概説する。
第4回	一般均衡分析概説2	一般均衡分析について概説する。
第5回	外部性と環境1	外部性のある市場での取り引きとその対処法について、環境を例に考える。
第6回	外部性と環境2	前回に続き、外部性のある市場での取り引きとその対処法について、環境を例に考える。
第7回	独占市場1	独占市場での価格付け、資源配分の歪みについて考える。
第8回	独占市場2	前回に続き、独占市場での価格付け、資源配分の歪みについて考える。
第9回	ゲーム理論1	ゲーム理論の基礎を学ぶ。
第10回	ゲーム理論2	前回に続き、ゲーム理論の基礎を学ぶ。
第11回	寡占市場1	ゲーム理論を用いて寡占市場、特にクールノー競争とその帰結について考える。
第12回	寡占市場2	前回に続き、ゲーム理論を用いて寡占市場、特にクールノー競争とその帰結について考える。
第13回	公共財と環境1	公共財とは何か、また公共財の最適な供給について、環境を例に考える。
第14回	公共財と環境2	前回に続き、公共財とは何か、また公共財の最適な供給について、環境を例に考える。
第15回	総括	本講義の総括とさらなる学習への案内。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さらなる学習のための参考文献を適宜指示する。

## 【テキスト（教科書）】

大瀧雅之 『基礎からまなぶ 経済学・入門』 有斐閣

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

最終回の講義で4000字以上で、講義の内容また講義で自分が新たに獲得したものを整理してまとめたレポートの提出を求める。これにより評価する（100パーセント）

## 【学生の意見等からの気づき】

極力数式を用いない形で講義を進める。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN200HA

## マクロ経済学Ⅰ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この二十年余りの日本経済の動向を、世界の動きを意識しながら、データに基づいて理解することが、講義の目的である。

## 【到達目標】

急速な人口減少（少子・高齢化）を受けて、今後の日本の経済政策及び産業構造がいかにあるべきかを理解する。同時にこれは諸君の将来にも深刻にかかわってくる重要な問題である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

実際のマクロ経済の動きを理解するには、ある程度の経済理論に関する知識が必要であるが、それは都度、数式を全く用いずに解説するので安心して講義に参加してほしい。使用するデータは、毎回プリントにて配布する。そして、講義のまとめとして下記のテキストを読んでくることを義務付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代日本経済の抱えている問題を概観する。
第2回	人口減少と日本経済（その1）	今後の急速な人口減少社会で、起きうる経済問題を理解する。
第3回	人口減少と日本経済（その2）	日本経済の財政事情と人口減少社会の関係を理解する。
第4回	人口減少と日本経済（その3）	年金問題と人口減少社会の関連を理解する。
第5回	人口減少と日本経済（その4）	インフラストラクチャーの整備と人口減少社会の調和を考える。
第6回	雇用の非正規化を考える（その1）	企業のガバナンス構造の在り方（企業とは何か）から、雇用の非正規化を考える。
第7回	雇用の非正規化を考える（その2）	海外直接投資との関連で、雇用の非正規化のメカニズムを理解する。
第8回	雇用の非正規化を考える（その3）	若者の失業率がなぜ高いかを理解する。
第9回	雇用の非正規化を考える（その4）	企業のイノベーションと雇用の非正規化の関連を考える。
第10回	現代日本と世界経済（その1）	現代日本の経済力を客観的に把握する。
第11回	現代日本と世界経済（その2）	基軸通貨としてのドルの将来を考える。
第12回	バブル経済と現代日本	1980年代後半のバブル経済が、現在の経済に与えている影響を解説する。「失われた20年」は本当か？
第13回	「構造改革」と現代日本経済	
第14回	現代日本の金融政策（その1）	インフレはなぜ発生するかを理解し、かつそれが重税であることを認識する。
第15回	現代日本の金融政策（その2）	為替レートと財政・金融政策の関連を最近の事例に基づき理解する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを講義の前半までで、読了し、自分の考え方をまとめて置くこと。

## 【テキスト（教科書）】

大瀧雅之著『平成不況の本質：雇用と金融から考える』、岩波新書、2011年

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末に講義内容と自分の新しく学んだことをまとめたレポートを、4000字以上で提出することが義務である。それによって成績を評価する。なお学生諸君の自覚と積極的な講義参加を重視する立場から、テストや出欠確認は行わない。

## 【学生の意見等からの気づき】

初回の講義で、日本経済の直面している諸問題について、オーヴァービューする。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN200HA

## マクロ経済学Ⅱ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済学Ⅰで学んだことをもとに、マクロ経済学の考え方を把握する。

## 【到達目標】

マクロ経済学をミクロ経済学の応用として理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

マクロ経済学では、ミクロ経済学には登場しない貨幣が重要な役割を果たす。現実の貨幣経済とミクロ経済学が対象とする物々交換経済では、経済に対する見方がどのように変化するかを、平易に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（1）	「少子・高齢化」が経済に与える影響を復習する。
第2回	イントロダクション（2）	「財政危機」が経済に与える影響を復習する。
第3回	イントロダクション（3）	「海外直接投資」が経済に与える影響を復習する。
第4回	貨幣の機能（1）	貨幣が経済において果たしている役割を理解する。
第5回	貨幣の機能（2）	物価水準がどのように決定されるかを理解する。
第6回	貨幣の機能（3）	景気の繁閑を決定する有効需要と財政・金融政策との間にどのような関係があるかを理解する。
第7回	貨幣の機能（4）	インフレーションがなぜ起きるかを理解する。
第8回	貨幣の機能（5）	デフレーションがなぜ発生し、それがいかなる弊害をもたらすかを理解する。
第9回	経済政策はなぜ必要か（1）	理想的な物々交換経済では経済政策が不要であること（アダム・スミスの「神の見えざる手」）を理解する。
第10回	経済政策はなぜ必要か（2）	現実の貨幣経済では経済政策がなぜ必要となるかを理解する。
第11回	経済政策はなぜ必要か（3）	国債とは何かを理解し、経済政策に限界があることを知る。
第12回	為替レート・経常収支と日本経済（1）	為替レートがいかなる経済要因に左右され、それが国内経済に与える影響を理解する。
第13回	為替レート・経常収支と日本経済（2）	基軸通貨のもとでの変動レート制の仕組みを理解し、アメリカ経済と日本経済の関連を考える。
第14回	為替レート・経常収支と日本経済（3）	対外直接投資が為替レートや日本国内の雇用に与える影響を考える。
第15回	日本経済の将来	これまでの講義を踏まえて、日本経済の将来像とそれのあるべき姿を探る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回講義に備えてテキストの対応部分を読んでくることを義務付ける。

## 【テキスト（教科書）】

『基礎からまなぶ経済学・入門』、大瀧雅之、有斐閣、2009

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末に講義の内容をまとめ、自ら新しく学んだことを論理的にまとめたレポートを、4000字以上で提出することを求める。これで成績を評価する。期末テストは実施しない。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義の最初の三回で、マクロ経済学Ⅰで学んだ内容を、「少子・高齢化」・「財政危機」・「海外直接投資による産業空洞化」を中心に復習する。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN200HA

## 現代企業論

長谷川 直哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会システムにおける企業活動の意義・役割を理解することは経営学の基本です。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

## 【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、社会的器官としての企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（ナレッジマネジメント、コーポレートガバナンス等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
第2回	経営とは何か	講義の全体像
第3回	企業とは何か	株式会社の発展プロセス
第4回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
第5回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
第6回	大企業の機能と専門経営者	所有と経営の分離
第7回	企業の大規模化と組織の	規模の利益と効率化
第8回	経営管理の理念と機能	企業統治のあり方
第9回	日本の経営の構造	マネジメントの実際
第10回	ITと企業競争力	日本の経営の成果と課題
第11回	マーケティング	IT活用と経営変革
第12回	製品開発戦略	市場・顧客の変化への対応
第13回	コーポレート・ファイナ	製品開発のプロセス
第14回	ンス	企業の資金調達と投資管理
第15回	財務情報の開示	財務諸表の読み方
第16回	経営分析の手法	財務データに基づく企業分析
第17回	企業価値とは何か	企業価値の構成要素（財務・非財務）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのかを考えてみましょう。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

井原久光『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで第3版』ミネルヴァ書房、2008年  
柴田和史『ビジュアル株式会社の基本（第3版）』日本経済新聞社、2006年  
武藤泰明『ビジュアル経営の基本』日本経済新聞社、2002年

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。「2016年度より担当」

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN200HA

## ビジネスヒストリー

長谷川 直哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係性や企業の社会的責任（CSR）の変遷について学びます。併せて、就職先企業の選定について役立つ情報・知識を提供します。

## 【到達目標】

現代企業の発展プロセスを理解し、企業が長年培ってきた強み・弱み、企業理念、CSRの取り組み等を理解する能力を高めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。また、外部講師による特別講話を行う予定です。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じてDVD等を視聴します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ビジネスヒストリーを学ぶ意義と講義の全体像について
第2回	CASE1 会社企業の設立	CASE1 渋沢栄一 伊庭貞剛（住友財閥）
第3回	CASE2 わが国発の公害と企業の社会的責任①	鈴木馬左也（住友財閥）
第4回	わが国発の公害と企業の社会的責任②	鈴木馬左也（住友財閥）
第5回	人とコミュニティを大切に	大原孫三郎（倉敷紡績・クラレ）
第6回	にする経営①	波多野鶴吉（グンゼ）
第7回	人とコミュニティを大切に	波多野鶴吉（グンゼ）
第8回	にする経営②	波多野鶴吉（グンゼ）
第9回	イノベーションを支える経営（自働織機から自動車へ）①	豊田佐吉（トヨタ自動車）
第10回	イノベーションを支える経営（自働織機からオートバイ・軽自動車へ）②	豊田佐吉（トヨタ自動車）
第11回	日本版企業の社会的責任・企業倫理の源流	岡田良一郎（大日本報徳社） 金原明善（天竜川治水事業）
第12回	地方企業からグローバル企業への発展	石橋正二郎（ブリヂストン）
第13回	私鉄・百貨店ビジネスの原点	小林一三（阪急電鉄・宝塚歌劇）
第14回	社会の公器としての企業経営の実践	松下幸之助（パナソニック）
第15回	ベンチャー企業からグローバル企業への発展①	本田宗一郎・藤沢武夫（本田技研工業）
第16回	ベンチャー企業からグローバル企業への発展②	井深大・盛田昭夫（SONY）
第17回	企業間競争①—日本のパソコンメーカーの発展と衰退	パソコン業界
第18回	企業間競争②—キリン・アサヒ・サッポロ・サントリーの攻防	ビール業界

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などをウォッチし、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

長谷川直哉編著  
『企業家活動でたどるサステイナブル経営史: CSR 経営の先駆者に学ぶ』文眞堂、2016年  
長谷川直哉編著  
『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文眞堂、2013年  
長谷川直哉著

『スズキを創った男－鈴木道雄』三重大学出版会、2005年  
 宇田川勝編  
 『ケースブック日本の企業家－近代産業発展の立役者たち』有斐閣、2013年  
 宇田川勝、生島淳編  
 『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011年  
 宇田川勝編  
 『企業家活動でたどる日本の自動車産業史』文真堂、2012年  
 法政イノベーションマネジメント研究センター/宇田川勝編  
 『ケーススタディー 日本の企業家群像』文真堂、2008年

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100%  
 講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN200HA

経営学入門

金藤 正直

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、各企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的内容だけでなく、企業の実践的取組みについても取り上げるために、企業がどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、各講義内容に関連する日本企業の取組みやビジネスモデルといった身近な事例（ケース）を説明に加えるとともに、新聞・雑誌記事などを配布し、その解説を行う。さらに、資格試験の過去問題に基づいた例題を実際に行っていくことにより、経営学への理解をさらに深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
第2回	経営学とは何か	経営学の目的および意義と、企業が行う経営の全体像について説明する。
第3回	企業と経営 企業の諸形態	企業・会社の概念の諸形態に関する講義を通じて、企業にはさまざまな形があることを説明する。
第4回	経営戦略の策定プロセス 全社戦略	経営戦略の概念、特徴、策定方法とともに、その中の「全社戦略」について説明する。
第5回	事業戦略	事業別の戦略である「事業戦略」について説明する。
第6回	機能別戦略	部署別の戦略である「機能別戦略」について説明する。
第7回	新たな経営戦略の展開	第6回までの講義内容に基づいて、日本企業の経営戦略モデルを考察するとともに、当該企業が将来策定すべき経営戦略について議論する。
第8回	経営組織の基本形態	経営組織とは何か、また、その基本形態について説明する。
第9回	経営組織の応用形態	第8回の講義内容に基づいて、経営組織の応用型について説明する。
第10回	新たな経営組織の展開	第9回までの講義内容に基づいて、日本企業の経営組織モデルを考察するとともに、当該企業が将来展開すべき経営組織について議論する。
第11回	経営管理の仕組み①－経営機能と管理機能－	経営機能と管理機能について説明し、企業経営を管理（マネジメント）していく方法を理解する。
第12回	経営管理の仕組み②－「ヒト」と「モノ」の管理－	企業の人的資源である「ヒト」、製品製造に要する材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法について説明する。
第13回	経営管理の仕組み③－「カネ」と「情報」の管理－	企業が経営戦略の策定、経営組織の編成、経営管理をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計や情報の管理の基礎基本を説明する。
第14回	新たな経営管理の展開	第13回までの講義内容に基づいて、日本企業の経営管理モデルを考察するとともに、当該企業が将来実施すべき経営管理の方法について議論する。
第15回	ケーススタディ	現在注目されている日本企業を取り上げ、その企業の経営的取組みを、第14回まで学習した内容をもとに明らかにしていく。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本講義は、企業経営の基礎基本を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

**【テキスト（教科書）】**

経営能力開発センター（2013）『経営学検定試験公式テキスト ①経営学の基本』中央経済社。

**【参考書】**

講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

- ・ 亀川雅人・鈴木秀一（2011）『入門経営学 第3版』新世社。
- ・ 北中英明（2013）『プレステップ経営学』弘文堂。
- ・ 橘川武郎・平野創・板垣暁（2014）『日本の産業と企業』有斐閣アルマ。

**【成績評価の方法と基準】**

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20％）
- ・討論やクイズへの参加（20％）
- ・確認テスト（20％）
- ・期末試験（40％）

**【学生の意見等からの気づき】**

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

**【学生が準備すべき機器他】**

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

**【その他の重要事項】**

・ワードおよびパワーポイントの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。

- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

**【関連の深いコース】**

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN200HA

**環境経営と会計**

金藤 正直

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

会計とは、特定の経済主体が行った活動状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者に伝達するための情報システムである。会計の領域には、マイクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。そこで、本講義では、マイクロ会計のうち、「企業（主に、株式会社）」を対象とした会計（企業会計）を体系的に学習することを目的とする。

**【到達目標】**

本講義では、企業による経営あるいは環境経営の取組みと会計との関係性を考慮しながら学習していくために、企業やその経営者における会計の役割や重要性が理解でき、また、会計固有の計算技法を身につけることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

本講義では、専門的で難解な用語、概念、表現を平易に説明し、また、例題（練習問題）に基づく学習を行うことにより、会計学への理解を深めていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】****【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
第2回	「会計」とは何か	企業経営における会計の目的や役割について説明する。
第3回	会計の基本的技法	会計を支える技法（簿記）の手続きとその内容について説明する。
第4回	簿記の構成要素－資産、負債、純資産－	簿記の構成要素のうち、資産、負債、純資産について説明する。
第5回	簿記の構成要素－収益、費用－	簿記の構成要素のうち、収益および費用について説明する。
第6回	取引と勘定	帳簿記入の対象（取引）とその処理方法について説明する。
第7回	仕訳と転記	取引の仕訳と仕訳帳の記帳方法について説明する。
第8回	仕訳帳と総勘定元帳	仕訳帳から総勘定元帳までの転記方法について説明する。
第9回	試算表と精算表	試算表・精算表作成の意義と方法について説明する。
第10回	決算と財務諸表	帳簿の締切り、損益計算書および貸借対照表の作成までの流れとその方法について説明する。
第11回	簿記・会計の練習問題	第10回までの講義内容を練習問題を用いて復習する。
第12回	経営分析の方法	経営分析の必要性と、安全性の分析方法について説明する。
第13回	収益性分析	収益性の分析方法について説明する。また、第12回の講義内容も加味した練習問題を用いて、企業経営の分析を行う。
第14回	環境経営と会計①	これまでの学習内容に基づいて、環境経営を支援する環境会計の仕組みについて説明する。
第15回	環境経営と会計②	第14回の講義内容に基づいて、日本企業に導入されている環境会計モデルを考察し、議論する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本講義は、企業会計の基礎基本を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式や Q&A 形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

**【テキスト（教科書）】**

山崎雅教（2014）『簿記 はじめの一步』中央経済社。

**【参考書】**

講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

- ・ 鈴木一道（2012）『会計学 はじめの一步』中央経済社。



- ・千代田邦夫（2014）『新版 会計学入門－会計・監査の基礎を学ぶ－（第3版）』中央経済社。
- ・榎岡源一郎（2015）『図解でナットク 会計入門』中央経済社。

#### 【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20％）
- ・討論やクイズへの参加（20％）
- ・確認テスト（20％）
- ・期末試験（40％）

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらった機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

#### 【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

#### 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN200HA

## 公共経済学

小田 圭一郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につける。

#### 【到達目標】

学生は、市場経済における公共部門の役割について学ぶ。

具体的には、以下の事項を理解する：

- ・市場経済の利点（厚生経済学の基本定理）と限界（市場の失敗）
- ・公共財の効率的配分
- ・外部性の市場的解決
- ・環境問題の市場的解決方法としての環境税と排出権取引
- ・情報非対称性問題への対処方法の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。数回程度の宿題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第2回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第3回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第4回	ミクロ経済学③	市場の失敗
第5回	公共財①	定義・効率的配分条件
第6回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第7回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第8回	外部効果①	定義、コースの定理
第9回	外部効果②	市場的解決方法
第10回	環境政策①	環境問題の定式化
第11回	環境政策②	環境税と排出権取引
第12回	公的企業	自然独占と規制
第13回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第14回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化
第15回	全体の復習	重要論点のレビュー

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、ミクロ経済学の初歩について適宜復習を行うとともに、授業内容の理解確認のための宿題を提出する。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。

#### 【参考書】

初回授業時に指示。

#### 【成績評価の方法と基準】

「到達目標」記載事項の理解度に応じて評価を行う：

- ・期末試験または期末課題（90%）
- ・宿題（10%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

分析の基礎となる諸概念について直観を与えるような説明を行う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから資料をダウンロードし、授業に持参すること。

#### 【その他の重要事項】

ミクロ経済学の諸概念に基づいた説明を行うが、具体的な授業計画については、参加学生のバックグラウンド、関心分野等に応じて適宜修正する。

#### 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN100FA

## 簿記入門Ⅰ・Ⅱ

平井 裕久

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、初めて簿記を学習する学生を対象として、簿記の基本的仕組を理解してもらうことを目的としている。企業は財務諸表を作成しているが、それを作成するためには、日常発生した経済的な出来事を一定のルールに従って記録しておく必要がある。講義の前半では、記録するためのルールの説明と基本的な決算手続について説明する。講義の後半では、前半の講義内容を理解していることを前提に、入門コースで必要と思われる各勘定科目の具体的な処理について説明する。また決算手続についても重要事項は一通り説明を行う。簿記入門Ⅰ・Ⅱを学習することによって、将来企業社会で必要とされる簿記会計の基本的事項を身につけることができる。

## 【到達目標】

日商簿記検定3級レベルの簿記会計の知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。必要に応じてミニテストを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

## Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表	資産・負債・純資産（資本）の各概念と貸借対照表について学習します。
第2回	収益・費用と損益計算書	収益・費用の各概念と損益計算書について学習します。
第3回	取引	会計上の取引の概念について学習します。
第4回	仕訳	仕訳について学習します。
第5回	勘定記入	勘定記入の基礎について学習します。
第6回	帳簿	帳簿の種類と体系について学習します。
第7回	試算表の作成（1）	簿記一巡の手続きと試算表を作成するまでを学習します。
第8回	元帳の締切りと財務諸表の作成（1）	元帳の締切り方法と財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成の基本について学習します。
第9回	精算表の作成（1）	決算整理がない6桁精算表の作成を学習します。
第10回	復習問題（ミニテスト）	ここまでの学習内容についてミニテストを実施します。
第11回	現金・現金過不足	現金取引および現金過不足時の処理について学習します。
第12回	当座預金・当座借越	当座預金および当座借越の処理について学習します。
第13回	小口現金	小口現金の処理について学習します。
第14回	商品売買	商品売買の処理について学習します。
第15回	春学期講義のまとめ	春学期で学んだ内容に復習します。

## Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第16回	売掛金・買掛金	売掛金・買掛金の処理について学習します。
第17回	その他の債権・債務	その他の債権・債務の処理について学習します。
第18回	手形	手形の処理について学習します。
第19回	有価証券	有価証券の処理について学習します。
第20回	固定資産	固定資産の処理について学習します。
第21回	資本と引出金	資本と引出金の処理について学習します。
第22回	収益と費用	収益と費用の処理について学習します。
第23回	税金と伝票	税金と伝票の処理について学習します。
第24回	試算表の作成（2）と決算整理手続	試算表の作成と決算整理手続について学習します。
第25回	精算表の作成（2）	修正仕訳欄のある8桁精算表の作成について学習します。
第26回	元帳の締切りと財務諸表の作成（2）	元帳の締切りと財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成について学習します。
第27回	総合模擬問題（1）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。

第28回	総合模擬問題（2）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第29回	総合模擬問題（3）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第30回	総合模擬問題（4）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

渡部裕巨, 片山寛, 北村 敬子『新検定簿記講義3級 商業簿記』（中央経済社）※最新年度版を使います。

## 【参考書】

渡部裕巨, 片山寛, 北村 敬子『新検定簿記ワークブック 3級/商業簿記』（中央経済社）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期の定期試験（80%）、講義における課題等（20%）により、総合点で成績を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使い説明をおこなう。

## 【その他の重要事項】

本科目は2015年度以前入学生が履修することができる。

【関連科目】

この講義は、2年次からの「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」、3年次からの会計専門科目の基礎となるものである。複式簿記による記帳ルールを習得しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進する。

【その他注意事項】

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。日商簿記3級をマスターして同2級・1級、さらには公認会計士・税理士といった職業会計人の国家試験にチャレンジしよう。

## 【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN300HA

## 環境経済論Ⅰ

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題はさまざまな経済活動にともなって発生している。そのため、環境問題の解決を考えるためには、経済活動との関わりを体系的に理解する必要がある。そのうえで、いろいろな環境問題に対して具体的にどのように対処すればよいのかを考える。

## 【到達目標】

経済学の側面から、環境問題を考える際に必要となる基礎的で重要な概念・考え方を学ぶとともに現実への適応力・応用力を獲得することを目指す。とくに市場機構を補完する環境政策の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。最初に、環境問題が過去、どうして市場経済で対処が難しかったのか、また対処するにはどのような枠組みが必要なのかを学ぶ。そのために、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解する。その後、近年、注目を浴びている環境問題に対する経済的手段（economic instruments）を理解するために必要とされる基礎的事項を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方および経済における環境の果たす役割の概観
第2回	日本を中心としたローカルな環境問題	公害問題やその後の環境問題についての概観
第3回	マイクロ経済学のレビュー(1)	市場の役割
第4回	マイクロ経済学のレビュー(2)	限界概念、余剰概念
第5回	マイクロ経済学のレビュー(3)	パレート効率性と市場均衡の前提条件
第6回	環境問題の捉え方(1)	公共財の視点
第7回	環境問題の捉え方(2)	公共財とリンダール均衡
第8回	環境問題の捉え方(3)	負の外部性の視点
第9回	環境対策の考え方(1)	規制的手段と経済的手段
第10回	環境対策の考え方(2)	環境税の考え方(1)
第11回	環境対策の考え方(3)	環境税の考え方(2)
第12回	環境対策の考え方(4)	環境税の実際
第13回	環境対策の考え方(5)	当事者交渉とコースの定理
第14回	環境対策の考え方(6)	排出権取引の基礎
第15回	まとめ	全体のレビュー

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物にもよく目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。受講に当たっては、マイクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。  
R.K. ターナー他(2001)『環境経済学入門』（大沼訳）東洋経済新報社  
栗山浩一・馬奈木俊介(2016)『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣

## 【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施する（期末試験100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

重要な概念については繰り返し説明したい。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

ECN300HA

## 環境経済論Ⅱ

國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済論Ⅰに引き続き、経済活動と自然資源、環境問題の関わりを理解し、環境問題の解決に当たって必要なフレームワークを習得する。さらに、環境経済論Ⅰで取り上げなかったトピックについても紹介する。

## 【到達目標】

環境経済学において基礎的かつ重要な考え方や概念等を引き続き学習し、それらを応用する力を身につけることを目指す。その際、とくに持続的な資源利用、長期の環境問題、環境の評価などに注目して理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。具体的には、自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策費用負担との関係、環境評価の基礎的理解などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組を講義する。とくに、長期の環境問題などに対して、残された課題は何なのか、市場が存在しない環境をどのように経済評価するのかなどに関して、その基礎を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境経済論Ⅰのレビューと環境経済論Ⅱの概観
第2回	環境とコモンズ(1)	ローカル・コモンズとグローバル・コモンズ
第3回	環境とコモンズ(2)	ローカル・コモンズの長期的な存立条件
第4回	再生可能資源	漁獲(努力)モデルの紹介
第5回	資源価格と経済との関連(1)	非再生可能資源におけるホテリング・ルール
第6回	資源価格と経済との関連(2)	バックストップ技術
第7回	環境とコスト・ベネフィット分析(1)	潜在的パレート改善の考え方とその限界
第8回	環境とコスト・ベネフィット分析(2)	その他の前提条件ならびに社会的効用関数からの解釈
第9回	環境と割引率(1)	割引の考え方の背景
第10回	環境と割引率(2)	社会的割引率
第11回	環境とリスク	リスクの考え方とコスト・ベネフィット分析への応用
第12回	環境の価値評価(1)	伝統的トラベル・コスト法
第13回	環境の価値評価(2)	ヘドニック価格法
第14回	環境の価値評価(3)	表示選好法(CVMなど)
第15回	社会的共通資本およびまとめ	社会的共通資本の考え方と全体のレビュー

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物などによく目を通し、問題意識の涵養につとめること。

講義は環境経済論Ⅰの履修を前提として組み立てられている。また、受講に当たってはマイクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念などを学ぶうえで参考となる。  
R.K. ターナー他(2001)『環境経済学入門』（大沼訳）東洋経済新報社  
栗山浩一・馬奈木俊介(2016)『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣  
宇沢弘文(2000)『社会的共通資本』岩波新書696

## 【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施する（期末試験100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

重要な概念については、いろいろな観点から、繰り返し説明したい。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

## 環境経営論 I

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、「企業（主に、株式会社）」の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営（CSR 経営や CSV 経営）についても一緒に取り上げていく。

## 【到達目標】

本講義では、日本企業で現在実践されている環境経営およびサステナビリティ経営における方針（戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、環境報告書やサステナビリティ報告書を利用しながら、日本企業で実践されている環境経営およびサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴を理解することを目指す。また、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事および映像資料などを多用しながら、両経営の実践的取組みへの理解をさらに深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。
第 2 回	企業における環境経営の意義	企業経営における環境保全活動の必要性を歴史的に説明する。
第 3 回	サステナビリティ経営の展開	企業におけるサステナビリティ経営の意義を歴史的に説明する。
第 4 回	環境・サステナビリティ経営の全体像	従来の企業経営の仕組みと比較しながら、環境経営およびサステナビリティ経営の仕組みを説明する。
第 5 回	環境経営戦略	従来の経営戦略と比較しながら、環境経営戦略の特徴を説明する。
第 6 回	サステナビリティ経営戦略	従来の経営戦略と比較しながら、サステナビリティ経営戦略の特徴を説明する。
第 7 回	ケーススタディ①	第 6 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営戦略モデルを分析する。
第 8 回	環境経営組織	従来の経営組織と比較しながら、第 5 回の講義で説明した環境経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第 9 回	サステナビリティ経営組織	従来の経営組織と比較しながら、第 6 回の講義で説明したサステナビリティ経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第 10 回	ケーススタディ②	第 9 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営組織モデルを分析する。
第 11 回	環境経営管理	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 12 回	サステナビリティ経営管理	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 13 回	ケーススタディ③	第 12 回までの講義内容に基づいて、日本企業の環境・サステナビリティ経営管理モデルを分析する。
第 14 回	環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントと会計システム	環境・サステナビリティ・バリューチェーンやサプライチェーンを対象としたマネジメント手法とそれを支援する会計システムモデルを説明する。

第 15 回 新たな環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントと会計システム

第 14 回までの講義内容に基づいて、将来必要な環境・サステナビリティ・サプライチェーン・マネジメントとそれを対象とした会計システムの両モデルを検討する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、「企業」の環境経営およびサステナビリティ経営の基礎を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式あるいは Q&A 形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。ただし、日本企業の環境報告書やサステナビリティ報告書をダウンロードして持ってきてもらいます。

## 【参考書】

講義中に著書・論文・雑誌・URL 等をいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

【環境経営/サステナビリティ経営（CSR 経営）】  
・(株)日立製作所地球環境戦略室（2009）『日立インスパイア環境経営』東洋経済新報社。

・谷達雄（2012）『リコーの先進事例に学ぶ 環境経営入門』秀和システム。  
・日刊工業新聞社（2015）『エコ・リーディングカンパニー東芝の挑戦 環境戦略が経営を強くする』日刊工業新聞社。  
・川村雅彦（2015）『CSR 経営パーフェクトガイド』ウィズワークス。

## 【経営学/会計学】

・鈴木一道（2012）『会計学 はじめの一步』中央経済社。  
・経営学検定試験協議会（2013）『経営学検定試験公式テキスト① 経営学の基本』中央経済社。

## 【URL】

・「環境報告書プラザ」〈<http://www.ecosearch.jp/ja/>〉。  
・「CSR 図書館.net」〈<http://csr-toshokan.net/>〉。

## 【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・リアクション・ペーパーの提出（20 %）
- ・討論やクイズへの参加（20 %）
- ・確認テスト（20 %）
- ・期末試験（40 %）

## 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

## 【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらふ機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

## 【その他の重要事項】

・ワードおよびパワーポイントベースの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。  
・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。  
・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

## 環境経営論Ⅱ

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「地域」の環境経営やサステナビリティ経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

## 【到達目標】

本講義では、国内の地域で現在実践されている環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、講義内容に関連する著書、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、地域で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。
第2回	地域における環境・サステナビリティ経営の目的と仕組み	CSV (Creating Shared Value) の概念を整理するとともに、この概念に基づいて、地域の環境・サステナビリティ経営の目的と仕組み（産業クラスター）を説明する。
第3回	産業クラスターの概念	日本で行われている産業集積、組織間関係、産業クラスターの事例に基づいて、これらの概念の違いを整理する。
第4回	日本における産業クラスター事業の現状と課題	産業クラスターに関する国内の政策、取組事例、課題を説明する。
第5回	産業クラスターマネジメントの視点	地域サプライチェーンとしての産業クラスターのマネジメントの方法を説明する。
第6回	産業クラスター事業例－再生可能エネルギー事業①－	再生可能エネルギーの概念を整理するとともに、国内の動向や課題を説明する。
第7回	産業クラスター事業例－再生可能エネルギー事業②－	再生可能エネルギー事業の先進事例（飯田市や下川町など）について紹介し、その特徴を説明する。
第8回	ディスカッション①	第5回マネジメントモデルの視点から、第6回および第7回の講義で取りあげた事業例を分析するとともに、新たな事業展開の方法を検討する。
第9回	食料産業クラスター、農工商連携、6次産業化	食料産業クラスター、農工商連携、6次産業化の事例に基づいて、これらの概念の違いを整理するとともに、国内の動向なども説明する。
第10回	食料産業クラスター（フードバレー）事業の分析①	オランダやカリフォルニアなどの先進事例を紹介し、その特徴を説明する。
第11回	食料産業クラスター（フードバレー）事業の分析②	日本の先進事例（十勝地域、富士宮市、栃木県、新潟市など）を紹介し、その特徴を説明する。
第12回	ディスカッション②	第5回マネジメントモデルの視点から、第10回および第11回の講義で取りあげた事業例を分析するとともに、新たな事業展開の方法を検討する。
第13回	地域活性化事業①－青森県板柳町のりんご産業－	青森県板柳町のふるさとセンターの取組事例を紹介し、その特徴を説明する。
第14回	地域活性化事業②－北海道池田町のワイン産業－	北海道池田町のブドウ・ブドウ酒研究所の取組事例を紹介し、その特徴を説明する。
第15回	ディスカッション③	第5回マネジメントモデルの視点から、第13回および第14回の講義で取りあげた事業例を分析するとともに、新たな事業展開の方法を検討する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、「地域」の環境経営やサステナビリティ経営の基礎を身に付けてもらうために、参加型（双方向型）形式あるいはQ&A形式で進めていきます。そのために、講義中に、積極的に参加・発言していくことが必要になってきますので、講義前後は、テキストだけでなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事などを読んで、講義内容の理解に努めてください。

## 【テキスト（教科書）】

二神恭一・高山貢・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会計－産業クラスターの可能性－』中央経済社。

## 【参考書】

講義中に著書・論文・雑誌・URLなどをいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

## 【著書】

・ 諸富徹（2015）『再生可能エネルギーと地域再生』日本評論社。  
 ・ 山崎朗（2015）『地域創生のデザイン』中央経済社。

## 【URL】

・ まち・ひと・しごと創生本部（<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/>）。  
 ・ 経済産業省 中小企業・地域経済産業（[http://www.meti.go.jp/policy/sme\\_chiiki/index.html](http://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/index.html)）  
 ・ 農林水産省 食料産業（<http://www.maff.go.jp/j/shokusan/index.html>）

## 【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

・ リアクション・ペーパーの提出（20％）  
 ・ 討論やクイズへの参加（20％）  
 ・ 確認テスト（20％）  
 ・ 期末試験（40％）

## 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

## 【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、ノートなどメモするものは持ってきてください。

## 【その他の重要事項】

・ ワードおよびパワーポイントベースの資料と映像資料を用いて授業を進めていきます。  
 ・ 必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。  
 ・ 質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

## 環境経営実践論 I

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀ゼロ成長時代の国際的循環型経済社会を指導的に支えて行くフレッシュな人材となることを目的とし、経済社会活動における真の環境問題とは何か、経営上でエコバランス、エコエフィシエンシーを重視した継続的改善を伴った解決策をどのように推進すればよいかを考える。

## 【到達目標】

1. 2015年に改正されたISO14001環境マネジメントシステム規格の意図と基本概念を理解し、環境配慮経営は持続可能な経済社会への貢献につながる背景・理由を説明できる。
2. 実在企業を題材として環境影響評価と予防・継続的改善を実践的なPDCAの基礎的仕組に適用できる。
3. 環境マネジメントシステムにおいてそれを補完・支援するライフサイクルアセスメント、環境ラベル、環境コミュニケーション、環境会計、社会的責任・コンプライアンス等の国際規格ISO上の位置づけ、目的・意図を明確にし説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

持続可能な環境経営実践モデルや新旧ISO14000シリーズ規格（環境マネジメントシステム規格シリーズ）を理解しやすく図表化して授業を行うとともに、基礎演習では、実在企業の環境経営方針や環境汚染問題を事例にしたグループ討議、実在企業の製造プロセスを使って著しい環境側面特定と環境影響評価を行うグループ演習・発表によって上記目標に到達できるようなものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境経営の基本概念	歴史的背景を踏まえて環境配慮経営にサステナビリティ経営上の必要性及び位置づけを認識し、現代の経営ではCSRが求められることを理解する。
第2回	地域的環境汚染問題（公害問題）と地球環境問題	循環型社会に国際的経済社会システム変換の必要性（地域的環境汚染問題と地球環境問題の原因と対策）を考える。
第3回	ISO14000シリーズ規格の意図と基本概念	国際共通の環境経営基本ツールである新旧ISO14000シリーズ規格の意図と基本概念を理解する。
第4回	環境経営における基本原則	ISO14001規格に基づき、環境経営の基本原則である「環境側面」「環境影響」「環境パフォーマンス」を考える。
第5回	基礎演習1	実在企業の環境方針と環境汚染の事例に基づいて、環境中の土インセンティブを与える原因と影響・結果を実践的に考える。
第6回	基礎演習1	基礎演習1についてグループ討議を行った結果を発表・総括する。
第7回	環境経営システムを補完するライフサイクルアセスメントと環境適合設計	環境経営システムを補完するライフサイクルアセスメント（LCA）とエコデザインをISO14001と9001との関係で考える。
第8回	環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付け	産業界における環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付けと必要性を具体的事例に基づいて考える。
第9回	環境経営システムの実効性と環境会計	ライフサイクルアセスメントと環境ラベルと関連してマテリアルフローコスト会計と環境会計ガイドラインの共通性と目的を理解する。
第10回	環境影響評価と環境パフォーマンス指標	環境目的・目標に基づく実施計画と環境パフォーマンス指標に基づく監視・測定・評価の一連の流れを理解する。
第11回	基礎演習2	実在企業を題材として環境側面を洗い出しその環境影響分析・評価をグループ討議する。
第12回	基礎演習2	グループ討議による成果を発表し、全体討議によって著しい環境側面・環境影響は何かを特定する。

第13回	環境経営実践上のコンプライアンス	環境経営に係るコンプライアンス（法規制、条例、企業倫理に基づく自主的規制等）と法令遵守を考える。
第14回	環境経営実践ケーススタディ	日本の代表的企業を事例として環境経営実践のカギをまとめる。
第15回	環境改善の内部監査及びISO14000シリーズ規格の要点	環境経営を継続的に改善するための内部監査及び補完・支援するためのISO14000シリーズ規格の要点を理解する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして授業・演習・討議を通じて考える力を養う。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回授業時に学習テーマに沿った資料および関連新聞記事を配布し解説する。

## 【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006年

## 【成績評価の方法と基準】

事前課題レポート50%（事前に提示する環境経営実践課題に関するレポートを最終授業日に提出する）

基礎演習の成果25%（事前検討・役割発揮・発表内容）

平常点25%（ふだんの授業・質疑応答への係わり、積極的な問題意識提起）

## 【学生の意見等からの気づき】

具体的な環境経営実践モデルを授業で提示する。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

## 環境経営実践論Ⅱ

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々変化する政治経済社会問題と環境経営は密接な相互作用の関係にあり、そのために事業機会リスクをマネジメントすることは持続可能な環境経営を実現して行く上で重要な課題となる。

授業では、2015年に改正されたISO14001環境マネジメントシステム規格は環境と経済の両立からさらに社会的側面にも立脚したトリプルボトムラインと統合マネジメントに進化することを理解し、春学期「環境経営実践論Ⅰ」の応用編として改正ISO14001の目的・意図を考えながら環境経営実践のためのリスクマネジメント、サプライチェーンマネジメント、コンピタンシーマネジメントを事例を通して学習する。

## 【到達目標】

1. 環境経営の持続可能性と環境マネジメントシステムの必要性について再認識し、環境経営にプラス・マイナスのインセンティブをもたらす有益・有害な事業機会リスクのマネジメント手法を事例に基づいて実践的に適用することができる。
2. サプライチェーンマネジメントやコンピタンシーマネジメントは、その重要性において環境マネジメントシステムとどのようにかかわってくるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

環境経営の事業機会リスクマネジメントの実践的分析・評価、有効性をPDCAサイクルと関連づけて理解しやすく図表を多用しながら、授業・演習・討議を通じて上記目標に到達するような授業とする。

演習では、改正ISO14001の考え方を利用して、ある業界におけるモデル事業会社について、外部環境（脅威と機会）と内部環境（強みと弱み）は何か、事業遂行上の環境影響やリスク（負の側面）と環境に配慮した新たな事業機会創出や事業プロセス改善（正の側面）、そのために求められる組織・体制、課題・解決策をグループ討議する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境経営の基本概念	環境経営の基本概念及び国際的基本ツールである新旧ISO14001規格の意図と基本概念を考える（春学期講義レビューと課題補完）。
第2回	環境経営の必要性	ゼロ成長時代に求められる健全な企業ビジョン・理念に基づく環境経営の必要性をライフサイクルと統合マネジメントの視点で考える（春学期講義レビューと課題補完）。
第3回	環境経営リスクマネジメント概論1	基本的マネジメントサイクルPDCAを展開するために改正ISO14001が要求する「組織の状況の把握」と「脅威と機会に伴うリスクへの取組み」について考える。
第4回	環境経営リスクマネジメント概論2	経営にプラス・マイナスインセンティブをもたらす有益または有害な事業機会リスクについて考える。
第5回	ISO31000（リスクマネジメント規格）	改正ISO14001との関連においてISO31000（リスクマネジメント規格）に基づくリスク要素の特定とその環境影響のリスク評価を考える。
第6回	演習1（事業リスク要素とその環境影響評価）	ある業界のモデル事業会社について経営を取り巻く状況（内部・外部環境）と事業リスク要素（環境側面/活動上の土諸要素・側面）について考える。
第7回	演習1（討議）	演習1のグループ討議
第8回	演習1（発表）	演習1のグループ討議と結果発表
第9回	環境経営におけるコンピタンシーマネジメント	環境経営に求められる人材レベルのコンピタンシーマネジメント（実績・力量主義経営）の基本と組織レベルのコア・コンピタンス経営の重要性を考える。

第10回	リスクマネジメントにおける分析・評価	演習1の結果を振り返り、リスクマネジメントにおける実践的な分析・評価のあり方をPDCAサイクル及びポートフォリオマネジメントと関連づけて考える。
第11回	環境経営実践におけるリスクマネジメント事例	具体的リスクマネジメント事例をもとに環境経営実践を考える。
第12回	サプライチェーンマネジメントの考え方と重要性	経営におけるサプライチェーンマネジメントは環境経営実践の基点となること、および真の環境問題はどこにあるのかを考える。
第13回	演習2（リスクマネジメント事例演習）	演習1のモデル事業会社の経営上・環境上の具体的なリスクを特定し、事業機会創出・事業プロセス改善案をグループ討議で考える。
第14回	演習2（続き）	モデル事業会社について求められる組織・体制、課題・解決策についてグループ討議で考える。
第15回	演習2（結果の発表と討議）	演習2（結果の発表と討議）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして授業・演習・討議を通じて考える力を養う。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回授業時に学習テーマに沿った資料および関連新聞記事を配布し解説する。

## 【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006年

## 【成績評価の方法と基準】

50% 事前課題レポート（事前に提示する環境経営実践課題に対するレポートを最終授業日に提出する）

25% 演習の成果（事前検討・役割發揮・発表内容）

25% 平常点（ふだんの授業・質疑応答への係わり、問題意識提起）

## 【学生の意見等からの気づき】

PDCAと関連したリスクマネジメントの具体的な企業事例を考える。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

## CSR 論 I

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからにはなりません。企業と社会の間に存在する様々な矛盾を解消するための仕組みとしての CSR について理解を深めることをめざします。

## 【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」にめぐって生じる諸問題に対する理解を深めめことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

サステイナブルという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、様々な社会的課題の解決を目指すソーシャルビジネス（社会的企業）の活動も注目されています。本講義では、CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営における CSR の意義とサステイナブル社会で求められる企業像を検討します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CSR の基本概念 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	グローバル経済の進展とその影響	1980 年代の米国と英国で進展した市場主義経済の光と影
第 3 回	サステイナビリティ（持続可能性）と CSR	地球サミット以降の CSR の展開
第 4 回	欧州の CSR 戦略	EU における CSR 政策の動向とその意義
第 5 回	CSR の制度化	ISO26000, MDGs, SDGs
第 6 回	企業戦略と CSR の相克	企業不祥事の実態とその要因
第 7 回	CSR と経営戦略	マイケル・ポーターの CSR・CSV 論を中心に
第 8 回	企業と NPO のパートナーシップ	価値共創経営とは何か
第 9 回	外部講師による特別講義 I	企業・NPO のゲストスピーカーによる講話
第 10 回	企業価値と CSR - 責任投資原則	投資家は CSR をどのように評価してきたのか
第 11 回	外部講師による特別講義 II	企業・NPO のゲストスピーカーによる講話
第 12 回	CSR 金融① 社会的責任投資とは何か	CSR と社会的責任投資（SRI）の関係性
第 13 回	CSR 金融② ESG 投資と統合報告	環境・社会・ガバナンスを反映した企業
第 14 回	CSR 金融③ 日経ストックリーグ	学生の視点からみた企業評価
第 15 回	良い企業とは何か	企業と社会の関係性から企業の本質を捉える

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では 1,000 社程度の企業が CSR 報告書を発行しています。本講義で習得した知識を活かして、CSR 報告書を読み解いてみましょう。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

谷本寛治『責任ある競争力 - CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年  
 谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年  
 岸田真代編『NPO×企業協働のススメ』パートナーシップサポートセンター、2012 年  
 岸田真代編『企業が伸びる地域が活きる：協働推進の 15 年』パートナーシップサポートセンター、2013 年

## 【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30 %

期末試験：70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース



MAN300HA

## CSR 論Ⅱ

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR 論Ⅰで習得した知識を基に、CSR (Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。サステイナブル (持続可能な) 社会において求められる企業の役割と企業に所属する個人の職業倫理のあり方について理解を深めることめざします。

## 【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」にめぐって生じる諸問題に対する理解を深めめことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や CSR および個人の職業倫理について検討していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	企業の機能と役割 株式会社の発展と企業倫理	日米欧における株式会社の発展プロセスと企業倫理の変遷
第 3 回	近代産業の勃興と経済倫理Ⅰ-見えざる手と道徳哲学	『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性
第 4 回	近代産業の勃興と経済倫理Ⅱ-功利主義思想	産業革命の勃興と企業倫理
第 5 回	近代産業の勃興と経済倫理Ⅲ-資本主義の精神と倫理	近代資本主義の思想的背景
第 6 回	企業社会の論理と倫理-社会的責任のマネジメント	社会的器官としての企業
第 7 回	外部講師による特別講義Ⅰ	企業・NPO 等の実務家による講義 詳細は開講時に提示
第 8 回	新自由主義 vs 第三の道	新自由主義の思想と限界 第三の道と新しい公共
第 9 回	CSR 経営論の変遷	マイケル・ポーターの CSR 論を中心に
第 10 回	CSR の胎動	新自由主義への反動と CSR の胎動
第 11 回	日本企業の倫理と CSR ①	明治～戦前期における企業経営と CSR
第 12 回	外部講師による特別講義Ⅱ	企業・NPO 等の実務家による講義 詳細は開講時に提示
第 13 回	日本企業の倫理と CSR ②	戦後の高度経済成長と CSR
第 14 回	日本企業の倫理と CSR ②	成熟化社会の到来と CSR
第 15 回	企業と社会のサステイナビリティ	不変の要素と変革すべき要素とは何か

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業の経営理念や CSR 報告書を読み、企業がどのような価値観を持って発展し CSR 活動を行っているのか調べて下さい。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

R.L. ハイブルローナー（松原隆一郎ほか訳）『入門経済思想史』筑摩書房、2001年

武田晴人『日本人の経済観念』岩波書店、1999年

佐和隆光『成熟化社会の経済倫理』岩波書店、1993年

谷本寛治『責任ある競争力ー CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013年

## 【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ECN300HA

## 国際環境政策 I

## 國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では環境問題を国際的な観点、地球規模の観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。

## 【到達目標】

国際的な視点、全球的な観点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを旨とする。とくに、採用される政策手段のさまざまな課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。最初に、本授業は、環境問題の低減・解決を図るために採用されるさまざまな経済的手段を中心に規制的手段や自主的手段などとの比較を含めて、講義する。そのために、各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税・排出取引などの効果と課題等について学習する。その後、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの越境・地球環境問題を対象に環境経済学の視点から講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境問題の拡がりとその類型
第2回	OECD 諸国での環境政策の多様性	時代的変遷とその特徴
第3回	環境と経済的手段 (1)	環境税の帰着
第4回	環境と経済的手段 (2)	OECD 諸国での課徴金と環境税
第5回	環境と経済的手段 (3)	OECD 諸国での排出権取引制度
第6回	環境と経済的手段 (4)	排出権取引の課題
第7回	環境と経済的手段 (5)	価格コントロールと数量コントロールの比較
第8回	越境環境問題 (1)	越境環境問題の捉え方
第9回	越境環境問題 (2)	酸性雨問題
第10回	国際環境協定の可能性 (1)	完全協力解、非協力解、提携など
第11回	国際環境協定の可能性 (2)	自立的な国際協定、国際協定の難易度
第12回	地球環境問題 (1)	オゾン層破壊
第13回	地球環境問題 (2)	地球温暖化問題 (1) 地域間、世代間の問題
第14回	地球環境問題 (3)	地球温暖化問題 (2) 現状評価
第15回	まとめ	全体のレビュー

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも復習に重点をおいて学習すること。復習に当たっては、各回、新出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論 I、II の履修が望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。  
R. K. ターナー他 (2001) 『環境経済学入門』(大沼あゆみ訳) 東洋経済新報社  
栗山浩一・馬奈木俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣

## 【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するため、期末に筆記試験を実施する（期末試験 100 %）。

## 【学生の意見等からの気づき】

学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等について繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。

## 【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境政策」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ECN300HA

## 国際環境政策 II

## 内山 勝久

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境政策 I の内容を踏まえ、さまざまな環境問題に関して統計データ等を通じて現状を客観的に理解するとともに、世界の環境政策の潮流と日本の対応などについて主として経済学の観点から検討します。

## 【到達目標】

統計データや政策の国際比較を通して、広い視野から環境問題を捉えられるようになることを目標とします。採り上げる環境問題に関しては基本的事項を中心に扱う予定ですので、そこから各受講者自身の問題意識の発見や深耕につながるようにすることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

主要な環境問題のうち国際環境政策 I で扱うことができなかった問題について、基礎的事項と国際的な取り組みの動向等を、スライドを利用しながら講義形式で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のねらいや環境問題の実態について
第2回	環境政策の考え方	環境問題と経済活動の関係、環境政策の手段等について
第3回	環境と持続可能な発展	途上国の環境問題と国際協調のあり方や持続可能な発展について
第4回	再生可能資源の保全政策 (1)	市場を活用した森林資源保全政策等について
第5回	再生可能資源の保全政策 (2)	市場を活用した水産資源保全政策等について
第6回	エネルギー問題と環境政策 (1)	エネルギー消費の実態について
第7回	エネルギー問題と環境政策 (2)	エネルギー政策の動向について
第8回	廃棄物管理政策	廃棄物の現状と市場メカニズムを活用した管理手法について
第9回	循環型社会への取り組み	循環型社会形成に向けた政策について
第10回	企業行動と環境政策	環境政策と企業の環境配慮活動について
第11回	金融と環境政策	金融を活用した環境改善の潮流について
第12回	都市・まちづくりと環境政策	低環境負荷のまちづくりに関する経済的手法について
第13回	生物多様性政策	市場を活用した生物多様性保全の潮流について
第14回	環境と経済社会	環境負荷の見える化や持続可能性と幸福度について
第15回	まとめ	全体のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が関心を持ったトピックスについて、新聞・雑誌・ウェブサイトなどで関連情報を収集し、問題意識の醸成に努めることを望みます。

## 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

## 【参考書】

必要に応じて適宜紹介しますが、差し当たって以下の文献を紹介しておきます。  
・浅子和美・落合勝昭・落合由紀子、『グラフィック環境経済学』、新世社、2015年。  
・亀山康子、『新・地球環境政策』、昭和堂、2010年。  
・環境省『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』（各年版）。([http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/past\\_index.html](http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/past_index.html))

## 【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するために、期末に筆記試験を実施します（期末試験 100 %）。

## 【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当していますが、授業改善アンケートによる学生からの要望事項は特にありませんでした。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業で使用するスライドは授業支援システムで配信します。必要に応じて事前にプリントアウトして授業に持参してください。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ECN300HA

## 国際経済協力論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

## 【到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力とは？	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようなところで、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第 3 回	国際社会と経済協力の歴史 (1) (1945 年～1960 年代)：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第 4 回	国際社会と経済協力の歴史 (2) (1970 年～1980 年代)：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第 5 回	国際社会と経済協力の歴史 (3) (1990 年代～現在)：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化下における経済協力の位置づけを概観する。
第 6 回	日本の経済協力の歩み (1)：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第 7 回	日本の経済協力の歩み (2)：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950 年代～1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第 8 回	日本の経済協力の歩み (3)：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて 1980 年代～2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第 9 回	経済協力の仕組みと方法	日本の経済協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをもとに理解する。
第 10 回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第 11 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ (1)：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様子を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷を通じて理解する。

- 第12回 経済協力をめぐる議論の大きな流れ(2)：持続可能な開発と環境 環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
- 第13回 経済協力の評価と効果をめぐる議論 これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
- 第14回 日本が経済協力を行う理由 日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。
- 第15回 まとめ：いままぜ国際協力なのか 講義全般の復習を通じて、国際社会や日本の経済社会状況の変化、日本と途上国の関係から経済協力の意義についてあらためて確認する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

#### 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

#### 【参考書】

斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）  
 勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）  
 牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）  
 外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

過去には、講義が一方通行の単調なものとならないことを希望するコメントがあった。受講人数による制約はあるが、可能範囲で学生が参加できる形式での講義を考えていきたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

#### 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

ECN300HA

## 国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進展する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

#### 【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による経済協力(1) NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による経済協力(2) 民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	開発とジェンダー／マイクログレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第6回	教育と学校	教育は途上国支援の場で長らく語られてきた大きなテーマの一つである。教育の持つ意味と経済協力による支援の関係について概観する。
第7回	人間の安全保障と経済協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第8回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第9回	アフリカ(1)：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第10回	アフリカ(2)：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第11回	フェア・トレード(1)：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第12回	フェア・トレード(2)：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。

第13回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第14回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第15回	進歩と貧困・格差	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。今後向かう先はどこか、経済協力はどのような役割を果たすべきかを考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

## 【参考書】

斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）  
 勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）  
 牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）  
 外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

映像の利用はおおむね好評であるが、一方で映像が長いと集中が阻害されるとの声もあった。映像を利用するしないにかかわらず、講義が単調なものにならないように、学生の集中力を高めるための工夫やメリハリをつけることを考えていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

MAN300HA

## 環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを具体的に考える素材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察が出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

## 【到達目標】

環境ビジネスと総称される多様な企業活動について、総合的な理解を深め、主要な分野についてビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れると同時に、汎用性の高いツールとしてファイナンスの基本的な視点を学ぶことにより、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、その市場規模や構成、雇用などといった巨視的な視点を押さえると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、生物多様性保全など主な各論テーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。その際、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることで、汎用性のある知識の習得を目指す。また、グループ毎に事例分析とプレゼンを行うことで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集める環境金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成や見方などを取り扱う。
第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：再生可能エネルギービジネス1	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース1：再生可能エネルギービジネス2	前回の続き。
第8回	ケース2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCO、HEMS／BEMSなどを学びながら、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第9回	ケース3 リサイクルビジネス1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。

- 第10回 ケース3 リサイクルビジネス2 / 企業分析プレゼン② 前回の続き。
- 第11回 ケース4：土壌汚染対策ビジネス / 企業分析プレゼン③ 法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
- 第12回 ケース5：水ビジネス / 企業分析プレゼン④ 希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
- 第13回 ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス / 企業分析プレゼン⑤ 自然資本 / 生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確立しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
- 第14回 ケース7：金融市場と環境ビジネス / 企業分析プレゼン⑥ 欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めている ESG 投資など「環境金融」の機能について考える。
- 第15回 まとめ / 企業分析プレゼン⑦ 本講義の内容を振り返り、ポイントな部分や重要な項目について再確認を行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスと聞くと身構えてしまいがちですが、これも合わせて予備知識は一切不要です。むしろ復習を重視して下さい。自分が関心のある業界 / 企業が環境問題にどのように関わっているか、問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。講義では、受講生をチーム分けし、担当する企業の環境ビジネスについて分析・プレゼンしてもらいます。教室での質疑、講師からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が望まれます。なお、必要な資料等は原則として授業支援システムを通じて配布します。

#### 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システムを通じて配布します。

講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずにプリントアウトして持参するようにして下さい。

#### 【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト  
[http://www.env.go.jp/policy/keizai\\_portal/index.html](http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html)  
 このほか、講義において適宜紹介していきます。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業の一環として行うプレゼンテーションへの参加と内容・貢献度（50%）と、講義に関連して理解度を確認するため複数回課す予定の事前課題の提出（20%）、平常点（30%）から、総合的に判断する。プレゼンテーション等に個別指導を行うため、受講希望者が多い場合に人数調整を行うことがある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションのチーム編成について、受講生の学年等に偏りが出ないように留意するとともに、講義の中でチームメンバーが顔合わせを行う機会を設けるなど、その後のチームワークの円滑化を図る。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には授業支援システムを利用する。また、プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

#### 【その他の重要事項】

チームによる分析・プレゼンは6～7件を想定しているが、受講者数に応じて増減する可能性がある。

#### 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

POL200HA

## 平和学

山本 和也

カテゴリ：基幹 | 配当年次 / 単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内戦・テロリズム・難民が、ニューストピックにならない日はありません。このことは、第二次世界大戦後に誕生した平和学がますます重要になっていることを意味しています。本講義では、平和学の基本的内容を習得するとともに、上述のような現代的諸問題への理解を目指します。

#### 【到達目標】

第一に、平和学誕生の背景、その学術的特徴、平和学が考える「平和」や「平和主義」の意味といった、平和学の学問的内容を習得します。第二に、それらの知識をもとにして、核兵器、貧困、平和構築といった具体的な課題を考察できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行います。毎回、簡単な小テストを行います。可能である場合には、教員・学生による議論も行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	平和学とは何か	平和学の学術的背景、課題、特徴を概説する。
第2回	平和主義の諸類型	平和学と密接に関連する「平和主義」の概念を概観する。
第3回	義務論の平和主義：市民	義務論の倫理からみた平和観を市民の観点から考察する。
第4回	義務論の平和主義：兵士	義務論の倫理からみた平和観を戦争従事者の観点から考察する。
第5回	目的論の平和主義	義務論とともに有力な平和観である目的論を考察する。
第6回	核の抑止と不拡散	20世紀半ば以降、戦争の意味を根本的に変えた核兵器を考える。核抑止論や核兵器不拡散を目指す歴史を概説する。
第7回	紛争の科学的研究	平和学は平和を実現するための実践的視点とともに、学術としての科学的視点を持っている。この回では、平和学が行ってきた戦争阻止のための科学的研究の基礎理論を概説する。
第8回	紛争の科学的研究の平和研究への応用	前項で説明した科学的理論の平和研究への適用事例を説明する。
第9回	グローバルな経済格差	単に武力紛争がない状態を実現するだけではなく、南北問題といった社会的な不平等の根絶は、平和学の重要なテーマであり続けてきた。ここでは、その近代史を概観する。
第10回	1次製品の生産国と消費国	フェアトレードという公正な1次製品の取引が認識されるようになって久しい。本講では、VTRを通じてこの問題を考察する。
第11回	小型武器の拡散問題	内戦終了後も、ライフルや小銃といった小型武器は、回収されず紛争後の社会の安全を脅かし続けている。本講では、この問題を解説する。
第12回	人道援助・人道的介入・平和構築	紛争中の人道支援、紛争を強制的に停止させるための介入、紛争後の社会の安定化を目指す平和構築を概観する。
第13回	多元的問題としての水資源	水資源をめぐる諸問題は、単に環境問題にとどまらない。その実態をVTRを通じて考察する。
第14回	まとめ	全体の振り返りと討論
第15回	定期試験	講義全体に関する試験（論述式を予定）

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平和学が対象とする問題は、ニュースで日々報道されているものが多くあります。日頃から新聞などを読みながら、上の授業計画で取り上げた話題に関心を持っておく必要があります。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

【参考書】

講義において、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%) と毎回の小テスト (20%) による。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料を用いて、学生のより具体的な事例に対する理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース (旧・国際環境協力コース)、人間文化コース (旧・環境文化創造コース)

POL300HA

人間の安全保障

山本 和也

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際的な観点からの安全保障といえば、かつては国家同士の武力紛争問題でした。しかし現代では、地球上に存在する一個人に視点を合わせ、安全保障を考えます。本講義では、この「人間の安全保障」について体系的に学習します。

【到達目標】

安全保障概念の変遷、人間の安全保障に対する国際機関・国家の政策、人間の安全保障問題に対する具体的な取り組みを包括的に理解します。これによって、日本で生活している人々のみならず、世界中の人々と同じ視点で見つめる感性を醸成し、グローバルに政治経済社会問題を捉えることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義 (教員による話) および映像資料を用いて行います。毎回、簡単な小テストを行います。可能である場合には、教員・学生による議論も行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「人間の安全保障」とは何か	人間の安全保障とはどのようなものかについて、全体像を概説し、既存の学問分野との関係を説明する。
第 2 回	「人間の安全保障」論の背景	従来の安全保障の考え方に加えて、人間の安全保障という主張が行われるようになった背景を解説する。
第 3 回	「人間の安全保障」論の展開	1990 年代から現在までに、「人間の安全保障」論がどのように発展してきたかを概観する。
第 4 回	人道活動の概要・歴史・課題	19 世紀までさかのぼり、人道活動の歴史と課題を考察する。
第 5 回	国際法と人間の安全保障	人間の安全保障の発展は、国際法による戦争の位置づけの変遷と不可分である。この回では、これを学ぶ。
第 6 回	人間の安全保障と日本	戦後日本の平和主義と人間の安全保障は、密接に関連している。この回では、人間の安全保障に対する日本政府の取り組みを概説する。
第 7 回	難民支援と国際機関	国連をはじめとする国際機関は、人間の安全保障の実現を目指す主要な主体である。この回では、国際機関の取り組みを概説する。
第 8 回	ホームグロウンテロリズム	最近、ホームグロウンテロリズムと呼ばれるテロ行為が関心を集めている。本講では、これを解説する。
第 9 回	受け入れ国と社会	EU の分裂危機にみられるように、移民問題は現在の人間の安全保障の主要な関心事である。この回では、移民受け入れ国の旧来の市民の立場からこの課題を考察する。
第 10 回	平和構築と課題	国連 PKO 活動などの平和構築は、人間の安全保障の主要課題である。この回では、国連 PKO 活動の課題を考察する。
第 11 回	感染症問題	エボラ、鳥インフルエンザなどの爆発的感染の発生 (パンデミック) は、人類に対する最大の脅威のひとつである。この回では、この問題に対する国際社会の対応の課題を考察する。
第 12 回	自然災害	大地震や巨大台風がもたらす災害もまた人間の安全保障のテーマである。この回では、この課題に対する国際ボランティアの取り組みをみていく。
第 13 回	地球環境問題	地球環境問題は、武力紛争などとは縁遠い先進国の人々にも直接関係する人間の安全保障問題である。この回では、地球温暖化問題を取り上げ、各国の取り組みを概観する。

第 14 回 まとめ 全体の振り返りと討論  
 第 15 回 定期試験 講義全体に関する試験（論述式を予定）

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

人間の安全保障を実現すべく取り組まれている諸問題は、われわれの身近にあります。新聞やニュースをみる際には、これら諸問題に対して常に関心を持っておく必要があります。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。

#### 【参考書】

講義において、必要に応じて紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、毎回の小テスト（30%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

人間の安全保障の諸課題を具体的に理解できるように、映像資料を多く用います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

#### 【その他の重要事項】

特になし。

#### 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

MAN300HA

## 環境マネジメントスタディーズ I

池原 庸介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の環境課題である気候変動問題、およびその抑制を目的とした対策は、社会を構成するすべての人間活動や生態系に影響を及ぼします。気候変動問題に軸足を置いた国内外の政策動向や行政・企業・NPO（非営利組織）等の活動に焦点をあてて講義を行います。

#### 【到達目標】

履修者は、気候変動問題を正しく理解し、新たに成立した国際枠組み『パリ協定』の下で、世界が脱炭素社会の実現に向けてどのように取り組んでいくか、政府や企業、非営利組織など様々な観点から、包括的に理解を深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

本講義では、社会科学・自然科学の両面から気候変動問題およびその解決に向けた世界の取り組みの全体像を概観します。一部、温室効果の理解などにおいて簡単な物理化学を交えて解説しますが、履修にあたり物理化学の知識などが無くても支障はありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方
2	深刻化する気候変動問題 気候変動の科学①	気候変動問題とは IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次評価報告書が示す将来予測、炭素予算など
3	気候変動の科学②	予測される気候変動の影響
4	国連気候変動枠組み条約 と国際交渉	国際的な気候変動交渉の流れ
5	京都議定書下での政策動向	法的拘束力を持つ削減目標と柔軟性メカニズム
6	パリ協定の成立	国際合意の難しさ、全員参加型の気候変動対策、脱炭素に向けた取り組み
7	パリ協定下での各国の政策動向	主要各国の気候変動・エネルギー政策
8	日本の気候変動・エネルギー政策	日本の中長期目標と課題、世界からの評価
9	非国家主体による気候行動①	非国家主体による取り組みの重要性、リマ・パリ行動アジェンダ
10	非国家主体による気候行動②	世界の産業界の動向、意欲的な各種イニシアチブ
11	非国家主体による気候行動③	ESG 投資、化石燃料に対する投資引き上げ
12	世界のエネルギー政策	『脱炭素』を実現する世界のエネルギーのあり方
13	再生可能エネルギー普及 拡大の動き	各国の再生可能エネルギー政策、企業などによる再生可能エネルギーの活用
14	持続可能な開発目標 (SDGs)	持続可能な社会の実現に向けて国際社会が解決すべき諸課題
15	気候変動の悪影響に対する 適応策	国内外における適応政策の動向

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気候変動は、裾野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは企業の取り組みやエネルギーなど関心のあるところから学習を始め、少しずつ深掘りしていくことが重要です。下記の参考書などを活用し、徐々に全体像をとらえるようにしてください。

#### 【テキスト（教科書）】

毎回、レジユメを配布します。

#### 【参考書】

小西雅子 『地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ!』 岩波ジュニア新書、2016 年

諸富徹、浅岡美恵 『低炭素経済への道』 岩波新書、2010 年

梶屋 治紀 『これからのエネルギー』 岩波ジュニア新書、2013 年

小宮山 宏、山田 興一 『新ビジョン 2050 地球温暖化、少子高齢化は克服できる』 日経 BP 社、2016 年



## 【成績評価の方法と基準】

小テスト（授業内）：30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

## 【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズⅡ（秋学期）を履修予定者は、本科目を事前に履修することを推奨します。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN300HA

## 環境マネジメントスタディーズⅡ

池原 庸介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時間：月1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境マネジメントスタディーズⅠで学んだことをベースに、気候変動問題をはじめ、森林の違法伐採や水産物の過剰漁獲などの問題にも範囲を広げ、人間活動が地球環境に与えている負荷を理解し、持続可能な社会の実現に向けて求められる解決策、課題等について、演習（ゼミ）形式で理解を深めていきます。

## 【到達目標】

履修者は、人間活動が地球環境に与えている負荷の大きさを示す指標『エコロジカル・フットプリント』を用いて地球環境の実情を理解し、森や海を守り、気候変動問題を解決していくために何が必要かを自ら考えることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

人間活動、特に企業活動や生活者の消費行動が、どのようなかたちで地球環境に負荷を与えているかに焦点を当て、毎回様々なトピックの資料などを読み込む演習（ゼミ）形式で理解を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス エコロジカルフットプリント	LPI（生きている地球指数）、EF（エコロジカル・フットプリント）などの理解
2	地球1個人の生活、事業活動の実現に向けて①	森を守る調達・消費行動
3	地球1個人の生活、事業活動の実現に向けて②	海を守る調達・消費行動
4	気候変動による生態系への影響	野生生物を守るために何が必要か？
5	気候変動問題の解決に向けて	パリ協定、脱炭素に向けた世界の取り組み
6	企業の温暖化対策①	排出量の定義（スコープ1,2,3）、削減目標の単位（原単位・総量）の重要性
7	企業の温暖化対策②	長期視点での取り組み、『Science Based Targets』
8	企業の温暖化対策③	再生可能エネルギーの積極的な活用
9	企業の温暖化対策④	ライフサイクルを通じた温暖化対策の重要性
10	環境に配慮した投融資行動	ESG（環境・社会・ガバナンス）情報開示、ESG投資
11	再生可能エネルギー	持続可能な社会の実現に向けた再生可能エネルギーの普及
12	再生可能エネルギー普及と課題①	太陽光発電および普及における課題
13	再生可能エネルギー普及と課題②	風力発電および普及における課題
14	再生可能エネルギー普及と課題③	地熱発電および普及における課題
15	再生可能エネルギー普及と課題④	バイオマスおよび利活用における課題

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気候変動は、裾野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは関心のある分野から学習を始め、少しずつ深掘りしていくことが重要です。日ごろから、関連するニュースや記事などを読み、興味関心のある分野を増やしていくことも大切です。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、事前に指定する資料やレポートなどを印刷して持参してください。

## 【参考書】

小西雅子『地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ』岩波ジュニア新書、2016年

鶴屋治紀『これからのエネルギー』岩波ジュニア新書、2013年

小宮山宏、山田興一『新ビジョン2050 地球温暖化、少子高齢化は克服できる』日経BP社、2016年

小西雅子『地球温暖化の日撃者』毎日新聞社、2011年

## 【成績評価の方法と基準】

平常点：30%

期末試験：70%

各回演習で取り上げた内容を通じて、地球環境の実情を理解し、課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

**【その他の重要事項】**

環境マネジメントスタディーズⅠ（春学期）を事前に履修することを推奨します。

**【関連の深いコース】**

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN100FA

**簿記入門Ⅰ**

平井 裕久

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

備考（履修条件等）：原則春学期、秋学期連続で受講してください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は、初めて簿記を学習する学生を対象として、簿記の基本的仕組を理解してもらうことを目的としている。企業は財務諸表を作成しているが、それを作成するためには、日常発生した経済的な出来事を一定のルールに従って記録しておく必要がある。講義の前半では、記録するためのルールの説明と基本的な決算手続について説明する。講義の後半では、前半の講義内容を理解していることを前提に、入門コースで必要と思われる各勘定科目の具体的な処理について説明する。また決算手続についても重要事項は一通り説明を行う。簿記入門Ⅰ・Ⅱを学習することによって、将来企業社会で必要とされる簿記会計の基本的事項を身につけることができる。

**【到達目標】**

日商簿記検定3級レベルの簿記会計の知識の習得を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

講義形式でおこなう。必要に応じてミニテストを実施する予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

**I 春学期**

回	テーマ	内容
第1回	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表	資産・負債・純資産（資本）の各概念と貸借対照表について学習します。
第2回	収益・費用と損益計算書	収益・費用の各概念と損益計算書について学習します。
第3回	取引	会計上の取引の概念について学習します。
第4回	仕訳	仕訳について学習します。
第5回	勘定記入	勘定記入の基礎について学習します。
第6回	帳簿	帳簿の種類と体系について学習します。
第7回	試算表の作成（1）	簿記一巡の手続きと試算表を作成するまでを学習します。
第8回	元帳の締切りと財務諸表の作成（1）	元帳の締切り方法と財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成の基本について学習します。
第9回	精算表の作成（1）	決算整理がない6桁精算表の作成を学習します。
第10回	復習問題（ミニテスト）	ここまでの学習内容についてミニテストを実施します。
第11回	現金・現金過不足	現金取引および現金過不足時の処理について学習します。
第12回	当座預金・当座借越	当座預金および当座借越の処理について学習します。
第13回	小口現金	小口現金の処理について学習します。
第14回	商品売買	商品売買の処理について学習します。
第15回	春学期講義のまとめ	春学期で学んだ内容に復習します。

**II 秋学期**

回	テーマ	内容
第16回	売掛金・買掛金	売掛金・買掛金の処理について学習します。
第17回	その他の債権・債務	その他の債権・債務の処理について学習します。
第18回	手形	手形の処理について学習します。
第19回	有価証券	有価証券の処理について学習します。
第20回	固定資産	固定資産の処理について学習します。
第21回	資本と引出金	資本と引出金の処理について学習します。
第22回	収益と費用	収益と費用の処理について学習します。
第23回	税金と伝票	税金と伝票の処理について学習します。
第24回	試算表の作成（2）と決算整理手続	試算表の作成と決算整理手続について学習します。
第25回	精算表の作成（2）	修正仕訳欄のある8桁精算表の作成について学習します。
第26回	元帳の締切りと財務諸表の作成（2）	元帳の締切りと財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成について学習します。

第 27 回	総合模擬問題（1）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 28 回	総合模擬問題（2）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 29 回	総合模擬問題（3）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 30 回	総合模擬問題（4）	総仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

渡部裕亘, 片山覚, 北村 敬子『新検定簿記講義3級 商業簿記』（中央経済社）※最新年度版を使います。

## 【参考書】

渡部裕亘, 片山覚, 北村 敬子『新検定簿記ワークブック 3級/商業簿記』（中央経済社）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期の定期試験（80%）、講義における課題等（20%）により、総合点で成績を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使い説明をおこなう。

## 【その他の重要事項】

本科目は2015年度以前入学生が履修することができる。

〔関連科目〕

この講義は、2年次からの「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」、3年次からの会計専門科目の基礎となるものである。複式簿記による記帳ルールを習得しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進する。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。日商簿記3級をマスターして同2級・1級、さらには公認会計士・税理士といった職業会計人の国家試験にチャレンジしよう。

## 【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

MAN100FA

## 簿記入門Ⅱ

平井 裕久

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

備考（履修条件等）：原則春学期、秋学期連続で受講してください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、初めて簿記を学習する学生を対象として、簿記の基本的仕組を理解してもらうことを目的としている。企業は財務諸表を作成しているが、それを作成するためには、日常発生した経済的な出来事を一定のルールに従って記録しておく必要がある。講義の前半では、記録するためのルールの説明と基本的な決算手続について説明する。講義の後半では、前半の講義内容を理解していることを前提に、入門コースで必要と思われる各勘定科目の具体的処理について説明する。また決算手続についても重要事項は一通り説明を行う。簿記入門Ⅰ・Ⅱを学習することによって、将来企業社会で必要とされる簿記会計の基本的事項を身につけることができる。

## 【到達目標】

日商簿記検定3級レベルの簿記会計の知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。必要に応じてミニテストを実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

## Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表	資産・負債・純資産（資本）の各概念と貸借対照表について学習します。
第 2 回	収益・費用と損益計算書	収益・費用の各概念と損益計算書について学習します。
第 3 回	取引	会計上の取引の概念について学習します。
第 4 回	仕訳	仕訳について学習します。
第 5 回	勘定記入	勘定記入の基礎について学習します。
第 6 回	帳簿	帳簿の種類と体系について学習します。
第 7 回	試算表の作成（1）	簿記一巡の手続きと試算表を作成するまでを学習します。
第 8 回	元帳の締切りと財務諸表の作成（1）	元帳の締切り方法と財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成の基本について学習します。
第 9 回	精算表の作成（1）	決算整理がない6桁精算表の作成を学習します。
第 10 回	復習問題（ミニテスト）	ここまでの学習内容についてミニテストを実施します。
第 11 回	現金・現金過不足	現金取引および現金過不足時の処理について学習します。
第 12 回	当座預金・当座借越	当座預金および当座借越の処理について学習します。
第 13 回	小口現金	小口現金の処理について学習します。
第 14 回	商品売買	商品売買の処理について学習します。
第 15 回	春学期講義のまとめ	春学期で学んだ内容に復習します。

## Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 16 回	売掛金・買掛金	売掛金・買掛金の処理について学習します。
第 17 回	その他の債権・債務	その他の債権・債務の処理について学習します。
第 18 回	手形	手形の処理について学習します。
第 19 回	有価証券	有価証券の処理について学習します。
第 20 回	固定資産	固定資産の処理について学習します。
第 21 回	資本と引出金	資本と引出金の処理について学習します。
第 22 回	収益と費用	収益と費用の処理について学習します。
第 23 回	税金と伝票	税金と伝票の処理について学習します。
第 24 回	試算表の作成（2）と決算整理手続	試算表の作成と決算整理手続について学習します。
第 25 回	精算表の作成（2）	修正仕訳欄のある8桁精算表の作成について学習します。
第 26 回	元帳の締切りと財務諸表の作成（2）	元帳の締切りと財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成について学習します。

第 27 回	総合模擬問題（1）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 28 回	総合模擬問題（2）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 29 回	総合模擬問題（3）	仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。
第 30 回	総合模擬問題（4）	総仕上げとして、実際の3級レベルの総合模擬問題の答案練習をおこないます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んでおくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

渡部裕巨, 片山覚, 北村 敬子『新検定簿記講義3級 商業簿記』（中央経済社）※最新年度版を使います。

#### 【参考書】

渡部裕巨, 片山覚, 北村 敬子『新検定簿記ワークブック 3級/商業簿記』（中央経済社）

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期の定期試験（80%）、講義における課題等（20%）により、総合点で成績を評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使い説明をおこなう。

#### 【その他の重要事項】

本科目は 2015 年度以前入学生が履修することができる。

#### 【関連科目】

この講義は、2年次からの「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」、3年次からの会計専門科目の基礎となるものである。複式簿記による記帳ルールを習得しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進する。

#### 【その他注意事項】

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。日商簿記3級をマスターして同2級・1級、さらには公認会計士・税理士といった職業会計人の国家試験にチャレンジしよう。

#### 【オフィスアワー】

授業後に質問を受け付ける。

#### 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

SOC200HA

## 現代社会論 I

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「現代社会を人間行動の視点から考える」

#### 【到達目標】

この講義では人間の行動（行為）のメカニズムについて理解し、現代社会の諸現象を分析する思考法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

はじめに人間の行動を考えるための「枠組み」を取り上げ、いくつかの基礎概念について解説する。次に、「人はなぜこのように行動し、あるいは行動しないのか」を課題として、行動を形づくる要因について、いくつかの研究を紹介しながら考える。さらに、環境問題や都市問題という現代社会の社会問題を、「行動の集積」という視点からとりあげ、その生起してくるメカニズムを論じる。また、このような問題の解決はいかにして可能か、についても受講生からアイデアを募集し、検討する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」とは何か？	「人々の共同生活」としての社会を個人の行動というミクロな観点から考察する意図を説明する。
第 2 回	人間行動を考える枠組み (1) 欲求と規範	「欲求」「規範」「同調」「逸脱」などの基本概念を解説し、研究事例を紹介する。人間に行動を起こさせる動因とそれを規制するものとは何か。
第 3 回	人間行動を考える枠組み (2) 地位と役割	「地位・役割行動」概念を解説し、研究事例を紹介する。行為者間の相互作用のプロセスを理解する。
第 4 回	人間行動を考える枠組み (3) 社会関係と行動の文脈	「社会関係」概念を説明し、行動の生じる「コンテキスト」の理解を深める。
第 5 回	行動と文化 (1) 「文化」とは何か	行動に形を与えるものとしての「文化」概念を、伝達・学習・共有の側面から捉える視点を解説する。
第 6 回	行動と文化 (2) 文化の伝承と変化、文化のダイナミズム	文化を、ダイナミックなものとして考え、伝統の継承と文化の変容・衰退を取りあげる。
第 7 回	行動と文化 (3) 文化相対主義とエスノセントリズム	文化を見る目を相対化することの意味を「自民族中心主義」的文化理解と対比して学ぶ。
第 8 回	情報と行動 (1) 「予言の自己成就」	情報とそれへの反応により「意図せざる結果」が生じるメカニズムを取り上げ、事例を検討する。
第 9 回	情報と行動 (2) 「予言の自己破壊」、情報は行動を変えるか	行動のコントロールは可能であるか、「警鐘を鳴らす」ことの有効性について解説する。
第 10 回	「社会的ジレンマ」(1) 「共有地の悲劇」、私益と共益	合理的な個別利益追求行動がもたらす結果についてハーディンの「共有地の悲劇」を取りあげ説明する。
第 11 回	「社会的ジレンマ」(2) 「社会的ジレンマ」のメカニズム	ジレンマゲームを紹介、行動主体間の選択とその結果について事例をあげながら説明する。
第 12 回	「社会的ジレンマ」(3) 「囚人のジレンマ」と相互信頼	「囚人のジレンマ」研究を通して行動主体間の「信頼」の構築について考える。
第 13 回	環境配慮行動を考える、意識は行動を生み出すか	環境「意識」は環境「行動」につながるか？という問題を提起。研究事例を紹介する。
第 14 回	環境配慮行動を促進する仕組みづくり	環境配慮行動を促す仕組み作りは可能かを考察する。
第 15 回	まとめー人間の行動が社会をつくる	社会を人間の社会行動の集積として考える意義を取りあげ、講義の目標を確認する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定のテキストは用いないが、トピックスごとの参考文献のリストを配布するので関連箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

橋爪・大澤ほか,2016,「社会学講義」ちくま新書  
本田由紀編,2015,「現代社会論」有斐閣  
奥村 隆,2014,「社会学の歴史Ⅰ」有斐閣  
藤村正之,2014,「学ぶヒント」弘文堂  
土場・篠木,2008,「個人と社会の相克」ミネルヴァ書房  
このほか開講時に文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

質問メモを提出してもらい、講義の中で回答します。

【その他の重要事項】

環境問題は「社会」の中で起こる問題群のひとつです。私たちがどのような「社会」を作っているのか、を考えることはこの学部での学習の基礎となります。人はなぜそう振る舞うのか、なぜこのようには行動しないのか？ 社会学的思考法を身につけ、柔軟で多様な見方から考えてみよう。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

現代社会論Ⅲ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現代社会における家族と地域の変動を考える」

【到達目標】

この講義では、「地域社会」そしてそこに暮らす人々が作る「家族」を取りあげ、1960～2010年の変化に関して各種社会統計を用いて考察することを目標とする。私たちは「誰と」「どこで」暮らしているのかを取りあげ、その暮らし方はどのように変化してきたか、なぜそのような変化が生じたのか、を考える。論理的・実証的に考える能力を身につけることをめざす。もちろん、基礎的な概念・枠組みの正確な理解を得ることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地域社会をどのような視点から考えるか、高度成長期の「離村向都現象」（ムラからマチへの人口移動）が生じた経緯を長期社会統計によって跡づけながら実態を把握する。その結果生じた「過疎と過密」の問題をとりあげる。また、そのプロセスの中で見られた生活スタイルの変化を「家族・世帯」の視点から取り上げる。このような変化がなぜ生じ、その変化は社会の他の領域における変化といかなる関連を持つのか、社会統計についての解説を交え、変化を読み取る方法の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」を考える視点	「社会」とは何だろうか。人々の共同生活としての社会。社会はどのようにとらえられてきたか。
第2回	家族とは？	社会集団としての家族の構造と機能。
第3回	家族の変化をとらえる方法	家族と世帯。世帯統計から変化を捉える。世帯類型。
第4回	核家族化と小家族化	核家族とは何か。核家族化は進展しているか？ 世帯員数の減少とその要因。
第5回	少子高齢社会における家族	少子・高齢化と家族生活の変化。単独世帯・夫婦のみ世帯の増加とその要因。
第6回	家族機能の変容	家族は必要でなくなるか？ 家族機能の社会機関への委譲。機能の喪失か純化か。
第7回	家族が生活する地域の変動	「地域社会」という概念。地域社会という概念で何を考えようとしているか。
第8回	都市とは？	都市をとらえる視点。都市の形態と機能。都市の魅力。
第9回	産業化・工業化と都市化	経済成長と人口移動。産業構造の変動と人々の居住域の移動。
第10回	離村向都現象	ムラからマチへ。都市化の進展をもたらす要因。「社会増加率」の推移で捉える。
第11回	都市への人口集中	都市の拡大と過密。都市問題の発生。DID 地区の人口・面積割合。
第12回	都市的生活様式とその拡大	都市的生活スタイルの登場と地域社会。非都市域へ浸透する都市的生活様式。
第13回	農山村地域の変貌	過疎と少子・高齢化問題。農山村の変化の背景を見る。
第14回	農業と地域の諸問題とその解決	「限界集落」の実態と新たな動き。
第15回	まとめ	地域社会と家族の変化の関連。地域と家族の将来像を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計資料を配付するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。スタディクエスチョンで課題を示すので事例や関連情報を集めておく。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

進見音彦,2012,「現代日本の地域分化」東信堂  
岩間ほか,2015,「問いからはじめる家族社会学」有斐閣  
森岡・望月,2011「新しい家族社会学」培風館  
植田今日子,2016,「存続の岐路に立つむら」昭和堂  
徳野・牧野・松本ほか,2015,「暮らしの視点からの地方再生」九州大学出版会  
小島・西城戸編,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房

\*このほか開講時に文献リストを配布する

#### 【成績評価の方法と基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスション」を行い評価に加える。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義への疑問・質問を出してもらった回数が増やします。

#### 【その他の重要事項】

なぜそのような変化が生じるのだろうか、と考える姿勢を持つ。「現代社会論Ⅱ」も履修することをお薦めします。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

## NPO・ボランティア論

川崎 あや

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO（Nonprofit Organization）は、市民によって設立・運営される非営利組織で、多様な分野で、行政や企業が取り組みにくい社会問題の解決や公益的なサービスに取り組んでいます。日本でNPOが注目されるようになって20年あまりが経ちました。市民はNPOに、ボランティアなどの様々な形で参加することで、社会に働きかけ、市民的公共性を創出する担い手となります。この授業では、NPOやその担い手についての理解を深めることを通して、現代社会の様々な課題を探るとともに、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように関わっていくのかを考える機会とします。

#### 【到達目標】

- ・NPOの意味、歴史、運営、財源、行政や企業との関係などについて理解を深める。
- ・NPOに関わる人々（設立者、ボランティア、寄付者、その他の支援者等）が、どのような思いでNPOに関わるのかを考察する。
- ・NPOが取り組んできた課題を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもつ。
- ・NPOの役割や存在意義、NPOが活動・発展する上での課題を考える。
- ・今後の市民社会はどのような方向に進むべきか、また受講生自らも含めて、市民一人ひとりが、社会とどのように関わらなければならないかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
- ・毎回、リアクションペーパー（感想・質問）を任意で提出してもらいます。質問については、次回の授業の冒頭でコメントします。
- ・受講生の中で、NPOの活動経験者等には、適宜、報告してもらった時間をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方 ・受講者の関心調査
第2回	NPOの基礎知識～NPOとは何か	・NPOの意味と意義 ・NPOとボランティアの関係 ・NPOとNGO ・非営利の意味
第3回	市民社会の変遷とNPO	・日本における市民社会の歴史 ・市民活動からNPOへの変遷
第4回	NPOの社会的役割～事例を通して①	・映像でさまざまなNPOの活動事例（子育て、介護、生活困窮者支援、国際協力等）を見ながら、NPOの社会的役割を考える。
第5回	NPOの社会的役割～事例を通して②	第4回と同じ
第6回	NPO法人制度（NPO法の目的と内容）	・NPO法とは ・NPO法の制定過程 ・他の法人制度との比較 ・公益法人制度改革
第7回	NPOのミッションと組織	・NPOのミッションを実現するための組織構造 ・市民の多様な関わり方 ・行政組織や企業組織との違い
第8回	NPOの財政と税制優遇	・NPOの財政構造 ・財源の多様性と特性 ・NPOにとって寄付の重要性 ・認定NPO法人制度
第9回	自己実現とNPO～なぜNPOにボランティアが集うのか	・NPOにおけるボランティアの重要性 ・社会参加・自己実現の場としてのNPO
第10回	NPOと雇用～NPOで働く人たち	・雇用・就労の場としての可能性と課題 ・NPOの就労実態 ・NPOの職域
第11回	NPOによる社会変革～NPOと政治・NPOの政策提案	・NPOと政治の関係 ・政策提案による社会変革の担い手としてのNPOの役割 ・中間支援組織の役割

発行日：2021/6/1

- 第12回 コミュニティとしてのNPO  
・地域コミュニティとテーマコミュニティ
- 第13回 セクター間連携～NPOと行政  
・NPO間の連携  
・自治体のNPO支援施策  
・行政とNPOの協働  
・対抗的相補性
- 第14回 セクター間連携～NPOと企業、ソーシャルビジネス  
・NPOと企業の共通点、相違点  
・NPOと企業の協働  
・ソーシャルビジネス（社会的起業）とNPOの関係
- 第15回 補足とまとめ  
・授業の振り返りや補足

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキスト（教科書）は必ず購入し、授業の前後にテキストの該当ページをよく読むこと。  
・各回のレジュメ（パワーポイント資料）は、授業支援システムに掲載しておくので、欠席の場合も、各自でレジュメとテキストで授業内容を理解しておくこと。  
・各自で、関心のある分野のNPOの事例などを、インターネット等で調べたり、実際に活動に参加してみることをお勧めします。

#### 【テキスト（教科書）】

「市民社会とNPO」 かながわ女性会議発行 600円

#### 【参考書】

「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円  
「市民社会と自己実現」広岡守穂著 有信堂 2500円+税

#### 【成績評価の方法と基準】

定期試験（論述式。テキスト・レジュメ等の持ち込み可）を実施。論述では、①授業内容を的確に理解しているか、②自分自身の意見や問題意識が述べられているか、③考えを整理してわかりやすく論じられているか、を重視して評価する。

※毎回のアクションペーパーの提出回数や記述内容は、成績評価に影響しません。

授業内に、NPOでの活動経験を報告した学生は成績評価で加点します。（報告できる人は、授業終了時やアクションペーパーで申し出てください）  
留学生や障害・疾患のある方などで、試験時間内に自分の考えを十分に論じることが難しいと思われる方は、事前に申し出てください、対応策を検討します。ただし、部活等で授業に十分に出席できなかった場合は、試験での考慮はいたしませんので、テキストや授業支援システムに掲載したレジュメで自習すること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

NPOにボランティア等で参加している学生に自らの経験を報告してもらおうと、他の学生にとっては興味深く、刺激になるようです。NPOでの活動経験がある学生には、ぜひ積極的に報告してもらいたいと思いますので、ぜひ申し出てください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

## フィールド調査論

### 傅 凱儀

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査とは何かを認識し、調査と分析の基礎力を形成することを目的とする。講義では、社会調査についての歴史、各種の調査、アンケートや統計、フィールドワークなどの概念について説明し、調査の目的や仮説の立て方、調査の実施、データの集計・分析など、社会調査を行うための基礎を身につけるための学習をする。

#### 【到達目標】

この授業の目標は社会調査の基本を学ぶこと、社会調査の概念、調査技法、調査のプロセス、分析の技法についての知識を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

社会調査に関する知識、技法についての講義が中心であるが、受講者のグループワークまたは個人的な作業も同時に実施する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（受講者の選抜等も含む）	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。
第2回	社会調査の概要（1）	社会調査とは何か、その歴史的展開と学ぶ意義を講義する。
第3回	社会調査の概要（2）	社会調査における質的調査と量的調査の関係を講義する。
第4回	社会調査のファースト・ステップ	社会調査を企画・設計するための既存資料へのアクセス法と活用術について説明する。
第5回	社会調査の基本ルール	社会調査における「記述」と「説明」について講義する。
第6回	社会調査の基本道具	「概念」、「変数」、「仮説」について講義する。
第7回	調査票調査の方法（1）	調査の企画・設計と調査票作成のプロセスを説明する。
第8回	調査票調査の方法（2）	サンプリングの考え方、原理について講義する。
第9回	調査票調査の方法（3）	調査票調査のプロセスとデータ化作業を実習する。
第10回	調査票調査の方法（4）	データ整理のための基礎知識を講義し、統計的検定を実習する。
第11回	質的調査の方法（1）	フィールドワークの発展とデータ収集の手法について講義する。
第12回	質的調査の方法（2）	参与観察法とアクション・リサーチについて講義する。
第13回	質的調査の方法（3）	インタビューの種類と実践について講義する。
第14回	質的調査の方法（4）	ライスヒストリー分析、内容分析について講義する。
第15回	総論	社会調査の倫理について講義し、社会調査の方法論のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対してグループワークまたは個人的な作業を求める。

#### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

#### 【参考書】

大谷信介ほか編, 2013, 『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房。  
篠原清夫ほか編, 2010, 『社会調査の基礎』弦文堂。  
谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる 質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。  
谷富夫・山本努編著, 2010, 『よくわかる 質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房。  
ウヴェ・フリック著, 小田博志、他訳, 2011, 『新版 質的研究入門－人間の科学のための方法論』春秋社。  
佐藤郁哉著, 2006, 『フィールドワーク 増訂版 書を持って町へ出よう』新曜社。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度 (30%)、講義中の課題提出 (30%)、期末の課題提出 (40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

2015年度より担当している。アンケート結果を参照の後、可能な範囲にて改善に取り込む。分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

場合によってはPCを用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

**【その他の重要事項】**

本講義の定員は30名である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

**フィールド調査論**

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「社会調査の方法」を学ぶ

**【到達目標】**

この講義の目標は、①「社会調査」の考え方、調査計画、調査法、報告作成など、調査に必要とされる知識・技法を身につける、②調査結果の見方、調査の限界と問題点、調査における倫理などを学ぶ、である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

社会調査の考え方、調査で何が分かり何が分からないかなど「調査」することの意味や限界について論じ、社会調査の基礎的理解をはかる。次に調査法のいくつかを取り上げ、各方法が持つ利点と欠点を検討する。調査プロセスにおける課題をあげ、①面接調査法、②調査票調査法を中心に調査事例を交えて紹介しながら調査技法を講義する。特に②については実際に「調査票」の作成を少人数グループで行う。また、調査には必ず「対象者」があり、その協力なくしては実施が不可能であることに触れ、調査と調査者の倫理に関して講義する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】****【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス	講義ガイダンス。「社会調査」とは何か、調査における妥当性と信頼性について。
第2回	社会調査の目的と意義－調査で何がわかるか	社会調査の定義と調査の前提。調査するとわかるのか、調査の限界。リサーチリテラシーを高める意義。
第3回	調査の方法	課題を提示、「調べる方法」をグループ討議 (GW 1) により検討する。
第4回	調査を計画する	社会調査のプロセス。調査デザイン、実査、分析、報告。(GW 2)
第5回	調査法の類型	参与観察法・面接調査法・質問紙調査法の解説。
第6回	参与観察法	参与観察による調査の事例、実施可能性、対象者 (集団) の選定と技法。
第7回	面接調査法①	指示的面接法と非指示的面接法、調査事例に見る調査プロセスの実際。(GW 3)
第8回	面接調査法②	面接調査における留意点とこの方法のメリットとデメリットを解説する。
第9回	質問紙調査法①	悉皆調査と標本抽出調査、サンプルサイズと抽出法。
第10回	質問紙調査法②	調査票の配布と回収方法の類型。各方法のメリットとデメリット。
第11回	質問紙調査法③	調査票の構成、フェイスシート、回答選択肢の作成法。
第12回	質問紙調査法④	質問文作成法、ワーディングの注意点。(GW 4)
第13回	質問紙調査法⑤	調査票作成実習。(GW 5)
第14回	質問紙調査法⑥	調査票作成実習。(GW 6)
第15回	よりよい調査を目指して－調査者の倫理－	GW 発表。集計法など残された課題。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

講義中にグループワークを行います。課題を分担して授業前に準備してくることを求めます。

**【テキスト (教科書)】**

特定のテキストは用いない。講義のトピックスごとに参考文献を紹介する。

**【参考書】**

原 純輔,2016,「社会調査－しくみと考え方－」左右社  
 佐藤郁哉,2015,「社会調査の考え方 上・下」 東京大学出版会  
 宮内泰介,2004,「自分で調べる技術」岩波書店  
 大谷ほか編,2013,「新・社会調査へのアプローチ」ミネルヴァ書房、  
 玉野和志,2008,「実践社会調査入門」世界思想社  
 佐藤郁哉,2006,「フィールドワーク」新曜社  
 このほか開講時に文献リストを配布する



【成績評価の方法と基準】

①定期試験、②講義時に行うグループ作業への参加度と作業成果物も評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

「調査票調査」に重点を置き、調査票作成のグループワークにあてる時間を増やす。

【その他の重要事項】

受講者数の制限（30名まで）があります。希望者が多い場合は抽選とします。グループワークを行いますので、欠席しないことが受講条件です。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

社会統計論

藤本 隆史

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータの集計・分析の方法を学習する。

【到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。統計解析ソフトで集計・分析していると、ただ手順に従って結果を出すだけになりがちだが、分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計・分析を行う。データの集計・分析には、統計解析ソフトの SPSS とエクセルを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第 2 回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第 3 回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第 4 回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第 5 回	確率分布について・データの加工	確率分布の考え方や、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第 6 回	統計的推定について	標本統計量による母数の推定（点推定・区間推定）の考え方を学ぶ
第 7 回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第 8 回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方や作成方法を学ぶ
第 9 回	カイ 2 乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の関連の測定方法を学ぶ
第 10 回	平均値の差の分析	t 検定や分散分析など平均値の差の分析方法を学ぶ
第 11 回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第 12 回	回帰分析	連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ
第 13 回	集計結果のまとめ方	SPSS の集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第 14 回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する
第 15 回	試験	統計調査のプロセスや分析の手順に関するペーパーテストを行う（授業内試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

SPSS やエクセルを使った集計方法などを復習する。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜紹介する。

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業内で作業した結果（ファイル）を提出してもらう。データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算・集計および結果の読み方）の提出を求める。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関するペーパーテストを行う。

【学生の意見等からの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

## 【その他の重要事項】

パソコンの基礎的な操作方法を習得していることを前提として授業を進める。  
また、受講希望者が多い場合には抽選となるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

## ファシリテーション論

三田地 真実

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題に限らず、社会的な問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できるということはほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者（ステークホルダー）の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要がある。

その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような心構えと技が必要なのかについて学んでいく。具体的な目的は以下の通り。

1. 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
2. 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

## 【到達目標】

本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- (1) 「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる（「意味」「意義」を考える）
- (2) コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）
- (3) 場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）
- (4) グループ・プロジェクトとして、ワークショップをデザインし実施、さらに省察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

ファシリテーションは実際に話し合いやワークショップの場でどのように実践するかが問われる。そのため、本授業は講義だけではなく、演習を随所に織り交ぜながら進めている。毎回のリアクションペーパーの提出、課題に応じたレポートの提出（随時）がある。また最終プレゼンテーションは、グループプロジェクトとして行うので、授業外での打ち合わせ・準備が必須となる。全体を通してアクティブ・ラーニング型授業として構成されているので、学生の主体的学修が必須である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての3つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第2回	ワークショップ体験（自己紹介ワークなど）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す ・問いかけの重要性について考える
第3回	ワークショップ体験（アイスブレイクなど）	・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第4回	コミュニケーションの基礎	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る（プレゼンテーション概論を含む）
第5回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の3つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ
第6回	ファシリテーションの準備（1）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン曼荼羅図」というツールを用いて行う演習をする
第7回	ファシリテーションの準備（2）	・空間のデザインである場づくりと、基本の10ステップについて学ぶ
第8回	ファシリテーションの本番に向けて（1）	・10ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ

第9回	ファシリテーションの本番に向けて (2)	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学 (ABA) の概論について学ぶ
第10回	ファシリテーションの本番 (1) ・グループ・ワーク ・ショップのリハーサル	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならないことを理解する ・行動計画の書き方
第11回	ワークショップのプレゼンテーション	・ワークショップの総仕上げ
第12回	ファシリテーションの本番 (2) ・グループ・ワーク ・ショップ (1)	・グループにてワークショップを実施 (第1回)
第13回	ファシリテーションの本番 (3) ・グループ・ワーク ・ショップ (2)	・グループにてワークショップを実施 (第2回)
第14回	ファシリテーション全体のまとめとふり返り	・ファシリテーション全体のふり返り「意味ある場づくりのために」ワークショップ実施
第15回	まとめと未来に向けて	・ライフヒストリー曼荼羅ワーク ・ショップによる、授業の学びの未来への発展

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・毎回の文献・資料講読 (事前準備として)
- ・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まったの話し合いや準備活動 (相当数の時間を必要とする。必須)
- ・様々な場面の観察実習など

**【テキスト (教科書)】**

・「ファシリテーター行動指南書」(三田地真実、ナカニシヤ出版、2013)

**【参考書】**

- ・中野民夫・三田地真実 (2016) 「ファシリテーションで大学が変わる!」、ナカニシヤ出版
- ・中野民夫 (2003) 「ファシリテーション革命」、岩波アクティブ新書
- ・三田地真実 (2007) 「特別支援教育 連携づくりファシリテーション」、金子書房
- ・三田地真実 (2014) 「社会的・環境の変化に応じたキャリア教育」、星槎大学教員免許更新講習センター (編著) 「共生への学びー先生を応援する教育の最新事情」、130-142、ダイヤモンド社
- ・三田地真実 (2012) 「『共生』は目の前の人を真に理解するところからーライフヒストリー曼荼羅図を描く・聴くことの意味ー」、星槎大学共生科学研究会 (編) 「共生科学研究序説」、101-121、なでしこ出版

**【成績評価の方法と基準】**

- ・平常点：約 60 % (毎回、出席カードの代わりにふり返りシートへ記入する)
- ・最終グループプレゼンテーション：約 40 % (グループ、個人での提出物も含む)

**【学生の意見等からの気づき】**

ファシリテーションの視点から、授業改善のためのワークショップを実施、そこからの意見を以下に紹介します。「自分が社会に出る上で必要なスキルが学べた」「コミュニケーション能力があがった」「毎回の授業で目的が定められていたので、非常にわかりやすく授業が進んでいったと感じる」など、実践型の授業として一定の評価を受けています。講義型ではない実践型の授業ということで、一定の事前準備が必要であること、グループプロジェクトを実行するために他の学生との協力が必須ですが、様々な活動に対して「時間が足りない」という意見が多く聞かれており、これについてはオンラインのしくみなどを活用していただくと考えています。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

- ・ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかについての具体的なノウハウを提供してくれるものです。職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思います。
- ・なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。初回授業についての連絡は、「学部掲示板」に行いますので、掲示板をよく読んでから出席してください。
- ・旧科目名称「人間環境特論 (ファシリテーションの基礎)」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC200HA

**グローバル・コミュニケーション**

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4年 / 2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

**【到達目標】**

The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第2回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第3回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第4回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第5回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures

第 6 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第 7 回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture
第 8 回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第 9 回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第 10 回	Potential Problems in Intercultural Communication	Seeking similarities/ uncertainty reduction/ stereotyping/ prejudice/ racism/ ethnocentrism and power
第 11 回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第 12 回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第 13 回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming interculturally competent / The future of intercultural communication
第 14 回	Group project	Students discuss and prepare for their group project.
第 15 回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

#### 【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

#### 【参考書】

Jackson, Jane. (2014). *Introducing language and intercultural communication*. Routledge.  
James W. Neuliep. (2014). *Intercultural Communication: A Contextual Approach (6th Edition)*. SAGE Publications.  
Larry A. Samovar, Richard E. Porter and Edwin R. McDaniel. (2014). *Intercultural Communication: A Reader (14th Edition)*. Wadsworth Publishing.

#### 【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation, a group project, a written assignment, and a take-home exam.

\* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

#### 【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

ADE300HA

## 地域形成論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、生活基盤としての地域空間の形成と持続、すなわち「サステイナブルで豊かなコミュニティの形成」というテーマについて、具体的かつ総合的に考えていく。

#### 【到達目標】

人間と環境の時代の「地域プランナー」となるための基礎として、まずは基本的なセンスと柔軟な考え方や、そして骨太の方向感覚を身につけることを第一の目標とする。その上で、問題発見から問題解決に至るプロセスについて、具体的な見方や対応力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

地域空間の形成として、国土、地方、都市の計画と開発、まちづくりを対象とし、基本的な考え方や、計画手法、制度、政策、運動等について論じる。各回とも、なるべく具体的な国内外の事例を対象としてとりあげ、実際的な問題に触れる。また、まちづくりプロジェクトや地域おこしプロジェクトの創案なども試みることにし、実践的な企画能力も養成する。授業は、常に問題発見、問題提起からはじめ、様々なソリューションを考えていく形での、思考の訓練に重点を置いて進めていく。授業は講義形式で進めるが、授業内演習として、問題提起に対する自分の考えをまとめるなどの数分間のミニペーパーを作成し提出することとする。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域形成論の学び方
第 2 回	地域のシステム考現学 (1)	「地域プランナーの『地域を見る眼』」 具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「『混雑現象』はなぜ起こるのか」
第 3 回	地域のシステム考現学 (2)	具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「『集中と分散』の動きの諸原因」
第 4 回	地域の具体的課題の事例 (1)	広域事業と地域問題の葛藤・市民参加 (例)「『東京外郭環状道路』の建設」
第 5 回	地域の具体的課題の事例 (2)	一極集中問題への対応、政策的議論 (例)「『首都機能移転』の議論の経緯」
第 6 回	日本の国土形成の歴史 (1)	戦後の国土開発と地域開発の流れ (例)「旧『全国総合開発計画』の歴史」
第 7 回	日本の国土形成の歴史 (2)	近世の地域環境と現代における復元 (例)「『庭園の島・日本』の復元」
第 8 回	地域の総合的事例研究 (1)	「沖繩の地域社会と経済」を考える (例)「沖繩の経済と『非貨幣経済』」
第 9 回	地域の総合的事例研究 (2)	「沖繩の開発と環境」を考える (例)「『新石垣空港』建設と環境問題」
第 10 回	日本の現代的な地域課題 (1)	過疎地域・中山間地域問題とその挑戦 (例)「『地域主義』と『内発的発展論』」
第 11 回	日本の現代的な地域課題 (2)	中心市街地問題と活性化への努力 (例)「『まちなか再生』まちづくり」
第 12 回	地域プロジェクト企画 (1)	地域プロジェクト、創案と評価 (例)「『環境都市』『観光地域』構想」
第 13 回	地域プロジェクト企画 (2)	地域プロジェクト、創案と評価 (例)「『臨海部埋立地』の利用構想」
第 14 回	地域デザインへの新視点 (1)	人間と環境の時代の都市・地域開発 (例)「『エコ・コミュニティ』への道」
第 15 回	地域デザインへの新視点 (2)	空間から場所へ、計画論の再考 (例)「『土着性』『地霊』『場所愛』」

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

#### 【テキスト（教科書）】

特に用いない。各回、講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

#### 【参考書】

基本的なものは初回で紹介、各回に関連するものは各々授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70 %、平常点（授業内でミニペーパーの提出ほか）30 %

【学生の意見等からの気づき】

授業外の学習活動が比較的少ない。これを活発にするため適宜ホームワークも課することとする。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ECN300HA

地域経済論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の豊かさや活力の経済的側面について基礎的な分析から応用的な問題や政策まで幅広く論じる。特に、地域の産業について詳しく触れるとともに、地域の経営についても考えていく。

【到達目標】

地域経済に関する、基礎的理論、実際問題、政策について理解し、地域経済への基本的な見方を習得することを目標とする。また、いくつかの具体的な企画能力を身につけることももう一つの目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地域の発展を考えると、地域の環境的側面や社会的側面に加えて、経済的側面をとらえることが不可欠である。この授業では、地域の経済構造、産業立地、社会資本整備を中心に理論上の整理を行うとともに、実際面での諸問題を論じる。また、地域の産業連関、自治体の産業政策、立地企業の動向、地域活性化の動きなど各地のケーススタディも行い、実際の地域経済問題に対する分析能力とともに企画立案能力を養う。授業は講義が主体であるが、簡単な演習として授業内で、数分間のミニペーパーを作成提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域経済とは何か、地域経済論の学び方
第2回	地域経済の分析・基礎(1)	地域人口分布、人口移動、地域所得構造
第3回	地域経済の分析・基礎(2)	地域産業立地、産業クラスター、地域集積
第4回	地域経済の分析・実際(1)	首都圏の事例分析、例「シブヤ圏の解剖」
第5回	地域経済の分析・実際(2)	海外地域の事例分析、例「シリコンバレー」
第6回	地域発展と産業(1)	世界の地域産業集積を考える、世界の各種産業クラスター
第7回	地域発展と産業(2)	地域インテリジェンスと地域産業の関係、大学の技術移転
第8回	地域発展と産業(3)	地域と観光、観光の歴史、観光産業の系譜、地域観光開発
第9回	地域発展と産業(4)	地域と集客、イベント・博覧会・テーマパーク
第10回	地域経済と地域経営(1)	地域の情報・経済装置、コンベンション都市経営、地域経済活性化
第11回	地域経済と地域経営(2)	地域プロジェクトメイキング、企画の進め方
第12回	地域経済と地域経営(3)	地域プロジェクトの投資採算計算とその評価、地域経済波及効果
第13回	地域経済と地域経営(4)	地域プロジェクトのファイナンス、手法と実際
第14回	地域と社会経済(1)	地域環境の経済分析、事業の社会的費用便益分析
第15回	地域と社会経済(2)	地域コミュニティビジネス、地域マクロエンジニアリング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。

【参考書】

初回に基本的な参考書、また、各回講義時にテーマに応じたものを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70 %、平常点（授業内でのミニペーパーの提出ほか）30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく多くして、ノートテイキングを容易にしていく。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOC300HA

## 地域福祉論

宮脇 文恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域福祉の理念とその展開について学ぶ。
2. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための、コミュニティソーシャルワークとソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

## 【到達目標】

人が、自分が暮らしたい地域において、自分らしく生きるためにどのように支え合ったらよいか、地域福祉の理念とその援助方法について学び、履修者自らが地域住民として、援助職として、ボランティア活動者として地域において活動を主体的に展開していくための基礎的な力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

これまで日本の福祉施策は、課題を抱えた人を福祉施設に入居させてきたが、今後は、専門的なサービスを利用しつつ、地域において、家族や地域住民に支えられながら暮らしていくことの実現が目指されている。本講義では、そのために、地域福祉とは何か、地域の様々な社会資源の活用法とその開発について理解し、地域においてお互いを支え合っていくための方法を学び、自らも社会資源として地域福祉に参画していく基盤を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第2回	地域福祉とは何か	地域福祉に関する論を解説し、現代社会における地域福祉の理念を学ぶ
第3回	地域福祉の歴史	欧米・日本における地域福祉の歴史をとりあげる
第4回	街に生きる人々(1)	障害のある人、高齢者を中心としてとりあげ、街に生きる意義を学ぶ
第5回	街に生きる人々(2)	子ども、生活困窮者を中心としてとりあげ、街に生きる意義を学ぶ
第6回	地域福祉の主体形成と福祉教育～福祉教育の内容～	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点
第7回	地域福祉の推進主体(1)～社会福祉協議会、社会福祉法人～	地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ
第8回	地域福祉の推進主体(2)～NPO、民生委員・児童委員、保護司～	地域福祉を推進する NPO、地域の期待される人材について学ぶ
第9回	地域福祉計画	地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ
第10回	コミュニティソーシャルワーク(1)～考え方、展開とシステム～	個人を大切にすることを出発点に、地域において援助するあり方を学ぶ
第11回	コミュニティソーシャルワーク(2)～方法、チームアプローチ～	コミュニティソーシャルワークの実践事例についてとりあげる
第12回	地域福祉推進における住民参画(1)～意義と目的～	地域はそこに住む住民自らがつくるもので、その参画の方法、留意点を学ぶ
第13回	ボランティア活動の意義と実際	ボランティアの起源、その意義と活動の実際について学ぶ
第14回	ソーシャルサポートネットワーク	地域に暮らす個人を支え合う社会資源のつながりについて学ぶ
第15回	まとめ	総括、テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終了時に、毎回リアクションペーパーを記入します。視聴覚教材を多用し、その際に、合計2～3回、レポートを執筆します。

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

## 【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』11、12巻（講談社）  
さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社） 他  
随時、授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（遅刻は授業開始後20分まで受付、退室は欠席とみなす）30%、テスト30%、課題提出（正当な理由のない遅延は受け付けず。応相談）20%、授業態度（飲食・携帯電話操作・他の授業のための学習や読書などの内職は不可とし、発見し次第減点とする）20%。

## 【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

## 【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、綴じておいてください。レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

## 【その他の重要事項】

毎回、授業についてリアクションペーパーを記入していただき、そのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。

皆さんが学習主体です。地域は、「住めば都」ではなく、「住んで都にしていける」ものです。待っていても実現するものではなく、「自らがつくっていく」ものであることを意識し、今後、自分がどこでどう暮らしたいか、どんな地域社会にしたいか、ということと、授業を通して共に考え、より良い方法を模索していければと思います。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

SOC300HA

## 地域コモンズ論

山下 詠子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然資源を共同で管理・利用する仕組み、及び、共同で管理・利用する資源そのものはコモンズと呼ばれる。この授業では、地域資源がどのように管理・利用されてきたのか、コモンズ研究における理論と事例の両方から学ぶ。「公」でも「私」でもない「共」の世界はどのようなものなのか、その背景と論理を知り、身近な問題に引きつけて考える一助とする。

## 【到達目標】

- ・コモンズ研究がどのような背景で発展してきたのか、実践的課題と結びつけながら、これまでの研究成果について理解する。
- ・地域住民共同での資源の管理と利用について、様々な地域資源や様々な地域における実践例について理解する。
- ・コモンズに関わる身近な問題について、自身の考えを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主とするが、その他にグループワークやレポート課題の発表も行う。  
また、毎回リアクションペーパーを回収する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の進め方、学習の仕方、評価方法などについての説明をする。
第2回	コモンズとは何か？	コモンズとは何か、コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかに着目しながら明らかにする。
第3回	日本のコモンズ①入会林野（1）	日本における伝統的なコモンズといえる入会林野について、歴史的経緯を概説する。
第4回	日本のコモンズ①入会林野（2）	前回に続き、入会林野が戦後どのような状況を迎えてきたのか、また現在置かれている状況を概説する。
第5回	日本のコモンズ②農業用水	稲作に欠かせない農業用水排水路や溜め池の管理について、事例をもとに講義する。
第6回	日本のコモンズ③海	漁業だけでなく生活や文化など多様に広がっている海と人との関わりについて、事例をもとに講義する。
第7回	再評価される里山	人々の生産・生活に深く結びつくことで成り立っていた里山が再評価されている。生態面から見た里山、里山保全の活動等について講義する。
第8回	諸外国のコモンズ①イギリスのコモンズ	イギリスにおけるコモンズの歴史的展開について講義する。
第9回	諸外国のコモンズ②途上国におけるコモンズ（1）	東南アジア諸国において、自然資源の所有・管理・利用がどのように変遷してきたのかを講義する。
第10回	諸外国のコモンズ③途上国におけるコモンズ（2）	前回に続き、途上国における自然資源の所有・管理・利用がどのような現状にあるのかを講義する。
第11回	都市におけるコモンズ	伝統的な地域資源としてのコモンズに共通する性格の資源は都市にも存在する。都市におけるコモンズとその管理・利用について講義する。
第12回	コモンズ研究の成果	主に米国で発展してきたコモンズ研究が何を明らかにしてきたのか、その成果を講義する。
第13回	レポート発表会	グループ内でレポート課題を発表し、発表について講評し合う。
第14回	グループワーク	コモンズの性格を持つ自然資源をどのように管理・利用していったら良いか、グループで話し合いを行う。
第15回	まとめと振り返り	今まで行った講義を振り返り、何を学んだのかをまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に配布される参考資料を読んで復習するとともに、新聞等のニュースで関連するトピックを探す。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

## 【参考書】

各回の授業にて示す。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 40 %、レポートの内容 35 %、レポートの発表 10%、受講姿勢 15 %、の総合評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

2017 年度より担当

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ADE300HA

## 都市環境論 I

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における都市の形成、すなわち、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論 I では、まず、いくつかの具体的側面からそのイメージを構築する。

## 【到達目標】

新しい時代の都市づくりのプランナーに必要な、基本的センスとしての方向感覚を身につけることを目標とする。特に、都市環境論 I では、都市問題への興味と探究心を深め、自律的な課題発見と学習ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

都市環境に関わるいくつかの側面から基本的な考え方を探っていく。秋学期の都市環境論 II で総合的なプランニングの議論へと進むが、その準備段階としての位置づけである。授業では国内外の都市環境（居住、交通、自然、景観、歴史など）について、様々な事例をとりあげ映像や資料を多用し、考えながらイメージを形づくっていく。思考訓練のために、ほぼ毎回、事業の最後にミニペーパーを作成提出。また、身近な事例調査を含むホームワークも課する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	都市環境論の視点と方法、および、学び方について
第 2 回	都市の住まい：住宅地開発の系譜（1）	英国における田園都市の建設、その背景と展開
第 3 回	都市の住まい：住宅地開発の系譜（2）	日本、米国他における住宅地開発の歴史、方向性
第 4 回	都市の自然：緑地空間の形成と保全（1）	都市における緑地空間の価値、都市構造との関係性
第 5 回	都市の自然：緑地空間の形成と保全（2）	日本における公園など都市内緑地空間の課題と展望
第 6 回	都市の水と水辺：水環境と水辺空間（1）	都市の形成と水の関わり、大都市の水辺、水環境
第 7 回	都市の水と水辺：水環境と水辺空間（2）	世界の都市における水辺空間整備の現状と方向性
第 8 回	都市の記憶：歴史遺産の保存と活用（1）	都市の歴史遺産、街並み、その保存、活用、変化
第 9 回	都市の記憶：歴史遺産の保存と活用（2）	世界の都市における歴史遺産保存の現状と方向性
第 10 回	都市の美しさ：都市景観とその論争（1）	都市の美しさへの視点、景観を巡る議論、改善手法
第 11 回	都市の美しさ：都市景観とその論争（2）	国内外における都市景観に関わる争いのケーススタディ
第 12 回	都市の優しさ：バリアフリー・UD対応	バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方と方策
第 13 回	都市の移動：都市交通の問題と対策（1）	都市基盤としての道路整備のあり方、自動車対策
第 14 回	都市の移動：都市交通の問題と対策（2）	都市基盤としての都市交通のあり方、新しい動き
第 15 回	都市の総合的な計画に向けて	都市のダイナミズムと制御、都市再生ビジョン、都市づくりの新計画論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。また、毎回の最後に次回のテーマを略説する。これにもとづき毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

## 【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

## 【参考書】

多岐にわたるため、各回講義時に参考となるものをいくつか紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70 %、平常点（授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか）30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとれるよう、講義のスピードを若干ゆっくりし、板書もなるべく多くする。



## 【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

ADE300HA

## 都市環境論Ⅱ

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における都市の形成、すなわち、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅱでは、同Ⅰでの個別的な各側面の学習を踏まえ、基本的かつ総合的な議論を進めていく。

## 【到達目標】

この授業では、都市環境論Ⅰでの目標に加え、新しい都市づくりプランナーに必要な、都市環境問題への対応や政策を含めた、プランニングに関する基本的な知識と感覚を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

都市環境問題への総合的なテーマによる現状の把握と分析をするともに、実践的な課題についても、各種の理論、法規、技法を含め、都市環境の改善に必要な基本的事項について説明し議論をしていく。理解確認のために、ほぼ毎回、授業の最後にミニペーパーの作成提出をする。また、ミニ研究的なホームワークを課することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市づくりの歴史、都市の持続可能性に関する基本的な考え方
第2回	都市と地球環境問題(1)	都市構造と地球環境負荷の関係性、負荷低減への諸課題
第3回	都市と地球環境問題(2)	都市の土地利用、成長管理、コンパクトシティの議論と実際
第4回	都市の災害と安全対策(1)	都市における自然災害、人為災害の歴史と対応
第5回	都市の災害と安全対策(2)	都市における自然災害、人為災害の減少への方策
第6回	都市の計画制度(1)	日本の都市計画関連法規、開発規制、建築制限
第7回	都市の計画制度(2)	都市マスタープランと土地利用計画、各地の例
第8回	都市の計画技法(1)	市街地再開発事業、土地区画整理事業など市街地整備手法
第9回	都市の計画技法(2)	都市憲章や市民参加など都市づくりの自主的なあり方
第10回	都市のリノベーション(1)	安全で快適な都市への再生修復、各種の再生技法、各地の事例
第11回	都市のリノベーション(2)	都市の自然回復、流域圏の発想、デザイン・ウィズ・ネイチャー
第12回	都市デザインの新潮流(1)	都市のエコロジカルデザイン、ニューアーバニズム
第13回	都市デザインの新潮流(2)	都市のアイデンティティ、バナキュラー（風土性）、隠された意志
第14回	都市の持続可能性に向けて	子供のためのデザイン、複雑な社会における新しいプランニングのあり方
第15回	都市の総合的な計画に向けて	総集編、都市形成の歴史と計画の総合的把握、都市プランナーへの道

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。また、毎回の最後に次回のテーマの概略を説明する。これにもとづき各回とも毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。なお、具体的な実感を待たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

## 【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

## 【参考書】

多岐にわたるため、各回講義時に参考となるものを紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか）30%

## 【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとり、講義のスピードを若干ゆっくりし、板書もなるべく多くする。

## 【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

ADE300HA

## 都市デザイン論

田中 大助

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市を形成する建築物の最小単位は住宅である。その住宅の設計を授業のテーマに都市環境や住環境の要素を理解し、都市デザインに対する主観をひとりひとりに自覚してもらうことを目標とする。

## 【到達目標】

自分の考える住宅がイメージできて表現できるようになることを授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義を中心に行うが、講義を元に学生がテーマを決めて作品（住宅の設計）を残すものである。

講義中の課題と最後の作品は文字のみによる表現でなく、図版・絵・グラフなど視覚言語を多用する表現が要求されるため、プレゼンテーション能力も養われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：都市デザインと建築デザイン	都市を構成する建築・土木構造物の紹介と、授業で行う住宅の位置づけを行う
第2回	「棲む」と「住む」の違い	生息する（巣）ことと生活する（家）ことの違いを説明し、人間社会にのみ存在する住宅文化について認識する
第3回	住宅設計における建築家（アーキテクト）と建築技師の違い	建築家と建築技師の違いについて説明し、建築家の役割の中で人文系の内容の多いことを理解してもらう
第4回	建築と空間・動線	住宅の中の人間の行動パターンとその行動に伴う必要最小空間を理解する
第5回	住空間の単位空間（1）（玄関）	第1回目の課題を出題する 玄関の日本の住宅文化に果たす役割を理解してもらう
第6回	住空間の単位空間（2）（居間・食堂・寝室・書斎・子供部屋）	第2回目の課題を出題する 居間などの日常生活空間について説明する
第7回	住空間の単位空間（3）（台所・風呂・便所・階段）	台所など水場について説明する 第3回目の課題を出題する
第8回	住環境の物理要素（熱・光・水・風）	住宅の外部環境の要素が建物や生活とどのように関わっているのか説明する
第9回	住空間の構成要素（基礎・床・壁・屋根など）	住宅を形作る要素と外部環境・内部環境との関係を説明する 第4回目の課題を出題する
第10回	ユニバーサルデザインについて	これからの社会でユニバーサルデザインの必要性などについて説明する 第5回目の課題を出題する
第11回	住宅事例の紹介（1）	プロの建築家による実際に建てられた住宅の紹介
第12回	住宅事例の紹介（2）	前年までの学生の作品を紹介する
第13回	課題質疑応答	各人の決めた課題テーマに対する取り組み方の指導をオープンで行う
第14回	作品提出	作品の発表と講評を学生全員で行う
第15回	総括	習得事項の整理および確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマが住宅の設計なので普段の日常生活を観察するだけで、授業の内容が十分に復習できるし、授業終了後も人間の日常生活を観察する癖をつけることによって、それぞれの人々に最適な生活空間はどんなものであるか考えるようになることを希望する。

## 【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。

## 【参考書】

「建築設計基礎編－建築デザインの製図法から簡単な設計まで－」「建築設計応用編－独立住居から集合住宅まで－」武者英二ほか著 彰国社

## 【成績評価の方法と基準】

授業中の課題と最後に提出する住宅設計による総合評価。

出席点・ペーパーテストなどはない。出席して講義を聴かないと課題に取り組めないで、課題と作品によって全て判断する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

配布資料が多すぎるとの指摘が毎年あるので、適宜最小限必要なものに留めて配布する。

#### 【その他の重要事項】

課題の量は多く、課外でかなりの時間を必要とするので、かなり大変であるがやる気があれば充実した授業になる。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

SOC300HA

## 環境社会論 I

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別されるが、両者を概観しながら、環境／環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、「理論」と「実証」の往復という環境社会学の基本的なスタイルを学ぶ。

#### 【到達目標】

社会的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチを習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

社会的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害－被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水のかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会学／環境社会学とは何か？（1）	社会的なアプローチの概要について講義する。
第2回	社会学／環境社会学とは何か？（2）	環境社会学の2つのアプローチに関する概要を講義する。
第3回	日本の環境問題の歴史とその構造（1）	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第4回	日本の環境問題の歴史とその構造（2）	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第5回	日本の環境問題の歴史とその構造（3）	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害－被害論と、被害構造論について講義する。
第6回	受益圏と受苦圏（1）：概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第7回	受益圏と受苦圏（2）：事例研究	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第8回	環境破壊と社会的ジレンマ（1）～社会的ジレンマ論	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第9回	環境破壊と社会的ジレンマ（2）～事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第10回	環境破壊と社会的ジレンマ（3）～社会的ジレンマの類型化と解決策の条件	社会的ジレンマの解決策について、事例を通じて考える。
第11回	「水」と生活文化（1）～生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第12回	「水」と生活文化（2）～「近い水」「遠い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第13回	「水」と生活文化（3）～河川管理の変遷	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第14回	「水」と生活文化（4）～技術と災害、災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。
第15回	環境社会学の方法論	理論と実証の往復という作業と、実践の志向性を持つ環境社会学の方法論を整理する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。

#### 【テキスト（教科書）】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房  
その他、適宜、指示をする。

## 【参考書】

同上。

## 【成績評価の方法と基準】

論述式の試験（80%）＋平常点（講義中に行うコメントペーパーなど）（20%）

## 【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOC300HA

## 環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という視点から捉え直し、社会運動から見える現代社会や社会問題（環境問題）について理解する。

## 【到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様なかたちや活動の条件、活動の意味などを理解すること。地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計に関する理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解く。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について講義する。続いて社会運動が社会問題を立ち上げるという側面を議論した後、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに答える。最後に反原発運動、脱原発運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）	チェルノブイリ原発事故と反原発運動、福島第一原発事故後の反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	環境問題の設定者としての環境運動：社会問題の構築論	社会構築主義に依拠しながら、環境（社会）問題の設定者としての環境（社会）運動の役割について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（1）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第7回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（2）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第8回	運動のさまざまな形とその変化（1）	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第9回	運動のさまざまな形とその変化（2）	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第10回	どのように環境運動を展開するのか（1）：資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第11回	どのように環境運動を展開するのか（2）：フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第12回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（1）	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。
第13回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（2）	市民風車運動・事業を事例として、再生可能エネルギーの普及と環境運動の可能性について論じる。
第14回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（3）	日本社会のエネルギー政策と、企業および市民の関わりから、今後のエネルギーと人々の関係性を考える。

第 15 回 現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力 講義のまとめとして、現代社会における社会運動の潜勢力と可能性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】  
講義中に参照した文献の講読。

【テキスト（教科書）】  
大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004 年）

【参考書】  
西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008 年）  
丸山康司・西城戸誠・本巢芽美（編著）『リスクと地域資源管理からみた再生可能エネルギー』ミネルヴァ書房（2015 年）

【成績評価の方法と基準】  
定期試験（90%）と平常点（追加レポートなど・10%）

【学生の意見等からの気づき】  
教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【関連の深いコース】  
ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOC300HA

## 環境社会論Ⅲ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時間：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像資料を用いて具体的な事例を提示し、「環境（自然）」と「地域（社会）」の持続性／サステイナビリティにかかわる問題とその解決策を学ぶ。「環境と社会」の社会学を中心とした、持続性学（サステイナビリティ学）を展開する。

### 【到達目標】

本講義の目的は、日本国内の事例を中心に取り上げながら、「環境（自然）」と「地域（社会）」の持続性（サステイナビリティ）に関する議論として、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会といったテーマにかかわる問題を習得すること。また、これらの問題の解決策について考える力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会、といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点 (1)	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第 2 回	合意形成とレジティマシー (1)：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第 3 回	合意形成とレジティマシー (2)：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第 4 回	生業・半栽培・資源管理 (1)：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第 5 回	生業・半栽培・資源管理 (2)：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第 6 回	生業・半栽培・資源管理 (3)：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人となにかかわりについて講義する。
第 7 回	自然再生と順応的管理 (1)：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第 8 回	自然再生と順応的管理 (2)：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第 9 回	過疎問題と地域社会 (1)：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第 10 回	過疎問題と地域社会 (2)：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第 11 回	負の遺産と地域再生 (1)：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第 12 回	負の遺産と地域再生 (2)：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第 13 回	縮小社会とその課題 (1)：「縮小社会」とは何か。	「縮小社会」とはどのような現象か。東京、夕張、中国地方における「縮小社会」の現状について学ぶ。
第 14 回	縮小社会とその課題 (2)：構造的課題点と解決策	中山間地域における地域おこし協力隊など、縮小社会の解決策を考える。
第 15 回	環境・地域社会のサステイナビリティと「当事者性」を考える	環境・地域社会のサステイナビリティについてまとめながら、「当事者性」という観点から環境・地域の持続性を考える。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

**【テキスト（教科書）】**

特定のテキストは用いない。

**【参考書】**

関礼子・中澤秀雄・丸山 康司・田中 求『環境の社会学』有斐閣（2009年）  
西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）  
宮内泰介編『半栽培の環境社会学』昭和堂（2009年）

**【成績評価の方法と基準】**

講義中に映像資料等に対するリアクションペーパー（小レポート）の提出を求める。また、学期末に筆記試験（受講者数によってはレポート）を課す。

**【学生の意見等からの気づき】**

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

**【その他の重要事項】**

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定しているものの、履修制限は行わない。旧科目名称「人間環境特論（環境と地域の持続性を考える）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

**【関連の深いコース】**

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOC300HA

**労働環境論Ⅰ**

金子 良事

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

企業で働くことをNPOや行政など他の職業と比較しながら考える。

**【到達目標】**

組織と個人の関係を理解し、社会に出た後で、自分で処理できることと、誰かに頼らなければならないことを区別できるようになる。さらに、現状を変えていく際に、どこから手を付けばよいかということのヒントを得る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

企業労働を中核にしながら、現代の様々な組織（組合、NPOなど）の特徴を学び、やや広く組織と労働の関係を理解する。そのために、レジュメや資料を使った講義を行うが、そうしたものに頼るのではなく、講義の端々に出るエピソードをしっかりと聞いて、そこから何かを感じ取ってほしい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、および学習の方法、成績の付け方、テストなどを説明する。
2	五助論：自助、公助、共助、協助、民助（民間企業）	・民間企業の位置づけを明確にするために、現代社会を構成する主要なプレイヤーを理解する。
3	組織の統治	・株式会社やNPOなどの民間組織に共通する統治の仕組みを学習する
4	近代的職業社会の誕生	・現代の社会の基盤になっている身分制社会の解体を学習する。 ・その知識を前提とした上で、メンバーシップ型とトレード型という議論を学ぶ。
5	人的資本論とソーシャル・キャピタル論	・経済学における人的資本論の考え方と社会学における社会的資本論の考え方を紹介する。
6	能力開発(1)：学校教育、会社の役割	・能力開発の主要な場である学校教育と会社における能力開発を学ぶ
7	能力開発(2)：職業訓練、社会教育、専門教育の役割	・学校や企業とは別の訓練の場である職業訓練や専門職教育などを考える
8	基本給を中心とした賃金体系	・賃金制度の概略を学ぶ。 ・多くの会社が採用している賃金体系について学ぶ。 ・時間があれば、日立の制度改革の意義も取り扱う。
9	労使関係(1)：組合員（従業員）と組合、人事部	・日本では企業別組合が特徴といわれるが、その役割を学習する。
10	労使関係(2)：春闘	・労使関係の具体的なイメージを作るために、春闘について学ぶ。
11	女性労働論	・男女雇用機会均等法に前後して女性の働き方がいかに変わったのか、また、それによって男性の働き方もどう変わったのかを考える。 ・多様な働き方をサポートしようとするワーク・ライフ・バランスの考え方も学ぶ。
12	雇用のポートフォリオ論	・会社の中にはさまざまな働き方をしている人がいる。それについての人事政策を学ぶ。
13	予備	・このコマは予備です。理解が難しかったようなところを改めて説明するために使う予定です。 ・特になければ、全体の復習か、個別単元（たとえば労働時間）などについて学習します。
14	演習	・試験で点数を採るためにはコツがいります。そのコツを押さえるための説明を行います。
15	授業内試験	・授業内で試験を実施します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書その他、関係する文献をそれぞれの判断で読み、分からない点などを事前に準備する。

**【テキスト（教科書）】**

レジュメおよび資料を配る。

**【参考書】**

金子良事『日本の賃金を歴史から考える』旬報社、2013年、1620円  
授業内で紹介しますが、自分で特に学びたいテーマが明確である場合、直接、相談に来てください。  
藤原千沙「『多様な働き方』における生活賃金の課題」『DIO』306、2015年  
はぜひ読んで下さい（<http://rengo-soken.or.jp/dio/pdf/dio306.pdf>）。

**【成績評価の方法と基準】**

・期末試験 100 %  
・期末試験は持ち込み不可です。  
・個人的な事情で講義が受けられないなどの場合、事前に相談してください。  
事後の相談は受け付けません。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につき特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

・講義で何か質問されても、出来るか出来ないかは気にしないで、適当に気が付いたこと、考えたことを発言してください。  
・質問や相談等がある場合はSNSで連絡をください。月曜と水曜は多摩キャンパスの大原社会問題研究所にいますので、直接、相談にきてくれても構いません。

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

**労働環境論Ⅱ**

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

時事的な問題との関連のなかで労働環境への理解を深める。

**【到達目標】**

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、いくつかのトピックを取り上げ、労働環境について学ぶうえで必要な事柄についてより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的な事象を扱い、仕事や雇用に関する理解を深め、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行を可能にする労働環境をつくるにはどうすればよいか、それに必要な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

就職、昇進、退職など、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1つのトピックにつき1~2回で授業を進める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】****【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて考える。
第2回	日本の雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本の雇用慣行の特徴を概観する。
第3回	日本の雇用慣行 2	前週に続いて、日本の雇用慣行をどう理解すればよいか、近年の変化もふまえて学習する。
第4回	大学生の就職 1	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのか考える。
第5回	大学生の就職 2	大学生の就職と近年話題となっているグローバル人材の問題を考える。
第6回	労働環境と安全衛生 1	仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第7回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第8回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第9回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に、最近のホワイトカラー・エグゼンプションをめぐる議論についても学ぶ。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は毎年のように国際機関から雇用に関する女性の地位の低さを指摘されている。なぜか、その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、とくに女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別（年齢差別禁止を中心に）	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	企業の社会的責任（CSR）	企業の社会的責任（CSR）とは何か、とくに労働の領域におけるCSRについて考える。
第14回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。どういったことが起こり、当事者や行政等はそれにどう対処したのかについてみていく
第15回	試験	試験によって14回の学習の到達度を見る。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前の学習と事後の復習を必須とする。

**【テキスト（教科書）】**

学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本をテキストとして使うことはしない。

## 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012年。

## 【成績評価の方法と基準】

論述式の試験により、それぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が現実に即して理解しやすいよう、時事的な問題にも関連づけて授業をおこなう。毎時間、内容理解に関連する基本的な設問を提示し、学生が勉強しやすいようにする。

## 【その他の重要事項】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースに、いくつかのテーマに分けてそれらをより掘り下げて勉強する。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性雇用など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱う。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

## NGO活動論

小野 行雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動する場と方法を確認した上で、日本のNGOから国際的NGO（I-NGO）、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。

## 【到達目標】

- 1 「途上国」の人々が直面している問題とそれらのつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回簡単なレポートを作成する時間をとり、次の授業でそれをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション NGO活動の基礎－イン ド事例紹介	グループづくりワークショップ インド山岳民族の事例の紹介
第2回	NGO活動の基礎－支援 の方法	インド山岳民族をめぐるワークショッ プ「ドンゴリアコンドの人々」とグ ループ討議
第3回	NGO活動の基礎－開発 と近代	インド山岳民族の事例をめぐる介入と 近代化についてのグループ討議
第4回	NGO活動の基礎－グ ローバリゼーションの影 響	インド・ラダック開発に関わるビデオ 視聴とグループ討議
第5回	NGO活動の基礎－緊急 支援	フィリピン緊急支援事例についてグ ループ討議
第6回	NGO活動の基礎－地域 支援	フィリピン地域支援をめぐるワーク ショップ「24人にインタビュー」と グループ討議
第7回	NGOシミュレーション 1	フィリピン地方題材のドキュメンタ リー視聴とグループによる支援方法の 検討
第8回	NGOシミュレーション 2	グループによるフィリピン支援NGO 設立を想定した計画作成
第9回	NGOシミュレーション 3	グループによるフィリピン支援NGO 設立を想定した計画発表
第10回	NGO事例研究－日本の NGO 1	開発支援系日本NGOについてグルー プによる事例調査と発表および講義
第11回	NGO事例研究－日本の NGO 2	その他日本NGOについてグループに よる事例調査と発表および講義
第12回	NGO事例研究－国際N GO	国際NGOとNGOネットワークにつ いてグループによる事例調査と発表お よび講義
第13回	NGO事例研究－「途上 国」NGO	「途上国」NGOについてグループに よる事例調査と発表および講義
第14回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関 わりについて講義とグループ討議
第15回	ふりかえり	振り返りワークショップと討議

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

10月にお台場で行われる「グローバルフェスタ JAPAN」または横浜で行われる「よこはま国際フェスタ」にできる限り参加すること。最初の講義で説明するが、これを一種のフィールドワークとし、情報収集とインタビューを行う実践の場とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。



## 【参考書】

授業内で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

参加型グループワークを中心とするため、全 15 回遅刻せず出席することを前提として、グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。期末テストは 15 回の授業で学んだことをまとめるレポートとする。平常点(発表等)40%、毎時間のレポート 40%、期末レポート 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流を活発化させるため、3 回に 1 度程度グループを組みなおしながら実施する。毎時間 10 分程度のレポート作成の時間をとる。

## 【学生が準備すべき機器他】

第 5 回以降授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートフォン持参が必須となる。

## 【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

SOC300HA

## ローカルスタディーズ I

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農山村の現状と課題について考える。

## 【到達目標】

農山村の現状や課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、「地域」を「農山村」に絞り、農山村の根幹的産業である農林業や農山村の集落の現状と課題について理解することを目標にする。さらに、その学習だけでなく、その問題解決までも構想できるようになることも目標にする。本授業では、テキストとして、①日本村落研究会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）、②日本村落研究会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007 年）を使い、毎回、それぞれ 1 章分を受講生に発表してもらい、その解説と説明をしたらうえて、全員で討論を行う。なお、本授業は「食と農の環境学Ⅱ」を履修していることを受講条件とし、またゼミ形式を導入するため受講者の定員を 30 名程度にする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第 1 回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。テスト問題は「食と農の環境学Ⅱ」の内容から出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第 2 回	テキストの輪読・発表・討論 (1)	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第 3 回	テキストの輪読・発表・討論 (2)	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」をとりあげる。
第 4 回	テキストの輪読・発表・討論 (3)	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集团的土地利用」をとりあげる。
第 5 回	テキストの輪読・発表・討論 (4)	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第 6 回	テキストの輪読・発表・討論 (5)	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。
第 7 回	テキストの輪読・発表・討論 (6)	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第 8 回	テキストの輪読・発表・討論 (7)	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第 9 回	テキストの輪読・発表・討論 (8)	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第 10 回	テキストの輪読・発表・討論 (9)	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第 11 回	テキストの輪読・発表・討論 (10)	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多面的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。
第 12 回	テキストの輪読・発表・討論 (11)	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。

- 第13回 テキストの輪読・発表・討論 (12) 『むらの社会を研究する』の「戦後農政の展開とむら」、『むらの資源を研究する』の「家族構成の変化と兼業化」をとりあげる。
- 第14回 テキストの輪読・発表・討論 (13) 『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。
- 第15回 テキストの輪読・発表・討論 (14) 『むらの社会を研究する』の「定年帰農と新たな農村コミュニティの形成」、『むらの資源を研究する』の「農村女性起業とエンパワメント」をとりあげる。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で内容も読んで、予習しておくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

日本村落研究会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）  
日本村落研究会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）

#### 【参考書】

参考文献は、授業で随時紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（発表内容、討論への参加姿勢など）を50%として評価する。さらに学期末に課すレポートを50%として評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

#### 【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SOS300HA

## ローカルスタディーズⅡ

後藤 純

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルスタディーズは、ひとことでいえば、まちづくり（最近の流行では、コミュニティ・デザイン）の理論と技法について学びます。日本は少子高齢社会に突入していますが、住みよいまちをつくるには、住民やコミュニティの構成員が自らのリソースを提供して行うまちづくりが必要です。これまでは、行政が単独で計画をつくってきましたが、これからは行政だけでなく、住民自治組織、企業等が連携できるフレームワークづくりが重要となります。本授業ではまちづくり（＝コミュニティ・デザイン）の方法論を学ぶとともに、コミュニティ・デザインに関する理論、技術、制度について基礎知識を獲得し、理解を深めます。

#### 【到達目標】

コミュニティ・デザイン（まちづくり）に関する理論、技術、制度について基礎知識を習得する。この知識をもとに身近なまちづくりの事例を調査分析できるようにする。さらには、分析の結果として、10年、20年先を見すえた、望ましい解決策を提示することができるようになる。これらをレポートにまとめることで、個人的なスキル（技能）を超えて、社会的技術としてのコミュニティ・デザインの技法を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

もはやゼロから都市を形成していくことは不可能です。既に先人が創りこんできた制度及び空間の上に、現在の都市が形成されており、これを再び地域に住む人々が解釈・再解釈して次の時代の制度及び空間を構築していきます。本授業では2030年の超高齢社会を念頭におきながら、都市における参加・協働のまちづくり実践について考えます。これからの日本社会を支える皆さんには、特に（1）コミュニティ・デザインの基礎的な制度や空間を読み解くポイントを学んでいただき、次に（2）市民・住民の地域に対する意思やニーズを把握するポイントについて学んでいただきます。また（3）課題解決・地域形成のためにどのような社会経済的実現方法が考えうるのか、具体ケースをみながら、考えて行きます。（4）本授業では各人調査テーマを一つ決め、講義で学んだことを踏まえつつ、（1）～（3）に注意して、自ら問いを立てて、自ら解決策を検討していただきます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、単位の取り方などを説明します。
第2回	超高齢社会の都市と課題	10年後、20年後、私たちの社会はどのように変わっていくのか。予測が出来れば、対策もしやすい。超高齢社会という観点からみたコミュニティの変化を学びます。
第3回	コミュニティ・デザインとはなにか	コミュニティとは何か？ どのように考えればよいのか？ コミュニティ・デザインの歴史の変遷から基礎論を学びます。
第4回	コミュニティ・デザインの技法	コミュニティ・デザインの具体的な技法を学びます。住民ワークショップを行い、地域活性化イベントを行うことは、コミュニティデザインではありません。
第5回	コミュニティ・デザインの歴史的展開	1960年代～今日までのコミュニティ・デザイン（日本型まちづくり）の歴史を学びます。歴史を学ぶと、これから先の正確な展開予測が出来ます。
第6回	コミュニティ・デザインにおける主体論、主体形成及び組織形成の理論と技術	よきコミュニティは、短期間では出来ません。コミュニティの担い手の育成とともにコミュニティが育っていくことが重要です。時間軸を踏まえた、主体形成の理論と技術について学びます。
第7回	小レポート	最終レポートについて、どのようなテーマで書くのか企画書をA4×1枚以内で作成し、発表、教員とディスカッションを行います。

第8回	住民参加、協働の理論	コミュニティ・デザインは、多様な主体が関わります。多様な主体の参加、協働がなぜ必要なのか、その社会的背景、理論について学びます。
第9回	新しい公共性と都市空間のガバナンス	多様な主体が関わった結果として、新しい社会や価値をどのように創造すればよいのか。新しい公共性、ガバナンスという観点から考えます。
第10回	コミュニティ・デザインの事例分析1	空き家の活用、コミュニティカフェ、サードプレイスなど居場所づくりの事例を学びます。
第11回	コミュニティ・デザインの事例分析2	震災復興におけるコミュニティ・デザインの課題と今後の展望について学びます。
第12回	コミュニティ・デザインの仕組みを考える	最終レポートに向け、これまでの事例分析を踏まえ、各自の考えるまちづくりの仕組みについて議論します。
第13回	コミュニティ・デザインの事例分析3	高齢者の生活を最期まで支える地域包括ケアのまちづくりについて考えます。
第14回	成果発表1	半期の調査研究成果の報告会
第15回	成果発表2	半期の調査研究成果の報告会

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・都市におけるコミュニティ・デザインの実践について、参考文献に挙げたコミュニティデザイン学を副読本として利用してください。  
・まちづくりについて興味を持ちつつ、自分で問いを立てて自分で答えを導き、様々な人と議論を通して合理的な判断をしていく思考訓練を心がけてください。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しませんが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付します。

#### 【参考書】

・小泉秀樹編著（2016）コミュニティデザイン学：その仕組みづくりから考える一、東京大学出版会  
・東京大学高齢社会総合研究機構編著（2014）地域包括ケアのまちづくり、東京大学出版会  
・住民主体の都市計画—まちづくりへの役立て方、学芸出版社  
・新時代の都市計画—市民社会とまちづくり、ぎょうせい  
その他、授業中に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、小レポート20%、最終レポート50%で評価します。  
レポートは100点満点換算です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

少人数でディスカッションをしながら進めて欲しいとの意見がありました。授業はディスカッションの時間を多くとりながら進めたいと思います。受講のモチベーションが維持できるように、わかりやすく進めていきます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影します。

#### 【その他の重要事項】

定員は最大20名です。受講希望者が多数の場合には、第1回目の授業で選抜を行います。学ぶことともに、考えることの多い授業にしたいと思います。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

SSS300HA

## 災害政策論

中川 和之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害大国日本において、近年から、歴史的な災害まで振り返り、為政者による政策、人々の助けあい、そして日本の災害文化まで敷衍しながら、どのような災害政策が求められているのかを、共に考える。

#### 【到達目標】

- ①災害とは何かを、事例から学ぶ
- ②現状の政策の背景と発展、課題を学ぶ
- ③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。
- ④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを発見する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

日本列島は、これまでの地球の歴史を1年としたら、最も最近の1日のできた若い列島だ。だからこそ「災害大国」となるが、古くからさまざまな災害対策や支え合いが、この列島に生きてきた私たちの祖先を支えてきた。社会の高度化や高齢化は、災害に対するぜい弱性を生む。大地動乱の時代に入ったとも言われる日本。そこで、これからの人生を生きていくのが君たちだ。災害対策は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマだが、限られた資源の中で、どのような備えと構えをとっていけばいいのか。誰かが正解を与えてくれるわけではない。君たち自身が考えていくことでもある。授業では、歴史時代から東日本大震災までの災害への対応と、経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を知る。さらに、ここ数年の災害を事例に、制度政策が十分に活かされていない現状を知る。授業中に発生した災害についても、検討をする。また、社会のアクターの視点から現在の状況と与えられている役割を考える。その上で、めざすべき社会のあり方と、制度のあり方をともに考えたい。できるだけ、学生同士や講師との討論を行うなど、参加型の授業としたい。また、ワークシートなども活用しながら、進めていく。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明。災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か。なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。災害時に向き合うジレンマを実感するゲームを体験し、皆さんと、問答をしながら災害政策の意義を考える。
第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科1	地球の歴史では、新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのか。「理科」的な話をベースに、これから考えていく「社会」の問題を考えるベースを押さえる。皆さんの出身地や身近な場所について、いくつかの指定したWebサイトの情報を元に、簡単なワークシートの作成が宿題となる。
第3回	身近な景観と災害＝理科2	事前課題のワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホやpad、PCなどで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。その地に暮らすために、何をすべきかを考える。
第4回	3つの大震災と伊勢湾台風＝その実態	日本の災害対策を変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災で、どのような政策が実行され、何が課題とされたかを確認する。

第 5 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = その後	3つの大震災の教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。
第 6 回	想定されるこれからの災害	想定首都直下地震、南海トラフの地震、巨大化する台風など、これからの生涯で経験する可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。
第 7 回	熊本地震	2016 年 4 月に発生した熊本地震について、それぞれが知っていること、立ち向かった首長たちの経験談を振り返りながら、実際の政策課題になったことを知る
第 8 回	平成 28 年台風 10 号	観測史上初めて東北の太平洋側から上陸し、北海道にも激しい雨を降らした平成 28 年台風 10 号。それぞれが知っていることや、立ち向かった首長たちの経験談を振り返りながら、実際の政策課題になったことを知る
第 9 回	平成 27 年 9 月関東・東北豪雨	鬼怒川の決壊を招いた平成 27 年 9 月関東・東北豪雨。それぞれが知っていることや、立ち向かった首長たちの経験談を振り返りながら、実際の政策課題になったことを知る
第 10 回	箱根山、口之永良部島、桜島、御嶽山の噴火	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちの経験談を振り返りながら、実際の政策課題になったことを知る
第 11 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすかも考える。
第 12 回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害の前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。すべて、自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力が鍵になる。ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割をともに考える。できれば、災害ボランティア関係者のゲスト講師を招いて、学生とも対話しながら、考えたい。
第 13 回	災害と恵み・防災教育	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。これらの活動の現状を知ること、危険性だけを強調して、自分の地域が嫌いになり、また考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第 14 回	振り返り	これまでの授業で学んだことを振り返り、授業レポートで地域特性を調べた居住地（出身地）の市区町村が作成している「地域防災計画」の課題を考える。
第 15 回	めざすべき社会と災害	これまでの授業で学んだことをベースに、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。

## 【参考書】

自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画は、授業課題で必読となりますので、早い段階で読んでおいて下さい。内閣府防災情報のページ、被災自治体のホームページ、学会関係のホームページなど。

## 【成績評価の方法と基準】

平常評価 40 %、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20 %、期末試験（最終講座内レポート）評価 40 %

## 【学生の意見等からの気づき】

災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施する他、授業中の相互のディスカッションや、外部講師とのディスカッションの時間をより多くしたい。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの出身地や、現在の住居地が、過去にどのような災害に遭ってきたのか、その災害が今はその地に何をもたらしているのか、身の回りを再確認して欲しい。さらに、この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。

## 【テキスト（教科書）】

授業では、PPT を使用する。その資料は、毎回、授業支援システムに掲載する。就活などで出席できなかった場合、資料を参考にして授業レポートをメールで提出してください。

SHS300HA

## 科学技術社会論

## 託問 直樹

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術は、内在するルーティーンやパラダイムに従って独自に発展する性格をもつと同時に、社会に埋め込まれた活動であるので当然、社会と相互作用を行う。また、科学技術活動のアウトプットが社会に多大な（正負両面の）影響を与える一方で、科学技術の側も社会条件の制約を受ける。従って、科学技術と社会は相互に影響しながらお互いを形成していく—共進化していく—と見ることができる。この共進化のプロセスを解明し、その問題点を社会に呼びかけていくことが、科学技術社会論の一つの使命である。

本授業では、こうした科学技術と社会の相互作用を理解するために、有用なキー概念を学び、またそれらの概念を用いて具体的に科学技術という現象を理解する訓練を行う。

## 【到達目標】

科学・技術と社会との関わりを理解するために有用となる重要概念を理解し、それらを用いて具体例事例を論じる能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

科学技術社会論の様々な重要概念がコンパクトにまとめられている優れたテキスト—平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書、2010年）をベースに、重要概念と関連事例の解説を行う。

また、質疑応答を適宜行う。そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者は、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。

また、毎回、授業の終わりに、コメントシートに感想・意見・質問を記入してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明。当科目の背景と、内容のおおよその説明。
第2回	科学・技術と社会（概論）	科学技術におけるディシプリン（研究伝統）の形成）と専門分化、社会に埋め込まれた活動としての科学技術、科学技術と社会の共進化、ほか。
第3回	現代科学技術の履歴と功罪 （テキスト対応箇所：第1章「輝かしく陰鬱な1970年代という曲がり角」）	1960年代における科学技術に対する期待の高まり、1970年代以降における科学技術に対する認識の変化、公害問題、核問題、ほか。
第4回	科学技術のガバナンス（その1） （テキスト対応箇所：第2章「統治」から「ガバナンス」へ）	統治とガバナンス（舵取り）の違い、科学技術の舵取りをどう行うか、なぜ舵取りが必要か（間接民主主義の問題、シングルイシューへの市民の関与、ユーザー主導のイノベーション、参加型イノベーション、双方向コミュニケーション、ほか。
第5回	科学技術のガバナンス（その2）	舵取りの制度的仕掛け：市民参加型テクノロジーアセスメント・コンセンサス会議・市民陪審、シナリオワークショップ、サイエンスカフェ、ほか。
第6回	科学技術がはらむ不確実性と副作用（その1） （テキスト対応箇所：第3章「科学技術は「完全無欠」か」）	「地震予知は困難」と認めた科学者たち、水俣病における完璧主義（行政と裁判における確実な科学的証拠の要求）、実験室の科学的成果から「ファイナルアンサー」への長い道のり、ほか。
第7回	科学技術がはらむ不確実性と副作用（その2）	「すでに知られている無知」（“Known Unknowns”）と「まだ知られていない無知」（“Unknown Unknowns”）、想定外にどう対処するか、理想化に伴う不確実性、枠組みの功罪、理想系と現実系とのギャップ、ほか。
第8回	科学技術の社会における作動（その1） （テキスト対応箇所：第4章「科学技術と社会のディープな関係」）	科学技術と社会のかかわりをどう見るか、「共生化」という考え方、研究開発の国家総動員体制、科学技術は価値中立か、人工物に埋め込まれた政治性、アーキテクチャの権力（環境管理型権力）。

第9回	科学技術の社会における作動（その2）	「緑の革命」の光と影、「技術—社会パッケージ」、社会的作動条件への不適合、フレーミング（問いの立て方、問題のとらえ方）の失敗、利益構造について考える、ほか。
第10回	科学技術とリスク（その1） （テキスト対応箇所：第5章「科学の不確実性とどうつきあうか」）	リスク論争で問われるものは？、調べる人が変わればデータも変わる、価値基準と変数結節、拳証責任はどちらにあるか、リスク容認の基準、遺伝子組み換え作物の事例、リスク容認基準を左右する政治的社会的理由、ほか。
第11回	科学技術とリスク（その2）	事前警戒原則（予防原則）、欧州における組み換え作物規制が意味するもの、問いの立て方（フレーミング）次第で結論が大きく変わる、価値中立性を再定義する、偽陽性と偽陰性、過剰規制とコストのトレードオフ、さまざまなメリット・デメリットのポートフォリオを作成しておく、ほか。
第12回	科学技術問題を理解し、舵取りに関与するための術 （テキスト対応箇所：第6章「知ることと、つながること」）	どうやって科学技術問題に関わるのか、「一人一人の心がけ」でよいのか、具体的ななすべを身につける、科学技術を理解するための術（不自然な省略を見抜く、言及されていないことこそ重要、見せ球・吊り球にも注意）、知的協働のアクションチャート（第1条～第5条）、信頼できる資料の見つけ方、ほか。
第13回	科学技術イノベーションへの市民参加（その1） （テキスト対応箇所：第7章「知を力にするために」）	市民参加型イノベーションの例：エイズ患者とエイズ活動家による治験方法のイノベーション、Community-based Research、ほか。
第14回	科学技術イノベーションへの市民参加（その2）	科学が問えない問いを問う、問題の可視化、フレームそのものを作る、参加型テクノロジーアセスメント（復習と再論）、サイエンスショップという仕掛け、科学的認識が難しい問題に取り組む：ソーシャルキャピタル（人間関係資本）・ローカルノレッジ（暗黙知）、ほか。
第15回	まとめ	講義内容を振り返る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキスト（平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書））の該当箇所を事前に読んできてもらう。  
・授業時間中に理解を深めるためQ&Aの時間を適宜とるが、そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者には、講師や他の学生からの質問に答えられるように、特に入念に準備してきてもらう。

## 【テキスト（教科書）】

平川秀幸『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す—』、NHK出版生活人新書、2010年。  
本講義を履修する者には、教科書を購入し、毎回の授業時に持参することを義務付ける。紙媒体・電子書籍の両方があるが、紙媒体で購入することを推奨する。（電子書籍には、一覧性がない、ページ番号が表示されないといった欠点があるため。）

## 【参考書】

必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

・平常点60%、期末レポート40%。

・期末レポートの概要：

テキストに関連する好きなトピックを選び、そのトピックに関連する文献を選んでその概要を紹介してもらった後、その文献を根拠として自説を展開してもらう。A4用紙5枚程度。

## 【学生の意見等からの気づき】

・講義を分かり易いと感じるか難しいと感じるか、学生によって感想に開きがあった。最近の事例を追加したり、図解を用いたりするなどして、さらに分かりやすく伝わるよう工夫していきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

教科書は、紙媒体を購入し持参することを推奨するが、どうしても電子書籍を購入したい者は、プラットフォームとなる端末（kindle 端末やスマートフォン、パッド、PCなど）を毎回の授業に必ず持参すること。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

## 社会開発論

新村 恵美

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。しかしながら、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。その上で、社会的に弱い立場に置かれている人びとを中心に据え、すべての人が持続可能で豊かな人生の選択肢を持てるようになることに注目し、授業を展開する。

## 【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。まず、社会開発とは何か、その定義や歴史的経緯、課題とされることを理解する。次に、社会開発のもたらす社会変容を日本及び海外の事例を検討する。最後に、「仕事」をテーマに、社会開発を検討する。

学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会開発とは1 定義と歴史的背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。社会開発がどのように位置付けられてきたのか、国際社会及び日本における歴史的経緯を概観する。課題レポートの説明も行う。
第2回	社会開発とは2	国連の「人間開発」「人間の安全保障」等の概念を理解し、社会開発を検討する。統計資料を使うほか、南アジアを例に考える。
第3回	社会開発とは3 途上国の貧困	途上国の貧困問題への取り組みを、バングラデシュのストリートチルドレンや児童労働をせざるを得ない子供達の「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。
第4回	社会開発とは4 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。また、日本のNPOによる貧困問題への取り組みを理解する。
第5回	社会開発とは5 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差の拡大を体験し、考察する。
第6回	社会開発と社会変容1 貧困を断ち切るには	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。途上国及び日本双方の、識字教育の現場での声を紹介する。
第7回	社会開発と社会変容2 国際協力と国際ボランティア活動の種類と形態	社会開発を行う主体として、国際機関、各国政府、NGOの活動について概観する。

第8回	社会開発と社会変容3 NGOによる国際協力と社会開発	社会開発の主体の中でも、草の根の活動を通して現地の人々の中に入って行うNGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。
第9回	社会開発と社会変容4 差別と社会運動	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。
第10回	課題レポートの共有と発表（グループワーク）	学生各自が取り組んだ課題レポートの内容を共有し、グループごとに発表の準備をする。
第11回	社会開発と社会変容4 インドの家事労働者の運動	家事労働とは何か、他人の家の家事を引き受ける家事労働者とはどのような人たちなのか。人々はどのように連帯し、国際社会を変えようとするのか。ILOの「家事労働者のディーセントワーク条約」を取り上げ、国際ネットワークの構築とその意義を考察する。
第12回	社会開発と「仕事」1 ディーセント・ワークとは	ILOの提唱するディーセント（適正）な労働とはどういうことか。途上国のインフォーマルセクター労働、二重労働市場、非正規/正規雇用、女性の労働参加など、仕事満足度など、労働をテーマに社会開発を考える。
第13回	社会開発と「仕事」2	国連の2015年の「人間開発報告書」は「仕事」をテーマにしている。本報告書を検討し、「仕事」について考察する。
第14回	社会開発と「仕事」3 「人的資本」に注目して	社会が発展するために重要な「人的資本」とは何か。教育や職業訓練がどのように生かされるのかに注目する。
第15回	まとめ	学生のフィードバックから論点を取り出し、考察する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料にテーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めること。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化する。

## 【参考書】

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者  
アマルティア・セン（1999）池本幸生ら訳『不平等の再検討：潜在能力と自由』岩波書店

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート：20%

期末試験：50%

毎回の授業での記述:30%

## 【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当。各回授業の学生からのフィードバックを踏まえて、双方の授業にする。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業では主にスライドを使用する。授業で使用した配布資料は、授業支援システムに掲載する。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

EDU200MA

## 開発教育

福田 紀子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した“価値観＝大切にしているもの”に近づきたいと思います。また問題解決の為に必要なスキルを「対立から学ぶ」のテキストと参加型アクティビティから考えます。

## 【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、平和／暴力、多文化主義、ジェンダー等、人間理解と共生に必要な思考と行動のスキルを自分の生き方／暮らし、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会と、2～3名のチームでハンドブック（進め方ガイド）にある参加型学習のファシリテーターを実践する機会もあります。授業は講義と参加型アクティビティ、学生の発表（ファシリテーション）を進めていきます。その中のディスカッションは日本語で行います。テキスト他の情報から何を学んだのかを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation -Wants, Needs, Rights -Education as Human Rights ~Declaration of the Conference	この授業の進め方 教育・学習・人権に関わる文書や文言を通してこの授業で捉えたい概念を概観します。
2	Education through HRs -Self-esteem & Communication	人権教育の4つの側面とその基本となる概念でありスキルである「自尊心」「コミュニケーション」について学びます
3	Education about HRs -Why Human Rights should be required? -Humanitarian Response Cross Cutting Theme	人権を考えることがなぜ必要なのか？ マイノリティ、人道支援の国際基準における脆弱な立場人々の状況について考えます
4	Education for HRs -What's Humanitarian Response? -The Code of Conduct for the International Red Cross & Red Crescent Movement & Non-Governmental Organization(NGOs) in Disaster Relief	人道支援の国際基準で求められる行動綱領から、人間の尊厳を大切し、公正に行うとは何かを理解します。
5	Conflict Resolution -Analyzing Conflict	あらゆる課題解決におこる対立に対応する力をつけるため、対立の分析の視点、思考の枠組を知ります。
6	Conflict Resolution -How We Meet Conflict	対立に向き合うとどのようなものなのでしょうか。自分自身の傾向や対立のなかにある関係性を分析します。
7	Conflict Resolution -Working Towards Conflict Resolution	対立の背景にある要望、価値観について考え、お互いを尊重しあう解決の方向をさぐる基礎的なアプローチを知ります
8	Conflict Resolution and Peer Mediation	課題解決の為に「対立から学ぶ」思考と行動のスキルを参加型アクティビティを実践します

9	Conflict Resolution and Peer Mediation -Communication	アクティビティ実践②対立におけるコミュニケーション
10	Conflict Resolution and Peer Mediation -Emotion	アクティビティ実践③対立における感情
11	Conflict Resolution and Peer Mediation -Position, Interests, Needs	アクティビティ実践④対立におけるそれぞれの立場、要求、ニーズ
12	Conflict Resolution and Peer Mediation -Miracle Question	アクティビティ実践⑤対立解決に有効な発問
13	Conflict Resolution and Peer Mediation -Creating Win Win Solution	アクティビティ実践⑥ウィンウィンの関係を創る
14	Conflict Resolution and Peer Mediation -What's Fair?	アクティビティ実践⑦対立解決での公正さとは
15	participatory evaluation	この授業のふりかえり。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。人道支援、様々な対立状況については、日常に起こる国際的な出来事や身近な社会の課題に関心をもち、授業の理解につなげて下さい。

## 【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。毎回教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

## 【参考書】

Conflict Resolution-Working with Conflicts  
<https://www.konfliktloesning.dk/sites/default/files/ConflictResolution.pdf>  
Conflict Resolution and Peer Mediation Soucebook  
<https://www.irex.org/sites/default/files/Conflict%20Prevention%20and%20Peer%20Mediation%20Toolkit%209.12.13.pdf#search=Conflict+Resolution+and+Peer+Mediation+Sourcebook>  
The Sphere Project-Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response  
<http://www.spherehandbook.org>  
Core Humanitarian Standard/ Guidance Notes and Indicators  
<http://www.corehumanitarianstandard.org/files/files/CHS-Guidance-Notes-and-Indicators.pdf>  
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)  
『ワールドスタディーズ-教える学び方ハンドブック』『人権教育ファシリテーターハンドブック（基礎編・発展編・実践編）』『参加型で考える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）  
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点と各回授業のふりかえりシート 35%  
個人/グループでの発表と成果物（模造紙作業やワークシート）35%、レポート30%

## 【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと思います。ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会としていってください。

## 【その他の重要事項】

国際合意の中でも、災害時の支援としての「国際基準」は日本ではまだ医療や一部の国際協力 NGO 関係者の中で認識されている程度です。しかし、あらゆる活動にグローバルな文脈があり、影響があります。さまざまな不足や困難がある災害時という与えられた場で、公正で人権尊重に基づく行動を行うおうとする意志に基づく指針や基準は、あらゆる公務活動、市民活動に求められ、応用できるものだと思います。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。分担したアクティビティのファシリテーションをはじめ、授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

## 国際社会学

新藤 慶

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、在日ブラジル人をめぐる状況を、日本とブラジルの両国の視点から理解することで、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

## 【到達目標】

本授業を通じて、在日ブラジル人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際社会学とは	国際社会学の考え方について概説する。
第2回	在日ブラジル人の増加と行政の対応	在日ブラジル人の増加の背景と行政の対応について概説する。
第3回	在日ブラジル人の労働と生活	在日ブラジル人の労働と生活の実態について講義する。
第4回	ブラジル系エスニック・ビジネスの展開	在日ブラジル人を対象としたエスニック・ビジネスについて講義する。
第5回	在日ブラジル人に対する地域住民の意識	在日ブラジル人に対する地域住民の意識について講義する。
第6回	在日ブラジル人と町内会活動	在日ブラジル人の集住地域における町内会の対応について講義する。
第7回	公立学校における在日ブラジル人教育	公立学校での在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第8回	ブラジル人学校における在日ブラジル人教育	ブラジル人学校における在日ブラジル人の子どもに対する教育について講義する。
第9回	在日ブラジル人の保育	在日ブラジル人の子どもに対する保育について講義する。
第10回	ブラジル政府による教育支援	ブラジル政府による在日ブラジル人教育に対する支援について講義する。
第11回	大都市におけるデカセギの影響	ブラジルの大都市における日本へのデカセギの影響について講義する。
第12回	大都市近郊農村におけるデカセギの影響	ブラジルの大規模近郊農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第13回	僻地農村におけるデカセギの影響	ブラジルの僻地農村における日本へのデカセギの影響について講義する。
第14回	帰国児童生徒へのデカセギの影響	日本から帰国したブラジル人の子どもに対するデカセギの影響について講義する。
第15回	ブラジル人のトランスナショナルな移動と定住	ブラジル人のトランスナショナルな移動と定住の実態から、国際社会学への示唆について考察する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会学的な関心を持ちながら生活することも重要となる。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

## 【参考書】

宮島喬ほか編、2015、『国際社会学』有斐閣。  
小内透編、2009、『講座トランスナショナルな移動と定住』（全3巻）、御茶の水書房。

## 【成績評価の方法と基準】

論述試験（70%）+毎回のリアクションペーパー（30%）

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、特に改善が必要な事項は指摘されなかったが、今後も、気づいた点があれば、リアクションペーパー等を通じて伝えていただきたい。その都度、対応するよう努める。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）



PHL200HA

## 西欧近代批判の思想

越部 良一

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の中心となる視点は、西洋近代への批判を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判として把握することである。

### 【到達目標】

西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。まず、西洋思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、功利主義、デカルト、ヘーゲルなどをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体の概観
第2回	プラトンの思想Ⅰ	プラトンの魂と正義の考え方
第3回	プラトンの思想Ⅱ	プラトンの民衆制批判
第4回	聖書の思想	聖書における人間と神の関係
第5回	功利主義の思想	ベンサム、ミルの功利主義の基本的な考え方
第6回	デカルトの思想Ⅰ	デカルトの「我思う、ゆえに我あり」等について
第7回	デカルトの思想Ⅱ	デカルトの人間中心主義的な思考
第8回	ヘーゲルの思想Ⅰ	ヘーゲルにおける絶対者と人間精神の一致
第9回	ヘーゲルの思想Ⅱ	ヘーゲルの歴史観
第10回	マルクス主義の思想	マルクス主義の人間中心主義
第11回	キルケゴールの思想Ⅰ	キルケゴールのヘーゲル批判
第12回	キルケゴールの思想Ⅱ	キルケゴールの現代批判
第13回	ニーチェの思想Ⅰ	ニーチェのニヒリズム論
第14回	ニーチェの思想Ⅱ	ニーチェの大衆批判
第15回	試験	筆記（論述）試験を行う予定である

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて、思想家の言葉を引用したプリントを配布する。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末試験（60%くらい）によって成績を評価する予定である。

### 【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているから、近現代の日本の思想状況と照らし合わせる視点を背景にしながらか講義するつもりである。

### 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

PHL200HA

## 仏教思想

高堂 晃壽

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仏教の基礎概念について大枠を把握する。

アジアの文化の様々な分野に浸透し、多大な影響を与えている仏教の思想について考えてゆきたい。

一口に仏教といっても、内容は極めて広汎である。したがって本講では、仏教の基本概念とその思想的な展開についての概観を中心として講義を行う。仏教の基礎概念より始め、原始仏教、大乘仏教諸学派の基本的内容を把握していきたい。時間的制約もあり、インド仏教史の概略を跡付けることが主な作業となる。東アジア仏教については、簡略に触れるのみとなる。

### 【到達目標】

日本の文化の形成に多大な影響を及ぼした大乘仏教の概略を把握することを目標とする。

社会人として知っておきたい仏教の基本を習得したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

初期仏教から始めて、主として大乘仏教の概略を解説してゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	なぜ仏教を学ぶか。	東アジアにおける仏教の位置づけ。
第2回	仏教の基礎(1)	「仏」（ブツ）とは何か。ゴータマ・ブツダの生涯。
第3回	仏教の基礎(2)	「法」（ダルマ）とは何か。三法印と四諦。
第4回	仏教の基礎(3)	「僧」（サンガ）とは何か。仏教団の概要。
第5回	仏教団の分裂と展開	根本分裂と部派仏教の思想。
第6回	大乘仏教(1)	大乘とは何か。大乘仏教の概略。
第7回	大乘仏教(2)	大乘仏教の概略。大乘仏教の展開。
第8回	大乘仏教(3)	般若経典と中観派の概略。
第9回	大乘仏教(4)	法華経の概略。
第10回	大乘仏教(5)	浄土経典の概略。
第11回	大乘仏教(6)	華嚴経の概略。
第12回	大乘仏教(7)	唯識の概略。
第13回	大乘仏教(8)	如来蔵思想の概略。
第14回	大乘仏教(9)	密教の概略。
第15回	テスト	到達度のチェック。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の該当項目の内容を、講義の前後に確認することを、準備学習、復習とする。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。

必要に応じて、プリントを配布する。

### 【参考書】

中村元・三枝充恵『パウツダ』（講談社学術文庫）

三枝充恵『インド仏教思想史』（講談社学術文庫）

## 【成績評価の方法と基準】

学期末のテスト 70 %

平常点 30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

今年度より開講につき、なし。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

LIT200HA

## 日本詩歌の伝統

日原 傳

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」の実作を体験する機会も設ける予定である。

## 【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。
- ・主だった季語の季節を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌の作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にはほぼ毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	俳句の三要素	俳句の約束事～定型・季語・切字／実作（俳句）
第2回	俳諧と発句	発句と俳句、歳時記の世界、「季語」について、二十四節気／実作（俳句）
第3回	切字と取り合わせ	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第4回	俳句の表記法・俳句の読み方	「旧仮名遣ひ」について、俳句を読むということ／実作（俳句）
第5回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第6回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第7回	正岡子規の俳句革新	『俳諧大要』より、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第8回	川柳と俳句	川柳と俳句の違い／実作（俳句）
第9回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌）
第10回	高濱虚子とその弟子たち	鑑賞（ホトトギスの俳人たち）／実作（俳句）
第11回	自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句	鑑賞（自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句）／実作（俳句）
第12回	前衛俳句	鑑賞（前衛俳句）／実作（俳句）
第13回	現代俳句	鑑賞（現代俳句）／実作（俳句）
第14回	国際俳句	鑑賞（国際俳句）／実作（俳句）
第15回	青春俳句	鑑賞（青春俳句）／実作（俳句）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自作の俳句（毎回3句ほど）を作り、持参する。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）

山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）

平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）

藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）

片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）

日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）

佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）

Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）

馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）

岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・提出作品） 70 %

最終レポート 30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

提出された実作を素材として解説する時間を多くとりたい。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART200HA

## 比較演劇論 I

平野井 ちえ子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。受講希望者多数の場合、選抜を行なう可能性もあるので、第1回目の授業には必ず出席してください。

## 【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、非常に密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、受講希望者多数の場合、選抜を行ないます。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第3回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第4回	何もない空間	能やギリシャ悲劇の舞台づくりを対象として、観客の想像力について考えます。
第5回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、屋体くずしなど、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第6回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第7回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第8回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能を、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第9回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第10回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第11回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第12回	日本人の余情と旅情 一道の美学—	日本の伝統芸能における「旅」の表現について考えます。
第13回	日本人と自然	歌舞伎の季節感を学びます。庭園や盆栽など、人工の自然美にも言及します。
第14回	総括	春学期の学習内容の復習。期末試験の予告。
第15回	期末試験（記述式）	14回までの講義内容について理解度・知識定着度を確認します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の講義範囲については、必ず配布プリントの下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

## 【テキスト（教科書）】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

## 【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS プリタニカ  
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書  
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

## 【成績評価の方法と基準】

【平常点】 40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】 60%

参照不可の記述式試験です。

## 【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

## 【学生が準備すべき機器他】

BT0309教室での授業です。

## 【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。  
・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。  
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART300HA

**比較演劇論Ⅱ**

平野井 ちえ子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

**【到達目標】**

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・討論・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。
第2回	歌舞伎海外公演	平成中村座海外公演について考察します。
第3回	劇場とは何か	観客の想像力と芸能の「場」について考察します。
第4回	スペクタクルの役割：歌舞伎を中心として	古典歌舞伎とスーパー歌舞伎のスペクタクルについて考察します。
第5回	ジャンル横断的考察（1）	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第6回	ジャンル横断的考察（2）	文楽と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第7回	ジャンル横断的考察（3）	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第8回	ジャンル横断的考察（4）	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第9回	翻案劇とは何か	明治期のシェイクスピア受容を初めとして、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第10回	翻案劇と翻訳劇	シェイクスピアの作品を中心として、現代における翻案と翻訳のあり方を考察します。
第11回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第12回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第13回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第14回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察のまとめ。期末試験の予告。
第15回	期末試験（記述式）	14回までの講義内容について理解度・知識定着度を確認します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

次週の講義範囲については、必ず配布プリントの下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

**【テキスト（教科書）】**

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

**【参考書】**

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ―日本人の美意識―』 TBS プリタニカ  
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書  
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

**【成績評価の方法と基準】**

【平常点】40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】60%  
参照不可の記述式試験です。

**【学生の意見等からの気づき】**

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。ただし、学習の分量は多いので、2013年度以降の「比較演劇論Ⅱ」では、春学期の「比較演劇論Ⅰ」を受講していない学生の履修は一切認めません。

**【学生が準備すべき機器他】**

BTO309教室での授業です。

**【その他の重要事項】**

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。  
・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。  
・春学期の「比較演劇論Ⅰ」を履修していない学生の履修は、一切認めません。  
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

**【関連の深いコース】**

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART200HA

## 日本美術史論

豊田 和乎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本美術史全体の流れを念頭におきつつ、その中で特に近代日本画に焦点をあわせる。各時代の美術を学び摂取することで新日本画の創造を目指した近代日本画壇の発展の歴史をたどり、近代日本画の美術史的な意義を考察するとともに、絵画に対する読解力を養う。「日本画」という、時代的、地域的に極めて限定的な絵画のジャンルが、日本美術史上どのような意義を持っているのかということ、人々の暮らしおよび社会との関係を考慮にいれつつ考察していく。

## 【到達目標】

史料講読などを通じて、近代日本画に関するさまざまな用語の意味を理解し、その発展の歴史に関する基礎的知識を身につけることを目指す。さらに、講義でとりあげる絵画に関する意見を表現するトレーニング（アンケート方式、数回程度実施予定）などを通して、近代日本画の読解力を養うことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業では、近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術のながれ～古代、中世	本講義の導入として、日本の絵画史の全体像を概観する。その前半として、古代、中世の日本絵画史を概観する。
第2回	日本美術のながれ～中世、近世	前回に引き続き、日本絵画史の全体像を概観する。その後半として、中世、近世の日本絵画史を概観する。
第3回	日本美術の一系譜としての近代日本画	本講義の導入として、日本美術史の中で、近代日本画の占める位置、特質や概略を学習する。
第4回	近代日本画のすがた、かたち	作品制作の際に用いられる材料や、作品の装丁方法など、近代日本画作品についての基礎的知識を共有する。
第5回	近代日本画のイメージ	文化勲章を受章した近代日本画家や、重要文化財に指定された近代日本画作品を通して、現在実際に近代日本画がどのように評価されているかを概観する。
第6回	近代日本画の誕生	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第7回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治10年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第8回	東京美術学校の開校	東京美術学校開校前後の近代日本画壇の状況を概観する。
第9回	近代日本画壇の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第10回	近代日本画壇の勢力～京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第11回	大正期の日本画壇～概観	大正期の分派運動や官展の改革など、近代日本画壇の状況を概観する。
第12回	大正期の日本画壇～再興院展と法政大学	日本美術院の再興に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第13回	大正期の日本画壇～金鈴社と国画創作協会	金鈴社と国画創作協会に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第14回	大正期の日本画壇～文、帝展の佳作	大正期の官展について、帝国美術院の創設と帝展の開催について、その意義を考察する。

第15回 近代日本画の意義／まとめ これまでの講義の内容を振り返りながら、まとめとして、日本美術史における近代日本画の意義を考察する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。準備学習としては、プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

## 【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中日佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のなごれー 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験期間中）の成績による。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説する力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

## 【その他の重要事項】

・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。

・旧科目名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

ART200HA

## 西洋美術史論

## 板橋 美也

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのジャポニスム—日本がどのように眺められてきたのか

## 【到達目標】

近年、日本のアニメや食べ物、ファッションなどが海外で大きな注目を集めています。こうした海外での日本の事物に対する高い関心は、19世紀半ばの日本の開国直後にも、ジャポニスムという形をとって存在していました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分たちの創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、その時々自分の支持する美術思想を正当化するべく日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、このジャポニスムという現象が1860年代から1930年代までのイギリスでどのような変遷を遂げ、その中で日本がどのように眺められてきたのかを考えます。そうすることで、1860年代から1930年代のイギリス美術・デザインの諸潮流とジャポニスムの変遷について理解すること、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

まず、「日本美術」の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（美術潮流）を解説します。そのうえで、その美術潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本美術」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。また、講義内容を踏まえて自分の考えを簡潔にまとめたリアクション・ペーパーを授業時に随時書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ジャポニスム前史	シノワズリーからジャポニスムへ
第2回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（1）	デザイン改革運動の背景説明
第3回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（2）	Christopher Dresser その他の「日本美術」観を分析
第4回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（1）	ゴシック・リヴァイヴァルの背景説明
第5回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（2）	William Burges その他の「日本美術」観を分析
第6回	唯美主義におけるジャポニスム（1）	唯美主義の背景説明
第7回	唯美主義におけるジャポニスム（2）	James McNeill Whistler その他の「日本美術」観を分析
第8回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（1）	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景説明
第9回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（2）	Frank Morley Fletcher その他の「日本美術」観を分析
第10回	1910年日英博覧会（1）	日本政府による「日本美術」の表象
第11回	1910年日英博覧会（2）	日英博覧会の「日本美術」展に関する当時の批評家たちの文章を分析
第12回	モダニズムにおけるジャポニスム（1）	モダニズムの背景説明
第13回	モダニズムにおけるジャポニスム（2）	Roger Fry その他の「日本美術」観を分析
第14回	民芸運動をめぐる日英交流（1）	民芸運動の背景説明
第15回	民芸運動をめぐる日英交流（2）	Bernard Leach その他の「日本美術」観を分析

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントと授業中にとったノートをもとに、毎回授業後によく復習をしておいてください。

## 【テキスト（教科書）】

プリントを適宜配布します。

## 【参考書】

世田谷美術館編、『JAPANと英吉利西（いぎりす）日英美術の交流 1850-1930 展』、世田谷美術館、1992年

谷田博幸、『唯美主義とジャパニズム』、名古屋大学出版会、2004年  
小野文子、『美の交流—イギリスのジャポニスム』、技報堂出版、2008年

## 【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

スクリーンに映し出した作品を鮮明に見せようとする、黒板前の照明を暗くせざるを得ません。板書はあくまで講義の中で出てきたキーワードを書き出しているだけなので、基本的には話をよく聞いて各自ノートをとってほしいと思います。ノート作りは、自分が聞いたり読んだりした内容をまとめる訓練になるはずですよ。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

PHL200HA

## 生命の現在と倫理

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「生きること」「いのち」を最優先のキーワードとして成立する生命倫理学を中心に据えて展開する。そこで、「ただ生きること」と「よく生きること」の乖離が、先鋭なかたちで顕著になりつつある現代社会の現状（遺伝子操作・脳死・安楽死・生殖補助医療技術など）に対して、プラトンの生命論という原理的地平から考察する。現代倫理学の基本的概念（人格・自律・自己決定・ケア）の論議を素材にして「主体的に生きるとは、いかなることか」を学ぶ。

### 【到達目標】

生命倫理学における基礎的概念を正しく理解し、自分でも使えるようにする。インフォームド・コンセント、クオリティ・オブ・ライフ、出生前診断、生殖補助医療について技術面、法律面における現状を正しく理解する。そしてそれらがいかなる倫理的問題を含んでいるかを把握する。その上でその問題を受講生は、自らの問題として考え、判断し、その結論をどのように実行するかといった能力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

最初に「いのち」とは、どのようなものなのかを、プラトンの生命観から原理的考察をします。その上で bio(生命)ethics(倫理学)の成立と歴史を学ぶことにします。その後は、生命倫理学で取り扱う問題群を、個別に授業計画に沿って講義します。

この分野の技術革新は日進月歩で進むので、その都度、資料をプリントして配布し、VTR・DVD・NIE などを用いて学ぶことにします。人数によってはグループで議論を、また大教室の場合は意見の記述(レポート)を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と学び方
第2回	「生命とは何か」	プラトンの生命観から遡源
第3回	「bioethicsの歴史」	米国における bioethics の成立と日本への輸入と現状
第4回	「健康と病気」	健康の定義をめぐる議論と病気の定義をめぐる議論
第5回	「エイジング」	高齢者介護の問題
第6回	「高齢社会と生命の質」	クオリティ・オブ・ライフとサンクティティ・オブ・ライフ
第7回	「パーソン（人格）論」	パーソン論の内容とそれに伴う問題点
第8回	「自己決定権の限界」	インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
第9回	「自律（autonomy）の倫理」	自律と弱いパターナリズムの共存の可能性
第10回	「生殖補助医療技術をめぐる倫理的問題」	生殖補助医療技術の原則とは何か
第11回	「脳死と臓器移植」	臓器移植の現実的諸問題
第12回	「積極的安楽死と消極的安楽死」	安楽死の分類と治療停止問題
第13回	「ケアの倫理」	ターミナル・ケアの現実とその意味
第14回	「生命倫理学の課題」	その現状とそれへの要請
第15回	期末試験	論述試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、今、現実社会で起きている生命倫理問題を提題して、受講者一人ひとりがどのように対処すべきかを自分で考える必要があります。そのためさまざまな事例研究の課題を出すので、そのレポートの提出が義務づけられます。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義時に資料プリントを配布します。

### 【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加を重視します。試験は、期末試験を1回、レポートは、1～2回を課します。平常点で30%、期末試験で50%、レポートで20%、それぞれの配点を合計して評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の私語についての苦情の意見がありました。極力注意します。それでも授業妨害をする少数の私語をする学生は、授業の出席を禁じます。

### 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

PHL200HA

## 環境倫理学

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代倫理学の基本的な学説の流れを学ぶ。そこで環境倫理学が、どの立場に立脚しているのかを明らかにする。そして環境倫理思想がどのように成立し、発展していったのかを、さまざまな思想家の環境倫理思想を取り上げて検証する。

## 【到達目標】

さまざまな環境倫理学の思想内容や立場を理解することによって、偏在した一方的な環境倫理思想に捕らわれることなく、広範で総合的な環境倫理思想の視野を形成し、環境倫理を考える上での理論的支柱の陶冶をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

環境倫理学は、「人間中心主義と人間非中心主義」という二項対立図式のなかで成立した。そして人間中心主義からの脱却と人間非中心主義の主張とその検討により、人間以外の生命（生物）や生態系に対する配慮とそれらの権利（自然権）付与へと議論が展開する。この授業では、環境倫理思想の歴史を学び、その学説史の把握に努める。その基盤に立ち環境倫理をダイナミックに広範に捕えて、新たな「環境倫理」を展望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学的な倫理学について学ぶ	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学の概要
第2回	持続可能な社会を追求する環境倫理学	環境倫理学の基本概念
第3回	人間中心主義の立場に立つ環境倫理学	自然保護から環境主義へ
第4回	人間中心主義克服の潮流	人間非中心主義の環境倫理
第5回	パトス中心主義	自然中心主義における感覚・感受性の意義
第6回	生命中心主義	あらゆる生命の内在的価値とそれへの倫理的配慮
第7回	生態系中心主義	生態系全体の道徳的価値の保護
第8回	環境プラグマティズム	環境倫理の実践的な公共哲学への志向
第9回	環境正義の思想	環境正義による公平な分配と社会的弱者の救済
第10回	環境倫理における動物解放論	シンガーとレーガンの「動物の権利」論
第11回	土地倫理	レオポルドの「土地倫理」思想における全体主義
第12回	ディープ・エコロジー	生命圏の中での全生命体平等主義の思想
第13回	エコフェミニズム	「リベラル・カルチュラル・ソーシャル・ソシヤリスト」のエコフェミニズムの思想
第14回	道徳的多元論と道徳的一元論	価値一元論と価値多元論の対立点とその批判根拠
第15回	現代環境倫理は何をめざすべきか	エコロジー的な持続可能な環境社会システムの構築

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で取り扱う環境倫理思想の基本文献を授業時に提示します。それを読み込んでおくことが、必要です。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義時に適宜、資料を配布します。

## 【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加を重視します。試験は、期末試験を1回、レポートは、1～2回を課します。平常点で30%、期末試験で50%、レポートで20%、それぞれの配点を合計して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の私語についての苦情の意見がありました。極力注意します。それでも授業妨害をする少数の私語をする学生は、授業の出席を禁じます。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

## 日本環境史論 I

根崎 光男

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近世日本の人間社会と自然環境  
近世日本の人間と自然との関係を歴史的に問うだけでなく、人間が自然と交流してきた歴史的産物としての環境についても学んでいく。このため、環境の歴史を見出すためのノウハウを学び、環境問題解決の歴史的知見を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

この講義を通して、日本の環境史を理解するのに必要なさまざまな学習スキルを習得する。また歴史資料の読解・分析を通じて歴史事実を論理的に組み立てる思考力を養うとともに、現在の環境問題解決に資する歴史的教養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境歴史学とは	環境歴史学の歩みと役割を学ぶ
第2回	人の暮らしと山林利用	人の暮らしと山林利用の関係を学ぶ
第3回	山林荒廃と人間社会への影響	山林荒廃の要因を地域の多様な事例を通して学ぶ
第4回	環境思想と自然	近世の環境思想を山林荒廃の論理から学ぶ
第5回	幕府の山林保護政策	幕府の山林保護政策の歩みとその具体的な内容を学ぶ
第6回	持続可能な山林保護の諸相	幕府・諸藩・地域社会で実践された山林保護の諸相を学ぶ
第7回	山林保護と地域慣行	各地域で培われた山林保護慣行の多様性を学ぶ
第8回	植林政策の諸相	各地域で実践された植林政策の歴史の多様性を学ぶ
第9回	共有資源の所有と利用	山野河海的所有・利用をめぐる幕府の裁定方針を学ぶ
第10回	山野河海の入会慣行	山野河海の入会利用の多様なあり方と入会権の特質を学ぶ
第11回	狩猟と幕府の環境保全政策	幕府の鷹場環境保全政策と地域社会との関係を学ぶ
第12回	狩猟と地域社会	鷹狩りにみられる鳥類保護の諸相を地域事例を通して学ぶ
第13回	鳥獣害対策と領主・地域社会	鳥獣被害対策と領主・地域社会の対応関係を学ぶ
第14回	人間と鳥獣との共生関係	人間と鳥獣との多様な関係性から共生のあり方を学ぶ
第15回	公害と領主・地域社会	公害の多様性と領主・地域社会の対応関係を学ぶ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。テーマに関連する参考文献を読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

## 【参考書】

『生類憐みの世界』（根崎光男、同成社、2006年）

『犬と鷹の江戸時代』（根崎光男、吉川弘文館、2016年）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、期末試験（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）



HIS300HA

## 日本環境史論Ⅱ

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境について  
江戸町の拡大によって生じた都市・環境問題を歴史的に把握しながら、その問題解決の取り組みを検証し、江戸の都市環境についての理解を深める。このため、環境の歴史を見出すためのノウハウを学び、環境問題解決の歴史的知見を身につけることを目的とする。

## 【到達目標】

この講義では、日本の環境史を理解するために必要なさまざまな学習スキルを習得する。また歴史資料の読解・分析を通じて歴史事実を論理的に組み立てる思考力を養うとともに、現在の環境問題解決に資する歴史的教養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため時としてリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	江戸の都市環境を学ぶにあたって	江戸の町の歴史の基礎とその特質を学ぶ
第2回	將軍の城下町・江戸の都市化	江戸の町の都市化を開発・人口増大などの環境変化から学ぶ
第3回	都市環境の変化と都市計画	江戸の都市計画を環境思想などの視点から学ぶ
第4回	行政と地域社会	江戸の行政組織の多様性とその特質、および問題点を学ぶ
第5回	町の運営と地域コミュニティ	江戸の町の運営と地域コミュニティのありようを学ぶ
第6回	市民生活と住環境	住民の住環境の歴史の変遷を通して身分差別のありようを学ぶ
第7回	市民生活と衣食環境	衣食のありようやそれを支えた江戸周辺地域との関係性を学ぶ
第8回	物直し産業の発達	物直し産業の業態と同業組織の特質について学ぶ
第9回	物直し産業の発達要因と歴史的評価	物直し産業の発達要因とその歴史的評価を学ぶ
第10回	ゴミ問題の発生とその対策	ゴミ問題の発生と住民生活との関係について学ぶ
第11回	ゴミ問題と行政の取り組み	行政のゴミ問題解決に向けた取り組みについて学ぶ
第12回	ゴミ処理システムの運用と課題	幕府のゴミ対策とゴミ処理システムの運用と課題を学ぶ
第13回	火災と消防組織	江戸の火災と幕府・町方の消防組織のあり方を学ぶ
第14回	火災と防災対策	江戸町方における消防組織と多様な防災対策について学ぶ
第15回	信仰・娯楽と癒し空間	江戸の住民生活と信仰・娯楽との関係性を癒し空間の視点から学ぶ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。

テーマに関連した参考文献を読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

## 【参考書】

『「環境」都市の真実』（根崎光男著、講談社＋α新書、2008年）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、期末試験（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

## ヨーロッパ環境史論Ⅰ

梅原 秀元

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学が環境を環境史として積極的に研究対象とするようになってから、まだ半世紀も経っていない。しかし、他方で、環境史の研究の対象・方法は日々革新を遂げている。本講義では、地理的にはヨーロッパを、時間的には近現代を対象として、環境を歴史的に考えるとどのようなことかを学ぶ。

## 【到達目標】

ヨーロッパ環境史について、まず、ヨーロッパにおける戦後の歴史学の展開について概観し、その中で環境やそれに関連するテーマがいつ頃、どのように扱われるようになったのかを理解する。次に、とくに近現代に焦点を絞った場合、環境の歴史を考える上で避けて通ることのできない、近現代のヨーロッパ経済の変化について西洋経済史の成果から学ぶ。

これらの基礎作業ののち、近現代のヨーロッパの環境の歴史を、マクロの視点から検討する。この作業を通じて、ヨーロッパの環境の歴史について理解を深めるとともに、それとの対比で、今の世界や日本における環境について考えるための参照軸を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

担当者が講義を行う。講義後にリアクションペーパーに、考えや感想を書いて提出してもらう。

講義に際しては、映像資料なども可能な限り利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンティールング	講義の構成などを提示するとともに、本講義のテーマを「ヨーロッパ」「環境」「史」に分解し、テーマがいったい何を意味しているのかを議論する。
第2回	歴史学の成立－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（1）	19世紀後半以降のヨーロッパにおける歴史学の確立と展開を検討する
第3回	政治の向こうへ－20世紀のヨーロッパにおける歴史学について（2）	20世紀前半における、社会史と呼ばれる新しいアプローチの出現とそれ以後の歴史学の展開について検討する
第4回	より限定された地域の歴史学－ミクロの歴史学	ミクロ的な視点の歴史学について検討する
第5回	グローバルな視点の歴史学－マクロの歴史学	より広い地域を対象とする歴史学、さらにはグローバルな視点からの歴史学について検討する
第6回	ヨーロッパ経済史（1）産業革命/工業化	産業革命/工業化と呼ばれる経済の転換とヨーロッパ社会の変化について検討する
第7回	ヨーロッパ経済史（2）帝国主義とグローバル経済の展開	19世紀末以降のヨーロッパ列強による帝国主義の拡大とそれに伴うグローバル経済の展開について検討する
第8回	歴史研究における環境について 小括 環境を歴史学の対象とすること	これまでの講義を踏まえた上で、環境を歴史学の対象とすることについて検討する
第9回	鉱物をもとめて：鉱山開発と環境－20世紀の環境をめぐる（1）	鉱山開発とその環境への影響を考える
第10回	食べ物を確保する：農業と土壌－20世紀の環境をめぐる（2）	化学肥料の利用など、近現代の農業と土壌への影響について考える
第11回	煙は発展の象徴？：大気汚染－20世紀の環境をめぐる（3）	近現代のヨーロッパにおいて、空気・大気がどのように扱われてきたのか、その結果人々の生活にどのような影響があったのかを考える。
第12回	淡水の確保：水資源と環境－20世紀の環境をめぐる（4）	人間の生活に欠くことができない淡水について考える
第13回	生物の多様性？：人間・環境・生物－20世紀の環境をめぐる（5）	人間の活動、それによる環境の変化が生物にどのような影響を与えたのかを、近現代のヨーロッパを例に考える。

- 第14回 人口と人間の活動と環境  
— 20世紀の環境をめぐって (6)
- 第15回 総括
- ヨーロッパを例に、19・20世紀における人間と環境の関係を動かしたのについて考える  
環境を歴史学の側からとらえたとき、現在の私たちが、現在の環境についてどのような視点から考えることができるのか・ねばならないのかについて議論する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、19・20世紀のヨーロッパ史をベースにしている。高等学校の世界史の教科書などで該当部分を読んでおくだけでも、講義の理解の助けとなるだろう。その他、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと背景がわかってよい。

#### 【テキスト（教科書）】

適宜レジュメを配布する。

#### 【参考書】

上記のほか、講義の後半では、J.R. マクニール『20世紀環境史』（名古屋大学出版会）を参考にしている。本書を買わなくても、講義の内容を十分に理解できるようにするが、もし手に取ることができれば、講義をより深く理解できるであろう。

その他の参考文献については、その都度紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

レスポンスシートによる平常点（0 - 10 %）と学期末の筆記試験（90-100 %）による。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像をみます

#### 【その他の重要事項】

- ・高校世界史の授業程度の知識を前提として講義を進めますが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにするので、ためらわずに履修してください。
- ・秋学期のヨーロッパ環境史論 II も合わせて受講できるとよいです。
- ・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論 I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

#### 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

HIS300HA

## ヨーロッパ環境史論 II

梅原 秀元

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、19・20世紀のヨーロッパ、とくにドイツを中心とした地域における環境の歴史について、いくつかのテーマを選んで議論する。

#### 【到達目標】

本講義では、19・20世紀のドイツを中心とする地域の環境をめぐる諸問題から、環境と人間の経済活動・資源（森林と木材）、都市と環境（都市と生活環境）、労働と環境、科学技術と環境、ナチスと環境、環境と政治 というテーマを通じて、環境と私たち人間の営みとが、どのような関係を作っていたのか、その関係が作られていく中で、それぞれがどのように変わっていったのか／変わらなかったのか、それぞれがどのように影響しあったのか、といったことを一緒に議論・考える。それを通して、現在の環境をめぐる問題を考える際の手掛かりを身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

全体の概観をおこなったあと、個々のテーマについて講義を行う。必要に応じて、理解の助けになるような画像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品も紹介したい。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンティールング- ドイツ近現代史と環境	ドイツ近現代史研究とそこでの環境について概観するとともに、本講義についての概要を説明する。
第2回	19世紀のドイツ	19世紀のドイツ史について概観する
第3回	20世紀前半のドイツ	20世紀前半のドイツについて概観する
第4回	20世紀後半のドイツ	20世紀後半のドイツについて、主に、ドイツ連邦共和国（旧西ドイツ）を中心に概観する
第5回	「おらが森」と「私の森」- 森林を巡って（1）	18世紀末から19世紀初めのドイツにおける森林とその利用をめぐる問題について、検討する。
第6回	森と産業- 森林を巡って（2）	19世紀初頭にドイツにも到来し、19世紀後半以降著しく進む工業化を背景にして、経済と木材・森林の関係を考える
第7回	「都市は病気にする」- 都市と生活環境（1）	19世紀にヨーロッパを席巻したコレラを例に、伝染病と、その原因となった都市の生活環境について論じる
第8回	都市文化と都市批判- 都市と生活環境（2）	19世紀後半から20世紀初めにかけて、ドイツをはじめとするヨーロッパで見られた都市文化への批判とそれによる自然への回帰・自然の賞賛について概観する
第9回	労働と環境	産業革命による生産現場の状況- 労働の環境- の変化とそれへの対応を概観する
第10回	科学技術と環境	人間の生活世界を科学や技術によって変えることができる・べきである という考え方がどのように出てきたのかを、19・20世紀のドイツを例に検討する
第11回	ナチスと環境保護- ナチスと環境（1）	ナチス期の環境保護について検討する
第12回	ナチス期の農業- ナチスと環境（2）	ナチス期に最終的には弾圧の対象となった有機農業運動を取り上げ、ナチス期における農業を通して、環境について考える。
第13回	原子力開発を巡って- 1960年代以降の西ドイツにおける環境と政治（1）	戦後西ドイツにおける原子力エネルギーの利用について検討する
第14回	緑の党と市民運動- 1960年代以降の西ドイツにおける環境と政治	戦後西ドイツにおける反原発運動を取り上げ、その後のドイツの環境政党の出現や市民運動の展開について考える。

## 第 15 回 総括

これまでの講義の内容を踏まえて、近現代ドイツの環境の歴史を俯瞰する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近現代ドイツ史の概観については、矢野久／アンゼルクム・ファウスト（2001）『ドイツ社会史』（有斐閣）が参考になる。また、高校での世界史の教科書で、19・20世紀のドイツについての部分を読むことも、本講義の理解の助けになるだろう。

## 【テキスト（教科書）】

適宜レジュメを配布する。

## 【参考書】

参考書として、以下のようなものがある。  
ただし、これらは、必ずしも買う必要はない。  
大学図書館や公立図書館で借りるなどして読むことができれば、講義の理解の助けになるだろう。  
19・20世紀のドイツ史：  
矢野久／アンゼルクム・ファウスト（2001）『ドイツ社会史』（有斐閣）  
ドイツ環境史について  
フランク・ユケッター（2014）『ドイツ環境史 エコロジー時代への途上で』（昭和堂）  
フランク＝フランク・ブルュッゲマイヤー／トーマス・ロンメルスバッハー（2007）『ドイツ環境史 19世紀と20世紀における自然と人間の共生の歴史』（リーベル出版）  
ナチス期の農業について  
藤原辰史（2012）『ナチスドイツの有機農業』（柏書房）  
ナチス期の環境について  
フランク・ユケッター（2015）『ナチスと自然保護 景観美・アウトバーン・森林と狩猟』（築地書館）  
戦後西ドイツにおける原子力開発および反原発運動について  
ヨアヒム・ラートカウ／ロータル・ハーン（2015）『原子力と人間の歴史 ドイツ原子力産業の興亡と自然エネルギー』（築地書館）  
ヨアヒム・ラートカウ（2012）『ドイツ反原発運動小史 原子力産業・核エネルギー・公共性』（みすぶ書房）  
がある。

## 【成績評価の方法と基準】

レスポンスペーパー（0 - 10 %）と学期末の筆記試験（90 - 100 %）。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めます。高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにすすめるので、ためらわずに聞きに来て下さい。  
・春学期にヨーロッパ環境史論Ⅰを履修しているといよい。  
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CUA200HA

## 環境人類学Ⅰ

高橋 五月

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅰでは、人間と自然の関係について探求してきた国内外の人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学ぶ。また、環境人類学的アプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深める。

## 【到達目標】

本講義では、身近な環境問題について文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点から深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義をおこなう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介する。
第3回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介する。
第4回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学に考察する研究を紹介する。
第5回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介する。
第6回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義する。
第7回	中間試験	中間試験を行う。
第8回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第9回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義する。
第10回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義する。
第11回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第12回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義する。
第13回	環境思想と運動	環境思想と環境運動から見た人間と環境の関係について講義する。
第14回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義する。
第15回	期末試験	期末試験を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。  
（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

## 【テキスト（教科書）】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

## 【参考書】

同上。

## 【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義中はスライドごとの時間を十分にとるようにします。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CUA300HA

## 環境人類学Ⅱ

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱでは、「サステナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と人類学的アプローチをもとに講義し、議論する。

## 【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する
第2回	サステナビリティとは？（1）	サステナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義する
第3回	サステナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？これまで実行された方策とその課題について講義する
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論する
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論する
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論する
第7回	中間試験	筆記の中間試験を行う
第8回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論する
第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論する
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第11回	災害	災害とサステナビリティの関係について講義・議論する
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第13回	アンソロポシーン	アンソロポシーンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論する
第14回	地球の未来	時間の人類学と環境人類学の接点について、地球環境の未来像について講義・議論する
第15回	期末試験	筆記による期末試験を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

## 【テキスト（教科書）】

資料を配付する。

## 【参考書】

授業中に提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

板書の時間を十分にとるように心がけます。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

CUA300HA

## 環境人類学Ⅲ

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅲは、定員制（上限50名）です。環境人類学Ⅰおよび環境人類学Ⅱの両方を既に履修済みという条件を満たした学生のうち、受講希望者は志望理由書を期日までに提出してください。選考の結果、履修許可を得た学生のみ受講できます。授業では、講義に加えて、学生によるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践します。授業のイメージとしては、講義とゼミが合わさったような感じです。質問等がある方は、第1回ガイダンスに出席する、または教員にメールで連絡を下さい。積極的な応募をお待ちしています！

2017年度のテーマは災害人類学です。災害の文化・社会的側面について日本国内外の文化人類学的研究をもとに学びます。災害とは何か。リスクとは何か。復興とは何か。私たちは、災害にまつわるキーワードについて、知っているようで、その意味について深く考えずに使用していることが多々あります。本授業では、震災にまつわるキーワードの意味を多角的に探求すること、その先に見えてくる文化や社会システムについて考察することを目標とします。従って、本授業の目的は、キーワードを「正しく定義する」ことではありません。学生が自ら疑問を探求し、考察する力を身につけること、またその力を磨くことが最終的な目的です。

## 【到達目標】

- 1) 災害人類学の議論や視点について基礎的な知識を取得する
- 2) 災害にまつわるキーワードについて、批判的に考察する力を取得する
- 3) 国内外の災害事例についての基本的な知識を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

アクティブラーニングを実践するために定員制をとります。そのため、まず最初に受講者の選考を行います。選考基準は以下の2点です。

- 1) 環境人類学Ⅰおよび環境人類学Ⅱの両方を履修済みであること。但し、2017年度に限り、4年生はどちらか1つを履修済みであれば良いとします。
- 2) 9月22日（金）17:00までに所定の受講志望理由書をBT24階のボックスに提出すること

選考結果は9月25日（月）にBT24階の高橋研究室掲示板にて告知します。受講許可を得た学生は引き続き第2回以降の授業に参加をしてください。

授業は、講義に加え、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを行います。プレゼンテーションは、5つのテーマから1つを学生各自が選び、新聞記事などを調査し、自分なりの考えを発表します。テーマは例えば、「日本で最古の災害とは何か」などがあります。「正しい答え」はないので、学生各自が調査をもとに得た知識をクラスメイトと共有し、議論することが目的です。グループワークのテーマは、災害ミュージアムです。国内外の災害事例ごとにグループ分けをし、オリジナルの災害ミュージアム構想をつくり、発表します。ミュージアムづくりを通して、災害を記録すること、記憶すること、伝えることの意味について理解を深めることを目的とします。この授業ではディスカッションの機会を多く設けます。自分の考えを自分の言葉で表現出来るスキル、また人の意見を自分の考えと対比させながら考察を深めるスキルを磨くことが目的です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的や進め方について、また定員制と選考についての説明をする
第2回	震災人類学の意義（1）	文化人類学者が災害を研究する意義について講義、討論する
第3回	震災人類学の意義（2）	文化人類学者が災害を研究する意義について、具体的な事例研究をもとに更に理解を深める
第4回	「災害」とは何か（1）	「災害」とは何か。その意味を探る。
第5回	「災害」とは何か（2）	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第6回	「災害」とは何か（3）	「災害」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第7回	「リスク」と「安全」の意味（1）	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。その意味を探る。
第8回	「リスク」と「安全」の意味（2）	「リスク」とは何か。「安全」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第9回	中間試験	中間試験を行う
第10回	「復興」の意味（1）	「復興」とは何か。その意味を探る。

第11回	「復興」の意味（2）	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第12回	「復興」の意味（3）	「復興」とは何か。具体的な事例研究をもとにその意味を更に探る。
第13回	災害ミュージアム（1）	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第14回	災害ミュージアム（2）	グループごとに災害ミュージアムの構想をまとめ、発表する
第15回	期末試験	期末試験を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献、映画、および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

授業支援システムにアップする

## 【成績評価の方法と基準】

文献感想文（10%）、プレゼンテーション（10%）、グループワーク（10%）、平常点（20%）、中間・期末試験（50%）

## 【学生の意見等からの気づき】

2017年度新規開講

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

TRS200HA

## 環境表象論 I

## 概 裕 史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。「文化的景観」は、もとは手付かずの「自然景観」に対して、人間の暮らしが創った地表のすがたを指す地理学用語です。1990年代、ユネスコがこれに新たな意味づけをして世界遺産の登録基準として採用して以来、エコな地域形成に資する概念として注目が高まっています。典型的には「自然と人間の共同作品」といえるような農林水産業の景観などを思い浮かべるとよいですが、手付かずの自然であっても、古来、宗教上の聖地として自然が守られてきた場所、古典文芸の「名所」として大事にされてきた場所の眺めなどは、人間が意志的に守ってきた「文化的景観」とみなします。また、都市や鉱工業・交通に関する景観も含まれます。そして「景観」の構成要素は可視の有形物に限られません。「無形」の要素や「五感」で感受される要素も含まれ、このような「目に見えない部分」が価値の本質となる場合が多いことに特色があるといえます。「景観」とは、本質的には見た目ではなく、心の中に結ばれる像である、ということを知り、持続可能性豊かな「景観」とはどのようなものなのか、を考えるのに「文化的景観」は好適です。

## 【到達目標】

- ・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。
- ・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながるが多いということに気付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPT や OHC（書画カメラ）を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物の「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第 2 回	ユネスコの「世界遺産」事業概説	併せて国内の世界遺産を紹介
第 3 回	「文化的景観」導入の経緯	「自然遺産」「文化遺産」のほざま
第 4 回	ユネスコによる「文化的景観」の定義・内容	「環境」、持続可能性重視の新視点
第 5 回	日本の対応	「文化財保護法」の新文化財として導入の経緯
第 6 回	「文化的景観」保全の多面的効用	文化庁種別Ⅰ類（農林漁業の持続可能性豊かな土地利用の景観）を例として「センス・オブ・プレイス」も併せて
第 7 回	「景観」・「風景」・「原風景」	
第 8 回	近江八幡から学ぶべきこと	国内の新文化財「重要文化的景観」第 1 号
第 9 回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（1）	宗教・信仰の聖地として守られてきた場所
第 10 回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（2）	古典文芸の“名所”として守られてきた場
第 11 回	Ⅱ類の拡大解釈—その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創る／心の中のイメージの重要性 など
第 12 回	生きて変化する文化財として（1）	「五感」で体感される周期変化。日本人が季節感覚豊かな理由とその価値
第 13 回	生きて変化する文化財として（2）	「伝統」の非固定性／「有機的に進化する」景観。四万十川や沖縄県竹富島を事例に
第 14 回	「伝統」継承のための階層的発想	「無形」の文化尊重の潮流とも関連づけて
第 15 回	無形文化尊重の潮流／概念発展の可能性	視覚のみから「五感」へ／鉱工業や都市の産業・生活に関わる景観

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

## 【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

## 【参考書】

概裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第 5 章、ミネルヴァ書房、2012）ほか、授業のなかで紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

定期試験 85 %、授業マナー 15 %（授業の初回に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配布します。）

## 【学生の意見等からの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して（当然ながら）雰囲気が悪くなる場合があります。しかし大教室で常時静粛な授業環境を確保する効果があるため、方針は変えませんが、また、「雑談」「余談」的なみだりな話は別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、その話題に関連して適度に隣の友人と話したり、笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらうのがベストと思います。また、写真等をたくさんお見せしますが、専用の時間を設けるといってかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態を見るため、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサステイナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

・旧科目名称「環境表象論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

TRS300HA

## 環境表象論Ⅱ

## 梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「五感」が形づくる表象・風景：「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

## 【到達目標】

・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できること。

・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

「文化的景観」については、「環境表象論Ⅰ」のシラバス参照。表象論Ⅰと連続性が強いので、まずその概要の復習から入り、その後は便宜的に世間一般の五分類に沿って、項目を設けます。授業計画各回のテーマは視覚・聴覚中心にみえますが、特に「音風景」の中で嗅覚・触覚・味覚の話題も盛り込んでゆきます。「五感」はふつうは本人がリアルタイムに実体験する感覚を指し、これによる表象は「知覚表象」「感覚表象」と呼ばれますが、持続可能な地域づくりには、「記憶表象」「想像表象」と呼ばれる類で、かつ個人を超えた地域の集団的な心意に関わるものが重要と考えて、クローズアップしてゆきます。そしてその資料として、日本の伝統的な文学や民間伝承を紹介する時間も多くとる予定です。

授業の形式は、ふつうの講義形式。表象論Ⅰ同様、現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、Ⅰに引き続き、視覚的画像をみることがメインではなく、むしろ春学期以上に「目に見えないもの」を重視した内容になります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション： 「五感」のエコロジーと文 化的景観	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習も兼ねて
第2回	日本の「いろ」の話（1）	日本文化における色彩、配色の特色
第3回	日本の「いろ」の話（2）	日本文化における「色づかい」の二面性
第4回	日本の「いろ」の話（3）	3回のまとめ。日本人にとって「いろ」とは何か
第5回	光と影・闇（1）	「光環境」・灯りに配慮したエコなまちづくり
第6回	光と影・闇（2）	「エコ」の視点からの陰翳・闇の魅力と重要性
第7回	音の風景とは何か	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（1）
第8回	日本人の「風景を聴く」 伝統	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（2）
第9回	環境省「残したい日本の 音風景100選」を窓口に （1）	「自然」の音風景の具体例
第10回	「残したい日本の音風景 100選」を窓口に（2）	生き物に関わる音風景の具体例
第11回	「残したい日本の音風景 100選」を窓口に（3）	生業や交通などに関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第12回	「残したい日本の音風景 100選」を窓口に（4）	伝統祭事に関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第13回	方言をめぐる（1）	音風景の一種として、地域文化の核である地域のことばに注目
第14回	方言をめぐる（2）	同上
第15回	まとめ	「文化的景観」の中身の把握やその活用に、五感の視点が重要であることの確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

## 【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

## 【参考書】

環境表象論Ⅰに同じ。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 85 %、授業マナー 15 %（授業の初回に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配ります）。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業環境については、環境表象論Ⅰとはほぼ同様です。

昨年度は、春学期の「表象論Ⅰ」の授業を計画通り完了できなかったため、表象論Ⅱの前半に、本来はⅠで話すべき内容を話し、その結果、一部がシラバスとは異なる内容になったことが反省点です。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

BSC200HA

## サイエンスカフェ I

石井 利典

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習からはじめます。さらに、よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学もできるだけ授業に取り入れてゆきます。

## 【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を受講するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第1章 物質を構成するミクロな世界	原子の構造と性質、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 反応の進行をきめるもの（1）	活性化エネルギーと反応速度、触媒
第4回	第3章 反応の進行をきめるもの（2）	化学平衡
第5回	第4章 酸と塩基	溶液 pH の計算、酸と塩基の反応、中和滴定
第6回	第5章 酸化と還元	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第7回	第6章 有機化学の基礎（1）	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第8回	第6章 有機化学の基礎（2）	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第9回	第7章 身近な有機化合物（1）	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第10回	第7章 身近な有機化合物（2）	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第11回	第7章 身近な有機化合物（3）	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第12回	第7章 身近な有機化合物（4）	合成繊維、合成樹脂
第13回	第8章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第14回	第9章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ
第15回	期末テスト	第1回講義～第14回講義の内容に関する筆記テスト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の最初の10分間程度は、前回授業の確認テストを行います。前回の授業内容を配布したプリント類、ノートで必ず確認してください。欠席者は授業支援システムにログインして、その日に配布したプリント類を各自ダウンロードしてください。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布します。授業で取り扱ったすべてのプリント類は、授業支援システムからダウンロードできます。

## 【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

## 【成績評価の方法と基準】

毎授業時に実施する確認テスト（10分間程度）（50%）と期末試験（50%）の合計点で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、身近な科学に関するテーマも多く取り扱ってゆきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる情報機器

## 【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



BLS200HA

## サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：木1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、高校の生物学の知識を基本としながら、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

## 【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。  
学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。  
講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。 ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。 口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞
第11回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚
第13回	感覚・知覚	視覚について ビデオ鑑賞
第14回	発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞
第15回	試験	授業内試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。  
関連の話題についての知識を収集する。

## 【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

## 【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を行う。持ち込みは不可。

## 【学生の意見等からの気づき】

本シラバス作成時点では2014年度のアンケート結果を受領していないため、受領後にアンケート結果を反映させた授業改善を行うものとする。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

BAB200HA

## サイエンスカフェⅢ

中井 達郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は、自然環境に取り巻かれ、それを基盤として生存し、生活しています。この授業では、その自然環境、特に生物的自然環境を中心に、生態学、地生態学を学びます。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、生物を中心とした自然の仕組みについて基本的な知識を身に付けることを目的とします。

## 【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生態学の基本概念としての生態系
- ②様々な生態系の特徴と仕組み
- ③生物・生態系の多様性、豊かさ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

「生態系」、「生物と環境との相互作用」、「地球史と生態系」、「生態系の進化、生物の進化と適応」、「主な生態系の特徴と機能」、「生物・生態系の多様性、豊かさ、人との関わり」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、自然のしくみを把握する視点、時空間でとらえる視点
第2回	生態学・環境科学の基本概念としての生態系	循環、食物連鎖、生物同士の関係性
第3回	生物と物理・化学的環境との関係性	ハビタット、生息・生育環境、地域生態系
第4回	生物と地球の進化（1） 古生代まで	生命の誕生、地球の大気と光合成、大絶滅と大進化
第5回	生物と地球の進化（2） 古生代以降	陸上への進出、オゾン層、恐竜の絶滅、哺乳類と人類の登場
第6回	森林生態系	森林の仕組みと機能、植生分布と気候帯
第7回	湿原生態系	ウェットランド、高層湿原、低層湿原
第8回	淡水生態系	河川・湖沼の生態系、流域生態系、エコトーン
第9回	海洋と海岸・浅海域の生態系	海流、回遊魚、深海、砂と磯、干潟、サンゴ礁、底生生物
第10回	河川、海岸のダイナミックな変化と生息・生育場所	流れ、波、土砂の動き、ダイナミズム
第11回	島嶼生態系	隔絶性、固有の生物相、サイズ、脆弱性、移入種、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第12回	生物分布と地球史	生物地理区、プレート・テクトニクス、気候変動、海洋島と大陸島、固有種、遺存種、有袋類
第13回	生物の多様さ、豊かさ	遺伝子の多様性、生物種の多様性、人とのかかわり、資源
第14回	生態系・地域の多様さ、豊かさ	人とのかかわり、文化、社会、価値
第15回	まとめ	これまでの復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。

## 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

## 【その他の重要事項】

自然環境論Ⅳ（秋期）は本講義をより深めたものとなっていますので、併せて受講することが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

GEO200HA

## 自然環境論 I

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

## 【到達目標】

自然環境（気候や地形、水循環など）の地域的差異とそのメカニズム、歴史的な変遷の概要を把握し、人間社会が自然環境に左右される側面を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

われわれをとりまく自然環境は地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決していない。自然地理学のアプローチを通じ、強く連関しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	環境決定論・環境可能論・その後、自然地理学、自然災害
第2回	大気のはくみ・大気大循環	地球のエネルギー収支、ハドレー循環等、偏西風等
第3回	海洋のはくみ・海洋大循環	表層循環・深層循環、潮汐と潮流
第4回	気候要素・気候因子・気候区分	気温・降水・風、緯度帯・海流・地形、ケッペンの区分・アリソフの区分
第5回	日本列島の気候	気団と海流、めぐる四季、偏西風の蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候、暦と二十四節気
第6回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、花粉、珪藻
第7回	グローバルな気候変動と海水準変動	氷期と間氷期、酸素同位体比、メカニズム、昨今の地球温暖化
第8回	固体地球のはくみ・プレートテクトニクス	プレートとは、プレート境界、火山フロント・中央海嶺・ホットスポット
第9回	地震と火山噴火	島弧-海溝系、プレート境界・活断層、大地震の長期予測、火山噴火
第10回	地形をつくる力・地形のスケールと成り立ち	外的営力、内的営力、外来作用、地形種
第11回	日本列島の地形と地質	現在の地形形成環境、日本列島の成り立ち、鉱物資源
第12回	水	水のかたち、収支・循環・滞留時間、地下水、水利用、都市の水循環
第13回	土壌	因子、土壌型、日本の土壌、世界の土壌、砂漠化
第14回	植生・動物	自然植生、現存植生、潜在自然植生、植生遷移、動物分布と成り立ち、外来種・絶滅種
第15回	人間社会が自然環境に及ぼす影響	自然環境の保全、地球環境問題

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価の方法と基準】

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

## 【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

GEO200HA

## 自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いかなる社会も土地の個性に根ざして成り立っている。本講義では「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

## 【到達目標】

大地の個性と成り立ちを知って土地が変貌する必然性を受容し、土地条件や土地利用といった視点から人間社会のあり方を考える素養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。その実態について、背景となる自然的要素を総合的に鑑みつつ、主に地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査の生データを含むスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会・東京の自然史	土地条件、土地利用、自然災害、1923年大正関東地震と東京中心部の地形・土地条件・歴史
第2回	日本列島の自然環境の概要	湿潤変動帯といわれる所以
第3回	外的営力・内的営力のメカニズムと地域性	太陽エネルギーと重力、地球内部の熱と重力、地域性
第4回	地図・空中写真・DEM	測地系、地図投影法、縮尺、等高線、航空写真、衛星画像、DEM（数値標高モデル）、地形判読
第5回	GISとGPS	GIS（地理情報システム）・GPS（全球測位システム）
第6回	山地の隆起と解体	山のすがた、風化と侵食、山地形成論、水河地形
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用	扇状地、氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用
第9回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、グローバルな気候変動と海水準変動、地殻変動、土地利用
第10回	変動地形の成り立ち	活断層、地震性隆起、1703年元禄関東地震、1923年大正関東地震
第11回	火山地形の成り立ち	マグマの組成、噴火様式
第12回	海底地形の成り立ち	大陸棚、陸棚斜面、プレート境界、大洋底、海底火山
第13回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、関東ローム層、段丘面に基づく隆起量の見積もり
第14回	関東平野の地形発達史と古地理	丹沢山地、多摩丘陵、下末吉台地、武蔵野台地、立川面、沖積低地、縄文海進、江戸期以降のまちづくり
第15回	人間社会が土地に及ぼす影響	歴史時代の地形改変、鉄穴流し、切土盛土問題、砂漠化

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価の方法と基準】

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

GEO200HA

## 自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。その成り立ちを知り（とくにプレート境界と活断層について）、地震発生環境の地域的個性、そして人間社会のあり方を見つめなおす。

## 【到達目標】

変動地形と古地震の調査法を学んだ後、日本列島各地の変動地形について、海外の事例を参照しつつ地域的差異・メカニズム・歴史の変遷の概要を理解し、地殻変動の必然性を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

日本列島はプレート境界に近く地殻変動が顕著であり、変動地形がよく発達する。これらは大地震発生と密接に関わって成立しており、地震災害はわが国の宿命ともいえる。本講義では主に変動地形学のアプローチを通じ、日本列島の地形的枠組みや地震発生環境の理解をはかる。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示すスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地形環境の概要	プレートテクトニクス、島弧-海溝系
第2回	変動地形と地震発生環境	地形のスケールと種類、地形をつくる力、変動地形、プレート境界・活断層
第3回	変動地形と古地震の調査法	地形調査、地質調査、物理探査
第4回	歴史地震	歴史記録、文献史料（文献資料）、時代性
第5回	地形の調べ方	空中写真の実体視判読、GISとDEM
第6回	プレート沈み込み帯・プレート衝突帯	インドネシア、ヒマラヤ・チベット
第7回	活断層	サンアンドレアス断層、北アナトリア断層
第8回	2011年東北地方太平洋沖地震	概要、メカニズム、地殻変動
第9回	千島海溝～日本海溝	分布、歴史地震、超巨大地震、地殻変動
第10回	相模トラフと神縄・国府津-松田断層帯	分布、歴史地震、地殻変動、首都直下地震
第11回	南海トラフと富士川河口断層帯・琉球海溝	分布、歴史地震、地殻変動、日向灘
第12回	1995年兵庫県南部地震	概要、メカニズム、地震の歴史
第13回	東北日本の変動地形と活断層	北海道～下北半島、日本海東縁、糸魚川-静岡構造線断層帯、立川断層帯
第14回	西南日本の変動地形と活断層	中部山岳地域、飛騨・美濃、近畿三角帯、中国地方、四国の中央構造線断層帯、九州
第15回	地殻変動と地震災害	日本列島の地震発生環境

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価の方法と基準】

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

知識と思考力に加え、基礎力や応用力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

## エネルギー論 I

北川 徹哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【関連の深いコース】  
環境サイエンスコース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

## 【到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第2回	エネルギーの資源、流通、消費	1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第3回	エネルギーを表す量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第4回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第5回	熱と力	サイクルとは何か、熱力学第1・第2・第3法則
第6回	エネルギー使用と仕事	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第7回	エントロピー	エントロピーとは何か
第8回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	熱と水の関係、発電で用いられるサイクル
第10回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分
第15回	原子力発電の安全性と国際組織	多重防護、スクラム、原子力安全委員会、国際原子力機関

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておくとうまい。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実績、第5～8回：前回の講義内容の見直し、第9回：水の性質、第10～13回：我が国の電力会社と発電所、第14回：原子力の時事問題、第15回：我が国の地震

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。

試験（50%）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。科学的な内容については焦点を絞って取り上げます。わからないところは質問しましょう。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

SHS200HA

## 地球科学史 I

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

## 【到達目標】

略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなく、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を詳述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観(1)	ミレト学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観(2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観(1)	デカルトの『哲学原理』(1644)の地球論
第8回	科学革命期の地球観(2)	ステノの『プロドロムス』(1669)の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観(3)	ライプニッツの『プロトガイア』(1691)啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観(1)	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観(2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の火成説
第12回	18世紀の地球観(3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球観の歴史

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末の試験を中心にして総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

SHS200HA

## 地球科学史 II

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

## 【到達目標】

地震学を含めて地球科学の可能性と限界を歴史的観点から理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

18世紀末からプレートテクトニクス誕生までの200年間、それぞれの時代の人々が地球表層の岩石圏というもともとも基本的な自然環境をどのように理解しようとしてきたのかを、人が本当に地球をかけがえのない星として理解するためのに必要な科学のあるべき姿とは何かを念頭に置きながら説明していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	Dinosaur (恐竜)の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』(1859)
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュティレ：地相斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソトプシイ説と地震学
第10回	大陸移動説(1)	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説(2)	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命(1)	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命(2)	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球科学

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末の試験を中心にして総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

BOM200HA

## 環境健康論 I

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方で、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。今後高齢化社会が進むにつれて、課題とされる健康寿命の延長に何か必要であるか？健康で過ごすにはどうすればよいか？適度な運動、自然素材の食事、十分な睡眠など、自らが考え実践できることは沢山ある。

本講義では、普段何気なく過ごしているその内容に焦点をあて、いかに生活習慣が大事であるかを、がんに関する多目的コホート研究などの資料をもとに考察していく。

## 【到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. ホメオスターシスと病気の関連性について述べることができる。
3. 日本人の死因について述べるができる。
4. 人間のがんに関わる要因について説明できる。
5. 創傷の治癒過程について説明できる。
6. 免疫の働きと役割について説明できる。
7. 腸内細菌と免疫系の関係を述べるができる。
8. 食べることの重要性を述べるができる。
9. 治癒を促進する食品が説明できる。
10. 治癒と排出の関係を説明できる。
11. 治癒を妨げるものを列挙できる。
12. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
13. 自らの健康感を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVDを用いて視覚的に効率よく知識の伝達を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	ホメオスターシスと病気になる人となりにくい人	人間に備わっているホメオスターシスの意義について説明し、病気の関連性を検討する。
第3回	がんの基礎知識 I	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から飲酒、喫煙に関わる内容を解説する。
第4回	がんの基礎知識 II	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から食生活、運動習慣に関わる内容を解説する。
第5回	免疫系と自律神経系：免疫力アップは腸内細菌の元気から	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを説明する。また免疫系と自律神経系との関わりを腸内細菌の働きと合わせて考察する。
第6回	治癒の本質：治癒の3局面（反応・再生・適応）	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力（自然治癒力）について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第7回	創傷の治癒：線維の増殖、癒痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを解説する。
第8回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について解説する。

第9回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性を解説する。
第10回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人間は日々の摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気の関連性を解説する。
第11回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。
第12回	有害物質から身を守る	水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
第13回	ところが治癒に果たす役割：治癒とところの相関関係（笑いが地球を救う）	精神のおよび感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
第14回	成熟した患者になるために：治療は外から、治療は内から	治療(cure, treatment)と治癒(healing)の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。
第15回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

## 【参考書】

健康・体力づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店  
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社  
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫  
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書  
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)により評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

## 【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

BOM200HA

## 環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。またアメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しが進められ、多くの人が日常的にとり入れ、その効果を実感している。

本講義では、世界におよそ600種あると言われている補完代替医療のうち、代表的ないくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追求する。

## 【到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVDを用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：講義の概要、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	補完代替医療の健康観Ⅰ	NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第3回	補完代替医療の健康観Ⅱ	ドイツのがん治療の現状をDVDを視聴しながら解説する。
第4回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅰ	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第5回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第6回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第7回	補完代替医療システム：中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第8回	補完代替医療システム：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第9回	補完代替医療システム：インド伝統医学（アーユルヴェーダ、ヨガ）	インド地域を中心として発達した5000年の歴史があるアーユルヴェーダ、ヨガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第10回	精神・身体相互介入による医療：瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禅」との関連性を解説する。

第11回	生物学的療法：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われている、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第12回	手技および身体を介する療法：按摩・指圧・マッサージ	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。
第13回	手技および身体を介する療法：カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジー	カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジーについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第14回	エネルギー療法：ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第15回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

## 【参考書】

補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書  
 ホメオパシー医学への招待 松本丈二著 フレグランスジャーナル社  
 標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版  
 近代中国の伝統医学 ラルフ・C・クロイツァー著 創元社  
 傷寒論を読もう 高山宏世著 東洋学術出版社  
 アーユルヴェーダとヨガ 上馬場和夫著 金芳堂  
 人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）により評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース



PLN200HA

## 気候変動論 I

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

### 【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。また、この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	気候変動研究の歴史	気候変動（とくに地球温暖化）がどのように理解されてきたか、その歴史を概観する。温室効果の発見、キーリング曲線、IPCC など。
第3回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第4回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第5回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第6回	地球の構造	地球の構造と元素組成を学びながら地球全体を概観する。
第7回	大気構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第8回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第9回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第10回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第11回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気窓、アルベド、温室効果など。
第12回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第13回	放射平衡	大気多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第14回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで指示をする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

### 【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

### 【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

### 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

EAE200HA

## 気候変動論Ⅱ

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても解説する。

## 【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。
第12回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第13回	気候変動をとりまく動き	地球温暖化の周辺の動向について考える。懐疑論についても考察する。
第14回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を簡単に紹介する。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで指示をする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

DES300HA

**自然環境政策論 I**

廣瀬 光子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人類が今後も長期にわたり地球で暮らしていくためには、自然環境を保全・管理し、持続可能な利用を実現することが不可欠ですが、様々な課題への対応に苦慮しているのが現状です。目的の実現のためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論 I（春期）では、人間を取り巻く自然環境の現状を理解し、特に生物多様性の保全に関する日本国内の政策を中心に考究することを目的とします。

**【到達目標】**

以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①日本の自然環境の特性
- ②人間活動によって引き起こされた諸問題
- ③人間による影響を減らすために取り組まれてきた主な保全対策（主に自然環境の保全に関わる法律の概要とそれにより進められる施策）

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

到達目標を達するために、授業では、(1) 保全対象となる自然環境とそこに生育・生息する生物の現状、(2) それらに人間が働きかけることによって引き起こされる諸問題、(3) 日本の主な自然環境保全制度について、順に学びます。またそれぞれの保全対象や保全制度については、主に生態系と種に分けて、個別に詳しく取り上げていきます。

特に保全制度については、国内の事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね、到達目標に向かいます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、自然保護問題の現状とそれに対する政策の役割
第 2 回	森林・草原をめぐる課題	森林・草原の成り立ち、管理、課題
第 3 回	湿地をめぐる課題 (1)	陸域－河川・湖沼の成り立ち、管理、課題
第 4 回	湿地をめぐる課題 (2)	海域－干潟・海洋の成り立ち、管理、課題
第 5 回	里山をめぐる課題	里山の成り立ち、管理、課題
第 6 回	日本の野生生物の特徴	ホットスポット、絶滅危惧種、外来種
第 7 回	日本の自然環境に関わる保護制度	生物多様性の概念、生物多様性保護制度
第 8 回	生態系の保全に関わる制度 (1)	保護林・自然公園を中心に
第 9 回	生態系の保全に関わる制度 (2)	自然環境保全地域・天然記念物を中心に
第 10 回	生態系の保全に関わる制度 (3)	自然再生、環境影響評価を中心に
第 11 回	野生生物の保護制度 (1)	希少種の保護－レッドリストと取り組み事例
第 12 回	野生生物の保護制度 (2)	外来種問題－導入の経緯とその影響、対策の事例
第 13 回	野生生物の保護制度 (3)	野生動物の保護管理－鳥獣による被害の現状とその対策
第 14 回	野生生物の保護制度 (4)	海洋生物の保護管理－持続可能な利用と保全の両立
第 15 回	まとめ	各回のふりかえり、質疑など

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日頃接するメディアや、日常生活で見聞きする多くの事柄の中で、自然環境の現状やその課題に関わることに對する関心を払うよう努めます。

**【テキスト（教科書）】**

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

**【参考書】**

生態学から見た自然保護地域とその多様性保全（講談社）  
改訂 生態学から見た野生生物の保護と法律（講談社）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点と期末試験により評価します。  
・期末試験（80%）

3つの到達目標に関する記述式の問題で、目標への到達度を評価します。

・平常点（20%）

毎回の授業で配布するアクションペーパーに書かれた内容および、授業の中での質問についての回答をもとに、授業の理解度や到達目標に対する興味関心とそれを学ぶ意欲を評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

**【その他の重要事項】**

自然環境政策論 I（春期）と II（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェ III（生態学）（春期）と自然環境論 IV（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

**【関連の深いコース】**

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

DES300HA

## 自然環境政策論Ⅱ

新井 雄喜

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅱでは、世界各国で発生している自然環境破壊の現状について理解を深めると共に、そうした現状に対する国際的な取り組み事例を学び、今後日本及び国際社会が、どのようにして人間と自然とが共存できる社会を構築していくべきなのか、考究することを目的とします。

## 【到達目標】

主に以下の3点について理解を深め、自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。

- ①世界各国において発生している自然環境破壊の現状と問題の構造
- ②各国における自然環境保全のための具体的な取り組みとアプローチ
- ③今後、日本及び国際社会が、人間と自然とが共存できる社会を構築していくためにできること・すべきこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

世界各国における自然環境破壊の現状と問題の構造、各国における自然環境保全の取り組み事例、国際協力を通じた自然環境保全のアプローチ、人間と自然とが共存できる社会を構築していくためには何をすべきなのか等といった事項について、講義及び演習を通じて理解を深め、目標達成を目指します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・世界における自然環境破壊の現状	講義の進め方について説明の後、地球規模で急速に進む森林、湿地の減少と劣化、生物多様性の消失、気候変動の現状について学びます。
第2回	国際社会における自然環境保全に関する議論の動向と国際環境協力の役割	生物多様性条約、ラムサール条約、気候変動枠組条約等の国際条約や持続可能な開発目標（SDGs）、国際環境協力の役割について学びます。
第3回	国際協力を通じた森林保全の取り組み①（ラオス）	森と共にあるラオスの人々の暮らしと、森林保全との両立を目指す取り組みについて学びます。
第4回	国際協力を通じた森林保全の取り組み②（エチオピア）	エチオピアにおける森林減少の実態と、森に自生するコーヒーの環境認証を通じた森林保全の取り組みについて学びます。
第5回	国際協力を通じた生物多様性保全の取り組み（コスタリカ）	コスタリカにおける野生生物保護区管理、生態系サービスへの支払い制度、エコツーリズム等の取り組みについて学びます。
第6回	国際協力を通じた気候変動対策の取り組み①（インドネシア／REDD+）	インドネシアにおける温室効果ガス排出の現状と森林保全を通じた温室効果ガス削減（REDD+）の取り組みについて学びます。
第7回	国際協力を通じた気候変動対策の取り組み②（インドネシア／泥炭火災抑制）	インドネシアの泥炭湿地帯における火災の実情と、その抑制・予防を通じた温室効果ガス削減の取り組みについて学びます。
第8回	国際協力を通じた持続的自然資源管理の取り組み①（マラウイ）	森林伐採やそれによる土壌侵食が進むマラウイにおける持続的自然資源利用と生計向上へ向けた取り組みについて学びます。
第9回	国際協力を通じた持続的自然資源管理の取り組み②（ケニア・インドネシア）	ケニア・インドネシアにおける持続的自然資源管理（コミュニティ林業等）の取り組みについて学びます。
第10回	国際協力を通じた湿地保全の取り組み（ウガンダ）	ウガンダにおいて湿地が果たす役割と、同国における湿地の保全と賢明な利用を推進するための取り組みについて学びます。

- 第11回 開発事業と環境社会配慮  
①生態系配慮 世界各国で実施されるインフラ開発事業が生態系に及ぼす影響を最小化するための取り組み、戦略的環境アセスメント等について学びます。
- 第12回 開発事業と環境社会配慮  
②先住民民族 今も自然と深いかかわりを持つ先住民の暮らしと、開発事業が彼らに及ぼす影響、またその最小化の方法について学びます。
- 第13回 自然環境保全のための環境教育 世界各国の事例をもとに、先進国・途上国における環境教育・持続可能な開発のための教育の方法や役割について学びます。
- 第14回 国際環境協力の経験から得られた教訓と今後の展望 過去に世界各国において実施された国際環境協力事業から得られた教訓等をもとに、今後の国際環境協力が目指すべき方向性について考えます。
- 第15回 これからの日本と国際社会ができること・すべきこと 今後、人間と自然とが共存できる社会を構築していくため、日本及び国際社会は何をすべきなのか、考えます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ等から報じられる環境分野のニュースの見聞や、森・川・海・公園への訪問等を通じて、自然環境やそれらを取り巻く問題、自然と人間とのかかわりなどについて関心を払うこと。

## 【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、写真や映像を多く用いながら具体的な事例紹介に努め、丁寧に理解を促していきます。また、適宜演習を取り入れることにより、学生の能動的・主体的な学習を促します。

## 【その他の重要事項】

- ・自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていきますので、併せて受講することを勧めます。
- ・自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。
- ・講義改善や理解促進の目的で、適宜アクションペーパーを提出していただきます。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース

ENV300HA

## 環境科学 I

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【関連の深いコース】  
環境サイエンスコース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、IIIのいずれかだけを履修してもかまいません。

## 【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小
第 14 回	基準の決め方（第 6 章）	環境基準と排出基準
第 15 回	まとめ	全体のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

## 【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

## 【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第 16 巻，第 1 号，pp.71-85

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100 %）。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

ENV300HA

## 環境科学Ⅱ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

## 【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響、国際交渉
第6回	気候変動・その3（第8章）	京都議定書、京都メカニズム
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境大気汚染（第9章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境の評価（第12章）	環境アセスメント、L C A、環境ラベル
第13回	環境と貿易	貿易は環境に悪影響を及ぼすか？ G A T T、W T O
第14回	国際環境協力	開発援助の環境配慮、環境O D A
第15回	まとめ	全体のとりまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

## 【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100%）。受講生がおおむね100名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

## 【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

ENV300HA

## 環境科学Ⅲ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

## 【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造
第9回	土壌（2）	土壌の機能
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	遺伝資源	遺伝子の多様性、名古屋議定書
第12回	金属（1）	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第13回	金属（2）	レアアース、レアメタル
第14回	世界の資源消費	人口増加、経済発展と資源消費
第15回	まとめ	今後の資源利用のあり方

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。

## 【参考書】

藤倉良(2015)増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（天然資源の科学）」を習得済みの場合、本科目の履修はできません。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

SOM300HA

## 衛生・公衆衛生学Ⅰ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を迫り、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

## 【到達目標】

各種の健康問題の実情を学び、学生が取るべき健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、何が問題なのかを知り、どのような飲酒習慣を身に付けていくべきかを考える。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え
第2回	予防医学の基本的概念	予防医学の基礎について
第3回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第4回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患
第5回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病の予防について
第6回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第7回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み、
第8回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病 禁煙について
第9回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第10回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について ビデオ
第11回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会 健康問題
第12回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題について 高齢者虐待
第13回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第14回	感染症	性感染症・食中毒
第15回	授業内試験	試験実施

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

## 【参考書】

開講時に指定する

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験を最終講義日に授業内で行う。持ち込みは不可。原則として出席はとらないが、感想文などを求めることがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

大人数のため、おしゃべりがうるさいことがあるが、適宜注意をして静かに講義が進められるように配慮する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

SOM300HA

## 衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。

## 【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。日本の医療の現状について学び、患者としての受療行動を考える。また、生命倫理の諸問題について取り上げ、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について、特に近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	母子保健・学校保健	母子保健・学校保健 就労女性の母性保護 ワークライフ・バランス
第10回	社会保障	社会保障制度について 日本の医療制度
第11回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務
第12回	生命倫理②	安楽死・尊厳死 医療訴訟
第13回	生命倫理③	遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第14回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第15回	授業内試験	試験の実施

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に復習を行う。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

## 【参考書】

開講時に指定する

## 【成績評価の方法と基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。



【学生の意見等からの気づき】

大人数の講義のため、騒がしいことがあったが、適宜注意を促して静粛な環境で講義を進められるように努力する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。現在、わが国においては年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えており、精神的な問題を抱える人の数が大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では、とくに精神関連の話題を取り上げ、メンタルヘルスについての幅広い知識を身につけていく。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようになることを目指す。

精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除いて行くことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト、配布資料、パワーポイントを用いながら講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスクエア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺の現状
第3回	メンタルヘルスクエア②	産業保健におけるメンタルヘルスクエア 過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスクエア③	快適職場について
第5回	メンタルヘルスクエア④	ストレスについて こころの健康を保つために
第6回	精神障害	睡眠障害 よい睡眠をとるために
第7回	精神障害	気分障害
第8回	精神障害	新型うつ病
第9回	精神障害	摂食障害
第10回	精神障害	心身症、PTSD
第11回	精神障害	統合失調症
第12回	精神障害	不安障害
第13回	精神障害	心身症、摂食障害
第14回	精神保健	まとめ
第15回	授業内試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に復習を行う。新聞をよく読む。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年  
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込みはテキストのみ可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の講義のため、騒がしいことがあるが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）、環境サイエンスコース

INE300HA

## エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【関連の深いコース】  
環境サイエンスコース

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

## 【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策（電力を中心に）
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、新エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車の種類と性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱発電、海洋温度差発電
第14回	燃料電池	EVとFCV、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ
第15回	エネルギー貯蔵	エネルギー貯蔵方法の種類と特徴

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておくとうまい。第1回：エネルギーのCO<sub>2</sub>換算、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題、第15回：回生と蓄電

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）：各種再生可能エネルギーの利用方法に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。試験（50%）：各種再生可能エネルギーの仕組みや原理、環境問題への貢献などに関する知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。

EAE300HA

## 大気と社会 I

丸本 美紀

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気象や気候は古代より人間生活に密着したものであり、常に人間生活に影響を及ぼしてきました。「大気と社会 I」においては、人間が住む空間において気候がどのように形成されているのか、気候の構成要素や表現方法についてと、日本の気象災害の事例を中心に気候や気象の人間社会への影響について学んでいきます。

## 【到達目標】

1. 気候の構成要素から、日本の気候の特徴を説明することができる。
2. 日本の主な気象災害について、その要因も含めて説明できる。
3. 身近な生活において、どのように気候の影響を受けているのか、考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式で行います。授業内で適宜ミニレポートを提出してもらいます。質問も随時受け付けます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	気象・気候の基礎	人間を取巻く環境としての気候、気象と気候の違い、二十四節気七十二候
第 2 回	大気の構造	大気の垂直構造、大気大循環、地球の熱収支と水収支
第 3 回	気候の表現方法 1	気候要素と気候因子、気候のスケール、気候指数
第 4 回	気候の表現方法 2	世界の気候区分、日本の気候区分（内陸気候、瀬戸内気候、盆地気候）、平年値と年候、静気候と動気候
第 5 回	日本の気候 1	気象観測の方法、日本の気象観測網
第 6 回	日本の気候 2	日本周辺の気圧配置と季節による分類、シンギュラリティー
第 7 回	春の気象災害	春の天気図パターンとメイストーム（雹、竜巻、ダウンバースト）
第 8 回	夏の気象災害 1	梅雨の天気図パターンと集中豪雨、やませと冷害
第 9 回	夏の気象災害 2	盛夏期の天気図パターンと猛暑、干害
第 10 回	秋の気象災害 1	秋の天気図パターンと台風
第 11 回	秋の気象災害 2	秋雨前線、霧
第 12 回	冬の気象災害	冬の天気図パターンと山雪・里雪、局地不連続線
第 13 回	局地風	海陸風、日本の局地風（フェーン、だし風、おろし風）と風害、屋敷林、自然エネルギーへの転換
第 14 回	生物季節	生物季節観測、桜前線、紅葉前線、温度指数
第 15 回	まとめ	気候の社会生活への影響－環境決定論と環境可能論、災害の構造と日本の気候災害の地域性

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

天気予報や新聞、インターネットなど身近な気象・気候情報に関心を持っておくようにしましょう。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。随時、プリントを配布します。

## 【参考書】

必要に応じて講義内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート（80％）、授業内のミニレポート（20％）

## 【学生の意見等からの気づき】

2017 年度より担当

## 【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境 I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

EAE300HA

## 大気と社会 II

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気と社会 I に引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会 II においては、大気と人の生活環境との関わりを中心に重点をおいて講義する。

## 【到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第 2 回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第 3 回	ストリートキャニオン	沿道大気汚染、大気汚染の環境基準
第 4 回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質
第 5 回	クリマアトラスと風の道	気候情報に基づく都市計画・環境計画、風の道をつくるには
第 6 回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第 7 回	黄砂の飛来	ダストストーム、黄砂の発生源、黄砂の飛来性状
第 8 回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候
第 9 回	住居環境と気流（1）	室内の汚染物質、換気
第 10 回	住居環境と気流（2）	通風、温冷感
第 11 回	火災と大気	延焼と市街地火災、火災旋風、火災の熱と大気
第 12 回	鉄道・自動車と大気	車両の転覆限界、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制
第 13 回	農作物と大気（1）	受粉と気流、光合成と大気、農作物の倒伏、塩害
第 14 回	農作物と大気（2）	地域大気利用農業、霜害、気温逆転層
第 15 回	損害保険と大気	自然と損害保険、気象リスクヘッジ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておく。第 1～3 回：大気汚染物質の種類、第 3～5 回：都市の気候、第 6～8 回：砂粒子の大きさと形、第 9～10 回：屋内の空気管理、第 11 回：地震の 2 次災害の種類、第 12 回：列車や自動車の形状・構造、第 13 回：揚力、第 14 回：受粉、第 15 回：大気関連災害の損害保険額の規模

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100％）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題（2、3 回程度）を通じ、到達目標 1～3 の習得度を総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境 II）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

PHY200HA

## サイエンスカフェⅣ

## 渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題へ

本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1) 我々の生活に密接に関連していること、そして (2) 環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

## 【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について、物理学的な知識が環境問題を考察するための基礎であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

視聴覚教材や実験のデモンストレーションを見ながら学習していく。文系の学生、物理を苦手としている学生にわかりやすい授業となるように留意したいと考えている。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第2回	スピードガンで測ろう1 (落下するボールの運動と力学、シミュレーション付)	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について。
第3回	スピードガンで測ろう2 (振り子運動・放物運動と力学、シミュレーション付)	エネルギーは保存される。ジュール（J）、ワット（W）などの基本単位の超入門。人間はエネルギー的に約100Wの電球と同じ、など。
第4回	熱とエネルギーを理解しよう1 (エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る)	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？ 比熱とは？ cal と J について。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。
第5回	熱とエネルギーを理解しよう2 (気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する)	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について。
第6回	熱とエネルギーを理解しよう3 (熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱+空気の流れにより伝わる熱+電気ストーブによる加熱)	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう1 (水の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について)	物質の三態（液体、固体、気体）の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命体維持における水の役割は？
第8回	物質の三態と状態変化を調べよう2 (水の密度と膨張率+水の密度と浮力、氷の融解現象について)	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は海面上昇に関係しているのか？ 氷山の融解は海面上昇の原因なのか？

第9回	波の性質を知ろう (横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる)	横波と縦波、周期と振動数（周波数）、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波などの理解。
第10回	電気回路の性質を調べてみよう (電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通る電流による熱発生（ジュール熱）について)	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは？ 電力系統網における送電ロスに熱に転化する。
第11回	磁石を使って電気を作ろう&電池を使って磁石をつろう (電界と磁界について、モーターと発電機の原理を知る)	モーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線なども電磁波の仲間。
第12回	原子・分子を理解しよう (原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門)	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq（ベクレル）とSv（シーベルト）などについての解説。原子力発電とウラン、セシウム、プルトニウムなどについて。
第13回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう1 (水と湯の間の熱移動+水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ)	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第14回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう2 (LED電球と白熱電球の熱発生について)	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギー変換にはロス（損失）が伴う。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピーの解釈超入門。
第15回	総括	授業内容をまとめ、環境問題と物理学との関係について考察する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業時に作成したノートを復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

様々な現象についての教材や実験のデモンストレーションをプロジェクターに映しながら進めていきます。

## 【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちたないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。この科目は「環境モデル論Ⅰ」「環境モデル論Ⅱ」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済みの場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

ENV200HA

## 環境モデル論 I

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える  
 モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生じる環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な指標（手法）についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」や「持続可能」という問題を科学的に捉えるための基礎という位置づけにもなっている。

## 【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることが目標である。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたいと考えている。画像、映像などのビジュアルな教材等をできるだけ使用しながら進めていく予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明について。関連する他の科目（サイエンスカフェ IV、統計とデータ分析、環境モデル論 II など）の概要と本科目との関連性についての解説。
第2回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？
第3回	地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考える）	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと炭水化物（糖）。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
第4回	物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について）	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減量化するが、はたして物質は消えて無くなったのか？
第5回	エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこに行くのか？ エネルギーは消費されると消えて無くなるものなのか？

第6回 自然の法則と環境1

熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ エクセルギーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。

第7回 自然の法則と環境2

第8回 ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学1

人間活動の特徴をLCAの立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はLCAではどのように表現されているか？

第9回 ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学2

製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費（使用）、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。

第10回 エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る1

人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等排出の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培（野菜工場）の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培とはどちらが負荷は少ないのか？

第11回 エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る2

人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球は今ここで行われている人間活動を支え扶養する力（容量）を持っているのか？

第12回 持続可能性への考察1

資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）と成長の限界について考察する。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。

第13回 持続可能性への考察2

玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。しかしその狭い空間でも工夫すると動きが持続する。エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。参加者による総合討論を行う。講義内容をまとめる。

第14回 総括1

第15回 総括2

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容を復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論 II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェ IV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお勧めします。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

ENV200HA

## 環境モデル論Ⅱ

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「循環」と「持続」を考える  
 本科目では持続可能とは何か？という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。自然界にはおいては物質・エネルギーは保存されているが、様々な現象はこの保存則だけによって支配されているわけではない。物事が進むにはその方向（時間の矢）があり、それらは拡散する（言い換えるとエントロピーは増大する）という特徴を持っている。系を持続可能とするためにはこの増大したエントロピーを廃棄し続ける必要がある。持続という言葉はシステムの時間経過に対する不変性（安定性）を意味するものであり、その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子（時間発展、ダイナミクス）を調べるのがひとつのアプローチであろう。本科目では、自然界において観察されているいくつかの現象や具体例を眺めてみることにより定常開放システムが持続していくための条件等を探ることとする。そのため比較的容易に理解できるシステムダイナミクス（SD）手法を習得し様々な系のダイナミクスをシミュレーション体験する。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能というテーマに対しエントロピー増大則などを含めた熱力学的考察をおこなう。

## 【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。自然界で観察されている幾つかの現象を再現しそれを分析する力を身につけることを目標としている。またエントロピーの概念を習得し、物質循環などの問題に結び付けて考察ができるようになることも目標のひとつである。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大方理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたい。情報教室を使用し、特に EXCEL を利用することが多くなる。授業では、ほぼ毎回 EXCEL についての演習を行う時間を設ける予定である。EXCEL をより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第 2 回	情報教室の利用のしかた	情報実習室環境の説明と各種ソフトウェア・ネットワークの利用のしかたについて
第 3 回	EXCEL ラーニング	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。
第 4 回	成長の限界 1	ローマクラブ「成長の限界」(1972)と世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長（指数関数的成長）のメカニズムを銀行預金、利子返済などの簡単な例で体感する。
第 5 回	成長の限界 2	細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線（S 字型曲線、ロジスティック曲線）にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース（栄養）の減少との関係について。
第 6 回	成長の限界 3	喰う者と喰われる者（例えばウサギとヤマネコ）に関する個体数変動のダイナミクスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被捕食（2 体）の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムを解析する。
第 7 回	成長の限界 4	喰う者喰われる者の拡張としての多体間の個体数変動のダイナミクスについて。3 体、4 体間の競合と持続性を解析する。

第 8 回	システムダイナミクス（SD）入門 1	様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。SD で使用される記号とフローの描き方。レベル（ストック、状態）とレート（流量）、フロー（流れ）、情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得について。
第 9 回	システムダイナミクス（SD）入門 2	具体例をもとにして SD 計算を EXCEL 上で体験する。正と負のフィードバック（因果関係）ループの理解。その構造がシステムに与える影響（効果）を調べる。それにより「持続する」を考察する。
第 10 回	システムダイナミクス（SD）入門 3	具体例をもとにして SD 計算を EXCEL 上で体験する。時間遅れの構造とそれがシステムに与える影響（効果）を調べる。それにより「持続する」を考察する。
第 11 回	複雑系の世界 1	複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性（バタフライ効果）と予測（不）可能性、ロジスティック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス（非線形力学）と環境問題との関係性を考察する。
第 12 回	複雑系の世界 2	複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか？などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。
第 13 回	循環と持続を考える 1	本科目で見てきたダイナミクスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。
第 14 回	循環と持続を考える 2	ローマクラブ「成長の限界」(1972)、「限界を超えて」(1992)、「成長の限界 人類の選択」(2004)をどのように読むか？ ナチュラル・ステップ「ナチュラル・チャレンジ」(1998)の言う持続可能な社会のための条件をどのように解釈するか？
第 15 回	総括とエントロピー概念について	情報理論を紹介する。情報量とエントロピーの概念、情報の価値・役割と確率、エントロピーが最大になるとはどのようなことか？ エントロピー概念の直観的理解について。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容を復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

受講時の積極性 50%、最終授業時に出題するレポートの充実度 50%。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有無は問いません。

## 【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちたないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論Ⅰ」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお薦めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェⅣ」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお薦めします。本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

GEO200HA

## 自然災害論

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。実例やメカニズム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

## 【到達目標】

自然災害を決定づける要因を俯瞰し、自然界がもたらすハザードや社会基盤の脆弱性といった側面から災害と正しく向き合う視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。東日本大震災を経験しつつあるいま、リスクに配慮した防災力の高い地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが急務である。本講義ではハザードの実態やまちづくりのハード面に関わる現状を解説する。講義形式。災害調査現地データを含むスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然災害のとらえ方	自然界のもたらすハザード、人間社会の脆弱性、防災の考え方
第2回	実際の自然災害：地震災害1	東日本大震災、阪神・淡路大震災、地殻変動、地震動、切土盛土問題
第3回	実際の自然災害：地震災害2	建物、耕作地、道路鉄道網、ライフライン、電話網、工場、学校・病院等、文化財
第4回	実際の自然災害：気象災害	紀伊半島豪雨災害、東海豪雨災害、河川氾濫、内水氾濫
第5回	地震災害のメカニズムと将来予測1	地震の長期評価、地盤増幅率、キラールバルス、長周期地震動
第6回	地震災害のメカニズムと将来予測2	液状化、地震火災、津波
第7回	火山災害のメカニズムと将来予測	噴火予測、火砕流、火山泥流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第8回	気象災害のメカニズムと将来予測	豪雨と積乱雲、竜巻、落雷、台風、大潮、大雪
第9回	土砂災害のメカニズムと将来予測	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流、岩屑なだれ
第10回	防災気象情報	長期予測と直前予測、伝達手段、担い手、気象警報、緊急地震速報、噴火警報、避難指示等、災害対策基本法
第11回	災害と土地利用	災害危険区域、移転促進区域、土砂災害警戒区域、活断層直上、適応と退却
第12回	災害と社会基盤	耐震化、不燃化、建築基準、治山、砂防、治水、避難場所、避難所
第13回	災害の歴史・災害経験の継承	2011年東北地方太平洋沖地震と869年貞観地震、2004年中越地震と1847年善光寺地震、災害地名、震災遺構
第14回	ハザードマップのこれから	行政からみたハザードマップ、地域住民からみたハザードマップ、地域防災計画、防災教育、地域コミュニティ
第15回	自然災害の激化とその背景	地球温暖化、都市集中、人口減少、高齢化率上昇、まちづくり

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境、自然災害、防災、まちづくり、災害の歴史といったキーワードを意識し、時の話題や映像等に積極的に触れる。

## 【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

## 【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

DES300HA

**自然環境論Ⅳ**

中井 達郎

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解し、人間活動との持続的な調和を探索していくには、科学の視点が欠かせません。本講義では、様々なスケールで自然環境の仕組みや歴史を捉えるとともに、人間活動による影響軽減に向けて生態学、地生態学あるいは地理学、社会学からのアプローチの重要性を理解し、人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

**【到達目標】**

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①人類と自然環境の関わりと自然環境問題
- ②生物多様性保全とそのための方策
- ③持続可能な自然利用の重要性とそのための方策
- ④自然の「恵み」と「畏れ」そして価値付け

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

「歴史的に見た人類と自然の関わり」、「社会変化と自然環境」、「生物多様性保全」、「地域での自然環境のとらえ方」、「持続可能な自然利用とそれを基本とした社会」などについて、国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、学びます。科学的、論理的な理解とそれに基づいて、「畏れ」と「恵み」も含めた自然とのつきあい方を考える能力を高めていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、「環境」とは？、人間にとっての自然環境
第2回	人類の誕生・進化・分布拡大と自然環境	ホモ・サピエンスの出現、狩猟・採集、気候変動
第3回	古代文明と自然環境	農耕の開始、文明の誕生、文明の崩壊
第4回	工業化・経済成長と自然環境	公害と生物、生息・生育場の変質、生物としての人間への影響
第5回	地球温暖化の影響	生物多様性への影響、サンゴ礁などの事例、人間社会への影響
第6回	生物多様性保全（1）	遺伝子レベル、生物種レベル、絶滅危惧種と原因、過度な資源利用、生育・生息場の変質・喪失
第7回	生物多様性保全（2）	移入種・外来種問題
第8回	人との関わりから見る自然の分類	原生的な自然、身近な自然、日本の「もり」事例に
第9回	「里やま」の自然と人間活動	里地・里山、雑木林、人間の生産活動が維持した生物多様性、持続可能性
第10回	都市の自然	緑地、公園、水辺、屋上緑化、ビオトープ、自然再生とその課題
第11回	持続可能な自然利用を考える	資源の限界性、食糧資源としての生物（魚類など）、循環、生態系サービス
第12回	持続可能な自然利用のための方策	法制度、保護区とゾーニング、土地利用
第13回	自然の猛威と人間	地震、火山、風水害、畏れと恵み
第14回	人間と自然とのつきあい方再考	自然の価値付け、ライフスタイル、産業（観光など）、地域づくり
第15回	まとめ	これまでの復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日頃接するメディアや日常生活において、自然環境に関わる情報や科学的な話題などに関心を払うよう努めます。

**【テキスト（教科書）】**

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

**【参考書】**

講義において随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験により評価します（100%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

**【その他の重要事項】**

本講義は応用的内容を含みますので、基礎的な知識や理解として自然環境科学の基礎（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を併せて受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

**【関連の深いコース】**

グローバル・サステナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、環境サイエンスコース



ENV300HA

## 公害防止管理論 I

大岡 健三

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で必要な水環境に関する基本的知識と関連する法令を学ぶ。企業の海外展開において環境の実務知識は極めて重要であり、行政職含め環境保全で国際協力する機会も増えている。当講座では海や河川、地下水など興味深い水環境と公害防止の知識をビジュアル等で学び、水の浄化と環境法の基礎が理解できる人材育成をめざす。同時に、文系学生、特に物理化学が苦手な学生を対象に公害防止管理者国家資格の取得準備に役立つ基礎知識も分かりやすく解説する。但し、国家試験を受験しない学生も十分理解でき満足できる授業内容とする。

## 【到達目標】

環境キーワードを理解し、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則と実践的知識を基礎から習得する。汚れた废水が透明に浄化される仕組みなど工場水質管理の興味深い事例に加え、米国大学の一般教養（環境科学）や汚染事故、報道記事なども一部交えて国際レベルの環境情報も学ぶことができ、実社会で役立つ環境スキルの理解を深める。さらに公害防止管理者国家試験レベルの基本問題を解く訓練も時々行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

毎回資料を配布してスライドで説明する。各論では、国内外で取材した産業公害の実際、有害物質、汚染メカニズム等を理解して、環境問題の基礎と環境法を学ぶ。同時に、水質浄化技術の基礎を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。マスコミ報道される最新情報にも触れる。毎回学生の質問や意見、要望を聞いて次回講義に反映する。なお成績評価は、授業内を行う簡単な小テストと平常点で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地球温暖化問題、水俣病から廃棄物問題、さらにベトナム、マレーシア、ネパール及び米国の環境事情	現地取材の写真などで見て、浄化対策及び公害防止の側面からの評価分析をする。
第 2 回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に研究。
第 3 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第 4 回	環境基本法と水質環境基準	環境基本法を中心に水質汚濁防止法、公害防止者管理法等の概論。
第 5 回	水に関する環境法各論	水質汚濁防止法や廃棄物処理法の各論。実際の違反事例なども研究。
第 6 回	物理化学的処理法 1	処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第 7 回	物理化学的処理法 2	工場排水を浄化するための傾斜版、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第 8 回	物理化学的処理法 3	化学処理法を学ぶ。pH 調整、酸化と還元、膜分離、汚泥脱水などの基本知識も解説。
第 9 回	生物学的処理法	排水を浄化するための好気性微生物を利用する処理法の基礎を学ぶ。
第 10 回	生物処理法	嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説する。
第 11 回	高度処理法	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した各種処理法について学ぶ。
第 12 回	有害物質処理法	有機化合物などを含む排水を浄化するための処理法。
第 13 回	水質管理のパラメータと水質測定	BOD/COD,pH,DO 溶存酸素などの知識の整理。水質測定の基礎と水質汚濁物質について解説
第 14 回	環境法令の復習	法律面の要点復習および小テスト。
第 15 回	技術総括	環境技術面の要点復習および小テスト。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中に使用する。なお、国家試験受験希望者は市販の書籍またはインターネット検索により予習復習することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布

## 【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

発行所 (社) 産業環境管理協会

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

発行所 (社) 産業環境管理協会

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

発行所 (社) 産業環境管理協会

## 【成績評価の方法と基準】

授業内で小テストを行い、平常点と合わせて総合点で判定する。配分は小テストが 80%、平常点 20%。

A + : 100-90 A : 89-80 B : 79-70

C : 69-60 D : 59 点以下で不合格。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者の質問や意見を適宜提供してもらい可能な限り次回授業に反映させる。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントによる映像を利用

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、環境サイエンスコース

ENV300HA

## 公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の健康や生活環境保全のためには、企業の公害防止管理が必要不可欠である。また、近年は地球温暖化防止の観点より、工場の生産活動に伴い排出される二酸化炭素等の温暖化物質を削減することも企業の重要な責務となっている。

我が国は 1960 年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、また 1970 年代に二度のオイルショックを経験したことにより、汚染物質排出抑制技術や省エネ技術は国際的に高い技術を有している。本講座では、近年の大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項を中心に学ぶ。

## 【到達目標】

大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項の概要を学び、企業における環境管理の重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

前半は大気汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。温暖化問題や排ガス処理技術等について課題レポートを提出し、グループディスカッションで問題定義や課題解決の方法を学ぶ。定期試験ではなく、授業内に行う 2 回の試験と平常点で成績評価を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大気汚染の歴史と現状	日本の公害問題の歴史と近年の大気環境問題について。
第 2 回	大気関係の法律	環境基本法や大気汚染防止法、管理者法について概要を学ぶ。
第 3 回	グループワーク① 課題 気候変動の緩和と適応	グローバルな課題である気候変動に対する企業が行える取り組みについて考える。
第 4 回	大気汚染のメカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題の概要・大気汚染物質とその発生源、発生のプロセスについて。
第 5 回	燃焼管理技術	効率的な燃焼管理方法について。燃料の種類、燃焼装置、空気比の管理、燃焼管理のための各種測定技術。
第 6 回	グループワーク② 課題 生産プロセスにおける省エネ技術	火力発電所、鉄鋼、セメント等の大規模工場における熱回収等の省エネプロセスについて。
第 7 回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について。
第 8 回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減方法及び処理技術について。
第 9 回	グループワーク③ 課題 新規の排ガス処理方法	活性炭吸着処理による硫黄酸化物、窒素酸化物等の処理方法について調べ、発表する。
第 10 回	ばい塵の除去技術（Ⅰ）	ダストの処理計画、排出ガスに含まれる粒子（すす）の性質（粒径分布等）。
第 11 回	ばい塵の除去技術（Ⅱ）	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第 12 回	有害物質の除去技術	カドミウムや鉛、塩化水素等の有害物質の除去方法について。
第 13 回	排ガス中汚染物質の測定方法（Ⅰ）	ばい塵、硫黄酸化物、窒素酸化物の測定方法
第 14 回	排ガス中汚染物質の測定方法（Ⅱ）	ばい塵、硫黄酸化物、窒素酸化物の自動モニタリング
第 15 回	総括試験	本講座の内容を総括した試験を実施する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくこと。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

## 【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編  
発行所 (社) 産業環境管理協会

## 【成績評価の方法と基準】

授業内で筆記試験を行い、総合点で判定する。

A+：100-90 A：89-80 B：79-70 C：69-60 D：59 点以下で不合格

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果が出ていなので、記述できない。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、環境サイエンスコース

ENV300HA

## 廃棄物・リサイクル論

鈴木 儀郎

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物は社会を映す鏡であり、超高齢化、自然災害の激甚化などの社会の変化に対応して想定すべき廃棄物問題とその解決策は次世代を担う学生が自らの問題として考える必要がある。この講義では、そのための基礎として「廃棄物処理はみんなの責任」と言われるのはなぜなのか、循環型社会の形成が推進されている背景事情は何なのかなどを理解するため、今日の環境問題を俯瞰しつつ廃棄物に関して過去と現在を比較検討するとともに法制度、技術等の廃棄物・リサイクルを考える基礎知識を学ぶ。

### 【到達目標】

廃棄物問題は複雑・多様で簡単には片付かない。社会の変化、それに伴う生活や製品の変化、産業構造の変化、自然災害の激化などが種々に廃棄物問題を生む。法的には「廃棄物」の定義の難しさ、処理責任を負うべき排出者のみでは解決できない製品の高度化・多様化に対応できる社会システムの政策誘導などの課題がある。そこで社会の変化と廃棄物の発生・処理との関係を学び、廃棄物に関するテーマについて過去と現在との比較考察をし、生活に身近な廃棄物がどこでどう処理されるかを知り、処理技術の基礎を学ぶ。そのうえで法における廃棄物の定義と有価物の差異を学ぶとともに廃棄物処理法と各種リサイクル法規の考え方を学ぶ。加えて災害環境研究などの現状を学ぶ。これらをもとにしてリサイクルなど3R政策の現状と意義、今後の廃棄物対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

毎回の講義資料をもとにして講義を進め、日常の生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎的知識を学ぶ。毎回の出席表に各自のコメントなどを記入するリアクションペーパーを用いる方式により、廃棄物問題についての考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	全体構成と進め方  まず知っておくべき基本的な事実と知識	講義の全体像を説明。今日の環境問題全般について俯瞰したうえで廃棄物・リサイクル問題にフォーカスする。
第2回	社会の変化による廃棄物の排出等への影響	政府の白書等をもとにして社会の変化を認識しそれによって廃棄物の排出等がどのように影響されるかを学ぶ
第3回	ごみ処理の昔と今	明治時代の東京、大阪や中世のバリの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第4回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第5回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第6回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第7回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第8回	特別管理廃棄物の処理の考え方	PCB廃棄物などを具体例として特別管理廃棄物制度の意義や処理方法についての知識を得る。
第9回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第10回	中間処理技術と最終処分技術	焼却などの中間処理技術と埋め立て技術について知識を得る。
第11回	リサイクル技術	今日のリサイクル技術など環境産業、環境技術の現状を学ぶ。
第12回	有害廃棄物処理技術	有害な特性を持つ物質の処理技術について学ぶ。
第13回	災害環境研究の現状と見通し	東日本大震災を契機として行われている災害環境研究の現状と今後の見通しについて学ぶ
第14回	まとめとレポートの出題	講義全体の内容をまとめるとともに、講義内容全体の理解を深めて考える力をつけるためのレポートを出題する

第15回 レポートの提出と小テスト レポートを提出するとともに講義で得た基礎知識の理解度を確認するための小テストを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より効果的に講義が受講できるように、各自が住んでいる自治体で日常どのようなごみの分別・ごみ出しをすべきなのか、自治体のホームページや回覧板などで見ておくと良い。新聞報道等でごみ処理やリサイクルなどの記事があったら注意深く読みなぜ記事のようなことが起こっているのかを考える訓練をしておくが良い。

### 【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布する。

### 【参考書】

図で見る環境・循環型社会・生物多様性白書  
「人間とごみ」カトリック・ド・シルギー著 新評論  
「明治日本のごみ対策」溝入茂著 リサイクル文化社  
「ごみ減量 全国自治体の挑戦」服部美佐子著 丸善

### 【成績評価の方法と基準】

参加姿勢、提出レポートの内容、小テストの結果により総合的に評価する。成績評価要素ごとの配分は小テスト40%、レポート45%、平常点15%とする。小テストは配布資料、ノート、参考書などの紙資料は何でも持ち込み自由だが、モバイルパソコン、スマートフォン、携帯電話などの情報機器の使用は認めない。

### 【学生の意見等からの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもらおう出席票に書き込まれる各自のコメントや質問を次回の講義に反映できるようにし、双方向の講義の実施を図る。

### 【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

### 【その他の重要事項】

- ・小テストにおいては配布する資料やノートなどの持込を可とする。
- ・旧科目名称「リサイクル論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。
- ・講義内容を入れ替えがあり得ます。

### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

SEE300HA

**環境教育論**

野田 恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：木2

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近年深刻化する環境問題を解決するアプローチのひとつである環境教育およびESD（持続可能な開発のための教育）について学び、持続可能な社会の構築における環境教育の意義や役割、可能性や限界について自分なりの考えを深める。

**【到達目標】**

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法についての知識を身に付け、環境教育の現状や課題、可能性などについて複眼的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。また、環境教育実践へつながる関心や意欲を高め、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。実践事例については、特に自然体験学習に焦点を当てる。なお、授業では対話型および参加型の手法を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション： 「わたしと環境教育」	本講義のねらい・進め方についてのオリエンテーションと自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育とは何か？	環境教育について、その意義や理論的背景について学び、なぜ環境教育を学ぶのか考える。
第3回	環境教育の歴史（1）－概要	環境教育についての国際的取り組みと日本の環境教育の歴史を概括する。
第4回	環境教育の歴史（2）－公害教育	日本の環境教育のルーツのひとつである公害教育について学ぶ
第5回	環境教育の歴史（3）－自然保護教育と自然体験学習	日本の環境教育のもうひとつのルーツである自然保護教育とその発展形態である以前体験学習について学ぶ
第6回	ESD(持続可能な開発のための教育)	ESD や持続可能な開発目標（SDGs）について学ぶ。
第7回	学校における環境教育	学校における環境教育の実践例を学ぶ。
第8回	社会教育における環境教育	社会教育施設における環境教育について学ぶ。
第9回	地域と環境教育－自然学校について	地域における環境教育、特に自然学校について学ぶ。
第10回	環境教育とは何か？－再び－（グループワーク）	これまでの講義を振り返り、環境教育とは何か自分なりの考えをまとめる。また受講者同士のディスカッションを通じて考えを深める。
第11回	環境教育のラディカルさ考える	環境教育に対して批判的な論考を読み考えを発展させる。
第12回	環境教育がもたらす「生の豊かさ」について考える	環境教育と「生の豊かさ」について考える
第13回	環境教育プログラムを考える（ワークショップ）	個人で環境教育プログラムを作成する。
第14回	環境教育プログラムを考える（グループワーク）	グループで環境教育の実践案（プログラム案）を作成する。
第15回	まとめ	これまでの内容を総括する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

参考文献や配布する資料などを読むとともに、環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。

**【テキスト（教科書）】**

講義ごとに配布する。

**【参考書】**

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版  
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編  
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版  
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業態度・リアクションペーパー）30％、  
授業で行ったワークショップの課題及びグループ活動への参加30％  
課題レポート（指定された複数のテーマから一つ選ぶ。4000～6000文字）40％  
課題レポートのテーマは初回のオリエンテーションで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**

2016年度より担当

**【学生が準備すべき機器他】**

太い文字が書けるサインペン（黒以外でも可。黄色や蛍光色など見えにくい色は不可）を常備してください。

**【その他の重要事項】**

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目です。

ASS300HA

## 食と農の環境学 I

今井 麻子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展段階が先進国段階に到達した現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学の立場から検討する。ミクロ経済学をベースとして食料・農業をめぐる問題を考察するための基礎的な知識を中心に講義を行う。

## 【到達目標】

農業経済学の基本的な知識を身につけるとともに、現代日本の食料、農業問題に係る現状と課題についての理解力を高めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学をベースとして食料・農業をめぐる問題を考察するための基礎的な知識を中心に講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ—経済学と農業の世界—	農業が、他の産業部門と異なり、自然、土地、歴史と関わる特徴を有することを、経済学の観点から解説する。
第2回	ミクロ経済学における農業者の意思決定	ミクロ経済学の基本的な考え方について理論的に解説する。特に、農業経営者の意思決定について、利潤関数を用いて具体的に解説する。
第3回	経済発展と農業①	先進国と開発途上国農業の違い、農業と経済発展の関係について論理的に解説する。
第4回	経済発展と農業②	エンゲルの法則とベティ＝クラークの法則の関係、及び農業の過剰就業問題について解説する。
第5回	農業生産と土地①	日本農業の特徴、戦後からの変遷について概観し、先進国段階に到達した日本農業が直面している問題を紹介する。特に、圃場分散の問題に焦点を当て、解説する。
第6回	農業生産と土地②	規模の経済と土地の移動について解説する。特に、日本において大規模化が進まない実態に焦点を当て、その論理的な理解を目指す。
第7回	食料の需要と供給①	農業生産の作況変動と食料需要の価格弾力性について解説する。
第8回	食料の需要と供給②	農産物市場の不安定性と農産物価格安定政策について解説する。
第9回	農業の技術進歩①	農業生産における2つの過程（BC過程とM過程）について理解する。特に、BC過程と収穫逓減の法則、M過程と規模と経済性について論理的に解説する。
第10回	農業の技術進歩②	農業技術の近代化に焦点を当てる。途上国における緑の革命について、その変遷と評価について解説する。
第11回	日本農業と担い手	日本農業を支える「担い手」の経営展開について、地域的多様性に留意しながら解説する。
第12回	食生活の成熟とフードシステム	日本の食生活の成熟とフードシステムの実態について解説する。
第13回	地球環境と農業	農業と環境の関係について、「多面的機能論」と関わらせながら理論・実態から解説する。
第14回	農業政策とその評価	先進国段階に到達した日本農業が直面している問題と取るべき政策について、理論的に解説する。特に、近年の発展目覚ましい政策評価の手法について紹介する。
第15回	エピローグ—現代日本の農業問題—	これまでの講義の内容を総括する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞で農業関係の記事があったら、読んでおくことをお勧めします。また、国際経済、地域経済、環境経済に関連した他の講義を合わせて履修することをお勧めします。

## 【テキスト（教科書）】

佐開津典男・鈴木宣弘、『農業経済学 第4版』、岩波書店、2015年。

## 【参考書】

本間正義、『現代日本農業の政策過程』、慶応義塾大学出版会、2010年。

生源寺眞一、『農業と農政の視野』、農林統計出版、2015年。

時子山ひろみ・佐開津典男、『フードシステムの経済学 第5版』、医歯薬出版、2013年。

速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年。

## 【成績評価の方法と基準】

レポート課題 40%、期末試験 60%

（受講人数によっては再検討する可能性もあります）

## 【学生の意見等からの気づき】

より農業の現場に近い情報や近年の研究動向の紹介を講義に盛り込みたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントを使用し、配布資料の内容に沿って講義を行う。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

ASS300HA

## 食と農の環境学Ⅱ

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農」や「食」を自然環境の仕組みや環境問題から考える。

## 【到達目標】

「農」や「食」が現代の自然環境の仕組みや環境問題と密接にかかわっていることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

そもそも農業は、人間の「いのち」を支える「生命産業」である。また農産物は動植物の「いのち」そのものである。しかし「近代社会＝資本主義社会」においては、農業は「金儲け」の手段となり、農産物は「金銭的価値」として見なされる。こうして「市場原理＝経済的な効率性」を求めるがゆえに、農業は自然環境への負荷を高め、環境問題を引き起こしてしまうのである。そこで、この授業では、農業・農村にかかわる諸問題をとりあげるだけでなく、私たちの生命の源であり、暮らしの根幹である「食」の現場からも考察を深め、「農＝食」という立場から自然環境や環境問題を理解し、現代日本社会を考える。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「農」から「現代日本社会」が見えてくる	まずは農業・農村に興味をもとう！・・・現代社会において農業や農村を考える意義について学習する。
第2回	高度経済成長と戦後の農業・農村社会～『ALWAYS 三丁目の夕日』は「美しい日本」なのか？	戦後の日本農業や農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習する。
第3回	「過疎」問題と「限界集落」の出現～『田舎に泊まろう！』では伝わらない現実とは？	過疎や限界集落の成立背景やその課題について学習する。
第4回	戦後農政と農業・化学肥料の登場～なぜレイチェル・カーソンは「春は沈黙する」と言ったのか？	戦後の農業現場で普及していった農業や化学肥料の功罪について学習する。
第5回	第5回 「WTO体制」と農業・農村の「多面的価値」～田んぼはコメだけでなく自然環境も生産している！	市場経済で取り引きされない農業や農村の価値について学習する。
第6回	食生活の欧米化と食料自給率の低下～いつから「牛丼」は国民食になったのか？	戦後の日本人の食生活の変化を高度経済成長との関連で学習する。
第7回	日本人の食生活と環境破壊～エビからアジアが見えてくる！	海外に依存する日本人の食生活が途上国の自然環境の破壊につながっていることを学習する。
第8回	ファストフード批判と「スローフード」運動～マクドナルドは食文化を破壊しているのか？	食のグローバル化に対する社会運動の意義について学習する。
第9回	農業とバイオテクノロジー～「GM（遺伝子組換え）」作物は良いの？悪いの？	遺伝子組み換え作物の普及背景やその功罪について学習する。
第10回	「BSE」の発生と食品行政の転換～なぜ食に「自己責任」を求めるのか？	BSE問題から食の安全・安心やリスクについての考え方を学習する。
第11回	「有機農業」運動の始まり～都市の消費者が農家を支える関係とは？	有機農業運動の目的や意図を理解することによって消費者の農業・農村に対する役割について学習する。
第12回	「グリーン・ツーリズム（都市農村交流事業）」の登場～「棚田オーナー制」は最先端の観光！	都市住民による農村滞在や農業体験の意義について学習する。

第13回 「生身の自然」から「切り身の自然」へ～バック詰めの鶏肉に「いのち」を実感できるのか？

自分で育てた家畜を自ら解体する活動によって現代日本の食事情について学習する。

第14回 「循環」型社会をめざして～生ゴミのリサイクルで野菜を作って地域をつなげる！

生命・物質が循環する自然生態系の中に農業の営みを埋め戻す意義について学習する。

第15回 まとめ～「食」が変われば「農」は変わる！

日本の食や日本農業・農村をめぐる諸問題を理解したうえで農業や農村の意義について再度考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回、プリントを配布する。

## 【参考書】

参考文献は、授業で毎回紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を90%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を10%として評価する。なお受講者の人数次第では、評価方法を変更することがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

これまでの授業では出席をとらなかつたため、授業を欠席する学生がいたようである。そこで積極的な授業参加を促すために、毎回ではないが、授業後にリアクションペーパーを課したいと考えている。

## 【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

ASS300HA

## 食と農の環境学Ⅱ

吉田 岳志

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農政改革が国政の課題に取り上げられ農業問題が注目されているが、これらを理解するために、地域の自然条件と立地条件によって営まれている様々な農業の実態、農政の変遷、食料自給率の変遷、食品の安全性問題、農業技術の発展とそれに伴う課題、地球環境問題等の新たな課題と農業・農村の関係などについて基本的なことを学ぶ。

## 【到達目標】

①農政の変遷②食料自給率や食品の安全性確保の現状と課題③農業生産を支える技術の発展と課題④産業としての農業生産活動と環境保全機能の関係⑤地球環境問題に対応した農業生産⑥新たな農業生産の展望、等について講義と意見交換によって、農業問題について多面的なものの見方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

(概要)

スライドを用いた講義を主体とし、併せて講義のレジュメを配付する。また、出席調査票に記載される当日の講義についての質問や意見を、次の講義の際に紹介コメントや回答することによって、理解を深めるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本の農業	わが国で行われているさまざまな農業の形態を紹介します。
第2回	農業生産の推移	戦後70年の農業生産の推移を技術の発展や政策の推移に着目しながら講義します。
第3回	食料自給率	世界の食料問題、食料自給率の推移、海外との比較、食料自給率が低い要因、食料自給率向上に向けた取組等について講義します。
第4回	食品の安全問題	様々な危害要因と食品の安全性との関係、リスク分析の考え方を講義します。
第5回	農村の現状と課題	農業の担い手問題、農村の多面的機能、それが損なわれている現状、鳥獣害対策等について講義します。
第6回	農業生産資材	農業機械、農業、肥料等の農業生産資材の役割と課題について講義します。
第7回	持続的農業生産	環境保全型農業、有機農業等持続的農業生産方式の現状と課題について講義します。
第8回	バイオテクノロジーと農業Ⅰ	バイオテクノロジーの農業分野（作物）での活用について講義します。
第9回	バイオテクノロジーと農業Ⅱ	バイオテクノロジーの農業分野（畜産、食品工学等）での活用について講義します。
第10回	生物多様性と農業	農業生産活動が生物多様性に与える負荷と生物多様性を保全する役割、国際的な取り組みについて講義します。
第11回	地球温暖化と農業	農業生産活動による温室効果ガス発生状況、地球温暖化防止、温暖化適用技術等について講義します。
第12回	技術開発・普及と知的財産の保護・活用	農業部門における技術開発・普及及び新品種等知的財産の保護・活用の仕組みと課題、IT化やロボット化等新しい農業技術について講義します。
第13回	国際化の進展と農業農村の展望	TPP問題等農産物の輸入自由化問題への対応及び農業・農村の現場で起きている新しい取り組みを紹介しながら、今後の農業の展望について講義します。
第14回	時事問題	震災対応を含め、農政改革で話題になっている農協問題等について、最新の状況を講義します。
第15回	時事問題（続き）とまとめ	時事問題の講義と合わせて、必要に応じて14回までの講義の補足を行うとともに、全体を総括します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌、テレビ等で報じられる農業問題を見たり聞いたりしながら、疑問点や気づいた点をメモしておいてください。

## 【テキスト（教科書）】

毎回、講義する主な項目を列記したレジュメを配り、パワーポイントを使って講義しますので、テキストは使いません。

## 【参考書】

農業白書（平成27年度食料・農業・農村の動向）  
農林水産省のHPで閲覧できます。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末試験60%

## 【学生の意見等からの気づき】

「考え方が分かりやすかった」についての学生の評価が低いようなので（以前のアンケート）、伝える情報量を減らして、毎回の授業の結びに、その日の講義のエッセンスを伝えるようにする。

また、講義の冒頭の時間を利用して、前回の講義に対する主な質問（出席調査票に記入）に対する回答を行い、学生の理解を深める。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HSS211LB

## スポーツビジネス論 I

千田 利史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの意味や価値を、主にビジネスの側面から総合的に解説したい。オリンピックや、サッカー W 杯のような大きなイベントのメカニズムをはじめ、地域スポーツ振興、広告とスポーツの関係なども取り扱う。

## 【到達目標】

受講学生にとって、ビジネスとしてのスポーツを成立させている要因や、スポーツ団体の運営を支えるメカニズム、及び、今後のスポーツの展望について、体系的な知識の取得ができるように構成する。スポーツがビジネスの考え方や手法を取り入れることで、運営基盤の強化など、良い側面が生まれると同時に、ゆきすぎた商業主義が弊害を生むこともある。その双方への理解が深まることを期待したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会とスポーツ	「見るスポーツ」と「するスポーツ」 スポーツの世界
第 2 回	マーケティングとスポーツ	理論 なぜスポーツが注目されるか
第 3 回	スポーツビジネス、スポーツマーケティングの実際	大型スポーツイベントのケーススタディ 展望や問題点
第 4 回	スポーツ団体の運営の仕組み	各種競技団体の実態や課題
第 5 回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第 6 回	ワールドカップサッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第 7 回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ理論とスポーツ
第 8 回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第 9 回	人気スポーツと財政基盤	野球、すもう、バレーボール、スケート、フェンシング、ラグビーなどの競技の個別分析
第 10 回	テレビなどのメディアとスポーツ	放映権とスポーツ番組 権利ビジネス
第 11 回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第 12 回	インターネット状況とスポーツビジネス	新しいメディアとスポーツ デジタルメディアとスポーツの振興の可能性
第 13 回	スポーツと消費者	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第 14 回	現代社会にとってのスポーツの意味	歴史と現在 スポーツビジネスの課題
第 15 回	現代のスポーツビジネスの課題と可能性（まとめ）	スポーツビジネスのさらなる成長には、何が必要か

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常から、スポーツのビジネス側面に関心を持つこと。  
資金の調達や、クラブ運営の方法、広告の活用など。  
試合結果だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する情報や記事に目を通しておくこと。

## 【テキスト（教科書）】

アマゾンの電子書籍版『メディアショック+』（千田利史著）を教科書として指定します。上下巻で、各巻 250 円（計 500 円）。  
ワンスブックス。2015 年刊。

アマゾンのサイトで書名・著者名（メディアショック+・千田利史）で検索し、購入してください。パソコンでも、スマホでも（読書用対応端末でも）読めます。ただし、事前に Kindle アプリ（無料アプリ）をインストールして読む必要があります。なお、「スポーツビジネス 2（秋学期）」にも、同書を使用します。

## 【参考書】

必要に応じて関連書籍や文献を紹介し、コピーなどでの配布を行います。

## 【成績評価の方法と基準】

最終授業時にレポートの提出を求めます（字数やテーマは授業内で指示）。そのレポートの評価を 50%、および平常点を 50% として、総合評価をします。

## 【学生の意見等からの気づき】

映像や、ビジュアル素材などもより積極的に活用する。  
最新のスポーツ界の動向を解説し、紹介する。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業資料は PPT で作成予定。授業支援システムにも掲出。  
特に、受講生は、機器などの準備は必要ありません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



HSS212LB

## スポーツビジネス論Ⅱ

千田 利史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論1」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

## 【到達目標】

受講者は、最新のスポーツビジネスの理論や知見を習得できる。現在のスポーツ界が抱える課題の発見とその解決策を考案しながら、より深く、スポーツの状況を理解する。一連のプレゼンテーション関連作業（企画書のまとめ方や、発表の仕方など）を通じ、発表スキルの習得の機会ともなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

スポーツ界の抱える課題（東京オリンピックの成功、知られていないスポーツの今後の振興、メディアの活用など）に関し、それぞれの問題点を探る。課題の解決に向けての戦略や手法を学びとる。また、編成したグループごとに（全員がどこかのグループに所属）、選択した課題へのソリューションを発見し、考えをまとめて発表することを通じ、実践的な理解を深めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの基本 スポーツを巡る課題の発見と設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ ④その他
第2回	課題の解説①	スポーツビジネスの課題の発見 チーム編成の方法（解説） チームの運営と役割分担をどう行うか
第3回	課題の解説②	メディアリレーション （スポーツをメディアの関係）
第4回	課題の解説③	スポンサーシップ （スポーツとスポンサーの関係）
第5回	課題の解説④ 発表グループ分け	チーム編成 リーダーや役割分担の決定 テーマの決定 議論の進め方
第6回	プレゼンテーションの仕方	課題の認識 発表のまとめ方 発表の仕方
第7回	グループ発表①	実際の発表（一講義時に、2から3グループ程度：以下同様） 質疑とコメント
第8回	グループ発表②	質疑とコメント
第9回	中間総括	スポーツを巡る課題の整理 プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第10回	グループ発表③	質疑とコメント
第11回	グループ発表④	質疑とコメント
第12回	プレゼンテーションの総括 優秀チームの発表	課題の整理 発見点の整理と確認 コメント
第13回	スポーツビジネス理論に 何ができるか	現状のスポーツの課題と対応理論
第14回	職業としてスポーツを選 択することの可能性	スポーツに関わる職業 統計 スポーツに関わるライフプラン設計
第15回	まとめ： 日本のスポーツ界 世界のスポーツ界 グループ発表への総評と アドバイス	スポーツビジネスの発展に、具体的な アイデアをどう活用していくべきか （まとめの議論）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外に、個別のグループでの簡単な調整や準備が必要です。

受講登録人数にもよりますが、およそ、10人程度で一つのグループを編成し、共同でプレゼンテーション（発表）を行うこととします。グループには必ず参加してもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

アマゾンの電子書籍で刊行した『メディアショック+』（千田利史著）を選定します。

ワンズブックス。2015年刊行。上下巻各250円（計500円）。

アマゾンのサイトで、著書名か著者名で検索し、ダウンロードしてください。スマホ、パソコン、電子書籍端末で、読むことができます。

Kindle アプリが必要です（無料アプリです）。

（なお、本書は春学期の「スポーツビジネス論1」の教科書でもあります）。

## 【参考書】

必要に応じ、参考書籍や文献を紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

グループ発表と、最終授業時（講義時間内テスト）、および、平常点で評価します。

グループ作業での貢献や発表内容（40%）

最終授業時の小テスト（20%）

及び平常点（40%）、とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

積極的な参加と議論、および発表を期待します。

## 【学生が準備すべき機器他】

各自（グループごとに）がPPTで発表資料を作成し、パソコン投影をしてもらいます。

発表時は、使い慣れたパソコンなどを教室に持ち込むことを推奨します。

大学のAV機器操作にも慣れておくことが望ましいです。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

SOC300HA

## アーティストと社会貢献

庄野 真代

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても20世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎ出す作業は未開拓である。そこで、この授業では、私自身の「音楽を通した社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問い直す機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

## 【到達目標】

- ・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
- ・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
- ・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
- ・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的な経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動を検討しながら、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探る。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介し、それぞれが調べてきた豆情報を持ち寄って検討する。授業期間内に1～2回、ゲストスピーカーを迎える予定をしている。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第2回	アーティストとは？社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第3回	プロテストソングの誕生～アーティストと現代史（1）	1960年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯について検討する。ビート・シーガーなど。
第4回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容～アーティストと現代史（2）	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・エイド」（1984年）を契機に「USAフォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ポップ・ゲルドフ、ボノなど。
第5回	社会貢献活動の軌跡～アーティストと現代史（3）	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取り組むアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第6回	国際社会とアーティスト～親善大使として役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第7回	東日本大震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について検討する。レディガガなど。
第8回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっているNPO／NGO、市民団体について検討する。
第9回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。

第10回	コミュニティ形成とアーティストの役割	アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでのアーティストの果たす役割について検討する。
第11回	社会貢献活動の企画ワークショップ	アーティストが社会貢献する企画をたててみる。
第12回	アーティスト参加型プロジェクトのケース	「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまじしきキャンペーン」「なんとかしなきゃ！プロジェクト55億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストを検証する。
第13回	クラウドファンディングなどによる支援活動例	アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を検証し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
第14回	新たな知の創造と社会貢献活動の展望	授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展していくのかを探る。
第15回	共生社会づくりへの参加の扉～誰もがチェンジャーになれる？	最終回ではなくここがスタート地点。授業全体から感じたことを「自分らしいアクション」に繋げていく意義を問うことでまとめとする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

好きなアーティストの、本来の活動をとおした社会貢献、あるいは本業外での社会貢献活動を探してみよう。毎回、内容に添った豆情報一つ調べてくる。

## 【テキスト（教科書）】

資料を適宜、配布

## 【参考書】

その都度、紹介

## 【成績評価の方法と基準】

①毎回提出する豆情報30%、②課題レポート40%、③授業内試験30%による総合評価

## 【学生の意見等からの気づき】

現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

講師が主催しているチャリティイベントなどのボランティアスタッフを希望される方は歓迎します。是非、実際の社会貢献プログラムを体験してみてください。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

ARSI300HA

## グローバルスタディーズ I

吉田 秀美

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが日常生活で購入している商品は、様々な原材料を加工して作られています。例えば、大豆は味噌や豆腐の材料であるだけでなく、マーガリン、ファーストフードの揚げ油、スナック菓子、石鹸、インク、バイオ燃料にまで使われています。

本授業では、こうした原材料（世界の市場で大量に取引される商品＝コモディティ）を入り口として、環境、貿易、食料、エネルギー、歴史、ODA、企業やNGOの活動などについて学びます。授業を通じて、各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

## 【到達目標】

- 1) 身近なモノを事例として、生産地や生産者その他のステイクホルダーに関する具体的なイメージを持ち、社会経済の動き方を理解する。
- 2) 文献や統計資料（英文含む）を読みこなす力を身につける。
- 3) ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。
- 4) 調べて得た知識を基礎としつつ、独自の視点で課題や解決策を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。受講希望者が25名を超過する場合は、第1回目の授業で簡単な英文和訳・英作文のテストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第2回	講義：パーム油のサプライチェーンについて	生産者から消費者までの流れや課題を学ぶ
第3回	講義：大豆の基礎知識	グループ研究を進めるうえで必要な基礎知識、データの使い方などを学ぶ
第4回	文献講読と議論・発表 テーマの設定	各自がテキストを読んでまとめたレポートをもとに議論し、担当国や発表テーマを決定する
第5回	文献講読と発表・議論 (1)	生産地の歴史と課題 1：日本
第6回	文献講読と議論 (2)	生産地の歴史と課題2：アメリカ
第7回	文献講読と議論 (3)	生産地の歴史と課題3：中国
第8回	文献講読と議論 (4)	生産地の歴史と課題4：ブラジル
第9回	文献講読と議論 (5)	生産地の歴史と課題5：アフリカ
第10回	文献講読と議論 (6)	生産地の歴史と課題6：インド
第11回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第12回	農林推断物の生産と環境に関する文献講読と議論、発表テーマの決定	これまでの発表の振り返りを行う。
第13回	発表・議論 (1)	受講者が設定したテーマの発表 (1)
第14回	発表・議論 (2)	受講者が設定したテーマの発表 (2)
第15回	発表・議論 (3)	受講者が設定したテーマの発表 (3)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する文献やウェブサイトを事前に読んでくること。

## 【テキスト（教科書）】

「WWF Report2014 拡大する大豆栽培—影響と課題」  
概況把握のため表記テキストを使用しますが、様々な視点の文献や統計資料を各回で紹介しします。

WWF (2012) 「生きている地球のためのより良い生産」

## 【参考書】

本郷豊・細野昭雄 (2012) 「ブラジルの不毛の大地『セラード』開発の奇跡」(JICA プロジェクト・ヒストリー) ダイアモンド社

## 【成績評価の方法と基準】

参加姿勢、発表 (2回)、レポート (2回) を基本とします。  
予習への取り組み状況、任意提出の英文和訳などの取り組み状況によって加減します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートでは、事実を調べてまとめたり資料を考察する力、わかりやすく発表する力、複数の視点から見る姿勢などが身についたとの回答がありました。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

## 【その他の重要事項】

グローバル・スタディーズ I ではモノと環境の関わりに重点を置き、II ではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修をすると理解が深まります。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース (旧・国際環境協力コース)

ARSI300HA

## グローバルスタディーズⅡ

吉田 秀美

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【その他の重要事項】

グローバル・スタディーズⅡではモノと環境の関わりに重点を置き、Ⅱではモノと人の移動の関わりに重点を置きます。連続履修すると理解が深まります。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちにとって身近な食品である砂糖は、歴史の中で人の移動に大きな影響を与えてきました。本授業では砂糖がもたらした人の移動について、主要な生産国の歴史と現在直面している課題を考察します。授業を通じて各自が自分なりの歴史観や世界観を形成していくための基礎的能力を身に付けることを目指します。

## 【到達目標】

- 1) 現代の社会の成り立ちには歴史的経緯があることを理解し、その知識をふまえて現代の国境を超える人の移動について考察する。
- 2) 文献や統計資料を読みこなす力を身につける。
- 3) ウェブサイト上にある情報を丸のみせず、情報発信者の立場や目的を客観的に判断して使いこなす力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本授業はグループワークを中心とした演習形式で進めますので、毎回、積極的に参加する意欲のある受講者を期待します。受講希望者が25名を超過する場合は、第1回目の授業で簡単な英文和訳・英作文のテストを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、進め方や資料の探し方についての説明、基礎知識の講義、受講希望者が多い場合は選考テスト
第2回	講義：カカオ（1）	カカオと人の移動の歴史
第3回	講義：カカオ（2）	チョコレート産業とCSR
第4回	文献講読と発表（1）	大航海時代を新大陸の側から見る
第5回	文献講読と発表（2）	砂糖プランテーションがアフリカと新大陸にもたらした影響
第6回	文献講読と発表（3）	イギリスの砂糖と紅茶の歴史を知る
第7回	文献講読と発表（4）	奴隷貿易廃絶運動から奴隷の解放まで
第8回	文献講読と発表（5）	年季奉公者について
第9回	文献講読と発表（6）	現代の砂糖と労働をめぐる課題
第10回	映画鑑賞	関連分野のドキュメンタリー映画の鑑賞と議論
第11回	人の移動に関する文献講読と議論（1）	日本からの移民と日本に来た外国人
第12回	人の移動に関する文献講読と議論（2）	外国人技能実習制度
第13回	人の移動に関する文献講読と発表（1）	各自が設定したテーマで発表する（1）
第14回	人の移動に関する文献講読と発表（2）	各自が設定したテーマで発表する（2）
第15回	人の移動に関する文献講読と発表（3）	各自が設定したテーマで発表する（3）

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する文献やウェブサイトを事前に読んでくること。

## 【テキスト（教科書）】

川北稔（1996）『砂糖の世界史』（岩波ジュニア新書）  
 ラッセル・キング（ほか著、竹沢尚一郎・稲葉奈々子・高畑幸（訳）（2011）  
 『移住・移民の世界地図 移動する人びと』丸善出版

## 【参考書】

エリザベスアボット（2011）『砂糖の歴史』河出書房新社  
 WWF（2012）『生きている地球のためのより良い生産』

## 【成績評価の方法と基準】

参加姿勢、発表（2回）、レポート（2回）を基本とします。  
 予習への取り組み状況、任意提出の英文和訳などの取り組み状況によって加点します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートでは、「世界的なつながりや時代的なつながりを学び、物事を少し俯瞰して見られるようになった」という回答がありました。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業中に文献調査が必要な場合は、パソコン等を準備するよう指示します。  
 資料の配布や課題提出のために、授業支援システムを活用します。

PHL200HA

## 現代思想と人間 I

## 竹本 研史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会思想

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。そこで本講義では、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。今学期は、現代社会思想を取り扱う予定です。

## 【到達目標】

人間環境学部の学生として、さまざまな学問領域で「サステナビリティ」に関する学習を進めていくうえで基本的かつ不可欠な諸概念について、思想的営為の系譜をたどることで、それら諸概念にかけられている負荷を把握するとともに、そこで得た知見をもとにして、それらの現代社会における意義を考察し、見解を示せるようになることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、授業中ならびにリアクションペーパー提出による質疑+次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方
第2回	市民権と境界	エティエンヌ・バリバルの思想——『市民権の哲学』、『ヨーロッパ市民とは誰か』、『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』を中心に
第3回	全体主義批判と人間性の問題（1）	ハンナ・アーレントの思想（1）——『全体主義の起源』を中心に
第4回	全体主義批判と人間性の問題（2）	ハンナ・アーレントの思想（2）——『イェルサレムのアイヒマン』を中心に
第5回	全体主義批判と人間性の問題（3）	ハンナ・アーレントの思想（3）——『人間の条件』、『革命について』を中心に
第6回	個人の自由と反植民地主義（1）	ジャン=ポール・サルトルの思想（1）——『存在と無』、『弁証法的理性批判』を中心に
第7回	個人の自由と反植民地主義（2）	ジャン=ポール・サルトルの思想（2）——『ユダヤ人問題についての考察』、『シチュアション』を中心に
第8回	個人の自由と反植民地主義（3）	フランツ・ファノンの思想——『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に
第9回	フェミニズムの思想	シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想——『第二の性』を中心に
第10回	規律と権力（1）	ミシェル・フーコーの思想——『監視と処罰』を中心に
第11回	規律と権力（2）	ミシェル・フーコーの思想——『性の歴史』を中心に
第12回	規律と権力（3）	ミシェル・フーコーの思想——『社会は防衛しなければならない』、『安全・領土・人口』、『生政治の誕生』を中心に
第13回	公共性と正義（1）	ジョン・ロールズの思想——『正義論』を中心に
第14回	公共性と正義（2）	ユルゲン・ハーバーマスの思想——『公共性の構造転換』を中心に
第15回	今学期のまとめ	現代社会思想についての総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくになし。ただし、おりにふれ、背景となるような歴史的・思想的知識に関して、高校の世界史や倫理の教科書などで復習しておいてください。

## 【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

## 【参考書】

教場で随時紹介いたします。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメントシート（20%）+学期末試験（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし

## 【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史 I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

PHL300HA

## 現代思想と人間Ⅱ

## 竹本 研史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：哲学のディセリタシオン

フランスでは、リセ（高校）の最終学年で哲学を学ぶことが必修とされています。大学入学資格試験に当たるバカロレアにおいても、人文系であれ、社会科学系であれ、自然科学系であれ、哲学は受験必須科目であり、生徒たちは4時間かけて、ディセリタシオンというフランス式小論文の形式で問題に取り組んでいます。

本講義では、人間環境学部、ならびに学部の主軸理念である「サステイナビリティ」の学問内容とも関わり深いテーマを選び、みなさんと一緒に考えていきます。今年度は、2016年度の理系の選択問題だった「労働を減らせば、より善く生きることになるのか (Travailler moins, est-ce vivre mieux ?)」をテーマとして設定します。

ただし、あくまで大学の学部専門科目として、それにふさわしいレベルで「労働」についての思想的知識を身につけたうえで、設定したテーマについてみなさんが見解を示すことが目的です。

ようやく社会で「働き方」についての捉え方が見直されつつある昨今、改めて「労働」とは何かについて根本的に考えてみましょう。

## 【到達目標】

\*「労働」についての思想的系譜を把握したうえで、その知識を基にして「労働を減らせば、より善く生きることになるのか」という問題設定に対して自分自身の見解を示すことができるようになること。

\*その際に、日本語のかたちであれ、ディセリタシオンの形式を身につけて、論理的に上記に関する見解を論じることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方
第2回	ディセリタシオン（フランス式小論文）とは	ディセリタシオンの形式について学ぶ
第3回	古代の思想家のみる労働	プラトン、アリストテレス、ヘシオドスらの思想から
第4回	近代の思想家が見る「労働」(1)	アダム・スミスの労働価値説
第6回	近代の思想家が見る「労働」(2)	ヘーゲルにおける「主人と奴隷の弁証法」および、市民社会と労働について
第7回	近代の思想家が見る「労働」(3)	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	近代の思想家が見る「労働」(4)	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	近代の思想家が見る「労働」(5)	カール・マルクス『資本論』
第9回	近代の思想家が見る「労働」(6)	プロテスタンティズムと禁欲的労働ーマックス・ヴェーバー
第10回	近代の思想家が見る「労働」(7)	「文明」の形成のための労働ージークムント・フロイト
第11回	現代の思想家が見る「労働」(1)	ハンナ・アーレント、ジャン=ポール・サルトル、ミシェル・フーコーそれぞれの労働論を春学期の復習も兼ねて学び直す
第12回	現代の思想家が見る「労働」(2)	ジル・ドゥルーズの「管理社会」論
第13回	現代の思想家が見る「労働」(3)	イヴァン・イリイチの「シャドウ・ワーク」論
第14回	現代の思想家が見る「労働」(4)	アントニオ・ネグリ／マイケル・ハートの「非物質的労働」と「マルチチュード」論
第15回	今学期のまとめ	「労働」についての思想的系譜を総括する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

## 【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

## 【参考書】

教場にて随時指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメントシート（20%）+学期末試験（80%）

## 【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくします。また、記号の使い方、ポイントの大きさなどにも留意いたします。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

## 【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

OTR200HA

## 人間環境特論（海の環境再生）

坂本 昭夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球の 80%を占める海、世界で一番海洋に囲まれている面積の大きい日本。しかし日本を取り巻く海洋にはそれぞれの地域特性の問題を抱えています。この授業では主に『東京湾』『北半球』を取り上げ、海洋環境の現状、問題を取り上げ、更に太平洋への影響など地球規模の環境問題に触れ、我々の生活態度がその環境悪化を生み出している現実を認識し、地球、海洋にやさしい生活態度を発見してもらうことを目的とする。

## 【到達目標】

現在の海洋環境は我々の生活に密接にかかわりを持っています。現状の海洋環境を学び、知ることでその『かかわり』を認識し感じ、豊かな生活がもたらした海洋環境の悪化をいかに改善するか、これ以上悪化させないかを考察してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業は主に PPT を使用し、DVD 視聴等します。また現在東京湾、北半球等で活動する NPO、環太平洋ネットワークの面々による特別講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋学環境概論	NHK スペシャル『東京湾』大都会の知られざる海。約 50 分の DVD を視聴し 現在の東京湾環境を見る。
第 2 回	東京湾における生物体系を知る	TBS 作成 [1 秒の世界] 奇跡の海 東京湾いきもの大冒険！。約 50 分の DVD を視聴し 現在の東京湾生物環境を知る。
第 3 回	海洋ゴミを知る	海洋ゴミの実態。市民団体や NPO の清掃活動の実態を知り、ゴミを考える。
第 4 回	海洋ゴミを見る。②	テレビ東京『ためしてガッテン！』約 1 時間の DVD 視聴し、東京湾での海洋ゴミを分析する
第 5 回	東北震災起因の漂着物	東北震災 津波による 環太平洋における漂着物と海底ゴミの様子
第 6 回	環太平洋での海洋ゴミと環太平洋ネットワークの構築	日本から流出する海洋ゴミとそれらゴミを処理する NGO 団体の活動等を紹介 Cleaning Marine Debris from Alaska's Beaches   INDIE ALASKA 視聴
第 7 回	マイクロプラスチックを分析する。	世界的に脅威となっているマイクロプラを考え、自らの生活を見直す。
第 8 回	海をめぐる私たちのゴミを考える	世界的に活動している一社 Jean を特別講師として呼び出し、彼らの活動等を紹介する。
第 9 回	海洋温暖化と赤潮、青潮の発生メカニズム	1 年を通じて発生している赤潮、青潮を分析し発生のメカニズムを理解する。
第 10 回	アマモ（海草）移植活動紹介	貝毒等を分解するアマモ（海草）を通じ海洋環境改善を考える。
第 11 回	海藻による海洋環境改善対策を知る	東京湾、相模湾において減少、消滅している海の森（海藻の森）を知る。
第 12 回	海の環境改善の為の活動する NPO を紹介	NPO World Ocean's Day を特別講師として呼び出し活動等を紹介する、
第 13 回	プラスチックを考える	プラスチック類、家庭ゴミの軽減策提案と海洋流出防止策・海外におけるプラスチックの軽減対策紹介
第 14 回	プラスチックを考える②	プラスチック類、家庭ゴミの軽減策提案と海洋流出防止策・海外におけるプラスチックの軽減対策紹介
第 15 回	東北震災や、熊本震災等で活動する現役の若い力を紹介する。	東北震災時カナダ、アラスカで活動した JapanLove の面々による特別講義。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海洋環境は地球環境と同じく短期間で良くなるものではありません。しかし一人ひとりの生活態度を見直すことで、環境は少しずつですが良い方向へと変化していくものです。授業に対して事前準備等は必要ありませんが、1 回ごとの授業内容を自分の生活態度と照らし合わせてください。きっとあなたがやらなければならない環境配慮が見つかるとおもいます。

## 【テキスト（教科書）】

特にありません。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

\*最後のレポート提出 100%

## 【学生の意見等からの気づき】

2016 年度より担当

海洋環境という特殊な分野であることで専門用語や、理化学的な会話が多くなりました。できるだけ人間環境学部としてわかりやすい用語での授業にします。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

特になし

OTR200HA

## 人間環境特論（ジェンダーから考える現代日本社会）

佐伯 英子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ ジェンダーから考える現代日本社会  
ジェンダーの視点は、「男らしさ」や「女らしさ」というものが、社会的、文化的、歴史的にどのように構築されてきたのかを明らかにします。この授業では、性別とは何なのか、性差とは何なのか、というところから考え始め、ライフコースをたどる中から私たちがジェンダーの規範をどのように学ぶのか、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に、どのような影響を与えているのかを探ります。

## 【到達目標】

歴史的な視点、国際比較、国内のデータ等を用いてジェンダーを多面的に捉えるのと同時に、日常生活の中で当たり前だと思うこと、常識、または自然であると考えられていることを疑い、ジェンダーの視点で社会をみることから、新たな知見を獲得することを目指します。さらに、より平等で持続可能な社会の構築を目指すなかで、ジェンダーにどのような重要性があるかを考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めますが、グループディスカッションや毎回の授業で集めるリアクションペーパーへの記入から、積極的な参加を期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標
第2回	ジェンダーとは何か	性別と性差
第3回	ジェンダーと社会化	私たちは「ジェンダーをする」ことをどう学ぶのか
第4回	教育のなかのジェンダー	隠れたカリキュラムとは
第5回	ジェンダー、性自認とセクシュアリティ	身体とアイデンティティ
第6回	リプロダクティブ・ライツと生殖技術	出生前診断、不妊治療、人工妊娠中絶
第7回	ジェンダーと労働	雇用体系、賃金格差
第8回	ジェンダーと家族	近代家族の成立と発展
第9回	ジェンダー、家族、労働	女性と子どもの貧困
第10回	ジェンダー、家族、労働	ワークライフ・バランス
第11回	暴力とジェンダー	性暴力、ドメスティックバイオレンス
第12回	グローバル化とジェンダー	労働とリプロダクションの視点から
第13回	国家とジェンダー	政治と女性
第14回	フェミニズム	その歴史と現在
第15回	まとめ	小テスト2、授業の総括

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後には復習をし、積極的に質問をしてください。課題は1回、小テストは前半と後半に1回ずつあります。

## 【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

## 【参考書】

適宜配布します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（含コメントシート）30%、課題20%、テスト50%

## 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やし、より活発な意見交換ができるよう留意したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

特ありません。

CAR300HA

## キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

## 【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回～第13回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体における研修。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修（1）	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第15回	キャリアチャレンジ・事後研修（2）	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

個別に指導します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）・レポート（50%）

## 【学生の意見等からの気づき】

新設科目のため、なし。

## 【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017年度から、「選択必修科目」（6単位）の対象科目になります。



BSP100HA

## 人間環境学への招待

### 人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

#### 【到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・ゼミなど学部の特徴の理解）、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各コース科目を担当する教員の講義を通して学ぶ。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

まず学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各コースの学習内容について解説し、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学部での学び (1)、大学での学び方①	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。また、大学で学ぶ技法としてのノートテイキングを実習を交えて解説する。
第2回	人間環境学部での学び (2)	フィールドスタディ、人間環境セミナー、SAなど学部の特徴ある学び方のねらいと履修法を説明する。
第3回	人間環境学部での学び (3)	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第4回	コース制とコースでの学びかた①	専門分野の異なる複数教員による講義により、各コースでの学び方を解説する。
第5回	コース制とコースでの学びかた②	同上
第6回	コース制とコースでの学びかた③	同上
第7回	大学での学び(2)	リーディングスキルを学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第8回	コース制とコースでの学びかた④	専門分野の異なる複数教員による講義。
第9回	コース制とコースでの学びかた⑤	同上
第10回	大学での学び(3)	ライティングスキルを学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第11回	テーマによる学び①	一つのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第12回	テーマによる学び②	同上
第13回	テーマによる学び③	同上
第14回	テーマによる学び④	同上
第15回	まとめこの学部でいかに学ぶか	講義の全体を総括し、学部理念の再確認をする。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくること。

#### 【テキスト（教科書）】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

#### 【参考書】

各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

ブックレポート・課題レポートの提出を求めます。期末試験を行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

#### 【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること（再履修者・編入者も自分のクラスの授業時限で登録・履修すること）。

BSP100HA

## 人間環境学への招待

## 人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

## 【到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・ゼミなど学部の特徴の理解）、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各コース科目を担当する教員の講義を通して学ぶ。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

まず学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各コースの学習内容について解説し、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学部での学び (1)、大学での学び方①	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。また、大学で学ぶ技法としてのノートテイキングを実習を交えて解説する。
第2回	人間環境学部での学び (2)	フィールドスタディ、人間環境セミナー、SAなど学部の特徴ある学び方のねらいと履修法を説明する。
第3回	人間環境学部での学び (3)	文理融合の人間環境学部での学びの一例を複数教員による講義で実感し、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第4回	コース制とコースでの学びかた①	専門分野の異なる複数教員による講義により、各コースでの学び方を解説する。
第5回	コース制とコースでの学びかた②	同上
第6回	コース制とコースでの学びかた③	同上
第7回	大学での学び(2)	リーディングスキルを学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第8回	コース制とコースでの学びかた④	専門分野の異なる複数教員による講義。
第9回	コース制とコースでの学びかた⑤	同上
第10回	大学での学び(3)	ライティングスキルを学ぶ、課題の提出によって理解を深める。
第11回	テーマによる学び①	一つのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第12回	テーマによる学び②	同上
第13回	テーマによる学び③	同上
第14回	テーマによる学び④	同上
第15回	まとめこの学部でいかに学ぶか	講義の全体を総括し、学部理念の再確認をする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくること。

## 【テキスト（教科書）】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

## 【参考書】

各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

ブックレポート・課題レポートの提出を求めます。期末試験を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

## 【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること（再履修者・編入者も自分のクラスの授業時限で登録・履修すること）。

BSP100HA

**基礎演習****人間環境学部教員**

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

**【到達目標】**

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】****【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等を学ぶ。
第4回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（2）	同上
第6回	テキストの講読（3）	同上
第7回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第8回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第9回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第10回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論2	同上
第12回	グループ発表・討論3	同上
第13回	グループ発表・討論4	同上
第14回	グループ発表・討論5	同上
第15回	総括のグループワーク	レポート提出。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

**【テキスト（教科書）】**

担当教員が指示する。

**【参考書】**

担当教員が授業時に適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、討論の積極性、学年末レポートなどから総合的に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

学部が各学生が希望するコースと時間帯（ゾーン）をそれぞれ第3希望まで調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。

**【その他の重要事項】**

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

COT100HA

**情報処理基礎****小林 信彦**

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

**【到達目標】**

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】****【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／IT系の資格について／スキルレベルの確認／学内のPC環境について
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	インターネットの活用／電子メールの活用／情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	Wordを利用した文書作成の応用（様々な文書レイアウト）
第8回	表計算演習-基本的な概念	Excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高い関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	Powerpointを利用した資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド切替え、アニメーションの活用演習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。

**【テキスト（教科書）】**

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

**【参考書】**

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内で作成するインターネット活用(20%)、文書作成(40%)、表計算(40%)の3つのレポート課題により成績評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報処理教室のパソコンを利用する。

**【その他の重要事項】**

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。  
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。  
受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

COT100HA

**情報処理基礎**

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。  
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

**【到達目標】**

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。  
インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／IT系の資格について／スキルレベルの確認／学内のPC環境について
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	インターネットの活用／電子メールの活用／情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	Wordを利用した文書作成の応用（様々な文書レイアウト）
第8回	表計算演習-基本的な概念	Excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高い関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	Powerpointを利用した資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド切替え、アニメーションの活用演習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につくにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。

**【テキスト（教科書）】**

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

**【参考書】**

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (40%)、表計算 (40%) の3つのレポート課題により成績評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

## 【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。  
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。  
受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

COT100HA

## 情報処理基礎

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

## 【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第2回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第3回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第4回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第5回	Excel の応用：表計算（1）	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第6回	Excel の応用：表計算（2）	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第7回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第8回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第9回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第10回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第11回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第12回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第13回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第14回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。
第15回	まとめ	授業のまとめをする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

## 【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

この授業は概ね好評である。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

## 【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

COT100HA

## 情報処理基礎

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

## 【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第2回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第3回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第4回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第5回	Excel の応用：表計算（1）	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第6回	Excel の応用：表計算（2）	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第7回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第8回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第9回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第10回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第11回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第12回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第13回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第14回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。
第15回	まとめ	授業のまとめをする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

## 【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

この授業は概ね好評である。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

## 【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

COT100HA

## 情報処理基礎

渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：情報の理論、実務とその応用

本科目では、情報とその処理についての理論と応用法を学習し、ユーザとしての立場から IT 技術を活用して業務改善を図り、あるいは各種研究に役立つための能力を養います。国家試験（経済産業省）「IT パスポート試験」を受験することを念頭に置いています。また同省「基本情報技術者試験」を目指すための内容についても触れます。これらの内容に沿って学習していく過程で、環境問題との接点も意識することになります。例えばマネジメントの考え方など、最終的には情報処理の問題にとどまらず幅広い領域の問題に関連することが理解されます。

## 【到達目標】

IT に関する知識を習得して、国家試験のカリキュラムの内容を理解することを最初の目標としています。さらにそこで得られた知識を実際の問題に照らし、どのように応用できるのかを考える力を養うことがもうひとつの目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

情報実習室は使わず通常教室でテキストを使用して学習することを中心に行います。コンピュータの仕組みやソフトウェア、業務組織の機能・運用と業務改善、品質管理手法など広範囲の内容について学習します。現代社会における科学技術のあり方などについても考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、情報処理技術者試験の説明
第 2 回	IT システムと利用 -テクノロジー (1)	PC の構造としくみ、ソフトウェア
第 3 回	IT システムと利用 -テクノロジー (2)	システム構成とネットワーク
第 4 回	IT システムと利用 -テクノロジー (3)	セキュリティ対策
第 5 回	IT システムと利用 -テクノロジー (4)	表計算と関係データベースの考え方
第 6 回	IT システムの開発と経営 -ストラテジ (戦略) - (1)	経営戦略と業務分析
第 7 回	IT システムの開発と経営 -ストラテジ (戦略) - (2)	品質管理手法、問題分析手法
第 8 回	IT システムの開発と経営 -ストラテジ (戦略) - (3)	会計・財務の分析
第 9 回	IT システムの運用管理 -マネジメント - (1)	システム開発工程とスケジュール管理
第 10 回	IT システムの運用管理 -マネジメント - (2)	システムのテストとその手法
第 11 回	IT システムの運用管理 -マネジメント - (3)	システム運用と信頼性
第 12 回	IT パスポート試験の対策と応用 (1)	具体的な問題にアプローチ
第 13 回	IT パスポート試験の対策と応用 (2)	具体的な問題にアプローチ
第 14 回	基本情報技術者試験の対策と応用 (1)	カリキュラム解説と過去問研究
第 15 回	基本情報技術者試験の対策と応用 (2)	カリキュラム解説と過去問研究

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

使用するテキストについて、毎回予習と復習を行ってください。テキストの中の練習問題も含めて学習してください。

## 【テキスト（教科書）】

開講時に指定します。

## 【参考書】

開講時に適宜紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

受講時の積極性 50%、期末試験 50%。

## 【学生の意見等からの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくと進めていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習教室は使用しません。通常教室においてテキストを使った講義を行います。

COT100HA

## 情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

## 【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／IT系の資格について／スキルレベルの確認／学内のPC環境について
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	インターネットの活用／電子メールの活用／情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	Wordを利用した文書作成の応用（様々な文書レイアウト）
第8回	表計算演習-基本的な概念	Excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高い関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	Powerpointを利用した資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド切替え、アニメーションの活用演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につくにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。

## 【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

## 【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (40%)、表計算 (40%) の3つのレポート課題により成績評価を行う。



## 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

## 【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。  
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。  
受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

COT100HA

## 情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。  
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

## 【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。  
インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説 / IT系の資格について / スキルレベルの確認 / 学内のPC環境について
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	インターネットの活用 / 電子メールの活用 / 情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	Wordを利用した文書作成の応用（様々な文書レイアウト）
第8回	表計算演習-基本的な概念	Excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高い関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	Powerpointを利用した資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド切替え、アニメーションの活用演習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につくにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。

## 【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

## 【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (40%)、表計算 (40%) の3つのレポート課題により成績評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

## 【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。  
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。  
受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

COT100HA

## ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。  
近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにもない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。  
この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

## 【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理：Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第 6 回	Web ページ製作：HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ製作：課題ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

## 【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。  
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点・課題提出を総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

**【その他の重要事項】**

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

COT100HA

**ネットワークとマルチメディア**

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。  
近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにもない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

**【到達目標】**

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理：Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第 6 回	Web ページ製作：HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ製作：課題ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

**【テキスト（教科書）】**

WWW を通じて教材を配布する。  
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

**【参考書】**

なし。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点・課題提出を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

## 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

## 【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

PRI100HA

## 統計とデータ分析

渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ： EXCEL を使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する

統計学は環境問題は当然の事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えば IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海水面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「5～9.5%が含まれる範囲」、「90%信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用しながら統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

## 【到達目標】

本科目では EXCEL を利用しながら様々な情報を読むための基礎を学習する。これにより統計的知識などを実際の環境データの分析に応用できる力を身に付けることを目標としている。もちろん統計学の初歩とデータ分析法を学習することは、環境学への応用というだけではなく、大学生として身に付けるべき教養という側面もあるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

授業は毎回、情報教室を使用して進めていく。各種ソフト+ネットワーク利用法など IT に関わる全般的なスキルの習得に加え、EXCEL の利用法を中心に学習する。これにより統計学の基礎を学ぶ。なお実務的な力を高めるために EXCEL 関数なども積極的に利用する。本科目は理系の内容が苦手だと思っている文系の学生が受講することを前提としているため、ゆっくりと分かる学生にとっても有益な授業となるだろう。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第 2 回	情報教室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて。
第 3 回	EXCEL 実習 1	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第 4 回	EXCEL 実習 2	各種関数の利用法、IF 関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第 5 回	EXCEL 実習 3	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第 6 回	環境データの検索と分析 1	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第 7 回	環境データの検索と分析 2	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第 8 回	統計学入門 1	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第 9 回	統計学入門 2	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第 10 回	統計学入門 3	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が 70 であるとは、55 であるとは統計的にどのような意味か？
第 11 回	統計学入門 4	相関分析と回帰分析（相関係数と 2 つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいのか？

発行日：2021/6/1

第 12 回	統計学入門 5	統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？
第 13 回	統計学入門 6	統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。
第 14 回	統計学入門 7	因子分析について。原因と結果の分析法。結果からその重要な要因を見抜くには？
第 15 回	総括	環境データを統計的に理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】  
毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】  
テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】  
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】  
受講時の積極性 50%、最終授業時に出题するレポートの充実度 50%。

【学生の意見等からの気づき】  
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】  
授業では毎回情報教室を利用します。受講にあつたては皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

【その他の重要事項】  
この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていません。  
この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。  
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。  
旧科目名称「統計概論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

LNG100HA

## 英語 I（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning) 教材や authentic な映画などを用いて、日常会話の基礎力を養います。

### 【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。また、厳しいステップではありますが、教材の英語と生の英語の違いを学ぶことも重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

最初は、後述のテキストと同 CALL 教材により、基礎的なリスニングとスピーキングの力を養います。教材に慣れてきたら、インプットのバラエティを豊かにし authentic な英語表現になじむため、随時映画やドラマの断片も教材とします。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。CALL 教材のデモンストレーションもあります。受講者選抜となる可能性が高いので、受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	テキスト Chapter1・2 (旅行編)	‘Where Do I Get the Bus?’ (Getting information) ‘Do You Have a Reservation, Ma’am?’ (Checking in at a hotel) ‘Could You Repeat That?’ (Asking for directions) ‘I’ll Take the Wrangler Convertible’ (Renting a Car)
第 3 回	テキスト Chapter3・4 (旅行編)	‘Would You Like Soup or Salad?’ (Ordering a meal) ‘Where’s the Fitting Room?’ (Shopping for clothes)
第 4 回	テキスト Chapter5・6 (旅行編)	‘Would You Mind Taking My Picture?’ (Asking for a favor) ‘Good to See You!’ (Meeting a friend)
第 5 回	テキスト Chapter7・8 (旅行編)	‘I Enjoyed My Stay’ (Checking out of a hotel) ‘Aisle Seat, Please’ (Expressing preference)
第 6 回	テキスト (旅行編) の応用	テキスト (旅行編) で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 7 回	テキスト Chapter11・12 (留学編)	‘You Are One of the Family Now’ (Home stay) ‘I Want to Help!’ (Offering to help)
第 8 回	テキスト Chapter13・14 (留学編)	‘So, What’s Your Major?’ (Self-introduction) ‘I’ll Try to Do My Best’ (Getting advice)
第 9 回	テキスト Chapter15・16 (留学編)	‘When Do I Have to Return This?’ (Checking out a book) ‘Do You Have Any ID?’ (Opening a bank account)
第 10 回	テキスト Chapter17・18 (留学編)	‘How about Sea Mail?’ (Sending a package) ‘Would You Like to Join Us?’ (Inviting a friend)
第 11 回	テキスト Chapter19・20 (留学編)	‘I Have a Sore Throat’ (Buying medicine) ‘Let’s Keep in Touch, OK?’ (Saying good-bye)

第 13 回	テキスト（留学編）の応用	テキスト（留学編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを発行しています。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、各 Chapter の Communication Focus には目を通してください。授業後は、Main Dialogue と Interview を復習してください。また、授業内でのタスクのために、Model Dialogue は完全に覚える必要があります。

#### 【テキスト（教科書）】

Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)  
written by Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell.  
2,000 JPY

#### 【参考書】

URL (例)

<https://www.expedia.co.uk/>

<https://www.ox.ac.uk/gazette/>

<https://www.londontheatre.co.uk/> など。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「実践的な英語表現が身につけてよかった」・「映画を用いたタスクが楽しかった」・「新しいCALLシステムにふれたのが新鮮だった」など、前向きなコメントが多く嬉しく思いました。「映画のタスクをもっとやりたかった」という意見もあったので、2017 年度の受講生の様子を見ながら、教材英語と authentic な英語のバランスを調整したいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室での授業です。

#### 【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。本講座は受講希望者が多数となる可能性が高いです。初回授業にて選抜または抽選を行うことになると思います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

## 英語 I（スキルアップ科目）

### 板橋 美也

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングを中心に英語の日常会話表現に親しもう

#### 【到達目標】

日常生活に必要なリスニング力が身に付き、様々なとっさの状況で適切な英語の表現を用いることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音で用いることが出来るように、教室のオーディオ再生録音機材を用いながら、overlapping, repeating, shadowing などによる練習を適宜行います。また、せっかく覚えた日常表現も、実際の英会話では、緊張や恥ずかしさでとっさに出てこない、ということはおぼえています。そこで、Native World Pro. という双方向の英会話ソフトを用いて、実際の英会話でのやり取りを各自が気後れせずに練習できる機会も設けます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第 2 回	教科書 Units 1 and 2	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話や乗り物に関する会話を聴き取る練習をしながら、位置・場所・時間・頻度に関する表現をおぼえます。
第 3 回	教科書 Units 3 and 4	ショッピング・スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聴き取る練習をしながら、数量・距離・長さや感情に関する表現をおぼえます。
第 4 回	Native World Pro. 日常会話編 Asking for direction	実際の英会話で道をたずねる表現を用いる練習をします。
第 5 回	教科書 Units 5 and 6	食事・旅行・レジャーに関する会話を聴き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼・判断・評価に関する表現をおぼえます。
第 6 回	教科書 Units 7 and 8	ビジネス・オフィス・インターネット・コンピュータ関連の会話を聴き取る練習をしながら、経験・完了・情報の交換に関する表現をおぼえます。
第 7 回	Native World Pro. 日常会話編 Ordering breakfast at the restaurant	レストランでの実際の英会話の練習をします。
第 8 回	教科書 Units 9 and 10	金銭・費用関連の会話やホテルでの会話を聴き取る練習をしながら、方法・手段・原因・理由に関する表現をおぼえます。
第 9 回	教科書 Units 11 and 12	天候に関する会話や電話での会話を聴き取る練習をしながら、予定・日程・許可・義務に関する表現をおぼえます。
第 10 回	Native World Pro. 日常会話編 Sending a package at the post office	実際の英会話で、郵便局で荷物を送るための表現を用いる練習をします。
第 11 回	教科書 Units 13 and 14	学校や家庭での会話を聴き取る練習をしながら、賛成・不賛成の意向や可能性を示す表現をおぼえます。
第 12 回	教科書 Unit 15 と補足教材	健康に関する会話を聴き取る練習をしながら、目的を示す表現をおぼえます。
第 13 回	補足教材	補足教材を用いてさらなるリスニング力の向上をめざします。
第 14 回	補足教材	補足教材を用いてさらなるリスニング力の向上をめざします。
第 15 回	試験	授業でおぼえた表現を聴き取る試験をおこないます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書を用いる回の前には、それぞれの週の Unit の問題を、教科書付属の自習用CDを用いて予習してください。また、教科書・補足教材や Native World Pro. で覚えた表現を授業後に復習しておきましょう。

**【テキスト（教科書）】**

Listening Practice for Daily Expressions（鶴見書店）

**【参考書】**

必要に応じて指示します

**【成績評価の方法と基準】**

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業によってリスニングの時間を確保することができたという感想が多くなりましたが、「継続は力なり」ですので、授業以外にも自主的にリスニングの時間を作ることで、さらにスキルアップをめざしましょう。

**【学生が準備すべき機器他】**

CALL 教室

**【その他の重要事項】**

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

**英語Ⅱ（スキルアップ科目）****磯部 芳恵**

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

**【到達目標】**

To be able to communicate with people freely

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第2回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第3回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第4回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第5回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第6回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第7回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第8回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第9回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第 11 回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 13 回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第 14 回	Acting out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第 15 回	In-class quiz of this course	Students are given a 60-minute written test.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading the script and summarizing each unit.  
Writing down their favorite line.  
Studying the new words and phrases in advance.

## 【テキスト（教科書）】

*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200 円)

## 【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

Test (70%), Attendance and Assignments (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

to give students more chance to have a little discussion

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

## 英語Ⅲ（スキルアップ科目）

## 磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【到達目標】

to be able to express one's thoughts clearly

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Students make a recitation of two pages from Obama Speeches in June and take a in-class test at the end of the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction Unit 1	Grammar and vocabulary
第 2 回	A great read Unit 1	Conversation
第 3 回	A great read Unit 1	Reading
第 4 回	A great read Unit 2	Grammar and vocabulary
第 5 回	Technology Unit 2	Conversation
第 6 回	Technology Unit 2	Reading
第 7 回	Unit 3 Society	Grammar and vocabulary
第 8 回	Unit 3 Society	Conversation
第 9 回	Unit 3 Society	Reading
第 10 回	Checkpoint 1	Review Unit 1-3C
第 11 回	Unit 4 Amazing world	Grammar and Vocabulary
第 12 回	Unit 4 Amazing world	Conversation
第 13 回	Unit 4 Amazing world	Reading
第 14 回	Wrap-up	Review Unit 1-4
第 15 回	Checkpoint	In-class test

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. Get ready for the recitation of Obama's speech in June.

## 【テキスト（教科書）】

Viewpoint 2(Cambridge University Press)  
『オバマ演説集』(朝日出版社) 1,000 円

## 【参考書】

Kenkyusha's English-Japanese Dictionary for the General Reader.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 50%, in-class test 50%.

## 【学生の意見等からの気づき】

To give students more chance to make a presentation.

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 【その他の重要事項】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。



LNG100HA

## 英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

## 【到達目標】

To be able to acquire basic skills in business scenes

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction & Unit 1	Mini lesson
第2回	Unit 1	Vocabulary
第3回	Working life Unit 1	Video and discussion
第4回	Working life Unit 2	Vocabulary
第5回	Projects Unit 2	Key expressions
第6回	Projects Unit 2	Video and discussion
第7回	Unit 3	Vocabulary
第8回	Leisure time Unit 3	Key expressions
第9回	Leisure time Unit 3	Video and discussion
第10回	Unit 8	Vocabulary
第11回	Working together Unit 8	Key expressions
第12回	Working together Unit 8	Video and discussion
第13回	Unit 12	Vocabulary
第14回	Innovation Unit 12	Key expressions
第15回	Innovation Wrap-up and quiz	Students will make a presentation and take a quiz.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will do the reading part at home and get prepared for a presentation. following week.

## 【テキスト（教科書）】

Business Result Intermediate(Oxford University Press)

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance & Participation 40%, Presentation 20%, Test40%.

## 【学生の意見等からの気づき】

to give students more chance to study current news

## 【その他の重要事項】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

## テーマ別英語 1（スキルアップ科目）

板橋 美也

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Design in Europe, North America and Japan in the 20th century

## 【到達目標】

Through the course, students will be able to:

-define major schools and movements of design in Europe, North America and Japan in the 20th century

-explain how social, economic and political contexts of each period influenced designs of everyday objects.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Almost everything we use daily, such as a pen, a coffee mug, a mobile phone, a chair, etc. is a 'designed' object. But have you ever thought about how the 'designs' to which we are familiar today were created in the process of modernization? This course will give students an overview of the history of design in Europe, North America and Japan in the 20th century. Before each class, students will be provided with worksheets so that they can grasp a general outline of what they will study in the week. After listening to the lecture in the beginning of each class, students will be asked to answer the comprehension questions in the worksheets. At the end of each class, students will write in reaction papers about what they feel or think about the theme of the week or the designs shown during the lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Guidance on the course
第2回	The prelude to the 20th century	Industrialization, the Arts and Crafts Movement, etc.
第3回	The dawning of the 20th century design	The Deutcher Werkbund, the Vienna Workshops, the Design and Industries Association, etc.
第4回	Modernism 1	The Bauhaus
第5回	Modernism 2	Le Corbusier, Scandinavian design, etc.
第6回	Consumerism and design 1	Art Deco
第7回	Consumerism and design 2	Hollywood style, streamline design, Raymond Loewy, etc.
第8回	Modernism in Japan	The emergence of designers in Japan
第9回	National identities in design	Design in Britain, Germany, Italy, the United States, etc. in the 1920s and the 1930s.
第10回	Design after the Second World War 1	Populuxe, Charles and Ray Eames, Eero Saarinen, etc.
第11回	Design after the Second World War 2	Arne Jacobson, Gio Ponti, Terence Conran, etc.
第12回	Japanese design after the Second World War	Design in the age of rapid economic growth in Japan
第13回	Post-modernism	Reactions against modernism in design
第14回	Exam	Students can bring the worksheets, handouts, notebooks and dictionaries to the exam.
第15回	Exam review	Exam review

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare for each class by using worksheets given beforehand.

## 【テキスト（教科書）】

Worksheets will be provided by the instructor.

## 【参考書】

Please bring a dictionary to the class.

## 【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on:

-attendance (Students who miss 4 classes or more will not be able to pass this course.)

-class participation

-an exam (Students who does not take the exam will not be able to pass this course)

【学生の意見等からの気づき】

I'm glad to know that there were many 'discoveries' for you in this course.

【その他の重要事項】

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

## テーマ別英語 2 (スキルアップ科目)

竹原 正篤

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時間：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Many problems exist in modern society and many of those problems are caused by unsustainable business activities. Companies are expected to work on reducing their negative impact on society and earth, and solving those problems by leveraging their resources such as money, human resources, technology and information. In addition, companies are expected to make positive contribution to our society to solve problems with their products and services. In this course, we will discuss various aspect of CSR and consider what the ideal company should be in 21st century.

### 【到達目標】

Throughout this course, we aim at (1) understanding the basic theory and global trend of CSR (Corporate Social Responsibility) and corporate sustainability, (2) having deeper understanding about the roles of companies expected in sustainable society.

Through the course, students will be able to:

(1) learn and demonstrate extended knowledge and understanding of key ideas and concepts of CSR and sustainability.

(2) participate effectively in discussion and develop presentation skills.

For those who are aiming at passing the exam of Grade 1 or Grade pre-1 in the EIKEN Test in Practical English Proficiency, this course can be a good training opportunity, especially for the interview test (the tutor has Grade 1 certificate).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

Classes will mainly consist of short lectures, small-group discussions, presentations. Class materials will be distributed for each class (e.g., articles, link to a site or video, etc.). Through this course, students are expected not only to deepen their understanding of CSR related topic, but also to develop skills critical to research and discuss various business topic in English. Students are also expected to choose a topic of their interest and give a presentation in the middle and at the end of the course.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Overview of the course, and student selection if necessary
第 2 回	Overview of CSR and Corporate sustainability	Short lectures on overview of CSR and Corporate sustainability followed by discussion.
第 3 回	Climate change and Corporate management 1	Understand current situation around climate change, especially the latest trend of decarbonization and its impact on corporate management. Topic to be covered include Paris agreement, carbon bubble theory, divestment; etc.
第 4 回	Climate change and Corporate management 2	What sustainability strategy is needed in the decarbonization era? Topic to be covered includes Paris agreement, carbon bubble theory, divestment; etc.
第 5 回	Human rights and Corporate management 1	Short lectures on overview of human rights and CSR followed by group discussion. Topic to be covered includes human rights issues in global supply chain.
第 6 回	Human rights and Corporate management 2	Case studies and group discussion (human rights issues in Japanese companies)
第 7 回	Mid-term presentation 1	Individual presentation by students and discussion.
第 8 回	Mid-term presentation 2	Individual presentation by students and discussion.

第 9 回	CSV (Creating Shared Value) 1	Short lectures and group discussion (discuss pros and cons of CSV, how CSV is different from CSR)
第 10 回	CSV (Creating Shared Value) 2	Short lectures and group discussion (discuss how global companies are leveraging the concept of CSV in their business growth)
第 11 回	Role of NGOs/NPOs	Short lectures and group discussion (discuss what roles NGO/NPO can play to drive CSR, what we need to develop NPO/NGO sector in Japan)
第 12 回	SRI (Socially Responsible Investment) 1	Short lectures and group discussion (discuss what financial sector can do to accelerate global sustainability)
第 13 回	SRI (Socially Responsible Investment) 2	Short lectures and group discussion (discuss what is the significance of Japanese version of stewardship code and how it relates to the corporate governance code)
第 14 回	Final group presentation 1	Student presentation and feedback
第 15 回	Final group presentation 2	Student presentation and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to all classes fully prepared, having completed required pre-readings.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in class.

【参考書】

Additional resources will be introduced in class. Bringing a dictionary might be useful to assist your study.

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on following criteria:

1. Active class participation 40%
2. Mid-term presentation 30%
3. final presentation 30%

\*Active participation in the discussion is expected.

\*Students will also be required to submit presentation script.

\*Please note students who miss 4 classes or more will not be able to pass this course.

【学生の意見等からの気づき】

New course in FY2017

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

LNG100HA

テーマ別英語 3（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To develop students awareness of and ability to discuss healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

【到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Aging	Reading and discussion
第 3 回	Sleep	Listening, questionnaire and discussion
第 4 回	Allergies	Reading, questionnaire and discussion
第 5 回	Tobacco	Reading and discussion
第 6 回	Exercise and sport	Listening, questionnaire and discussion
第 7 回	Mid-term presentation 1	Writing
第 8 回	Mid-term presentation 2	Speech practice and performance
第 9 回	Food and nutrition	Questionnaire and discussion
第 10 回	Alcohol	Reading and discussion
第 11 回	Stress and Stress management	Listening, questionnaire and discussion
第 12 回	Common diseases and complaints	Questionnaire and discussion
第 13 回	Alternative medicine and therapies	Reading and discussion
第 14 回	Degenerative diseases and lifestyle	Listening, questionnaire and discussion
第 15 回	Course review and test preparation	Reading and listening

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional reading on the topics can be found in Healthtalk by Bert McBean (Macmillan) or other similar Health-related English coursebook.

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

【学生の意見等からの気づき】

Experience has shown that often we will need more than one lesson to finish a complete unit.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

LNG100HA

## テーマ別英語 4 (スキルアップ科目)

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【その他の重要事項】

Besides and interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To familiarize the students with, and enable them to discuss the development and social history of modern western popular music

## 【到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Blues and Gospel	Listening/video, reading and discussion
第 3 回	Jazz	Listening/video, reading and discussion
第 4 回	Folk and Country music	Listening/video, reading and discussion
第 5 回	Pop and the entertainment industry	Reading and discussion
第 6 回	Early Rock	Listening/video, reading and discussion
第 7 回	The 60s	Listening, reading and discussion
第 8 回	Mid-term presentation preparation	Reading, writing, speech practice
第 9 回	Mid-term presentation	Speaking practice and speech
第 10 回	British Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 11 回	Later Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 12 回	Soul, Disco, R & B	Listening/video, reading and discussion
第 13 回	Hip hop/rap	Listening/video, reading and discussion
第 14 回	African and Asian influences	Listening/video, reading and discussion
第 15 回	Course review and exam preparation	Reading and writing

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

## 【テキスト (教科書)】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

## 【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson, and students can access most of the musical examples from YouTube or Wikipedia.

## 【成績評価の方法と基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

## 【学生の意見等からの気づき】

We will spend more time on reading and discussion sections of the class.

## 【学生が準備すべき機器他】

None, though Internet access would be useful to pursue further examples cited.

OTR400HA

## 研究会 (A)

朝比奈 茂

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「なぜヒトは○○○だろうか?」といった素朴な疑問をもとに、文献資料よりヒトの生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を立脚し解決しようとする理論と方法を体得することを目的とする。

## 【到達目標】

1. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べるができる。
2. 文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3. グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では、集まった多くの情報を統合して、最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。授業は主に SGD (スモールグループディスカッション) 形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、全員の前で文献 (日本語、英語どちらでも良い) 講読を行い、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行なう。
第 3 回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。
第 4 回	文献講読、意見交換	今後の計画を立てる。グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 5 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 7 回	中間発表	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 8 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 9 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 10 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 11 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 12 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 13 回	(1) 最終発表 (報告会)	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 14 回	(1) 最終発表 (報告会)	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 15 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。
第 16 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 17 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 18 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。

第 19 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 20 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 21 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 22 回	中間研究報告	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 23 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 24 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 25 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 26 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 27 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 28 回	研究発表会 (1)	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。
第 29 回	研究発表会 (2)	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。
第 30 回	研究発表会、レポート提出	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEB を活用して調べておく。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。

## 【テキスト (教科書)】

使用しない。

## 【参考書】

・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫

## 【成績評価の方法と基準】

授業の参画状況 (50%)、プレゼンテーション (25%)、レポート (25%) を総合して判断する

## 【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に学生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業終了時に、次回の予告を行うことで、自宅での学習機会を増やすことにつなげる。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

OTR400HA

**研究会 (A)**

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「サステイナブルなまちづくり」

都市環境および地域形成に関する事例研究型のゼミナール。

**【到達目標】**

定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解、研究のおもしろさを体得し、調査研究能力とともに、様々な企画能力をも涵養する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

都市環境および地域形成について、歴史、環境、生活、経済などの視点から、国内・海外の都市や地域を対象に、事例研究を行う。

ゼミ全体の基本的な年間テーマは、年度始めにいくつか提案し、皆で議論して決める。そのテーマのうち、グループあるいは個人のテーマおよび対象地域を個別に設定し、自主的に研究を進めていく。

ゼミでは、①基本文献の輪読と議論、②共通ミニフィールドスタディ、③グループ研究、④個人研究を進める。グループ研究はサブゼミとして自主的に進め、中間成果を逐次、本ゼミで発表・議論し、最終的には印刷物として完成させる。4年生は卒業論文（別途単位）、2・3年生は、タームペーパーを作成し、年度末に発表し提出する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】****【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	各自の活動紹介、全体ガイダンス
第2回	全体のテーマ設定	研究の基本方向設定のための議論
第3回	小テーマ・対象の設定	小テーマ・対象内容別グループ分け
第4回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第5回	文献資料収集講読・議論	全体およびグループごとの研究活動
第6回	文献資料収集講読・議論	全体およびグループごとの研究活動
第7回	資料収集・研究企画議論	全体およびグループごとの研究活動
第8回	研究構想発表会	各グループの発表・討論
第9回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第10回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第11回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第12回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第13回	中間発表会準備	全体およびグループごとの作業
第14回	第1回中間発表会	各グループの発表・討論
第15回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第16回	研究作業と議論	主にグループごとの研究活動
第17回	同上、中間レポート作成	主にグループごとの研究活動
第18回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第19回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第20回	第2回中間発表会	各グループの発表・討論
第21回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第22回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第23回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第24回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第25回	第3回中間発表会	各グループの発表・討論
第26回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第27回	研究レポート作成	主にグループごとの研究活動
第28回	研究レポート作成	主にグループごとの研究活動
第29回	最終発表会	各グループの成果発表・討論
第30回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各グループ毎に、自主的にサブゼミおよびテーマ研究の現地調査を実施する。また、文献や資料の購読・研究は、個人・グループベースで常時行っていく。なお、全体として、逐次、討論会やミニフィールドスタディを実施する。

**【テキスト（教科書）】**

年度テーマの設定によっては、共通テキストを設定する場合がある。このほか、逐次、輪読のための共通資料を使用する予定である。

**【参考書】**

個別の内容により、必要に応じて適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（各回の準備、議論への参加状況）50%、成果物（グループ研究および個人研究）評価 50%。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生により基礎知識の不足がある。これを補うため、基本的な事項につき、講義する機会を随時もつとともに、自主学習を課する予定である。

**【関連の深いコース】**

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

OTR400HA

## 研究会 (A)

板橋 美也

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術・デザインと異文化交流の歴史

## 【到達目標】

美術・デザインの歴史や日本の異文化交流の歴史についての理解を深めます。また、クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養います。研究会での様々な活動を通して、自らの文化・自明のものだと思っていた文化を新たな視点から捉えなおしてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

(1) 指定した文献や作品に関するディスカッションを通して、美術・デザインや異文化交流の歴史について皆で考えます。

(2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。

いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第2回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第3回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第4回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第5回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第6回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第7回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第8回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第9回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第10回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第11回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第12回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第13回	グループ発表	教員が指定したテーマに関するグループ発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第14回	グループ発表	教員が指定したテーマに関するグループ発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第15回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを復習・総括します
第16回	秋学期へのガイダンス	秋学期の内容と進め方についての説明
第17回	4年生による研究紹介	4年生が各自行っている研究に関する短い発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第18回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第19回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第20回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第21回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第22回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第23回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション

第24回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第25回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第26回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第27回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第28回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第29回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第30回	1年間のまとめ	1年間で学んだことを復習・総括します

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。

## 【テキスト（教科書）】

随時指定します。

## 【参考書】

必要に応じて指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）と年度末のレポートから総合的に判断します。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中は遠慮せずに発言しましょう。

## 【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

OTR400HA

## 研究会 (A)

杉戸 信彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。災害の多い日本列島で生きるうえで、また人口減少、高齢化、都市集中といった背景のなかで長期的なまちづくりに求められる妥当な「自然観」を養うこと。調査法や発表法を身につけること。地図を理解すること。

## 【到達目標】

自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。災害の多い日本列島で生きるうえで、また人口減少、高齢化、都市集中といった背景のなかで長期的なまちづくりに求められる妥当な「自然観」を養うこと。調査法や発表法を身につけること。地図を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

座学に加え、野外実習や課題演習、グループワーク、個人研究を行います。個人研究ではテーマや地域を設定して取り組みレポートを作成します。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、土地条件、土地の歴史、土地利用、プレート境界、活断層、長期予測、ハザードマップ、災害の歴史、インフラ、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。学生の皆さんの主体的な興味関心と情熱がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、学びを積極的にすすめ、意義深いテーマや重要な地域にたどりつくよう期待します。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、発表法やレジュメ作成法等の説明、グループ分け
第2回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第3回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第4回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第5回	課題演習	机上作業
第6回	野外実習	フィールド巡検
第7回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第8回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第9回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第10回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第11回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第12回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第13回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第14回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第15回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第16回	ガイダンス	趣旨説明、論文やレポートの書き方等の説明
第17回	個人研究の準備	テーマや地域の設定
第18回	個人研究の準備	テーマや地域の設定
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	フィールド巡検
第21回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第22回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第23回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第24回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第25回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第26回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第27回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第28回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第29回	個人研究 (最終発表)	発表、質疑応答、討論
第30回	個人研究 (最終発表)	発表、質疑応答、討論

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

資料の収集・分析や事前調査、発表準備、復習、追加調査、とりまとめ等を行う。

## 【テキスト (教科書)】

購入または担当教員から配布ほか

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等を総合して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明あるいは効果的な進め方を心がけます。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)、環境サイエンスコース



OTR400HA

## 研究会 (A)

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位  
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際法・国際環境法の研究を通して、国際平和 (国際紛争の解決、環境問題の改善、よりよい社会の実現) について考える。

## 【到達目標】

1. 自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論する。
2. 卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

1. 国際法および国際環境法に関する文献講読、判例研究
  2. 個人の研究報告
  3. その他 (時事問題に関する討論、ディベート等)
- \*受講者の関心に応じ、下記の計画通りに進行しないこともある。  
\*校外授業及び合宿を行う (場所、内容等は受講者の希望を考慮して決める)。  
\*サブゼミで、読書会、映画鑑賞会、講演会等を行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび打ち合わせ	年間計画
第2回	報告および討論 (1)	グループ報告と討論
第3回	報告および討論 (2)	グループ報告と討論
第4回	報告および討論 (3)	グループ報告と討論
第5回	報告および討論 (4)	グループ報告と討論
第6回	報告および討論 (5)	グループ報告と討論
第7回	報告および討論 (6)	グループ報告と討論
第8回	報告および討論 (7)	グループ報告と討論
第9回	報告および討論 (8)	グループ報告と討論
第10回	報告および討論 (9)	グループ報告と討論
第11回	報告および討論 (10)	グループ報告と討論
第12回	報告および討論 (11)	グループ報告と討論
第13回	報告および討論 (12)	グループ報告と討論
第14回	報告および討論 (13)	グループ報告と討論
第15回	ゼミ合宿	研究会修了論文中間報告、ディベート、ディスカッション
第16回	打ち合わせ	秋学期の研究計画
第17回	研究報告 (1)	個別報告と討論
第18回	研究報告 (2)	個別報告と討論
第19回	研究報告 (3)	個別報告と討論
第20回	研究報告 (4)	個別報告と討論
第21回	研究報告 (5)	個別報告と討論
第22回	研究報告 (6)	個別報告と討論
第23回	研究報告 (7)	個別報告と討論
第24回	研究報告 (8)	個別報告と討論
第25回	研究報告 (9)	個別報告と討論
第26回	研究報告 (10)	個別報告と討論
第27回	研究報告 (11)	個別報告と討論
第28回	研究報告 (12)	個別報告と討論
第29回	校外授業	個別報告と討論
第30回	研究会修了論文発表会	研究会修了論文発表会

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の十分な予習

## 【テキスト (教科書)】

開講時に指示

## 【参考書】

適宜指示

## 【成績評価の方法と基準】

平常点、レポート

## 【学生の意見等からの気づき】

これまでと同じように行います。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース (旧・国際環境協力コース)

OTR400HA

## 研究会 (A)

梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位  
開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム  
「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の「現地訪問」を通じて事例研究を行う。「現地訪問」(各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する)で選ぶフィールドについては、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

## 【到達目標】

「環境表象論 I II」の内容を、各自の「現地訪問」調査・体験によって実感的に理解すること。また、前年度の沖縄離島ゼミ合宿の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を「共有」できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

「授業計画」の通り、参加者の研究発表とその後の質疑応答・ディスカッションが中心となる。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	個人研究発表①	発表は1人30以内程度、題材は主として昨年度の研究成果に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第3回	個人研究発表②	同上
第4回	個人研究発表③	同上
第5回	個人研究発表④	同上
第6回	個人研究発表⑤	同上
第7回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想①	各自、現段階の構想を簡潔に発表
第8回	個人研究発表⑥	第2回と同じ
第9回	個人研究発表⑦	同上
第10回	個人研究発表⑧	同上
第11回	個人研究発表⑨	同上
第12回	個人研究発表⑩	同上
第13回	個人研究発表⑪	同上
第14回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想②	夏休み前の中間報告
第15回	個別指導	個別に提出する現地訪問計画書に基づくスケジュール説明、夏休み中の研究のふりかえり等
第16回	秋学期オリエンテーション	スケジュール説明、夏休み中の研究のふりかえり等
第17回	個人研究発表⑫	題材は昨年度または今年度の研究成果に基づく。発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第18回	個人研究発表⑬	同上
第19回	個人研究発表⑭	同上
第20回	個人研究発表⑮	同上
第21回	個人研究発表⑯	同上
第22回	個人研究発表⑰	同上
第23回	個人研究発表⑱	同上
第24回	個人研究発表⑲	同上
第25回	個人研究発表⑳	同上
第26回	グループワーク①	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第27回	グループワーク②	同上
第28回	学年末論文の構想発表 (タイトル・要旨・仮目次等)	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第29回	論文個別指導	学年末論文の最終アドバイス
第30回	自主就活セミナー・ディスカッション	ゼミで学んだことを社会に出てどう活かすか 等

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定なし。

**【参考書】**

授業のなかで紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35 %

**【学生の意見等からの気づき】**

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

・「好きこそもの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。

・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

・この金曜5限研究会は、前年度からの継続参加者（3・4年生）が履修登録対象となります。

**【関連の深いコース】**

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

OTR400HA

**研究会（A）****北川 徹哉**

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

エネルギーは社会にとって血液であり、ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である。本研究会においては、国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわり、エネルギーの未来像について勉強してゆく。

**【到達目標】**

1. 我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる。
2. エネルギーと環境負荷軽減、人の暮らしとの関係を説明できる。
3. 交通・運輸、居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪読してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪読で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第16回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第17回	調査テーマの構想発表・討論（その1）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第1回）
第18回	調査テーマの構想発表・討論（その2）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第2回）
第19回	調査と分析（その1）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第20回	調査と分析（その2）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第21回	調査と分析（その3）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備

発行日：2021/6/1

第 22 回	中間発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 1 回）
第 23 回	中間発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第 2 回）
第 24 回	調査と分析（その 4）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 25 回	調査と分析（その 5）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 26 回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第 27 回	調査概要書の執筆	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆
第 28 回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆、最終発表の準備
第 29 回	最終発表・討論（その 1）	各自あるいは各グループによる最終発表と討論（第 1 回）、調査概要書の提出
第 30 回	最終発表・討論（その 2）	各自あるいは各グループによる最終発表と討論（第 2 回）、調査概要書の提出

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1～15 回：輪読箇所・精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習  
第 16 回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出  
第 17～18、22～23 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習  
第 19～21、24～26 回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析  
第 27～28 回：調査概要書の執筆・データ整理  
第 29～30 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、調査概要書のリバイス

#### 【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

#### 【参考書】

適宜、紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

レポート（調査概要書）（30％：論述の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）、発表（40％：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）、議論（30％：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度）により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

おおむね好評でした。

#### 【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと勉強します。また、知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です。わからないことは遠慮せずに質問し、スッキリさせてゆきましょう。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

OTR400HA

## 研究会（A）

### 國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の考え方や手法への理解および批判的検討をおこなうとともに現実の環境問題への適用を考える。環境へのその他のアプローチとの比較なども行う。

#### 【到達目標】

地球環境問題などの環境問題に対して、どのように対処してゆけばよいかについて、主として環境経済学の観点から、発表、議論、批判的検討などを通じて、各人がその発表力および応用力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

研究会は演習形式で行う。研究会では、問題意識をもって、環境経済学等のテキスト、記事等の輪読を中心に、ディスカッションを行う。サブゼミ、ゼミ合宿なども実施し、総合力の獲得を目指す。テーマによっては外部からの専門家などを招くなどを行い、意見交換を実施する。4 年生は研究会修了論文作成のための経過報告なども実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第 2 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 3 回	文献講読（1）	報告および討論
第 4 回	文献講読（2）	報告および討論
第 5 回	文献講読（3）	報告および討論
第 6 回	文献講読（4）	報告および討論
第 7 回	文献講読（5）	報告および討論
第 8 回	文献講読（6）	報告および討論
第 9 回	文献講読（7）	報告および討論
第 10 回	文献講読（8）	報告および討論
第 11 回	文献講読（9）	報告および討論
第 12 回	文献講読（10）	報告および討論
第 13 回	文献講読（11）	報告および討論
第 14 回	文献講読（12）	報告および討論
第 15 回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第 16 回	修了論文中間発表会	発表会への参加と発表・討議
第 17 回	文献講読（13）	報告および討論
第 18 回	文献講読（14）	報告および討論
第 19 回	文献講読（15）	報告および討論
第 20 回	文献講読（16）	報告および討論
第 21 回	文献講読（17）	報告および討論
第 22 回	文献講読（18）	報告および討論
第 23 回	文献講読（19）	報告および討論
第 24 回	文献講読（20）	報告および討論
第 25 回	文献講読（21）	報告および討論
第 26 回	文献講読（22）	報告および討論
第 27 回	文献講読（23）	報告および討論
第 28 回	校外授業	ヒアリング等
第 29 回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ
第 30 回	修了論文発表会	発表会への参加と発表・討議

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下の各項目を必ず、実施する。

- 1) 演習ノートを用意し、毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) ゼミ合宿に参加する。
- 4) 各種課題を提出する。
- 5) 4 年生は、研究会修了論文執筆を基本とする。

#### 【テキスト（教科書）】

環境経済学のテキスト（授業時に指示する）。

#### 【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（80％）および各人のテーマの取組姿勢と提出されたレポート等執筆（20％）によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

修了論文執筆に関し、参考となる事項も研究会のなかで適宜紹介したい。サブゼミでの作業内容と連携を強化したい。

**【関連の深いコース】**

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）

OTR400HA

**研究会（A）**

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この研究会では、「持続可能な地域社会の創造」をテーマとして、地域環境に直接または間接的にかかわる多様な政策領域を統合的に検討する。また自治体以外にも、市民、NPO、企業などの参加・協働を展望する。研究会の目的と意義は地域実践を含む高度なアクティブ・ラーニングを通して、「持続可能な地域社会」について深く理解しながら、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築することである。

**【到達目標】**

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・研究会の共通テーマ、学生の個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・時事問題に関する知識を獲得し、現代社会を理解するための知見を涵養する。
- ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
- ・地域実践に関する企画運営能力を身につける。
- ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・文章力を涵養する。
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングであるPBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。さらに、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】****【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第3回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第4回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第5回	文献講読（2）	同上。
第6回	文献講読（3）	同上。
第7回	文献講読（4）	同上。
第8回	文献講読（5）	同上。
第9回	文献講読（6）	同上。
第10回	文献の総括と秋学期の方向性の検討	文献全体を総括しながら、共通テーマに関する知見を整理し、秋学期の調査研究課題への視点を共有する。
第11回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第12回	個人テーマの報告（2）	同上。
第13回	個人テーマの報告（3）	同上。
第14回	個人テーマの報告（4）	同上。
第15回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第16回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第17回	地域連携プロジェクトの検証（2）	同上。
第18回	共通テーマの調査研究（1）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第19回	共通テーマの調査研究（2）	同上。

第 20 回	共通テーマの調査研究 (3)	同上。
第 21 回	共通テーマの調査研究 (4)	同上。
第 22 回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第 23 回	共通テーマの調査研究 (5)	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第 24 回	共通テーマの調査研究 (6)	同上。
第 25 回	共通テーマの最終報告と総括	共通テーマについて各グループが最終報告を行った上で、提言報告書の作成に向けて、全体を総括しながら、本年度の成果を全員で共有する。
第 26 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 28 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 29 回	個人テーマの報告 (4)	同上。
第 30 回	研究会と各学生の 1 年間のパフォーマンスの検証	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現や、各学生の成長と能力構築について、ワークショップを通して検証する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は以下の時間外学習を行う。  
 ・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。  
 ・共通テーマに関する事前のグループワーク。  
 ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

**【テキスト（教科書）】**

開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

**【参考書】**

適宜、研究会において紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (70 %)、個人テーマへの取り組み姿勢とゼミ論文の執筆 (30 %) による総合評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

特定地域に関する PBL (問題発見・解決型学習) を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

**【その他の重要事項】**

この研究会は、ローカル・サステナビリティコース (旧・地域環境共生コース) の学生を対象としています。  
 したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

**【関連の深いコース】**

ローカル・サステナビリティコース (旧・地域環境共生コース)

OTR400HA

**研究会 (A)**

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この研究会の基本的なテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に「ソーシャル・イノベーション」といわれるテーマについて、ローカルな視点で理論やケースを検討しながら地域実践に参画する。また共通テーマ以外に、各人が個人テーマとして研究会修了論文の執筆に向けた調査研究を行う。研究会の目的と意義は、共通テーマへの取り組みを通して、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築しながら、自らの卒業後のキャリアイメージを模索すること、さらに研究会修了論文を完成させることである。

**【到達目標】**

学生の到達目標は以下のとおりである。  
 ・共通テーマ、個人テーマに関する知識を獲得する。  
 ・論文作成能力を身につける。  
 ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。  
 ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。  
 ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL (問題発見・解決型学習) として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読 (1)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読 (2)	同上。
第 6 回	文献講読 (3)	同上。
第 7 回	地域連携プロジェクトの企画 (1)	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第 8 回	文献講読 (4)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	文献講読 (5)	同上。
第 10 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画 (2)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施設計について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマ (研究会修了論文) の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 14 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 15 回	地域連携プロジェクトの企画 (3)	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 16 回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証 (1)	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 18 回	地域連携プロジェクトの検証 (2)	同上。
第 19 回	文献講読 (1)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 20 回	文献講読 (2)	同上。
第 21 回	文献講読 (3)	同上。
第 22 回	文献講読 (4)	同上。

第 23 回	文献講読 (5)	同上。
第 24 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 25 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマ (研究会修了論文) の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 27 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 28 回	個人テーマの報告 (4)	同上。
第 29 回	個人テーマの報告 (5)	同上。
第 30 回	研究会の総括	1 年間の研究会の内容を総括し、成果を共有する。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は以下の時間外学習を行う。

- ・文献の事前学習。
- ・地域連携プロジェクトの企画。
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究。

#### 【テキスト (教科書)】

- ・開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

#### 【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (70 %)、研究会修了論文に関する個人テーマへの取り組み姿勢 (30 %) による総合評価とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

PBL (問題発見・解決型学習) として、地域で実践し、その成果に関する報告書作成などに取り組むことは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、責任について体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育んでいると感じています。

#### 【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース) に登録した学生を対象としています。

したがって、履修にあたり、上記のコース科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

#### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)

OTR400HA

## 研究会 (A)

### ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

\* Mass Media Research \*

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

#### 【到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes

第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively
第 14 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 15 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 17 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Method	Data Collection / Entry data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 28 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 29 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.
第 30 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress.

**【テキスト（教科書）】**

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

**【参考書】**

David R. Croteau and William D. Hoynes (2013). Media/Society: Industries, Images, and Audiences. SAGE Publications.  
John V. Pavlik and Shawn McIntosh (2014). Converging Media: A New Introduction to Mass Communication (4th Edition). Oxford University Press.  
Shirley, Biagi (2014). Media/Impact: An Introduction to Mass Media. Wadsworth: Thomson.

**【成績評価の方法と基準】**

1st Semester: Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a take-home exam and a written assignment.  
2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals, a summary of literatures, a group presentation and a group research paper.

**【学生の意見等からの気づき】**

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

**【その他の重要事項】**

This class is open to students who have taken グローバル コミュニケーション or 'Stockwell'sゼミ B (Human Communication) before.

**【関連の深いコース】**

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

OTR400HA

**研究会（A）**

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テーマ 環境法政策に関する研究  
環境法政策に関して時事問題の討議や、個別分野の研究を行う

**【到達目標】**

環境関連分野を志望している者だけでなく、一般の企業人社会人となる人にとっても必要な環境法政策に関する知識を身につけ、持続可能な社会の実現を目指して自ら行動できる地球市民となる基礎能力を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

環境法政策に関する手法（規制、計画、情報等）に関する講義と文献購読・討議、新聞記事等による時事問題の討議、個別分野の研究と発表・討議を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	オリエンテーション
第 2 回	教材による講義	環境法の手法 1
第 3 回	教材による講義	環境法の手法 2
第 4 回	教材による講義	環境法の手法 3
第 5 回	教材による講義	環境法の手法 4
第 6 回	時事問題	学生による発表と討議
第 7 回	時事問題	学生による発表と討議
第 8 回	時事問題	学生による発表と討議
第 9 回	事例発表	学生による発表と討議
第 10 回	事例発表	学生による発表と討議
第 11 回	事例発表	学生による発表と討議
第 12 回	事例発表	学生による発表と討議
第 13 回	事例発表	学生による発表と討議
第 14 回	まとめ	授業の総括
第 15 回	まとめ	授業の総括
第 16 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 17 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 18 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 19 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 20 回	時事問題	学生による発表と討議
第 21 回	時事問題	学生による発表と討議
第 22 回	時事問題	学生による発表と討議
第 23 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 24 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 25 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 26 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 27 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 28 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 29 回	まとめ	授業の総括
第 30 回	まとめ	授業の総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教材を予習する  
事例、レポート発表のために、準備する

**【テキスト（教科書）】**

文献とプリント

**【参考書】**

その都度 紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

発表、討議の状況により評価する

**【学生の意見等からの気づき】**

グループによる事例研究を行う

**【関連の深いコース】**

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

OTR400HA

## 研究会 (A)

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2017年度は、途上国でより問題が先鋭化する「環境保全」(何を、なぜ守るのか)と「開発」の関係について、日本の経験や地球規模の問題と重ねつつ議論します。持続可能な社会の確立には環境保全が当たり前のようには含まれていますが、具体的に何をすれば(もしくはしなければ)「環境を守った」ことになるのか、受講者が深く考えかつ具体的に行動できるようになることを目指します。

## 【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方(予定)について概説する。
第2回	何が「問題」か? (1)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。(1)
第3回	何が「問題」か? (2)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。(2)
第4回	グループディスカッション課題1(身近な環境と開発)(1)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、身近な環境と開発の課題について意見交換する。(1)
第5回	グループディスカッション課題1(身近な環境と開発)(2)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、身近な環境と開発の課題について意見交換する。(2)
第6回	グループディスカッション課題1(身近な環境と開発)(3)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、身近な環境と開発の課題について意見交換する。(3)
第7回	グループディスカッション課題2(日本における環境と開発)(1)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、日本における環境と開発の課題について意見交換する。(1)
第8回	グループディスカッション課題2(日本における環境と開発)(2)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、日本における環境と開発の課題について意見交換する。(2)
第9回	グループディスカッション課題2(日本における環境と開発)(3)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、日本における環境と開発の課題について意見交換する。(3)
第10回	グループディスカッション課題2(日本における環境と開発)(4)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、日本における環境と開発の課題について意見交換する。(4)
第11回	グループディスカッション課題3(途上国における環境と開発)(1)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(1)
第12回	グループディスカッション課題3(途上国における環境と開発)(2)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(2)
第13回	グループディスカッション課題3(途上国における環境と開発)(3)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(3)
第14回	グループディスカッション課題3(途上国における環境と開発)(4)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(4)
第15回	グループディスカッション課題3(途上国における環境と開発)(5)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(5)

第16回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第17回	「問題」を「解決する」とは? (1)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第18回	「問題」を「解決する」とは? (2)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第19回	グループディスカッション課題4(日本における環境と開発)(1)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、日本における環境と開発の課題について意見交換する。(1)
第20回	グループディスカッション課題4(日本における環境と開発)(2)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、日本における環境と開発の課題について意見交換する。(2)
第21回	グループディスカッション課題4(日本における環境と開発)(3)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、日本における環境と開発の課題について意見交換する。(3)
第22回	グループディスカッション課題4(日本における環境と開発)(4)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、日本における環境と開発の課題について意見交換する。(4)
第23回	グループディスカッション課題5(途上国における環境と開発)(1)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(1)
第24回	グループディスカッション課題5(途上国における環境と開発)(2)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(2)
第25回	グループディスカッション課題5(途上国における環境と開発)(3)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(3)
第26回	グループディスカッション課題5(途上国における環境と開発)(4)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(4)
第27回	グループディスカッション課題5(途上国における環境と開発)(5)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(5)
第28回	グループディスカッション課題5(途上国における環境と開発)(6)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(6)
第29回	グループディスカッション課題5(途上国における環境と開発)(7)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(7)
第30回	グループディスカッション課題5(途上国における環境と開発)(8)	「環境問題」に関する基礎文献を読み、途上国における環境と開発の課題について意見交換する。(8)

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

基礎文献、与えられた課題(英文含む)は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

## 【テキスト(教科書)】

特に指定のテキストはありません。

## 【参考書】

研究会において紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献(70%)、期末レポート(30%)にて評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

過去には、ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

今年度も水曜日1限をサブゼミの時間と設定します。内容については受講者の自主的な提案に従います。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース(旧・国際環境協力コース)、ローカル・サステイナビリティコース(旧・地域環境共生コース)



OTR400HA

## 研究会 (A)

田中 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ローカルな環境問題の社会学

## 【到達目標】

参加者それぞれが個人テーマを設定し研究を行う。地域社会の研究手法および環境問題への社会的アプローチの仕方を学び、それを具体的な事例に適用して考察することを目的とする。文献購読、資料収集、レポート作成、研究発表の順序で段階を追って各自の関心に基づき一年を通じて着実に前進できるようにする。3年生は課題を明確にして年度研究論文の作成をめざす。4年生は「研究会終了論文」の作成が最終目的となる。レポート作成、研究報告のしかたを確実に身につけることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

はじめに文献・資料を参考にいくつかのテーマでグループ討議を行い、資料の検索、社会的な思考法、分析のための概念枠組み、基礎概念などについて学ぶ。次いで各自の研究構想を報告し、参考文献・資料の検索と課題文献を決め、夏期レポートの作成をおこなう。レポートに基づき報告、コメント・質疑などをふまえて年度論文を作成する。春学期終了時に個別面談を行い、課題文献の選定をおこなう。課題によっては現地調査に関する指導を行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	参加者確定、ガイダンス、文献配布	春学期スケジュールの確認。文献・資料を配布し、発表分担を決める。レジュメ作成に関する指示をする。
第2回	文献発表①	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第3回	文献発表②	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第4回	文献発表③	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第5回	文献発表④	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第6回	文献発表⑤	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第7回	GWまとめ⑥	グループワークのまとめ。個人研究テーマの記入用紙配布。
第8回	文献発表⑦	担当者による文献発表と討論を行う。
第9回	文献発表⑧	担当者による文献発表と討論を行う。個人テーマ記入用紙の提出締め切り。
第10回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第11回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第12回	個人研究構想発表②	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第13回	個人研究構想発表③	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第14回	個人研究構想発表④	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第15回	個人研究発表まとめ	個人テーマに関するまとめ。春学期試験期間中に個別に休暇中の課題文献を指示する。
第16回	個人研究・文献発表①	個人別の課題文献の発表と討論。
第17回	個人研究・文献発表②	個人別の課題文献の発表と討論。
第18回	個人研究・文献発表③	個人別の課題文献の発表と討論。
第19回	個人研究・文献発表④	個人別の課題文献の発表と討論。
第20回	個人研究・文献発表⑤	個人別の課題文献の発表と討論。
第21回	個人研究・テーマ発表①	個人別の研究テーマに関する発表。
第22回	個人研究・テーマ発表②	個人別の研究テーマに関する発表。
第23回	個人研究・テーマ発表③	個人別の研究テーマに関する発表。
第24回	個人研究・テーマ発表④	個人別の研究テーマに関する発表。
第25回	個人研究・テーマ発表⑤	個人別の研究テーマに関する発表。
第26回	個人研究・テーマ発表⑥	個人別の研究テーマに関する発表。
第27回	個人研究・テーマ発表⑦	個人別の研究テーマに関する発表。
第28回	個人研究・テーマ発表⑧	個人別の研究テーマに関する発表。

第29回 研究会終了論文発表① 4年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。

第30回 研究会終了論文発表② 4年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

個人研究のテーマ選定、文献・資料検索を行う。社会調査 (インタビュー・調査票調査) を行う場合は個別に指導する。

## 【テキスト (教科書)】

宮内泰介「グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング」三省堂  
関・中澤ほか「環境の社会学」有斐閣

## 【参考書】

小島・西城戸編「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房  
西城戸・船戸編「環境と社会」人文書院  
森岡清志編「地域の社会学」有斐閣  
藤村正之「考えるヒント」弘文堂  
日本環境社会学会「環境社会学研究」新曜社

## 【成績評価の方法と基準】

発表、ディスカッションへの参加度、学期レポートなどを総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

個人研究発表の回数を増やし、発表時間も増やす。出欠管理を厳しくする。

## 【その他の重要事項】

参加者数によって各回の時間配分は変更されることがあります。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)

OTR400HA

## 研究会 (A)

平松 英人

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「市民社会」を生きる—歴史・環境・文化

いま、「市民社会」が関心を集めている。地域社会、コミュニティ、共同体、住民自治、さまざまな名称で呼ばれているが、いずれも人びとが自主的に集まり、議論を通じて自分たちの手で課題を解決していこうとする姿勢を指している。

このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に世界各国の「市民社会」をめぐる諸問題を扱う。それぞれの「市民社会」はどのような歴史があったのか、どのような問題を抱えているのか、国家、自治体、企業、NPO などとの関係はどうなっているのか。歴史学を中心にさまざまな角度から探っていきたい。

## 【到達目標】

2017年度は「衣・食・住から持続可能な社会を考える」をテーマとする。

1984年に国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」（通称「ブルントラント委員会」）により作成された報告書において、「持続可能な開発、持続可能な社会」という概念が提唱されて以来、「持続可能性」は現代社会が直面する様々な矛盾や問題を解決し、将来にわたる望ましい社会像を議論する際のキーワードとなっている。

21世紀に入り社会や経済システムのグローバル化が急激に進展する中において、地球規模で進行する環境や経済分野における諸問題のみならず、国内における経済的・社会的格差の問題、福祉や健康、社会的正義や公平性などを含む総合的な視点から、「持続可能な社会」「持続可能性」のコンセプトを捉え直し、具体的な行動として実践に移すことがますます重要となっている。そのためにも「衣・食・住」という私たちの生活に密着した視点から出発しつつも、総合的な視点に立って過去・現在・未来を繋ぐ「持続可能」な社会像を具体的に考えることは、現在私たちが生きるグローバルな「市民社会」の本質と可能性を理解し、これからの行動に指針を得るための重要な作業となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

両学期とも、前半はテーマに関する重要な文献の購読をおこない、後半は春学期はグループワーク、秋学期はディベートをおこなう。その準備や個別の研究報告のためにサブゼミを開講する（隔週で週1回を予定）。

またゼミ合宿を開催する（開催時期は未定）。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明
第2回	研究発表	3-4年生の研究発表
第3回	研究発表	3-4年生の研究発表
第4回	研究発表	3-4年生の研究発表
第5回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第6回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第7回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第8回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第9回	グループワーク	グループワークのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第10回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第11回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第12回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第13回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第14回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第15回	まとめ（全）	全体討論およびゼミ合宿準備
第16回	オリエンテーション	ゼミ合宿の準備をかねる。
第17回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をおこなう。
第18回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をおこなう。
第19回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第20回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。

第21回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第22回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第23回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第24回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第25回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第26回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第27回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第28回	卒論最終報告	4年生対象の卒論完成報告
第29回	卒論最終報告	4年生対象の卒論完成報告
第30回	まとめ	全体討論

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。

また、文献購読の際は、必ず事前にテキストを用意し、読んでくること。

## 【テキスト（教科書）】

小澤徳太郎『スウェーデンに学ぶ「持続可能な社会」』朝日選書 792、2006年、1404頁。

ほか、必要に応じて授業中に指示する。

## 【参考書】

小島・西城戸編著『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。

植村邦彦『市民社会とは何か』平凡社新書、2010年。

小熊英二『社会を変えるには』講談社現代新書、2012年。

デレク・ウォール（白井和宏訳）『緑の政治ガイドブック—公正で持続可能な社会をつくる』ちくま新書、2012年。

ほか、必要に応じて授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

議論への参加、研究報告、レポート（各学期末）

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化

コース（旧・環境文化創造コース）

OTR400HA

## 研究会 (A)

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2017 年度は、環境関連の日本法と英文契約を研究します。

## 【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 15 回	春学期本ゼミ発表 (12)、 夏合宿課題の説明	環境関連の日本法と英文契約に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表

第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 29 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

## 【テキスト (教科書)】

環境法のテキストと、英文契約の資料を開講時に指定します。

## 【参考書】

田中英夫 (編集代表) 『英米法辞典』 (東京大学出版会、1991 年)。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

## 【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (旧・エコ経済経営コース)、グローバル・サステイナビリティコース (旧・国際環境協力コース)

OTR400HA

## 研究会 (A)

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2017 年度は、環境関連の日本法と英文契約を研究します。

## 【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 15 回	春学期本ゼミ発表 (12)、 夏合宿課題の説明	環境関連の日本法と英文契約に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表

第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 29 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

## 【テキスト (教科書)】

環境法のテキストと、英文の環境関連契約を開講時に指定します。

## 【参考書】

田中英夫 (編集代表) 『英米法辞典』 (東京大学出版会、1991 年)。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

## 【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (旧・エコ経済経営コース)、グローバル・サステイナビリティコース (旧・国際環境協力コース)

OTR400HA

## 研究会 (A)

## 長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

職業生活をおとして労働環境を考える。

## 【到達目標】

春学期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめる。こうした学習や作業をおとして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといつてよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国の組合とのちがいをみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	海外諸国と比較して、日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのかについて学ぶ。

第11回	仕事と労働時間2(長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係しているのか等について考える。
第12回	大学生の就職1(日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第13回	大学生の就職2(大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をおとして最新の情報を確認する。
第14回	大学生の就職3(グローバル人材)	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第15回	レポート提出とコメント	第2回・3回の授業で説明したレポート作成の注意事項にしたがってレポートが作成されているか、簡単にコメントをする。
第16回	春学期学習の復習1(日本の雇用とは)	春学期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第17回	春学期学習の復習2(日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第18回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第19回	学生による研究発表2	上記に同じ
第20回	学生による研究発表3	上記に同じ
第21回	学生による研究発表4	上記に同じ
第22回	学生による研究発表5	上記に同じ
第23回	学生による研究発表6	上記に同じ
第24回	学生による研究発表7	上記に同じ
第25回	学生による研究発表8	上記に同じ
第26回	学生による研究発表9	上記に同じ
第27回	学生による研究発表10	上記に同じ
第28回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第29回	学生による研究発表11	第18回に同じ
第30回	学生による研究発表12	上記に同じ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントしたり、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する、発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。

## 【テキスト (教科書)】

春学期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

## 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、2012年。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース (旧・エコ経済経営コース)、ローカル・サステナビリティコース (旧・地域環境共生コース)

OTR400HA

## 研究会 (A)

## 西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位  
 開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：(春)木6・(秋)火6  
 他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を講読しながら、実証的な社会学研究を自ら行うためのノウハウを理解する。

## 【到達目標】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会的なまなざし、アプローチの特徴を学ぶ。また、社会調査の基本的な方法論と実践を踏まえた上で、研究会参加者自らの関心から「自分で調べ」、最終的に研究会修了論文を執筆することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究 (国内外) を決定し、全員で講読する。また、自分でテーマを設定し、研究会修了論文を執筆する。なお、研究会修了論文のテーマは、必ずしも環境や環境問題に特化しなくてもかまわない。研究会参加者の問題関心を重要視する。本やインターネットを「カットアンドペースト」してまとめたといった類の「レポート」ではなく、あくまでも「自分で調べる」という営みによって生み出された「論文」を目指す。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第2回	文献購読 (1)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第3回	文献購読 (2)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第4回	文献購読 (3)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第5回	文献購読 (4)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第6回	文献購読 (5)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第7回	文献購読 (6)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第8回	研究会修了論文中間報告 (1)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第9回	文献購読 (7)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第10回	文献購読 (8)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第11回	文献購読 (9)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第12回	文献購読 (10)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第13回	文献購読 (11)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第14回	文献購読 (12)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第15回	研究会修了論文中間報告 (2)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。

第16回	文献購読 (13)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第17回	文献購読 (14)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第18回	文献購読 (15)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第19回	文献購読 (16)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第20回	研究会修了論文中間報告 (3)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第21回	研究会修了論文中間報告 (4)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第22回	文献購読 (17)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第23回	文献購読 (18)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第24回	文献購読 (19)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第25回	文献購読 (20)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第26回	研究会修了論文中間報告 (5)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第27回	研究会修了論文中間報告 (6)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第28回	研究会修了論文中間報告 (7)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第29回	研究会修了論文中間報告 (8)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第30回	研究会修了論文中間報告 (9)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業 (文献購読、調査、論文執筆等)

## 【テキスト (教科書)】

富田涼都, 2014, 『自然再生の環境倫理』昭和堂  
 木村至聖, 2014, 『産業遺産の記憶と表象』京都大学学術出版会  
 清水展・木村周平 (編著), 2015, 『新しい人間、新しい社会 復興の物語を再創造する』京都大学学術出版会  
 丸山真央, 2015, 『「平成の大合併」の政治社会学』御茶の水書房  
 森久聡, 2016, 『(藪の浦)の歴史保存とまちづくり』新曜社

## 【参考書】

随時、指定する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点。ただし、社会人学生で2017年度から研究会に参加する者は春学期、秋学期にレポートの提出を求める。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

本演習は火曜日6時限目に開講するが、春学期は別時間帯に実施する。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)

OTR400HA

## 研究会 (A)

## 西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会の〈環境〉の中で特に「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわりを巡る課題に対して、実証的な研究の手法を学びながら、社会調査を行い、実践的な課題解決をする力を養う。

## 【到達目標】

地域社会の「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわり方を再考し、その関係性の再構築のための実践に着目した調査研究を実施する。首都圏近郊および中山間地域・被災地などをフィールド対象とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、3つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と並行しながら、首都圏や東京都の中山間地域における農林業ならびに集落についての現地視察を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第2回	文献講読(1)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第3回	文献講読(2)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する
第4回	文献講読(3)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第5回	文献講読(4)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第6回	文献講読(5)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する
第7回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第8回	調査グループの設定、テーマの選定(1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第9回	調査グループの設定、テーマの選定(2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第10回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第11回	調査準備・予備調査(1)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第12回	調査準備・予備調査(2)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第13回	調査準備・予備調査(3)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第14回	調査準備・予備調査(4)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第15回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第16回	各グループにおける調査(1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第17回	各グループにおける調査(2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第18回	各グループにおける調査(3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第19回	各グループにおける調査(4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第20回	各グループにおける調査(5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第21回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第22回	各グループにおける調査(6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第23回	各グループにおける調査(7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第24回	各グループにおける調査(8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第25回	各グループにおける調査(9)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第26回	各グループにおける調査(10)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第27回	グループの発表・報告書作成(1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第28回	グループの発表・報告書作成(2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第29回	グループの発表・報告書作成(3)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第30回	グループの発表・報告書作成(4)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読やフィールドワークを課す。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

随時、指定する

## 【成績評価の方法と基準】

授業やフィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

OTR400HA

## 研究会 (A)

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：環境問題への歴史学的アプローチ

環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生じたさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の解説、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を進める。

## 【到達目標】

日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を解決するための教養を身につける。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、4年時に研究会修了論文を提出することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポート・研究会修了論文の執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション-環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学ぶ
第2回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第3回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第4回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第5回	大学周辺フィールドスタディ①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第6回	調査研究のグループ発表①	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第7回	調査研究のグループ発表②	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第8回	古文書解説①	指定した古文書を解説・分析し、討論を行う。
第9回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第10回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第11回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第12回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第13回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第14回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第15回	特定テーマ中間発表⑦	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第16回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第17回	大学周辺フィールドスタディ②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第18回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第19回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第20回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。

第21回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第22回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第23回	古文書解説②	指定された古文書を解説・分析し、討論を行う。
第24回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第25回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第26回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第27回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第28回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第29回	特定テーマ研究発表⑥	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第30回	特定テーマ研究発表⑦	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配付した歴史資料・古文書を事前に解説・分析する。グループ・個人の調査研究にかかわる文献を収集・分析する。

## 【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配付する。

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、発表・レポート (30%) で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)、人間文化コース (旧・環境文化創造コース)



OTR400HA

## 研究会 (A)

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

## 【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の分野で実証的アプローチによる研究を行い、4年生は研究会修了論文、2・3年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は、複数のチームを編成し日経新聞と野村証券が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス ・ストックリーグ ・卒業論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第2回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第3回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第4回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第5回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第6回	ストックリーグ 第1回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第7回	ESG 投資文献購読①	担当者による報告と全体討議
第8回	ESG 投資文献購読②	担当者による報告と全体討議
第9回	ESG 投資文献購読③	担当者による報告と全体討議
第10回	ストックリーグ 第2回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第11回	ESG 投資文献購読④	担当者による報告と全体討議
第12回	財務分析文献購読①	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第13回	財務分析文献購読②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第14回	財務分析文献購読③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第15回	ストックリーグ 第3回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第16回	ストックリーグ グループ中間報告①	これまでの分析結果の報告
第17回	卒業論文中間報告①	卒論テーマ・ 論文構成の発表
第18回	ストックリーグ活動①	チーム活動の報告
第19回	ストックリーグ活動②	チーム活動の報告
第20回	ストックリーグ活動③	チーム活動の報告
第21回	ストックリーグ中間報告 ②	ユニバースの発表
第22回	ストックリーグ活動④	企業ヒアリング
第23回	ストックリーグ活動⑤	企業ヒアリング
第24回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第25回	ストックリーグ中間報告 ③	ポートフォリオの完成
第26回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第27回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成
第28回	ストックリーグ活動⑧	レポート作成
第29回	ストックリーグ・レポート 発表会	レポートの最終発表
第30回	卒業論文発表会	卒業論文の最終発表

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

## 【テキスト（教科書）】

研究会の開講前に掲示します。

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度  
〔個別評価〕4年生：卒業論文  
2・3年生：ストックリーグのレポート

## 【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）

OTR400HA

## 研究会 (A)

日原 傳

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名勝と文学作品の関係を探る。

## 【到達目標】

- ・日本の自然や歴史について理解を深める。
- ・名勝の成立に関わる文学作品や関連文献を捜し、読み解くことを通して、調べる力・発表する力をつける。
- ・各自研究テーマを設定してレポートや論文を執筆し、文章を書く力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

- ・最初の授業で名勝に関するいくつかの文献を紹介する。テキストに決めた紀行文について、担当箇所を各自に割り当てる。担当者は割り当てられた本文、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。
- ・テキストを輪読する過程で、各自が個人の研究テーマを決め、最終レポートや研究会修了論文の執筆に結びつける。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	紀行文と名勝	テキストの説明。参考文献の紹介。
第2回	文献講読	テキスト輪読
第3回	文献講読	テキスト輪読
第4回	文献講読	テキスト輪読
第5回	文献講読	テキスト輪読
第6回	文献講読	テキスト輪読
第7回	文献講読	テキスト輪読
第8回	文献講読	テキスト輪読
第9回	文献講読	テキスト輪読
第10回	文献講読	テキスト輪読
第11回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第12回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第13回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第14回	文献講読	テキスト輪読
第15回	文献講読	テキスト輪読
第16回	文献講読	テキスト輪読
第17回	文献講読	テキスト輪読
第18回	文献講読	テキスト輪読
第19回	文献講読	テキスト輪読
第20回	文献講読	テキスト輪読
第21回	文献講読	テキスト輪読
第22回	文献講読	テキスト輪読
第23回	文献講読	テキスト輪読
第24回	文献講読	テキスト輪読
第25回	文献講読	テキスト輪読
第26回	文献講読	テキスト輪読
第27回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第28回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第29回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第30回	総合討論	年間の研究会活動の振り返り

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各自に割り当てた紀行文の担当箇所について、可能な限り調べ、レジメを作成する。
- ・各自テーマを決め、論文執筆のために文献を収集する。
- ・論文を執筆する。

## 【テキスト（教科書）】

開講時に指定します。

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表内容）70%

最終レポート 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

研究会修了論文に関して、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

OTR400HA

## 研究会 (A)

平野井 ちえ子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

### 【到達目標】

1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期後半には、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期の前半は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読します。秋学期後半には、参加者各自が設定した地域の文化のケーススタディを指導します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 能・狂言(講義・討論)	1年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。 能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義します。映像資料について意見交換します。
第2回	歌舞伎(講義・討論)	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」・「世話物」・「所作物」について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第3回	文楽(講義・討論)	文楽と歌舞伎を対照的に考察します。映像資料について意見交換します。
第4回	現代演劇1(講義・討論)	翻訳劇の系譜について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第5回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第6回	現代演劇2(講義・討論)	現代日本の劇作家・演出家について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第7回	民俗芸能(講義・討論)	日本の民俗芸能について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第8回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(1)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第9回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(2)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第10回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(3)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第11回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(4)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第12回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(5)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第13回	フィールドワーク文献購読・討論(1)	『フィールドワーク ―書を持って街へ出よう―』1. フィールドワークとは何か 2. フィールドワークの論理
第14回	フィールドワーク文献購読・討論(2)	『フィールドワーク ―書を持って街へ出よう―』3. フィールドワークの実際 4. ハードウェアとソフトウェア
第15回	フィールドワーク実践講義	フィールドワークのケーススタディを紹介いたします。
第16回	文献講読・討論(『入門文化政策』1)	1. 文化政策の観点からの京都観光論 2. 国際観光と文化政策 3. 地域文化資源と文化マネジメント(富山の事例)

第17回 文献講読・討論(『入門文化政策』2)

第18回 文献講読・討論(『入門文化政策』3)

第19回 文献講読・討論(『入門文化政策』4)

第20回 文献講読・討論(『入門文化政策』5)

第21回 地域の文化レポート作成指導(1)

第22回 地域の文化レポート作成指導(2)

第23回 地域の文化レポート作成指導(3)

第24回 地域文化レポート発表・討論(1)

第25回 地域文化レポート発表・討論(2)

第26回 地域文化レポート発表・討論(3)

第27回 地域文化レポート発表・討論(4)

第28回 地域文化レポート発表・討論(5)

第29回 地域文化レポート発表・討論(6)

第30回 総括(ラウンドテーブル)

1. 市民と自治体による文化芸術創造都市づくり(横浜の事例) 2. 中山間地域の文化政策 3. 文化政策とその担い手

1. 格差社会における文化政策 2. ライフスタイルのための文化政策 3. 文化政策としてのミュージアム・マネジメント

1. 活動の現場からみた公と民の協働論 2. 市民文化の創造環境を目指して 3. 公共施設の運営と指定管理者制度

1. 文化創造拠点としての宗教空間 2. 「政策科学」のこれからと文化政策への期待

調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。調査の具体例としてSCOT(Suzuki Company of Toga)について講義します。

参加者各自が設定したレポートテーマとアイデアの詳細を交換します。

発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。

発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。

発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。

発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。

発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。

発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。

「地域」と「文化」の関わりについて共に考えます。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

文献講読の予習(発表者はレジュメの準備) 舞台芸術鑑賞とフィールド調査(レポート作成)

### 【テキスト(教科書)】

井口真(2008)『入門文化政策 地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房  
佐藤郁哉(2006)『フィールドワーク ―書を持って街へ出よう―』新曜社

### 【参考書】

青山昌文(2015)『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会  
大笹吉雄(1999)『劇場が演じた劇』教育出版株式会社  
舞台芸術財団演劇人会議(2005)『シンポジウム・劇場芸術の地平』舞台芸術財団演劇人会議  
SPAC(1999)『劇場とは何か 新しい文化活動の創出に向けて』SPAC  
平野井(2006)『小鹿野歌舞伎の現在』『法政大学人間環境論集』第6巻第2号  
平野井(2007)『SPACの地域性と国際性』『法政大学人間環境論集』第7巻第2号

### 【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%  
参加態度、口頭発表(テキスト輪読分と、各期末レポートの概略について)  
【期末レポート】50%  
春学期は、舞台芸術鑑賞レポート  
秋学期は、文化発信の「場」のレポート

### 【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思えます。

### 【学生が準備すべき機器他】

BT0309教室での授業です。

### 【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

### 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース(旧・地域環境共生コース)、人間文化コース(旧・環境文化創造コース)

OTR400HA

## 研究会 (A)

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学術論文を検索する Google Scholar というサイトのトップには「巨人の肩の上に立つ」という言葉が出てきます。築きあげられた先人の知識の上に私たちが立っているという意味です。先人の知識とは本であり論文です。本を読むことは知的生活をする上での基本です。このゼミでは本を読むことで巨人の肩の上に立つことを目指します。

## 【到達目標】

年間に10冊以上の本を読んで要旨か書評をまとめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

書籍の内容と分量に応じて2週から3週に1冊、本を指定します。その要旨もしくは書評を期日までに授業支援システムに提出してください。現在、指定図書候補となっている書籍は『メディア・バイアス』『捕食者なき世界』『ユートピアの崩壊』『ゼロリスク社会』の罫』『こうして世界は終わる』『いちから聞きたい放射線のほんとう』『ルポ 資源大国アフリカ』『水危機 ほんとうの話』などです。

なお、書籍は各自が購入するか図書館から借りるかなどして、自力で調達してください。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第2回	1冊目1	読書
第3回	1冊目2	要旨か書評を提出
第4回	1冊目3	議論
第5回	2冊目1	読書
第6回	2冊目2	要旨か書評を提出
第7回	2冊目3	議論
第8回	3冊目1	読書
第9回	3冊目2	要旨か書評を提出
第10回	3冊目3	議論
第11回	4冊目1	読書
第12回	4冊目2	要旨か書評を提出
第13回	4冊目3	議論
第14回	5冊目1	読書
第15回	5冊目2	要旨か書評を提出
第16回	夏休み課題図書 (6冊目)	議論
第17回	7冊目1	読書
第18回	7冊目2	要旨か書評を提出
第19回	7冊目3	議論
第20回	8冊目1	読書
第21回	8冊目2	要旨か書評を提出
第22回	8冊目3	議論
第23回	9冊目1	読書
第24回	9冊目2	要旨か書評を提出
第25回	9冊目3	議論
第26回	10冊目1	読書
第27回	10冊目2	要旨か書評を提出
第28回	10冊目3	議論
第29回	卒業論文の発表	4年生の卒業論文の発表
第30回	まとめ	1年間を振り返る

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

4年生は卒業研究を進めてください。

## 【テキスト (教科書)】

適宜、指定します。

## 【参考書】

必要に応じて指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) と要旨・書評の提出状況 (50%) で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

なるべく幅広い分野をカバーするように課題本を選定します。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース (旧・国際環境協力コース)、環境サイエンスコース

OTR400HA

## 研究会 (A)

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本研究会では、文献調査、現地調査 (フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査)、そして、社会実験やフィージビリティスタディを通じて、「地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法について学習していくことを目的とする。

## 【到達目標】

本研究会では、地域 (都道府県や市町村) 内の農林漁業者、企業、地方自治体、公的機関、大学などが連携して実施しているビジネス (地域ビジネス) の諸問題とその解決策を、研究テーマごとに編成されたチームで自由に、論理的に考え、説明していく能力を習得していくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

①著書、論文、報告書などの文献を用いて、第1次産業、第2次産業、第3次産業が連携しながら行っている地域ビジネス (産業クラスター、農工商連携、6次産業化など) の実態を整理し、また、そこからさまざまな課題も明確にしてもらいます。

②文献の考察や、アンケート調査およびヒアリング調査を通して、①で明らかにされた諸課題への解決策を提案し、また、その解決策が地域の持続的成長に繋がるかを検討してもらいます。

③各自のさらなるレベルアップのために、ゲストスピーカーによる講演、アンテナショップへのヒアリング調査、①のビジネスに関係する機関が主催するイベントへの参加、調査先や大学間での勉強会・報告会や合宿 (特別ゼミ) などを開催します。

④①～③の成果は、事業関係者に報告 (最終報告) するとともに、今後の研究計画書やこれをもとに作成される研究ノート (レポート) あるいは研究会修了論文 (またはPCソフト (アプリ)・仕様書など) としてまとめてもらいます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。また、チームを作り、その中で行う研究・調査のテーマを検討する。
第2回	研究・調査やその成果報告の方法 (A)	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。
第3回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。
第4回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (A)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第5回	製品・商品の生産・販売店の調査 (A)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第6回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第7回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第8回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第9回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第10回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第11回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。
第12回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関する文献を整理し、その内容を報告する。

発行日：2021/6/1

第 13 回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 14 回	研究・調査やその成果報告の方法 (B)	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。
第 15 回	研究・調査計画書の作成方法	これまでに行ってきた研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。
第 16 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (A)	これまでに取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 17 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (B)	これまでに取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 18 回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (B)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第 19 回	製品・商品の生産・販売店の調査 (B)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第 20 回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 21 回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 22 回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 23 回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 24 回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 25 回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 26 回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 27 回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 28 回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー (行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等) の講義とその内容に関する討論を行う。
第 29 回	総括-最終報告 (A) -	今年度取り組んだ研究・調査や作成した計画書 (レポートあるいは (小) 論文) に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 30 回	総括-最終報告 (B) -	今年度取り組んだ研究・調査や作成した計画書 (レポートあるいは (小) 論文) に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。

#### 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (旧・エコ経済経営コース)、ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)、

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本研究会では、著書、論文、報告書、新聞記事などを用いて、研究対象地域や研究テーマの選定、研究・調査の目的・視点・方法、先行研究の検討などが必要になりますので、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。

#### 【テキスト (教科書)】

特に使用ませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用しますので、各チームはレジュメの作成と配布をお願いします。

#### 【参考書】

チームあるいはそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加 (発言内容・積極性) (20 %)
- ・ 報告用配布レジュメの内容 (20 %)
- ・ 報告内容 (プレゼンテーション能力) (30 %)
- ・ 提出物 (研究・調査計画書、レポート、(小) 論文、PCソフト (アプリ)・仕様書など) の内容 (30 %)

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

#### 【その他の重要事項】

本研究会は、チームあるいは個人による研究や調査だけでなく、研究会メンバー、調査先の方々、学外の学生と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができるとともに、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力を身につけてください。

OTR400HA

## 研究会 (A)

## 松本 倫明

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地球温暖化とその周辺」

地球環境/地球温暖化対策/省エネ/エネルギー問題/エコ技術 など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

## 【到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

最近の活動内容は以下の通りです。2017年度の活動内容はゼミ内の話し合いで決めます。

「環境速報」（通年）…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。

「文献輪講」（前期）…地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC 評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論（STS）の書籍、省庁発行の資料を輪講しました。

「研究報告」（後期）…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。

「グループワーク」（逐次）…特定のテーマについてグループで研究します。近年では、環境展における企業研究、文献調査、キャンパスの放射線量調査を行いました。

「報告書」（年度末）…1年間の成果をまとめた報告書を提出します。4年生は研究会修了論文（卒論）を提出します。

必要に応じてサブゼミを火曜6限に行います。上記の他に親睦会や合宿が行われます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第2回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第3回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第4回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第5回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第6回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第7回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第8回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第9回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第10回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第11回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第12回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第13回	環境速報 文献輪講 グループワーク発表	環境速報と文献輪講を行います。
第14回	グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第15回	まとめ	春学期のまとめをします。
第16回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第17回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。

第18回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第19回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第20回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第21回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第22回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第23回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第24回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第25回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第26回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第27回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第28回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第29回	グループワーク発表	グループワークの発表を行います。
第30回	まとめ	1年間のまとめをします。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。

## 【テキスト（教科書）】

授業中に指示をします。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加姿勢、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ピアレビューは好評なので今年度も引き続きピアレビューを行います。グループワークを充実させます。

## 【学生が準備すべき機器他】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動では、学外で調査を実施することがあります。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

OTR400HA

## 研究会 (A)

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会を健康に生きていくために  
 ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

## 【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル (文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など) を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1)	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上 (2)	同上 (2)
第 5 回	同上 (3)	同上 (3)
第 6 回	同上 (4)	同上 (4)
第 7 回	同上 (5)	同上 (5)
第 8 回	同上 (6)	同上 (6)
第 9 回	同上 (7)	同上 (7)
第 10 回	同上 (8)	同上 (8)
第 11 回	同上 (9)	同上 (9)
第 12 回	同上 (10)	同上 (10)
第 13 回	同上 (11)	同上 (11)
第 14 回	同上 (12)	同上 (12)
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (13)	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上 (14)	同上 (14)
第 19 回	同上 (15)	同上 (15)
第 20 回	同上 (16)	同上 (16)
第 21 回	同上 (17)	同上 (17)
第 22 回	同上 (18)	同上 (18)
第 23 回	同上 (19)	同上 (19)
第 24 回	同上 (20)	同上 (20)
第 25 回	同上 (21)	同上 (21)
第 26 回	同上 (22)	同上 (22)
第 27 回	同上 (23)	同上 (23)
第 28 回	同上 (24)	同上 (24)
第 29 回	同上 (25)	同上 (25)
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

## 【テキスト (教科書)】

開講時に指定します

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の参加態度により評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

## 【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成する。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

OTR400HA

## 研究会 (A)

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

## 【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（10）	同上（10）
第 13 回	同上（11）	同上（11）
第 14 回	同上（12）	同上（12）
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上（14）	同上（14）
第 19 回	同上（15）	同上（15）
第 20 回	同上（16）	同上（16）
第 21 回	同上（17）	同上（17）
第 22 回	同上（18）	同上（18）
第 23 回	同上（19）	同上（19）
第 24 回	同上（20）	同上（20）
第 25 回	同上（21）	同上（21）
第 26 回	同上（22）	同上（22）
第 27 回	同上（23）	同上（23）
第 28 回	同上（24）	同上（24）
第 29 回	同上（25）	同上（25）
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

## 【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

春学期、春学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の参加態度により評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

## 【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成する。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース



OTR400HA

## 研究会 (A)

## 渡邊 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：文系の立場から科学技術政策へ向けて多角的に考える  
 「人」と「環境問題」の関連について具体的な事例をもとに幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を研究していきます。科学技術の進歩とは何か？を意識しながらその将来像や政策の方向について考えていきます。科学技術政策の立案・決定プロセスにおいて市民参加を伴うオープンな検討方式の重要性について考察します。参加者同士で調査・報告・討論しながら人間と科学技術の関係性と政策の進め方などについて考察を深めます。具体的な調査内容は授業時に相談しながら選定します。

## 【到達目標】

今日我々が抱えている環境問題を科学技術の進歩の結果としてとらえ、その歴史や役割などを考察し、我々のライフスタイルなどを結びつけながら総合的に考える力を養うことを目標としています。自らが問題・課題を発見し、調査・検討するという体験を通して、自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）ができるようになることも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

1年間の授業内容はおおむね次の通りです。春学期には主として数名からなるグループを作り調査や討論を進めその研究内容を報告します。さらにゼミ生全員でディスカッションを行うことにより、お互いの問題意識やそれに関わる知識を全員で共有します。秋学期には、各個人が研究テーマを定め、それについて調査・研究を進め、報告と討論を行います。科学技術とその政策に関連する具体事例について調査し多角的に考察を行います。4年生は「研究会修了論文」を提出することを前提としていますが、その中間発表と最終報告も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画についての打ち合わせを行う。
第2回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第3回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第4回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第5回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第6回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第7回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第8回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第9回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第10回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第11回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第12回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第13回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第14回	グループ研究と報告	グループ毎にテーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第15回	グループ研究の総括	グループ研究についての総合討論と個人研究へ向けての検討を行う。
第16回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第17回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第18回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第19回	卒論の中間報告 (4年生)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。

第20回	卒論の中間報告 (4年生)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第21回	卒論の中間報告 (4年生)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第22回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第23回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第24回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第25回	個人研究の報告と検討 (2,3年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第26回	総合討論	前回までの検討内容をもとに共通テーマを設定し全員で総合討論を行う。
第27回	総合討論	前回までの検討内容をもとに共通テーマを設定し全員で総合討論を行う。
第28回	卒論の最終報告 (4年生)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。
第29回	卒論の最終報告 (4年生)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。
第30回	卒論の最終報告 (4年生)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と質疑応答を行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

グループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

## 【テキスト (教科書)】

特に使用しません。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

報告内容および討論参加の積極性など 60%、提出されたレポート内容など 40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

OTR400HA

## 研究会 (A)

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然のもつ豊かな魅力に触れるとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することを目的とします。その際、環境の視点と地域社会や経済活動との関わりを中心に、加えて国際的な視点、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、修了論文を目指します。

## 【到達目標】

以下の4点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力 (プレゼンテーション/レポート能力)
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力 (コミュニケーション能力)
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめる考察する能力 (論理的思考)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマ以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます。
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します。
- ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミによるプロジェクト学習を通じてフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います。  
(※プロジェクト学習のテーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山・生き物に関わる文化など)
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義
第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	個人研究	個人研究の中間発表
第15回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第16回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第17回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第18回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第19回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第20回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第21回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回

第22回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第23回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第24回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第25回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第26回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第27回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第28回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第29回	年間個人研究の成果発表	個人研究の成果発表
第30回	年間まとめ	総括講義と意見交換

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを着実にを行います。また週末に行う野外学習とサブゼミでの活動を積極的に行います。

## 【テキスト (教科書)】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%)：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

## 【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ (春期) 及びⅡ (秋期)」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より自然への理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ (生態学)」(春期) とその応用である「自然環境論Ⅳ」(秋期) を併せて履修することを推奨します。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)、環境サイエンスコース

OTR400HA

## 研究会（B）

杉戸 信彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界は時として災害をもたらします。その姿は、われわれの理解と考え方で大きく変わってきます。本研究会では、自然環境（主に地形環境や地震発生環境）と土地条件、土地の歴史などについて、自然災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、人間社会のあり方を見つめなおします。

## 【到達目標】

自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。災害の多い日本列島で生きるうえで、また人口減少、高齢化、都市集中といった背景のなかで長期的なまちづくりに求められる妥当な「自然観」を養うこと。調査法や発表法の基礎を身につけること。地図の基礎を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

座学に加え、野外実習や課題演習、グループワーク、グループ研究を行います。グループ研究ではテーマや地域を設定して取り組みレポートを作成します。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、土地条件、土地の歴史、土地利用、プレート境界、活断層、長期予測、ハザードマップ、災害の歴史、インフラ、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。もちろん学生の皆さんの興味を考慮します。全体を通じ基礎的な内容を扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、発表法やレジュメ作成法等の説明、グループ分け
第2回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第3回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第4回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第5回	課題演習	机上調査
第6回	野外実習	フィールド巡検
第7回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第8回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第9回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第10回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第11回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第12回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第13回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第14回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第15回	まとめ	小レポート作成・提出
第16回	ガイダンス	趣旨説明、論文やレポートの書き方等の説明
第17回	グループワークの準備	グループ分け・テーマや地域の設定
第18回	グループワークの準備	グループ分け・テーマや地域の設定
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	フィールド巡検
第21回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第22回	グループワーク	討論、とりまとめ、発表
第23回	討論会	進捗状況報告、質疑応答、討論
第24回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第25回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第26回	討論会	進捗状況報告、質疑応答、討論
第27回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第28回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第29回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第30回	まとめ	レポート発表、質疑応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の収集・分析や事前調査、発表準備、復習、追加調査、とりまとめ等を行う。

## 【テキスト（教科書）】

購入または担当教員から配布ほか

## 【参考書】

授業中に紹介

## 【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等を総合して評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

知識や基礎力、思考力に加え、応用力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明あるいは効果的な進め方を心がけます。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、環境サイエンスコース

OTR400HA

## 研究会 (B)

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際法・国際環境法に関する英語の文献や裁判の判決を講読し、関連する問題についての討論を行う。

国際社会の諸問題について、英語で発表を行う。

## 【到達目標】

専門領域における英語文献を抵抗なく購読できるようになること。  
国際問題について、英語で討論できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

- ・参加者の関心のあるテーマについて、英語の文献を全員で講読する。
- ・国際社会の諸問題について、英語で発表し、討論を行う。
- \*受講者の人数や関心により、必ずしも計画通りに進まないことがある。
- \*必要に応じてサブゼミを行う。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第2回	文献購読 (1)	文献講読と討論
第3回	文献購読 (2)	文献講読と討論
第4回	文献購読 (3)	文献講読と討論
第5回	文献購読 (4)	文献講読と討論
第6回	文献購読 (5)	文献講読と討論
第7回	文献購読 (6)	文献講読と討論
第8回	映画鑑賞会 (1)	映画鑑賞と討論
第9回	時事問題 (1)	時事問題の討論
第10回	時事問題 (2)	時事問題の討論
第11回	時事問題 (3)	時事問題の討論
第12回	時事問題 (4)	時事問題の討論
第13回	時事問題 (5)	時事問題の討論
第14回	映画鑑賞会 (2)	映画鑑賞と討論
第15回	まとめ	まとめ
第16回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第17回	文献購読 (7)	文献講読と討論
第18回	文献購読 (8)	文献講読と討論
第19回	文献購読 (9)	文献講読と討論
第20回	文献購読 (10)	文献講読と討論
第21回	文献購読 (11)	文献講読と討論
第22回	文献購読 (12)	文献講読と討論
第23回	映画鑑賞会 (3)	映画鑑賞と討論
第24回	時事問題 (6)	時事問題の討論
第25回	時事問題 (7)	時事問題の討論
第26回	時事問題 (8)	時事問題の討論
第27回	時事問題 (9)	時事問題の討論
第28回	時事問題 (10)	時事問題の討論
第29回	映画鑑賞会 (4)	映画鑑賞と討論
第30回	まとめ	まとめ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習

## 【テキスト (教科書)】

受講者と相談の上、その都度指示する

## 【参考書】

受講者と相談の上、その都度指示する

## 【成績評価の方法と基準】

平常点

## 【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

## 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR400HA

## 研究会 (A)

梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」での調査・体験を活かして事例研究をおこなう。

## 【到達目標】

「環境表象論 I II」の内容を、ゼミ合宿時の現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的にフィールドワークを計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を共有できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

「授業計画」に示すように、教室では参加者の個人研究発表とその後の質疑応答、意見交換やグループワークを主とする。春学期の研究発表は、主として沖縄離島ゼミ合宿の前年度参加者 (= 前年度 2 年生) が担当し、新規参加者にとっては合宿の事前学習の意義をもつことになる。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	沖縄離島についてのガイダンス	合宿で訪問する島について概観的な予備学習
第3回	個人研究発表①	昨年度の研究発表を 1 人 30 分以内程度で発表し、その後に質疑応答および教員によるレクチャー等
第4回	文献購読①	合宿のテーマに関する文献資料を読み合う。
第5回	個人研究発表②	第3回に同じ
第6回	文献購読②	第4回に同じ
第7回	個人研究発表③	第3回に同じ
第8回	文献購読③	第4回に同じ
第9回	個人研究発表④	第3回に同じ
第10回	文献購読④	第4回に同じ
第11回	個人研究発表⑤	第3回に同じ
第12回	文献購読⑤	第4回に同じ
第13回	グループワーク①	合宿で調べたいテーマに沿ってグループ分けをし、共同作業を行う。
第14回	グループワーク②	第13回の続き
第15回	春学期の総括	沖縄離島合宿事前学習のまとめとして、成果を共有し合う。

## 通年

回	テーマ	内容
第16回	秋学期オリエンテーション	夏合宿のふりかえり等
第17回	個人研究発表⑥	昨年度または今年度春学期の研究発表を 1 人 30 分以内程度で発表し、その後にグループワークも含む質疑応答など
第18回	個人研究発表⑦	同上
第19回	個人研究発表⑧	同上
第20回	個人研究発表⑨	同上
第21回	個人研究発表⑩	同上
第22回	個人研究発表⑪	同上
第23回	個人研究発表⑫	同上
第24回	グループワーク③	今までの研究発表を通じて、個人を超えて共通するテーマ、キーワードを確認し、ディスカッションを行う
第25回	グループワーク④	同上
第26回	グループワーク⑤	同上
第27回	グループワーク⑥	同上
第28回	2年生の共同研究発表	夏休みのゼミ合宿の成果

第 29 回 学年末論文の概要発表 論文に使用する参考文献リストも各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

第 30 回 論文個別指導 学年末論文の最終アドバイス

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

**【参考書】**

授業のなかで紹介しています。

**【成績評価の方法と基準】**

発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35 %。

**【学生の意見等からの気づき】**

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に合った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声、定評としてあります。

・学部フィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

・「環境表象論Ⅱ」を未履修の人は、今年度中に受講してください。

・この金曜 4 限研究会は 2・3 年の新規参加者が履修登録対象になります。

**【関連の深いコース】**

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

OTR400HA

**研究会（B）**

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

気象は私たちにとって身近なものであり、私たちが地表で社会生活を営んでいる限りは必然的につき合っていく存在である。また、多くの企業ではその収益が気象の影響を受けるなど、気象と経済・経営とも密接な関係がある。この研究会では、気象の基礎、ならびに気象と人間、社会、経済の関係について勉強する。

**【到達目標】**

1. 人の生活・社会・企業と気象とのかかわりを説明できる。
2. 様々な気象の特徴やしきみについて説明できる。
3. 気象における環境問題について説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストを 2 冊ほど選び、各自の担当部分を決めて春学期は 1 冊目を、秋学期は 2 冊目を輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト（1）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 13 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 16 回	テキスト（2）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第 17 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 18 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 19 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 20 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 21 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 22 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 23 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 24 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第 25 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 26 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	10 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 27 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	11 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 28 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	12 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 29 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	13 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 30 回	前回の復習, 担当部分の発表・質疑応答	14 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1～30 回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

#### 【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

#### 【参考書】

適宜、紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

発表（50％：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への達成度）、議論（50％：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への達成度）により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

自分がわからない部分は、ほかの人もわからないものです。わからないことを皆で学ぶのがゼミなのです。気象に興味はあっても今まで踏み込むチャンスがなかった学生さん、気象予報士に興味がある学生さん、一緒に勉強してゆきましょう。

#### 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR400HA

## 研究会（B）

### ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

\* Human Communication \*

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

#### 【到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques

第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 15 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 16 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第 17 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第 18 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships
第 19 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第 20 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第 21 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第 22 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第 23 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第 24 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第 25 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第 26 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 28 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 29 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 30 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

**【テキスト（教科書）】**

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

**【参考書】**

Adler, R., & Rodman, G. (2013). *Understanding Human Communication* (9th Edition). New York: Oxford.  
Joseph A. DeVito (2014). *Human Communication: The Basic Course* (13th Edition). Pearson.  
Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2013). *Human Communication*. Boston: McGraw Hill.

**【成績評価の方法と基準】**

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online forum postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

**【学生の意見等からの気づき】**

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

**【関連の深いコース】**

すべてのコース

OTR400HA

**研究会 (B)**

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テーマ 行政、国会の仕組み  
行政法を違う角度から学び、その補完を行うことにより、行政法の克服へ資する。

**【到達目標】**

現代国家に生きるものとして行政に関わる基本的な知識とその応用を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

行政府（内閣等）と立法府（国会）の仕組みを概観することにより、法律がどのように作られ、どのように執行されるかを学び、「行政法の基礎」とは違った角度からその補完を行う。

したがって、行政法を学びたい者が対象となるが、「行政法の基礎」を受講した者でさらに行政法を学びたい者を優先する。公務員志望者の参加を歓迎する。授業は教材（テキスト、プリント）による講義と学生による事例発表、行政法の個別テーマに関するレポート発表により進める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	オリエンテーション
第 2 回	教材による講義	行政①内閣
第 3 回	教材による講義	行政②内閣総理大臣
第 4 回	教材による講義	行政③議院内閣制
第 5 回	教材による講義	行政④行政組織
第 6 回	教材による講義	行政⑤地方公共団体
第 7 回	事例発表	学生による発表と討論
第 8 回	事例発表	学生による発表と討論
第 9 回	事例発表	学生による発表と討論
第 10 回	事例発表	学生による発表と討論
第 11 回	事例発表	学生による発表と討論
第 12 回	事例発表	学生による発表と討論
第 13 回	事例発表	学生による発表と討論
第 14 回	まとめ	授業の総括
第 15 回	まとめ	授業の総括
第 16 回	教材による講義	国会①選挙
第 17 回	教材による講義	国会②任務
第 18 回	教材による講義	国会③政策立案
第 19 回	教材による講義	国会④サポーター
第 20 回	教材による講義	国会⑤政党
第 21 回	教材による講義	国会⑥法律の成立
第 22 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 23 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 24 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 25 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 26 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 27 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 28 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 29 回	まとめ	授業の総括
第 30 回	まとめ	授業の総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教材を予習する  
事例、レポート発表のために、準備する

**【テキスト（教科書）】**

法学ナビゲーション（有斐閣アルマ）を用いる

**【参考書】**

その都度 紹介する

**【成績評価の方法と基準】**

発表、討議の状況により評価する

**【学生の意見等からの気づき】**

グループによる事例研究を行う。

**【関連の深いコース】**

サステイナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）

OTR400HA

## 研究会 (B)

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2017年度は、途上国の開発と環境に大きくかかわると同時に、先進国の私たちの生活とのかかわりも深い「食料」をテーマに、持続可能な社会のあり方についての議論を深めます。受講者が何が持続可能な社会なのかについて、深く考えかつ具体的に行動できるようになることを目指します。

## 【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像/構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方(予定)について概説する。
第2回	何が「問題」か? (1)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。(1)
第3回	何が「問題」か? (2)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。(2)
第4回	グループディスカッション課題1 (身近な食料問題) (1)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、身近な環境と開発の課題について意見交換する。(1)
第5回	グループディスカッション課題1 (身近な食料問題) (2)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、身近な食料問題について意見交換する。(2)
第6回	グループディスカッション課題1 (身近な食料問題) (3)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、身近な食料問題について意見交換する。(3)
第7回	グループディスカッション課題2 (日本における食料問題) (1)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、日本における食料問題について意見交換する。(1)
第8回	グループディスカッション課題2 (日本における食料問題) (2)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、日本における食料問題について意見交換する。(2)
第9回	グループディスカッション課題2 (日本における食料問題) (3)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、日本における食料問題について意見交換する。(3)
第10回	グループディスカッション課題2 (日本における食料問題) (4)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、日本における食料問題について意見交換する。(4)
第11回	グループディスカッション課題3 (途上国における食料問題) (1)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(1)
第12回	グループディスカッション課題3 (途上国における食料問題) (2)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(2)
第13回	グループディスカッション課題3 (途上国における食料問題) (3)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(3)
第14回	グループディスカッション課題3 (途上国における食料問題) (4)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(4)
第15回	グループディスカッション課題3 (途上国における食料問題) (5)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(5)
第16回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。

第17回	「問題」を「解決する」とは? (1)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第18回	「問題」を「解決する」とは? (2)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第19回	グループディスカッション課題4 (日本における食料問題) (1)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、日本における食料問題について意見交換する。(1)
第20回	グループディスカッション課題4 (日本における食料問題) (2)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、日本における食料問題について意見交換する。(2)
第21回	グループディスカッション課題4 (日本における食料問題) (3)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、日本における食料問題について意見交換する。(3)
第22回	グループディスカッション課題4 (日本における食料問題) (4)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、日本における食料問題について意見交換する。(4)
第23回	グループディスカッション課題5 (途上国における食料問題) (1)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(1)
第24回	グループディスカッション課題5 (途上国における食料問題) (2)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(2)
第25回	グループディスカッション課題5 (途上国における食料問題) (3)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(3)
第26回	グループディスカッション課題5 (途上国における食料問題) (4)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(4)
第27回	グループディスカッション課題5 (途上国における食料問題) (5)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(5)
第28回	グループディスカッション課題5 (途上国における食料問題) (6)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(6)
第29回	グループディスカッション課題5 (途上国における食料問題) (7)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(7)
第30回	グループディスカッション課題5 (途上国における食料問題) (8)	「食料問題」に関する基礎文献を読み、途上国における食料問題について意見交換する。(8)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

基礎文献、与えられた課題(英文含む)は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

## 【テキスト (教科書)】

特に指定のテキストはありません。

## 【参考書】

研究会において紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献(70%)、期末レポート(30%)にて評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

過去には、ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース(旧・国際環境協力コース)、ローカル・サステナビリティコース(旧・地域環境共生コース)



OTR400HA

## 研究会 (B)

田中 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月5・6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

千代田区の地域環境政策 (CES・千代田エコシステム) 研究

## 【到達目標】

このゼミは2006年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、企画・実践することを目的としています。大学外の関係者との連携により視野を広げていきます。これまでの研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者(区役所・企業・NPO)からの聞き取りを行う。このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などをとおして「CES(千代田エコシステム)」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。参加者の関心に基づく「個人研究」の発表とレポート作成を行う。なお、このゼミは参加者が役割分担して運営するのが特徴である。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。 環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第2回	ゼミの経過(報告書)講義	2016年度までの活動について前年度メンバーから報告・説明を行う。
第3回	千代田区の特性①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第4回	千代田区の特性②	前週の説明を受けて、質疑応答を行う。
第5回	区役所担当者による講義	区の環境政策(温暖化対策条例・環境モデル都市など)について講義を受ける。
第6回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第7回	プログラムミーティングと実践①	2017年度春学期および年間の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第8回	プログラムミーティングと実践②	活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第9回	プログラムミーティングと実践③	プログラムを決定。 実施グループメンバーへの割り振り。
第10回	プログラムミーティングと実践④	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第11回	プログラムミーティングと実践⑤	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第12回	プログラムミーティングと実践⑥	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第13回	プログラムミーティングと実践⑦	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第14回	プログラムミーティングと実践⑧	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第15回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および秋学期のスケジュールについて確認。
第16回	夏期休暇中活動の報告、秋学期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第17回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第18回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第19回	講演会(講師：未定)	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第20回	千代田研究①	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。

第21回	千代田研究②	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第22回	千代田研究③	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第23回	年度活動報告書作成会議①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第24回	プログラムミーティング⑧	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第25回	プログラムミーティング⑨	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第26回	プログラムミーティング⑩	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第27回	プログラムミーティング⑪	各プログラムグループごとに実行プランの討議を行い、活動を実践する。
第28回	千代田研究④	個人研究の追加発表。
第29回	年度活動報告書作成作業②	報告書編集作業。
第30回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学や「講演会」「まちあるき」などを実施します。いずれもゼミ生自身で企画・実施します。ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

## 【テキスト(教科書)】

特定のテキストは用いない。必要に応じて区政資料などを配布する。

## 【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版  
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣  
ほかにイベントごとに資料を作成する。

## 【成績評価の方法と基準】

活動参加、役割関与、個人研究発表、研究レポートなど総合的に評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

個人・グループ研究の発表時間を増やし、追加発表の機会を設けます。

## 【その他の重要事項】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。1時限だけの登録はできません。

## 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR400HA

## 研究会 (A)

【関連の深いコース】  
環境サイエンスコース

谷本 勉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大森荘蔵の科学哲学を手がかりにして科学とは何か、人間とは何かを探求する。

## 【到達目標】

「心」の問題を中心に据えて、世界、自然、環境について批判的に考える力を得ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

大森荘蔵の種々の哲学エッセーをそれぞれ担当して読解した後、皆で議論して、理解を深めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第2回	イントロダクション1	「夢まぼろし」 「記憶について」
第3回	イントロダクション2	「真実の百面相」 「心の中」
第4回	イントロダクション3	「ロボットの申し分」 「夢見る脳、夢みられる脳」
第5回	イントロダクション4	イントロダクションの総括のための議論と解説
第6回	初期大森哲学1	「哲学的知見の性格」
第7回	初期大森哲学2	「他我の問題と言語」
第8回	初期大森哲学3	「言語と集合」
第9回	初期大森哲学4	初期大森哲学の前半の総括のための議論と解説
第10回	初期大森哲学5	「決定論の論理と、自由」
第11回	初期大森哲学6	「知覚の因果説検討」
第12回	初期大森哲学7	「知覚風景と科学の世界像」
第13回	初期大森哲学8	初期大森哲学の後半の総括のための議論と解説
第14回	春学期総括1	それぞれの描く大森哲学1
第15回	春学期総括2	夏休みの課題解説
第16回	秋学期の展望	夏休みの課題の発表と議論
第17回	中期大森哲学1	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」1
第18回	中期大森哲学2	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」2
第19回	中期大森哲学3	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」3
第20回	中期大森哲学4	「科学の畏」
第21回	中期大森哲学5	「虚想の公認を求めて」
第22回	中期大森哲学6	中期大森哲学の総括のための議論と解説
第23回	後期大森哲学1	「過去の制作」
第24回	後期大森哲学2	「ホーリズムと他我問題」
第25回	後期大森哲学3	「脳と意識の無関係」
第26回	後期大森哲学4	「時は流れず－時間と運動の無縁」
第27回	後期大森哲学5	「[後の祭り]を祈る－過去は物語」 「自分と出会う－意識こそ人と世界を隔てる元凶」
第28回	後期大森哲学6	後期大森哲学の総括のための議論と解説
第29回	秋学期総括1	それぞれの描く大森哲学2
第30回	秋学期総括2	科学的なものの見方考え方の実像についてのまとめ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

## 【テキスト (教科書)】

『大森荘蔵セレクション』(平凡社ライブラリー、2011年)

『物と心』(ちくま学芸文庫、2015年)

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

担当部分の発表の内容と議論への参加の態度を加味して、総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでの指摘を授業に反映していく。

OTR400HA

## 研究会 (B)

## 長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

職業生活をおとして労働環境を考える。

## 【到達目標】

春学期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめる。こうした学習や作業をおとして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといつてよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国の組合とのちがいをみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	海外諸国と比較して、日本企業で女性はより大きなハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、均等法施行以来それはどう変化してきたのかについても学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。

第11回	仕事と労働時間2(長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係しているのか等について考える。
第12回	大学生の就職1(日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第13回	大学生の就職2(大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をおとして最新の情報を確認する。
第14回	大学生の就職3(グローバル人材)	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第15回	レポート提出とコメント	第2回・3回の授業で説明したレポート作成の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、コメントをする。
第16回	春学期学習の復習1(日本の雇用とは)	春学期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第17回	春学期学習の復習2(日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第18回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第19回	学生による研究発表2	上記に同じ
第20回	学生による研究発表3	上記に同じ
第21回	学生による研究発表4	上記に同じ
第22回	学生による研究発表5	上記に同じ
第23回	学生による研究発表6	上記に同じ
第24回	学生による研究発表7	上記に同じ
第25回	学生による研究発表8	上記に同じ
第26回	学生による研究発表9	上記に同じ
第27回	学生による研究発表10	上記に同じ
第28回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第29回	学生による研究発表11	第18回に同じ
第30回	学生による研究発表12	上記に同じ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントしたり、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する、発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。

## 【テキスト (教科書)】

春学期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

## 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 [改訂版]』有斐閣ブックス、2012年。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

文章の書き方等、レポート作成のより詳細な指導が必要。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (旧・エコ経済経営コース)、ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)

OTR400HA

## 研究会 (B)

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：環境問題への歴史学的アプローチ

環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生じたさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の読解、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を進める。

## 【到達目標】

日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための能力を養う。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、研究レポートを提出することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポートの執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション-環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学ぶ。
第2回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第3回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第4回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第5回	大学周辺フィールドスタディ①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第6回	史料読解のグループ学習①	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第7回	史料読解のグループ学習②	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第8回	古文書読解①	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第9回	古文書読解②	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第10回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第11回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第12回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第13回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第14回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第15回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第16回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第17回	大学周辺フィールドスタディ②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える。
第18回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第19回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第20回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。

第21回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第22回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第23回	古文書読解③	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第24回	古文書読解④	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第25回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第26回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第27回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第28回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第29回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第30回	特定テーマ研究発表⑥	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配付した歴史史料・古文書を事前に読解・分析する。  
グループ・個人の調査研究テーマの文献収集・分析を行う。

## 【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配付する。

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、発表・研究レポート (30%) により評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)、人間文化コース (旧・環境文化創造コース)

OTR400HA

## 研究会 (B)

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CSR (企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

## 【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の基礎知識を習得し、日経新聞・野村証券主催のストックリーグに参加して企業評価とバーチャルトレードを経験します。その成果を基にレポートを作成してコンテストにチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンダを組成しバーチャルトレードを行います。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・スケジュール ・ストックリーグ	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 14 回	財務分析文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ検討	ファンダテーマ決定企業の調査手法・ 調査スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ中間報告 ①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒業論文テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チームの活動報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チームの活動報告
第 20 回	ストックリーグ活動③	チームの活動報告
第 21 回	ストックリーグ中間報告 ②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告 ③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動⑧	レポート作成
第 29 回	ストックリーグ・レポート 発表会	レポート最終発表
第 30 回	Aゼミと合同ゼミ	卒業論文発表会への参加

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

## 【テキスト (教科書)】

研究会の開講前に掲示します。

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度  
〔個別評価〕ストックリーグのレポート

## 【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

## 【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース (旧・エコ経済経営コース)、ローカル・サステイナビリティコース (旧・地域環境共生コース)

OTR400HA

## 研究会 (B)

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然のもつ豊かな魅力に触れるとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することを目的とします。その際、環境の視点と国際的な視点を中心に、加えて地域社会や経済活動との関わり、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、期末研究レポートにつなげます。

## 【到達目標】

以下の4点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力 (プレゼンテーション/レポート能力)
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力 (コミュニケーション能力)
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力 (論理的思考)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます。
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します。
- ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミによるプロジェクト学習を通じてフィールドに学び企画力・実践力・分析力を養います。  
(※プロジェクト学習テーマ例：都市緑地・水辺・野鳥・東京湾・里山・生き物に関わる文化など)
- ④自らの関心テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な期末研究レポート作成につなげます。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義
第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習
第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	個人研究	個人研究の中間発表
第15回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第16回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第17回	テーマ3：個人・グループ研究1	事前学習
第18回	テーマ3：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン

第19回	テーマ3：個人・グループ研究3	グループ討議
第20回	テーマ3：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第21回	テーマ3：個人・グループ研究5	グループ討議
第22回	テーマ3：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第23回	テーマ4：ディベート1	事前学習
第24回	テーマ4：ディベート2	グループ討議
第25回	テーマ4：ディベート3	ディベート第1回
第26回	テーマ4：ディベート4	グループ討議
第27回	テーマ4：ディベート5	ディベート第2回
第28回	テーマ4：ディベート6	発表とまとめ
第29回	年間個人研究の成果発表	個人研究の成果発表
第30回	年間まとめ	総括講義と意見交換

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

設定課題に関して、文献資料の収集や資料作成、事前学習、必要なフィールドワーク、発表準備など、成果に向けた調査研究を着実にを行います。また、休日等に行う野外学習や、自主企画をベースに行うテーマ別の研究・提案・発表などのサブゼミ活動を積極的に行います。

## 【テキスト (教科書)】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%)：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

## 【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ (春期) 及びⅡ (秋期)」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より自然への理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ (生態学)」(春期) とその応用である「自然環境論Ⅳ」(秋期) を併せて履修することを推奨します。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース (旧・国際環境協力コース)、環境サイエンスコース

OTR400HA

## 研究会（B）

日原 傳

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

松尾芭蕉の『おくの細道』を読む。

## 【到達目標】

- ・江戸時代の旅の実態について理解を深める。
- ・芭蕉の創作の工夫について学ぶ。
- ・俳諧に関する基本的な知識を習得する。
- ・日本の名勝について知る。
- ・自分の力で文献を調べ、読み解く力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

最初の時間にテキストの『おくのほそ道』及び『曾良随行日記』等の関連資料について説明する。その上で、参加者に担当箇所を割り振る。担当者は割り当てられた本文、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキストについて	『おくのほそ道』及び『曾良随行日記』等の関連資料の説明。
第2回	文献講読	テキスト輪読
第3回	文献講読	テキスト輪読
第4回	文献講読	テキスト輪読
第5回	文献講読	テキスト輪読
第6回	文献講読	テキスト輪読
第7回	文献講読	テキスト輪読
第8回	文献講読	テキスト輪読
第9回	文献講読	当季雑詠、題詠
第10回	文献講読	テキスト輪読
第11回	文献講読	テキスト輪読
第12回	文献講読	テキスト輪読
第13回	文献講読	テキスト輪読
第14回	文献講読	テキスト輪読
第15回	文献講読	テキスト輪読

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの該当箇所を下読みし、議論の種を見つけておく。
- ・担当者は担当箇所に関して、可能な限り調べ、レジメを作成する。

## 【テキスト（教科書）】

類原退蔵・尾形伝訳注『新版 おくのほそ道』（角川ソフィア文庫）

## 【参考書】

授業の進行に合わせて、随時紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・発表）70％  
最終レポート 30％

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度から研究会の内容を新たにしたので特になし。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

OTR400HA

## 研究会（B）

谷本 有美子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位  
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本テーマは「自治体で働くということ」です。卒業後に自治体で公共政策の担い手となることを目指す学生のために、公務員予備校などで主に学ぶ一次の筆記試験対策とは異なる観点からキャリアデザインを支援する研究会です。またこの研究会における経験を通じて、論述やグループ討議、最終面接などの二次試験以降の対策になり、さらに学生が自治体職員になった場合に必要政策形成能力の基礎を身につけることも目的としています。

## 【到達目標】

第1に自治体職員のキャリアイメージを形成すること、第2に自治体職員になるための目的意識を涵養すること、第3に市民性を備え、広い視野を持って地域課題に対応できる能力について理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

現在、自治体で求められている人物像に関する講義、地域課題に関する広い視野やコミュニケーション能力を身につけるための時事問題に関するテーマ討論、ゲストスピーカー（現職の自治体職員等）の講義と対話、地域の課題に取り組んだ自治体の政策事例の検討（担当職員のキャリア形成も含む）、特定地域の課題と政策動向に関する調査・新たな政策アイデアの検討と報告、必要に応じ現地調査などを組み合わせていきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の進め方についての説明と、受講者の意見交換を通じて自治体職員に対する各人のイメージを共有する
第2回	自治体職員のミッションとは？	自治体職員が働く現場の事例から、仕事のミッションについて考える
第3回	自治体の政策課題の発見（1）	最近の報道から自治体に関連しそうな課題を受講生が持ち寄り、グループでその対策アイデアを検討する
第4回	自治体の政策課題の発見（2）	第3回の内容を発表し、全体で討議する
第5回	ケース分析「自治体職員の仕事（1）」	テキスト等の事例を題材に自治体職員の仕事に必要な能力についてグループで討議する
第6回	ケース分析「自治体職員の仕事（2）」	第5回の内容を発表し、全体で討議する
第7回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く（1）	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取りを行う
第8回	自治体職員（ゲストスピーカー）に聞く（2）	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取りを行う
第9回	自治体職員としてのキャリア形成を考える	ゲストスピーカーからの聞き取り内容と文献のケースを比較しながら、キャリア形成に焦点を当ててグループで討議する
第10回	自治体の現場課題を考える～政策形成思考のトレーニング（1）	自治体現場の最前線の政策課題を見出し、グループディスカッションを通じて解決策を探る
第11回	自治体の現場課題を考える～政策形成思考のトレーニング（2）	第10回の内容を発表し、全体で討議する
第12回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（1）	受講生各自が仮の志望自治体を選び、関心のある政策を調べて、自身がどのように携わり、キャリアを形成したいかについてのプレゼンテーションを行う
第13回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（2）	第12回の続き
第14回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成（3）	第12・13回の続き

## 第 15 回 総括討論

学習した内容を振り返りつつ、自治体  
職員の役割・あるべき像などについて  
総括的に討論する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テーマ討論や講義内容に関する事前学習
- ・ゲストスピーカーからの聞き取りのための事前学習
- ・関心を持った自治体の政策や地域資源等についての情報収集

## 【テキスト（教科書）】

各回のテーマに応じて、必要な印刷物を配付します。

## 【参考書】

稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣）の他、授業内で適宜指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

課題の履行と提出、参加姿勢による総合評価とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

自治体の仕事の実際に触れられる機会を可能な限り提供します。  
グループ討議で他の受講生と共に学びながら報告内容をまとめる経験を積み、  
発表の機会を通じてプレゼンテーション技術が向上できるようなサポートを  
します。

## 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR400HA

## 研究会（B）

## 石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「サステイナブルなまちづくり」を基本テーマとした、都市環境および地域形成に関する集中型学習のゼミナール。

## 【到達目標】

都市環境および地域形成に関して定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解し、研究のおもしろさを体得し、また、様々な企画能力をも培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

国内外の都市や地域を対象に、環境、生活、経済、産業、歴史などの視点から、文献購読と事例研究を行う。文献については年度初めにいくつか提示すると同時に、必要に応じ適宜提示する。事例研究の具体的なテーマ等に関しては、議論しつつ決めていく。ゼミでは、①文献の輪読と議論、②グループによる事例研究、③個人研究を進める。グループ研究と個人研究は自主的に進め、その成果を逐次、ゼミで発表・議論し、最終的にはレポートとしてまとめる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	各自の紹介、研究会の進め方等を説明
第 2 回	年間研究全体テーマ設定	全体の共通テーマの提案と議論
第 3 回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第 4 回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第 5 回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第 6 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 7 回	各グループ小テーマ議論	グループを形成し、それぞれ議論
第 8 回	各グループ小テーマ議論	主にグループごとの研究活動
第 9 回	各グループ研究構想発表	各グループの小テーマと研究の企画
第 10 回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第 11 回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第 12 回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第 13 回	第 1 回中間発表会	各グループの研究成果の発表・討論
第 14 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 15 回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第 16 回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第 17 回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第 18 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 19 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 20 回	第 2 回中間発表会	各グループの発表・討論
第 21 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 22 回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第 23 回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第 24 回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第 25 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 26 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 27 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 28 回	最終研究発表会準備	主にグループごとの研究活動
第 29 回	最終研究発表会	各グループの成果発表・討論
第 30 回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献はもとより各種参考文献も自主的に講読し習得していく。また、グループ毎に適宜計画し、事例研究の現地調査を積極的に実施する。

## 【テキスト（教科書）】

輪読のための共通テキスト（3冊程度：年度初めに提示）を使用する。また、テーマの設定によっては、別途に共通の資料を使用する場合がある。

## 【参考書】

個別の内容により、必要に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（各回の準備、議論への参加状況）50%、成果物（グループ研究および個人研究の評価）50%

## 【学生の意見等からの気づき】

学生により基礎知識の不足がある。これを補うため、基本的な事項につき、講義する機会を随時もつとともに、自主学習を課する予定である。

## 【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース（旧・地域環境共生コース）



OTR400HA

## 研究会 (B)

## 渡邊 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ:科学技術社会について考える (書籍・文献等の講読を中心に)  
 科学技術社会を考えるための素養を身に付けることを目標に、様々な書籍、文献、新聞などの講読を行います。またそれにもとづいて各自の関心のあるテーマについての報告と討論を行うことにより、コミュニケーション力を修得します。科学技術の意義と役割、歴史、様々な問題点と将来像などについて考察し政策との関連について考えます。環境問題をより深く眺め、諸学問分野の垣根を超えた学際的な発想ができるようになることを目指します。

## 【到達目標】

幅広く具体的な内容に触れながら科学技術という断面から人と社会についてより深く考えることができるようになることが目標です。この研究会は理系系の学生向けに開設されたものではありません。科学とは何か? 科学技術とは何か? を文系の立場から考察し、科学技術政策を模索、決定し遂行するための方法などについて考えることを目指します。新聞あるいは雑誌、各種統計資料を含む様々な情報を読み解くことができるようになることも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

幾つかの書籍を講読しその内容について報告します。また新聞、雑誌、その他各種資料を参考にして、各自の関心のあるテーマについて報告し討論します。少人数教室での質疑応答、意見交換、ディスカッションなどを経験することにより、自分が自らの意見をもち、説得力のある主張を展開していくための力を身に付けたいと考えています。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と進め方の確認を行う。
第2回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第3回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第4回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する。
第5回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第6回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第7回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第8回	輪講	書籍等の講読を行い内容を報告する。
第9回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第10回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第11回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第12回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第13回	事例研究	新聞、雑誌、各種資料をもとに報告と討論を行う。
第14回	総括 (1)	春学期授業内容についての総合討論を行う。
第15回	総括 (2)	春学期授業内容についての総合討論を行う。
第16回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第17回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第18回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第19回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第20回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う。
第21回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第22回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。

第23回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第24回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第25回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第26回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第27回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第28回	個人研究報告	研究内容の報告と参加者による検討を行う。
第29回	総括 (3)	共通テーマを設定し総合討論を行う。
第30回	総括 (4)	共通テーマを設定し総合討論を行う。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

書籍、各種資料の内容把握と文献収集、事前調査、報告のための資料作成などをを行います。

## 【テキスト (教科書)】

特に使用しません。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

報告内容および討論参加の積極性など 60%、提出されたレポート内容など 40%。

## 【学生の意見等からの気づき】

文系の立場であるということを常に意識して、わかりやすい説明となるよう留意します。

## 【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

OTR400HA

## 研究会 (B)

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本研究会では、文献調査、現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）、そして、社会実験やフィージビリティスタディを通じて、「地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法について学習していくことを目的とする。

## 【到達目標】

本研究会では、地域に根ざしている自治体主導型事業の現状分析や課題への解決策の考察を通して、経済・経営系の知識、分析能力、論理力などといった社会で活躍するために必要な能力を身につけていくことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

## □【春学期】

□著書、論文、報告書、新聞記事などの文献を用いて、自治体主導型事業（北海道池田町のワイン事業や青森県板柳町のりんご関連事業など）によって当該地域を持続的に成長していくために何が必要かを検討し、明らかにしてもらいます。

## □【秋学期】

□春学期で実施した学習に基づいて、事業関係者にアンケート調査やヒアリング調査を実施し、自治体運営事業の現状や課題を明らかにするとともに、その課題の解決策を検討し、提案してもらいます。

□春学期および秋学期の研究・調査の成果は、事業関係者に報告（最終報告）するとともに、研究ノート（レポート）（あるいはPCソフト（アプリ）・仕様書など）にもまとめてもらいます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
第2回	研究・調査テーマとその検討方法 (A)	研究・調査のテーマを提示し、これをテキストや他の著書を用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第3回	研究・調査テーマとその検討方法 (B)	研究・調査のテーマに対して論文や報告書などを用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第4回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (A)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を全員で議論する。
第5回	製品・商品の生産・販売店の調査 (A)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第6回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論①	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第7回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論②	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第8回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論③	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第9回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論④	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第10回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑤	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第11回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑥	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第12回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑦	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第13回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑧	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。

第14回	研究・調査テーマの検討内容の整理 (A)	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第15回	小 括	春学期までの研究・調査の取組内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第16回	研究・調査テーマに関する報告会 (A)	これまでに取り組んだ研究・調査テーマに関する取組内容を各自報告し、それを全員で議論する。
第17回	研究・調査テーマに関する報告会 (B)	これまでに取り組んだ研究・調査テーマに関する取組内容を各自報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第18回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (B)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を全員で議論する。
第19回	製品・商品の生産・販売店の調査 (B)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第20回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑨	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第21回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑩	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第22回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑪	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第23回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑫	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第24回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑬	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第25回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑭	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第26回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑮	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第27回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑯	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第28回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー（行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等）の講義とその内容に関する討論を行う。
第29回	研究・調査テーマの検討内容の整理 (B)	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していくとともに、その内容を研究・調査計画書やそれをもとに作成される研究ノート・レポートに活かしていく方法を説明する。
第30回	総 括	今年度取り組んだ研究・調査の取組内容を整理し、その内容を全員に共有していく。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書、論文、報告書、新聞記事などを用いて、研究対象地域や研究テーマの選定、研究・調査の目的・視点・方法、先行研究の検討などが重要になりますので、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。

## 【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回パワーポイントを用いて報告してもらいますので、レジュメの作成と配布をお願いします。

## 【参考書】

チームあるいはそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・討論への参加（発言内容・積極性）(20%)
- ・報告用配布レジュメの内容 (20%)
- ・報告内容（プレゼンテーション能力）(30%)
- ・提出物（研究ノート・レポート、あるいはPCソフト（アプリ）・仕様書など）の内容 (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

## 【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究や調査だけではなく、研究会メンバー、調査先の方々、学外の学生と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができるとともに、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力を身につけてください。

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）、ローカル・サステナビリティコース（旧・地域環境共生コース）、

OTR400HA

## 研究会 (A)

### 國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ミクロ経済学などの考え方の理解・習得を基礎的なレベルから行う (自分の言葉で理解・判断する能力と他人と協力して解決する能力の獲得を図る)。

#### 【到達目標】

重要な経済学の基礎的な考え方を集中して学び、環境政策を考えるために必要な素養を、発表、議論、批判的検討を通じて獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

研究会は演習形式で行う。研究会では、ミクロ経済学などのテキストを全員で輪読し、それに関してディスカッションを行う。経済学に関するベシクで重要な考え方、捉え方をしっかりと身につけるため、お互いの意見交換を重視する。また、毎週サブゼミを実施し、ゼミの先輩とグループで調査・研究・発表を行う。ゼミ合宿ではサブゼミなどで行った調査・研究を発展させ、全体で議論する。

幅広い素養を身につけるため、副読本として環境に関する文献も積極的に読み、感想を発表する。4年生の研究会修了論文作成のための経過報告なども実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第2回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第3回	文献講読 (1)	報告および討論
第4回	文献講読 (2)	報告および討論
第5回	文献講読 (3)	報告および討論
第6回	文献講読 (4)	報告および討論
第7回	文献講読 (5)	報告および討論
第8回	文献講読 (6)	報告および討論
第9回	文献講読 (7)	報告および討論
第10回	文献講読 (8)	報告および討論
第11回	文献講読 (9)	報告および討論
第12回	文献講読 (10)	報告および討論
第13回	文献講読 (11)	報告および討論
第14回	文献講読 (12)	報告および討論
第15回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第16回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第17回	文献講読 (13)	報告および討論
第18回	文献講読 (14)	報告および討論
第19回	文献講読 (15)	報告および討論
第20回	文献講読 (16)	報告および討論
第21回	文献講読 (17)	報告および討論
第22回	文献講読 (18)	報告および討論
第23回	文献講読 (19)	報告および討論
第24回	文献講読 (20)	報告および討論
第25回	文献講読 (21)	報告および討論
第26回	文献講読 (22)	報告および討論
第27回	文献講読 (23)	報告および討論
第28回	校外授業	ヒアリング等
第29回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ
第30回	修了論文発表会	発表会への参加と発表・討議

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 演習ノートを用意し、毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) ゼミ合宿に参加する。
- 4) 各種課題を提出する。
- 5) 4年生は、研究会修了論文執筆を基本とする。

#### 【テキスト (教科書)】

環境経済学のテキスト (授業時に指示する)。

#### 【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (80%) および各人のテーマの取り組み姿勢と提出されたレポート等執筆 (20%) によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

最初の時期にできるだけ各学生の意見が積極的にはせられるように、雰囲気作りに配慮したい。

#### 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース (旧・エコ経済経営コース)

OTR400HA

## 研究会 (B)

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Bゼミのテーマは「海」です。人間と海の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生も自らミニフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行います。

## 【到達目標】

- 1) 海と人間の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について学ぶ
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) ミニフィールドワークを通して、エスノグラフィーの実践的なスキルを得る
- 4) エスノグラフィーの楽しさを知る
- 5) 自分なりに海と人間の関係について意見を述べるができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

前期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のミニフィールドワークの準備を行う。後期は、ミニフィールドワークを実行し、収集したデータを分析し、調査レポートを作成し、発表する。プレ調査は各自で夏季休暇中に行い、ミニフィールドワークはグループごとに計画し、実行する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明
第2回	海と人間	文化人類学者による海の研究についての紹介、文献講読の発表担当を決める
第3回	先行研究の講読 (1)	学生が行うミニフィールドワークのテーマに関連する先行研究を講読し、討論する
第4回	先行研究の講読 (2)	学生が行うミニフィールドワークのテーマに関連する先行研究を講読し、討論する
第5回	先行研究の講読 (3)	学生が行うミニフィールドワークのテーマに関連する先行研究を講読し、討論する
第6回	先行研究の講読 (4)	学生が行うミニフィールドワークのテーマに関連する先行研究を講読し、討論する
第7回	文献講読 (エスノグラフィー入門1)	担当者が文献の内容について報告し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深める
第8回	文献講読 (エスノグラフィー入門2)	担当者が文献の内容について報告し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深める
第9回	文献講読 (エスノグラフィー入門3)	担当者が文献の内容について報告し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深める
第10回	文献講読 (エスノグラフィー入門4)	担当者が文献の内容について報告し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深める
第11回	文献講読 (エスノグラフィー入門5)	担当者が文献の内容について報告し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深める
第12回	文献講読 (エスノグラフィー入門6)	担当者が文献の内容について報告し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深める
第13回	文献講読 (エスノグラフィー入門7)	担当者が文献の内容について報告し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深める
第14回	文献講読 (エスノグラフィー入門8)	担当者が文献の内容について報告し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深める
第15回	文献講読 (エスノグラフィー入門9)	担当者が文献の内容について報告し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深める

第16回	ガイダンス、調査計画を立てる (1)	後期の進め方についての説明、各グループでミニフィールドワークの調査計画を立てる
第17回	調査計画を立てる (2)	各グループでミニフィールドワークの調査計画を立てる
第18回	調査計画の発表 (1)	各グループで作成したミニフィールドワークの調査計画について発表する
第19回	調査計画の発表 (2)	各グループで作成したミニフィールドワークの調査計画について発表する
第20回	ミニフィールドワーク実施 (1)	ミニフィールドワークを実施する
第21回	ミニフィールドワーク実施 (2)	ミニフィールドワークを実施する
第22回	ミニフィールドワーク実施 (3)	ミニフィールドワークを実施する
第23回	エスノグラフィー分析 (1)	各グループごとにミニフィールドワークの調査データをもとにエスノグラフィー分析する
第24回	エスノグラフィー分析 (2)	各グループごとにミニフィールドワークの調査データをもとにエスノグラフィー分析する
第25回	エスノグラフィー分析 (3)	各グループごとにミニフィールドワークの調査データをもとにエスノグラフィー分析する
第26回	研究成果の発表 (1)	ミニフィールドワークの成果をもとに、エスノグラフィー分析の結果を発表する
第27回	研究成果の発表 (2)	ミニフィールドワークの成果をもとに、エスノグラフィー分析の結果を発表する
第28回	研究成果の発表 (3)	ミニフィールドワークの成果をもとに、エスノグラフィー分析の結果を発表する
第29回	研究成果の発表 (4)	ミニフィールドワークの成果をもとに、エスノグラフィー分析の結果を発表する
第30回	まとめ	まとめ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された文献は必ず熟読して演習に臨み、積極的に議論に参加すること。担当文献については、発表準備をしましょう。夏季休暇中は各自でプレ調査を行う。

## 【テキスト (教科書)】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社 (2010)  
菅原和孝『フィールドワークへの挑戦』(2006)

## 【参考書】

随時授業内でお知らせします。

## 【成績評価の方法と基準】

議論への参加 (40%)、文献発表 (20%)、調査&調査レポート (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR400HA

## 研究会（B）

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人学生を対象とした半期毎のゼミナール。通年継続可。社会人学生同士のコミュニケーションを活発にし、自主的なテーマ研究活動を通して積極的な学生生活を推進する糧とする。

## 【到達目標】

各人の経験や問題意識に応じ、共通および個別の研究テーマを設定し、それについて深く探求する。テーマ設定、研究推進、成果発表など一連の研究プロセスを体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

主に都市や地域を対象に、環境、生活、文化、経済、産業、歴史などの視点からトピックスをとりあげて、共通テーマ研究（個人もしくはグループ）、および、個人テーマ研究を行う。研究テーマや具体的な進め方に関しては、各人の経験や事情を勘案し議論しながら決めていく。ゼミでは、テーマ研究のほかに、①各種資料（専門書、雑誌など）の輪読と議論、②ゼミ時間内の現場観察（ミニフィールドスタディ）などを行う。ゼミの進め方については、大枠を提示するが、具体的にはゼミ生の自主性を尊重し、ゼミ生が主体的に運営していくのを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	各自の紹介、研究会の進め方等を説明
第2回	共通研究テーマ設定	全体の共通テーマの提案と議論
第3回	資料の輪読と議論	研究テーマに関わる資料を読む
第4回	資料の輪読と議論	研究テーマに関わる資料を読む
第5回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマ深化
第6回	共通テーマ研究	共通テーマの研究を推進
第7回	共通テーマ研究	共通テーマの研究を推進
第8回	共通テーマ研究発表	個人もしくはグループ毎に発表
第9回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマ発見
第10回	資料の輪読と議論	各種資料を読んで研究テーマ設定
第11回	資料の輪読と議論	各種資料を読んで研究テーマ深化
第12回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマを考察
第13回	個人テーマ研究	個人テーマの研究を推進
第14回	個人テーマ研究	個人テーマの研究を推進、発表準備
第15回	個人研究成果最終発表	各人が研究成果を発表。ふりかえり。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献はもとより各種参考文献も自主的に講読し習得していく。また、研究テーマに関しては個人あるいはグループ毎に適宜計画し、情報収集、分析、また必要によっては現地調査なども自主的に進める。

## 【テキスト（教科書）】

特に定めない。輪読のための共通資料は別に配布する。

## 【参考書】

個別テーマの内容により、必要に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（各回の準備、議論への参加状況）50％、成果物（共通テーマおよび個人テーマ研究の評価）50％

## 【学生の意見等からの気づき】

まち歩きなどフィールド調査もできるかぎり取り入れる。

## 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR400HA

## 研究会（B）

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人学生を対象とした半期毎のゼミナール。通年継続可。社会人学生同士のコミュニケーションを活発にし、自主的なテーマ研究活動を通して積極的な学生生活を推進する糧とする。

## 【到達目標】

各人の経験や問題意識に応じ、共通および個別の研究テーマを設定し、それについて深く探求する。テーマ設定、研究推進、成果発表など一連の研究プロセスを体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

主に都市や地域を対象に、環境、生活、文化、経済、産業、歴史などの視点からトピックスをとりあげて、共通テーマ研究（個人もしくはグループ）、および、個人テーマ研究を行う。研究テーマや具体的な進め方に関しては、各人の経験や事情を勘案し議論しながら決めていく。ゼミでは、テーマ研究のほかに、①各種資料（専門書、雑誌など）の輪読と議論、②ゼミ時間内の現場観察（ミニフィールドスタディ）などを行う。ゼミの進め方については、大枠を提示するが、具体的にはゼミ生の自主性を尊重し、ゼミ生が主体的に運営していくのを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	各自の紹介、研究会の進め方等を説明
第2回	共通研究テーマ設定	全体の共通テーマの提案と議論
第3回	資料の輪読と議論	研究テーマに関わる資料を読む
第4回	資料の輪読と議論	研究テーマに関わる資料を読む
第5回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマ深化
第6回	共通テーマ研究	共通テーマの研究を推進
第7回	共通テーマ研究	共通テーマの研究を推進
第8回	共通テーマ研究発表	個人もしくはグループ毎に発表
第9回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマ発見
第10回	資料の輪読と議論	各種資料を読んで研究テーマ設定
第11回	資料の輪読と議論	各種資料を読んで研究テーマ深化
第12回	ミニフィールドスタディ	近くの現場観察、研究テーマを考察
第13回	個人テーマ研究	個人テーマの研究を推進
第14回	個人テーマ研究	個人テーマの研究を推進、発表準備
第15回	個人研究成果最終発表	各人が研究成果を発表。ふりかえり。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献はもとより各種参考文献も自主的に講読し習得していく。また、研究テーマに関しては個人あるいはグループ毎に適宜計画し、情報収集、分析、また必要によっては現地調査なども自主的に進める。

## 【テキスト（教科書）】

特に定めない。輪読のための共通資料は別に配布する。

## 【参考書】

個別テーマの内容により、必要に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（各回の準備、議論への参加状況）50％、成果物（共通テーマおよび個人テーマ研究の評価）50％

## 【学生の意見等からの気づき】

まち歩きなどフィールド調査もできるかぎり取り入れる。

## 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR400HA

## 研究会 (A)

高橋 五月

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Aゼミのテーマは「環境と人間」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生も自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、卒業論文を作成する。

## 【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) フィールドワークを通して、エスノグラフィーの実践的なスキルを得る
- 4) 調査計画を立て、卒業論文を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

前期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。後期は、フィールドワークで収集したデータを分析し、調査レポートを作成し、発表する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明、文献講読の発表担当を決める
第2回	先行研究の講読 (1)	環境人類学の先行研究を講読し、討論する
第3回	先行研究の講読 (2)	環境人類学の先行研究を講読し、討論する
第4回	先行研究の講読 (3)	環境人類学の先行研究を講読し、討論する
第5回	先行研究の講読 (4)	環境人類学の先行研究を講読し、討論する
第6回	文献講読 (エスノグラフィー入門1)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第7回	文献講読 (エスノグラフィー入門2)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第8回	文献講読 (エスノグラフィー入門3)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第9回	文献講読 (エスノグラフィー入門4)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第10回	文献講読 (エスノグラフィー入門5)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第11回	文献講読 (エスノグラフィー入門6)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第12回	文献講読 (エスノグラフィー入門7)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第13回	文献講読 (エスノグラフィー入門8)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第14回	文献講読 (エスノグラフィー入門9)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第15回	前期のまとめ	前期のまとめ、各自の調査計画作成を提出する。
第16回	ガイダンス	後期の進め方についての説明
第17回	調査研究の中間報告 (1)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第18回	調査研究の中間報告 (2)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する

- |      |                |  |
|------|----------------|--|
| 第19回 | 調査研究の中間報告 (3)  | フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する                                    |
| 第20回 | 調査研究の中間報告 (4)  | フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する                                    |
| 第21回 | エスノグラフィー分析 (1) | 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する |
| 第22回 | エスノグラフィー分析 (2) | 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する |
| 第23回 | エスノグラフィー分析 (3) | 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する |
| 第24回 | エスノグラフィー分析 (4) | 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する |
| 第25回 | エスノグラフィー分析 (5) | 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する |
| 第26回 | エスノグラフィー分析 (6) | 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する |
| 第27回 | 研究成果の発表 (1)    | 調査レポートを発表し、討論する  |
| 第28回 | 研究成果の発表 (2)    | 調査レポートを発表し、討論する  |
| 第29回 | 研究成果の発表 (3)    | 調査レポートを発表し、討論する  |
| 第30回 | 研究成果の発表 (4)    | 調査レポートを発表し、討論する  |

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された文献は必ず熟読して演習に臨み、積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。プレ調査とフィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。研究計画を立てるため、テーマに関連する文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを随時アップデートする。

## 【テキスト (教科書)】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社 (2010)  
菅原和孝『フィールドワークへの挑戦』(2006)

## 【参考書】

随時授業内でお知らせします

## 【成績評価の方法と基準】

議論への参加 (30%)、文献発表 (20%)、調査計画、調査、調査レポート (50%)

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース (旧・国際環境協力コース)、人間文化コース (旧・環境文化創造コース)

OTR400HA

## 研究会 (A)

## 竹本 研史

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自由、人権、民主主義、表象、平等、所有、他者、差別、権力、平和、労働、貧困、境界、正義、ジェンダー、セクシュアリティ…、といった現代社会の問題を考察するうえで必要な諸概念は、これまでの長い思想的・文化的な伝統のなかで数多くの議論が積み重ねられてきたものです。本ゼミでは、ヨーロッパや近現代日本の思想をはじめとする人文科学分野のテキストや図像・映像などの分析を通じて、これら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討、理解しながら、それらの現代社会における意義を考察することを目標としています。

2017年度は、イギリスのEU離脱、難民問題をはじめ、現在岐路に立っているヨーロッパ情勢に鑑み、改めて「ヨーロッパとは何か」についてみなさんと考えてみたいと思います。

## 【到達目標】

- (1) ヨーロッパや近現代日本の思想や文学、文化に関する文献の正確な読解力の定着。ならびに、「人間」や「社会」、「民主主義」をはじめとする諸概念それぞれが、どのような歴史的負荷を帯びているか把握すること。
- (2) 個々の問題の発見、必要な情報の収集・分析、論理的な考察、成果の表現 (発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

- (1) 担当教員による思想家や作家とその作品および、背景知識や意義に関する解説。
- (2) テキストの精読 (発表・討議)。
- (3) 夏休み、冬休み中のレポート (夏：授業テキストについて、冬：受講者諸氏ご自身の研究内容について) の執筆、およびそれに基づく教員、学生を交えた討議。
- (4) ゼミ合宿 (8月ないし9月)。
- (5) 首都圏の映画館・美術館・博物館などで学外学習。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (1)	授業の進め方、エティエンヌ・バリパールの思想に関する概説
第2回	テキストの精読 A (1)	エティエンヌ・バリパール『ヨーロッパ市民とは誰か』を精読する (1)
第3回	テキストの精読 A (2)	エティエンヌ・バリパール『ヨーロッパ市民とは誰か』を精読する (2)
第4回	テキストの精読 A (3)	エティエンヌ・バリパール『ヨーロッパ市民とは誰か』を精読する (3)
第5回	学外学習事前学習会	第6回でおこなう学外学習に必要な予備知識を講義
第6回	学外学習	映画館・美術館などで作品などを鑑賞
第7回	学外学習事後学習会	第6回でおこなった学外学習について教員・学生も交えて討論する
第8回	イントロダクション (2)	シモーン・ヴェイユの思想に関する概説
第9回	テキストの精読 B (1)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (上)』を精読する (1)
第10回	テキストの精読 B (2)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (上)』を精読する (2)
第11回	テキストの精読 B (3)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (上)』を精読する (3)
第12回	テキストの精読 B (4)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (上)』を精読する (4)
第13回	テキストの精読 B (5)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (上)』を精読する (5)
第14回	レポート・論文の書き方	レポート・論文の書き方を講義する
第15回	学期末のまとめ	今学期学習したことを総括する
第16回	レポート合評会 (1)	それぞれの夏休みレポートについて教員・学生も交えて討論する (前編)
第17回	レポート合評会 (2)	それぞれの夏休みレポートについて教員・学生も交えて討論する (後編)
第18回	テキストの精読 B (6)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (上)』を精読する (6)
第19回	テキストの精読 B (7)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (上)』を精読する (7)

第20回	テキストの精読 B (8)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (下)』を精読する (1)
第21回	テキストの精読 B (9)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (下)』を精読する (2)
第22回	テキストの精読 B (10)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (下)』を精読する (3)
第23回	研究構想発表 (1)	それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (前編)
第24回	研究構想発表 (2)	それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (後編)
第25回	テキストの精読 B (11)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (下)』を精読する (4)
第26回	テキストの精読 B (12)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (下)』を精読する (5)
第27回	テキストの精読 B (13)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (下)』を精読する (6)
第28回	テキストの精読 B (14)	シモーン・ヴェイユ『根をもつこと (下)』を精読する (7)
第29回	レポート合評会 (3)	それぞれの冬休みレポートについて教員・学生も交えて討論する (前編)
第30回	レポート合評会 (4)	それぞれの冬休みレポートについて教員・学生も交えて討論する (後編)

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、哲学・思想用語などについては事前に調べておくこと。
- (2) 思想、文学、文化に関する文献を渉猟し、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツ、お笑いなどを積極的に鑑賞、観戦すること。

## 【テキスト (教科書)】

シモーン・ヴェイユ『根をもつこと』富原真弓訳、全2巻、岩波文庫、2010年 (978-4003369029、978-4003369036)。

## 【参考書】

エティエンヌ・バリパール『ヨーロッパ市民とは誰か——境界・国家・民衆』松葉祥一・亀井大輔訳、平凡社、2008年 (978-4582702729)。

## 【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業で扱う文献についての発表・議論 (通年)
- (2) 夏・冬2回のレポート (夏：授業テキストに関するもの、冬：自身の研究テーマに関するもの)
- (3) レポート内容に基づく発表・議論 (9月・1月)
- (4) 4年生は研究会修了論文 (必須)

## 【学生の意見等からの気づき】

とくになし

## 【その他の重要事項】

人間文化コース、グローバル・サステナビリティコース所属学生のみ受講が可能である。

## 【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース (旧・国際環境協力コース)、人間文化コース (旧・環境文化創造コース)

OTR400HA

## 研究会 (B)

竹原 正篤

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 2・3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界では、持続可能ではない経済活動による地球温暖化や生物多様性等の環境問題、貧困や人権問題等、様々な社会課題が顕在化・深刻化しています。これらの社会課題は、もはや公共セクター（政府）の政策だけでは解決できず、様々な経営資源を有する企業（ビジネスセクター）や NPO や NGO 等（市民セクター）がより重要な役割を果たすことが期待されています。このような状況の中でグローバル企業は、NPO/NGO や政府との協働を通じて世界の社会課題の解決に向けビジネスとして取り組み、グローバル市場で新たなビジネスモデルを構築し、競争優位を獲得しようとしています。本研究会では、グローバル企業の世界での具体的な社会課題への取り組みを学びながら、日本企業の課題を考えます。

## 【到達目標】

以下の4点を習得することを目標とします。

- ①グローバル企業のサステナビリティ戦略に関する最新の知識及びそれらを日本企業と比較する視座
- ②自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する論理的思考スキル
- ③課題について自らの意見をまとめ、他者に正しく伝えるスキル
- ④他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ、議論を発展させるスキル

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

前期：基本的な知識を習得するため、前期は文献・論文、いくつかのグローバル企業のサステナビリティレポート（英文）の読み合わせを中心に行います（毎回学生に報告をしてもらいます）

後期：前期の学習をベースに、後期は学生が自分でテーマを設定して研究を進め、その成果を研究会で報告し、全員で議論します。

<演習の方法等については、受講者の積極的な提案に基づき随時見直しを行います>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、スケジュールを確認
2	文献購読1	文献内容理解・ディスカッション
3	文献購読2	文献内容理解・ディスカッション
4	文献購読3	文献内容理解・ディスカッション
5	文献購読4	文献内容理解・ディスカッション
6	文献購読5	文献内容理解・ディスカッション
7	文献購読6	文献内容理解・ディスカッション
8	文献購読まとめ	文献内容理解・ディスカッション
9	研究報告1	質疑応答・ディスカッション
10	研究報告2	質疑応答・ディスカッション
11	研究報告3	質疑応答・ディスカッション
12	研究報告4	質疑応答・ディスカッション
13	研究報告5	質疑応答・ディスカッション
14	研究報告6	質疑応答・ディスカッション
15	研究報告7	質疑応答・ディスカッション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の報告担当以外のテーマについても、研究会で検討する文献等は全員が事前に読み、疑問点などを整理し、議論に積極的に参加することを期待します。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、様々な文献や CSR レポートを読むことにします。

## 【参考書】

参考書は研究会の中で随時紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

①報告内容のクオリティ、②議論へ積極的な参加と貢献、③その他日常の参加姿勢を総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

2017年初開講のためコメントなし

## 【学生が準備すべき機器他】

自身がプレゼンテーションするにはパソコンを持参してください

## 【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース（旧・エコ経済経営コース）



OTR400HA

## 研究会修了論文

## 人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aタイプ研究会を原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

## 【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

各A研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	資料の収集⑤	同上
第10回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理②	同上
第12回	情報の整理③	同上
第13回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆②	同上
第15回	執筆③	同上

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがひ、計画的に進めること。

## 【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

## 【参考書】

各教員が指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

## 【その他の重要事項】

Bタイプ研究会受講者は登録できない。  
各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。  
研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR400HA

## コース修了論文

## 人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

## 【到達目標】

各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	資料の収集⑤	同上
第10回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理②	同上
第12回	情報の整理③	同上
第13回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆②	同上
第15回	執筆③	同上

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがひ、計画的に進めること。

## 【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

## 【参考書】

各教員が指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

## 【その他の重要事項】

Aタイプ研究会受講者は登録できない。  
コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。  
各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。

## 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR200HA

## 人間環境セミナー「地域づくりの新潮流 ―実践の現場から考える―」

## 人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりの現場で活躍する方々や関係者から話を聞き、地域づくりの実際を学ぶ。また、自らも現在あるいは将来の地域づくりの当事者意識を持ちながら地域というものを考えていく。

## 【到達目標】

各地における地域づくりの多様な活動や努力を学び、地域についての理解や興味を深めることを目標とする。あわせて、一人ひとり自らにおいて、現在あるいは将来の地域づくりの当事者としての意識を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、各地域における実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、地域づくりに対する視野が拡がり、また地域づくりへの意識や理解が深まることを期待している。

担当：石神隆、梶裕史、小島聡、田中勉、西城戸誠、根崎光男

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとセミナー	セミナーの目的、進め方等の説明、および、外部講師による講義
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	セミナー	外部講師による講義
第15回	試験	以上講義内容についての筆記試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週以降のテーマにつき自分なりの予備知識を得て、質問や意見等を用意しておく。

復習：講義で配布されたプリントや、聴講した内容について復習し、いっそうの理解や興味を深めていく。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて外部講師によるプリント（資料）が配布される。

## 【参考書】

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%  
テスト・レポート：60%

なお、原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。講義中のスマートフォンの使用は禁止する（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で減点対象とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選ぶ。

## 【その他の重要事項】

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ウェブサイトで発表する。なお、来年度以降のセミナー開催予定については「履修の手引き」に掲載しています。

OTR200HA

## 人間環境セミナー「文化・芸術の現場」

## 人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化・芸術の現場・最前線で活躍する様々な分野の講師に接し、その活動内容を具体的に知る。

## 【到達目標】

文学・思想・美術・演劇の各現場・最前線でそれぞれの文化発信がどのように行なわれているのか、私たちを取り巻く文化環境について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、文化・芸術の現場で活躍されている方々を講師としてお招きし、それぞれの活動内容についての講義を聴講したり、必要に応じて実演を鑑賞したり、ワークショップに参加したりします。各講師の豊富なご経験と奥深い思想に触れることで、受講生の文化・芸術に対する見方が深まることを期待しています。なお、当日の講義に関する感想・コメントを書いた出席カードを毎回提出してもらいます。

担当者：板橋美也・竹本研史・日原傳・平野井ちえ子

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方 各回の講師と講義タイトルの紹介
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	セミナー	外部講師による講義
第15回	試験	筆記試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布された資料を復習してください。また、日ごろから文化・芸術に関連した新聞記事や本を読むように心がけてください。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が、必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

外部講師が、必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%  
テスト・レポート：60%

なお、原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。講義中のスマートフォンの使用は禁止する（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で減点対象とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間を設けます。通常では得られない貴重な機会です。また講師の方々も丁寧にご回答くださいます。積極的に質問してください。セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、掲示板及び学部ウェブサイトにて発表します。

なお、来年度以降のセミナーの開催予定については「履修の手引き」に掲載しています。

CAR200HA

## インターンシップ

## 人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

就業体験を通して、仕事とは何か、働くとはどういうことかという点を学び、今後のキャリア形成に資する経験を得ること。

## 【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資するさまざまな知識、経験を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

大学外での就業体験であるため通常の授業と異なり、実習先での学習と就業体験が主たる内容となります。そのため、大学では準備のための指導および実習後の指導を行います。実習機関によって内容が異なりますので担当教員による個別指導が中心となります。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	インターンシップ関連資料の配布	履修を希望する場合、関連資料を学部事務で受け取る。なお、質問には適宜対応します。
第2回	「インターンシップ申込書」の提出	担当教員による面接で実習期間や実習内容について審査し、科目登録の可否を通知します。
第3回	「インターンシップ実習計画書」の提出	履修が許可された場合、実習受け入れ機関や実習プログラムに関する所定の項目を記入し提出する。これと同時に「インターンシップ保険」の手続きを行ないます。保険料は不要です。「キャリアセンター」で手続きをします。これは科目履修の必須条件です。
第4回～第13回	実習	上記の第1回～第3回の手続きを終えた後、実習を行います。
第14回	実習終了後「インターンシップ実習報告書」の作成・提出	受け入れ機関からの「実習終了確認」を受け、報告書を作成・提出する。作成に当たっては担当教員の指導を受けなければなりません。
第15回	インターンシップ実習報告会（実習終了後のセミナーに開催）	実習終了後のセミナーに開催される「インターンシップ実習報告会」で口頭発表を行います。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習機関の検索と選択は各自が自主的に行わなければなりません。実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い、実習の効果を高めることが望まれます。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

個別に指導します。

## 【成績評価の方法と基準】

この科目は通常の成績評価は行わず、「単位認定」をおこないます。したがって、GPAの対象科目とはなりません。単位認定には、報告書の提出と学部主催の報告会での口頭報告が必要となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

## 【その他の重要事項】

履修・単位登録に関する注意事項

- 履修学年：2014年度より「2年次～4年次」に変更しました。
- 登録時期：実習終了後のセミナー登録時に行います。（1年次秋セメスターから実習でき、登録は2年次春セメスターに行います）
- 履修手続き、書類の配布、提出はすべて学務窓口です。
- 履修上限は4単位です、ただし1セメスターの登録は2単位までです。

## 【関連の深いコース】

すべてのコース

OTR200HA

## 人間環境セミナー「現代社会と健康」

## 人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、さまざまな健康関連の問題が山積している現代社会を健康に生きていくために、学生の間に習得しておくべき知識を身につけることを目的としている。

## 【到達目標】

現代社会において、健康関連の情報は氾濫しているといっても過言ではない。それら膨大な情報の中から自分にとってプラスとなるものを選び出し、さらには健康行動を実行に移すことは非常に難しいと考えられる。本講義では健康関連諸問題に着目し、各分野における重要な知識、さらには必要に応じて最先端の知識を身につけ、健康に生きていくための術を学ぶ。最終的には自分や家族の健康について振り返り、考え、行動していくことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

この講義では、学外から各種専門分野の講師をお招きしてさまざまなテーマについての講演を聴講します。各講師の豊かな経験、知見に触れることで、受講者の視野が広まることを期待しています。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方について。各回の講師と講演タイトルについては4月以降、決定次第掲示します。
第2回	外部講師による講義(1)	外部講師による専門的な講義
第3回	外部講師による講義(2)	外部講師による専門的な講義
第4回	外部講師による講義(3)	外部講師による専門的な講義
第5回	外部講師による講義(4)	外部講師による専門的な講義
第6回	外部講師による講義(5)	外部講師による専門的な講義
第7回	外部講師による講義(6)	外部講師による専門的な講義
第8回	外部講師による講義(7)	外部講師による専門的な講義
第9回	外部講師による講義(8)	外部講師による専門的な講義
第10回	外部講師による講義(9)	外部講師による専門的な講義
第11回	外部講師による講義(10)	外部講師による専門的な講義
第12回	外部講師による講義(11)	外部講師による専門的な講義
第13回	外部講師による講義(12)	外部講師による専門的な講義
第14回	外部講師による講義(13)	外部講師による専門的な講義
第15回	試験	これまでの講義内容について、筆記試験を実施します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で配布されたプリント、講義の内容を復習してください。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%  
テスト・レポート：60%

なお、原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。講義中のスマートフォンの使用は禁止する（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で減点対象とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間が設けられますので、積極的に質問してください。講師の方々とは丁寧に回答くださいますので、理解を深められるはず。セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、掲示板及び学部ウェブサイトにて発表します。

なお、外部講師の都合でテーマの内容が変更、および順序が変わることがあります。  
また、来年度以降のセミナーの開催予定については「履修の手引き」に掲載しています。

OTR200HA

## フィールドスタディ

### 人間環境学部教員

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部でのさまざまな学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムである。

#### 【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第4回		
第5回～	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第11回		
第12回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
～第14回		
第15回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

#### 【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。  
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

SES300HA

## Japanese Environmental Policy 1

藤倉 良

カテゴリ：SCOPE | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To learn effectiveness of environmental policy by reviewing Japanese policy making and implementation.

## 【到達目標】

Students will learn why Japan faced serious industrial pollutions during the 1960s and how it was able to overcome the problems during the 1970s. They will also learn current Japanese environmental policy as well as scientific background of climate change. How it is established; who enforced it; and how it is effective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Lecture using PPT and discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction.	Contents of the course.
Week 2	Environmental problems in the history.	Resource degradation at ancient Sumer and Easter Island, air pollutions in Europe and the United states.
Week 3	Air pollutions in Japanese industrial cities during the 1960s.	Pollutions in Osaka, Yokohama, and Kitakyushu.
Week 4	Local initiatives to curb the pollution.	Local election, protest of local citizens, corrective actions, and initiative of local government.
Week 5	Formulation and implementation of national pollution control policy.	Pollution control diet session and effective measures.
Week 6	Waste management.	Waste Management Act and treatment technologies.
Week 7	Recycling.	Waste reduction and recycling.
Week 8	Science of climate change.	Effect of green house gases and mechanism of climate change.
Week 9	Mitigation.	Measures to mitigate GHGs emissions and absorption of ambient CO2.
Week 10	Adaptation.	How societies can adapt global warming.
Week 11	International agreements on climate change.	UNFCCC and Paris Agreement.
Week 12	Environmental Impact Assessment.	EIA Act and the procedures.
Week 13	Climate change.	Mitigation and Adaptation measures.
Week 14	International environmental cooperation.	Japan's ODA, environmental projects, and environmental consideration.
Week 15	Evaluation.	A written examination.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must read assigned papers before the class.

## 【テキスト（教科書）】

No specific textbook will be used.

## 【参考書】

A copy of assigned paper will be distributed in the class.

## 【成績評価の方法と基準】

Performance will be evaluated by a written examination (50%) and participation in the discussion (50%).

## 【学生の意見等からの気づき】

Unfortunately, the lecturer does not speak fluent English. Student must recognize it.

【学生が準備すべき機器他】

None

【Prerequisite】

None

【Lecturer's recent publications (articles)】

Ryo Fujikura, Mikiyasu Nakayama, Manami Fujikura (2016) Formulation Process of Diet Law and Cabinet Law in Japan - A Comparative Study of Basic Environmental Law and Basic Law on Biodiversity - , International Journal of Social Science Research, Vol. 4, No. 2, DOI: <http://dx.doi.org/10.5296/ijssr.v4i2.9703>

Michael Lerner, Ryo Fujikura, Mikiyasu Nakayama & Manami Fujikura (2016) The Influence of Limits to Growth and Global 2000 on U.S. Environmental Governance, International Journal of Social Science Studies, Vol. 4, No. 8, 52-63, doi:10.11114/ijss.v4i8.

Masami Tsuji and Ryo Fujikura (2016) Safeguard Implementation of by Regional Development Banks - On Involuntary Resettlement - , Proceedings - Final Reviewed Papers, 36th Annual Conference of the International Association for Impact Assessment, 11-14 May 2016, Aichi-Nagoya, Japan, <http://conferences.iaia.org/2016/final-papers.php>

Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (2015) Origins of Japanese Aid Policy - Post-war reconstruction, reparations and World Bank projects, In (Ed.) Hiroshi Kato, John Page and Yasutami Shimomura, Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, 39-55, Palgrave Macmillan: Hampshire, UK.

Tetsuo Kida and Ryo Fujikura (2015) Pollution Risks Accompanied with Economic Integration of ASEAN Countries and the Fragmentation of Production Processes, International Journal of Social Science Studies, Vol.3, No.5, 76-86, DOI: 10.11114/ijss.v3i5.915

Kanako Mukai and Ryo Fujikura (2015) One village one product: evaluations and lessons learnt from OVOP aid projects, Development in Practice, 25:3, 389-400, DOI: 10.1080/09614524.2015.1020763

【Selected lecturer's publications (books and special issues)】

Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford

Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London

Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5

Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development - Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

SOC300HA

## Japanese Society and Sustainability 1

佐伯 英子

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水1

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【学生の意見等からの気づき】

In addition to covering the materials for this course, I will continue to provide instructions for basic academic skills in English (e.g., research and writing).

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Introduction to Contemporary Japanese Society

This course is designed to be an overview of contemporary Japanese society. Throughout the term, we explore how we can understand Japanese society, by using various sociological concepts and making international comparisons. By engaging with critical issues in contemporary Japan, we will explore the ways in which the society can achieve sustainable system and culture both within the country as well as a member of international community.

## 【到達目標】

Through this class, you will be expected to critically engage with knowledge and information from both scholarly and popular media, and demonstrate your understanding through your assignments, an individual research paper, and participation in class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

This course consists of four sections: 1. Work, inequality, and poverty; 2. Gender and sexuality; 3. Diversity, marginality, and social coherence; and 4. Contentious issues in contemporary Japan. Each class consists of lecture, discussions, and other learning activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	What does it mean to study Japan from sociological perspectives?
Week 2	Sustainability and contemporary Japanese society	What does it mean to make Japanese society more sustainable?
Week 3	Work, inequality and poverty 1	How to measure inequality, historical changes, homelessness
Week 4	Work, inequality and poverty 2	Different types of employment and their impacts on people's life course
Week 5	Work, inequality and poverty 3	Child poverty
Week 6	Gender and sexuality 1	Gender and work
Week 7	Gender and sexuality 2	How we learn the norms of gender and sexuality
Week 8	Gender and sexuality 3	LGBTQ experiences
Week 9	Diversity, marginality, and social coherence 1	Myth of homogeneity
Week 10	Diversity, marginality, and social coherence 2	Okinawans, Ainu, and burakumin
Week 11	Diversity, marginality, and social coherence 3	Resident Koreans and Brazilians
Week 12	Contentious Issues in Contemporary Japan 1	Debates over constitutional revision
Week 13	Contentious Issues in Contemporary Japan 2	Birthrate and aging population
Week 14	Contentious Issues in Contemporary Japan 3	Fukushima and energy policies
Week 15	Final exam	Assessing students' understanding of the course materials

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected read assigned texts and come to class fully prepared.

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in class.

## 【参考書】

Sugimoto, Yoshio. 2014. An Introduction To Japanese Society. Fourth Edition. Cambridge University Press.

Other materials will be distributed in class.

## 【成績評価の方法と基準】

Participation (including in-class comment sheets and writing exercises) 30%; Writing assignments 45%; Final exam 25%.

SOC300HA

## Japanese Society and Sustainability 2

Eiko SAEKI

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水1

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

n/a (This course is offered for the first time.)

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Sociology of the Family

The family is one of the most important social institutions that everyone in society is familiar with. Because of the familiarity, however, we often lack critical perspectives on the issues pertaining to the family. We will challenge typically taken-for-granted notions of the family by considering it from a sociological point of view.

## 【到達目標】

While focusing on families in contemporary Japan, this course will take a historical and comparative perspective to highlight diversity and transformation of families, both within and outside Japan. By investigating both public policies and private dynamics, we aim to deepen our understanding of, and gain critical perspectives on the family.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

The course consists of lectures, discussions, as well as a workshop on conducting individual research projects on the issues surrounding the family.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course	Introduction and overview of the course
Week 2	What is the family?	Systems of kinship and diversity in the world
Week 3	History of the family in Japan	Patriarchy, ie system, and koseki
Week 4	Relationship within family members	Partners, parents, and children
Week 5	Workshop on individual projects	In-class exercise and discussions
Week 6	Inequality and the family	Single-parenthood and how structural inequality affects families
Week 7	Gender and the family	Reproduction of gender norms
Week 8	Work and the family	Work, parenting, and gender norms
Week 9	Intimate violence	Violence within family and close relationship
Week 10	Mid-term presentations	Presentations and workshop on individual project
Week 11	Contemporary debates on the family 1	Marital name change
Week 12	Contemporary debates on the family 2	Same-sex marriage
Week 13	Contemporary debates on the family 3	Family and reproductive technologies
Week 14	Student presentations	Presentations on individual project
Week 15	Conclusion	Reflections and discussions

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected read assigned texts and come to class fully prepared. Conducting an individual research project is another important component of the course. Find a topic that you are interested in pertaining to the family, set up a research question, conduct research, and present your findings. You are strongly encouraged to incorporate relevant discussions from the class.

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in class.

## 【参考書】

Texts will be introduced in class.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 30%; Individual research project 70% (Proposal 10%; Short writing assignment 10%; Presentations 10%; 1st Draft 20%; 2nd Draft 20%)

SOC300HA

## Japanese Society and Sustainability 3

Eiko SAEKI

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

n/a (This course will be offered for the first time.)

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Marginality and Social and Cultural Diversity in Japan

There long has been a discourse of Japan being a homogeneous country with lack of diversity. This course challenges such notion, focusing on the diversity and marginalization within Japan, and explores the future of this multicultural society.

## 【到達目標】

Upon completion of the course, students are expected to have a richer understanding of the diversity and complexity of Japanese society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

In the beginning of the course, we will discuss the definitions and meanings of majority and minority. In particular, we will focus on the ways in which social foundations act to privilege some while marginalizing others. Further, we will discuss social functions served by the discourse of homogeneity of Japan. From the third week, we will learn the history and current situations of various marginalized populations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and overview of the course	What is a minority? What is a majority?
Week 2	Why study diversity?	The myth of homogeneity in Japan
Week 3	Resident Koreans	Korea-Japan relations, colonial legacies and continued presence
Week 4	Resident Chinese	China-Japan relations, colonial legacies and continued presence
Week 5	Nikkei Brazilians	History of e/immigration and what it means to be "Japanese"
Week 6	Ainu	The Ainu as an indigenous group, its culture and history
Week 7	Okinawa	From Ryukyu to Okinawa, the issues of the US military bases
Week 8	Burakumin	History of status hierarchy and discrimination. Who are the burakumin?
Week 9	Newcomer immigrants	Immigration policies in Japan and social acceptance
Week 10	Gender	Do numbers make a minority? The place of women in Japanese society
Week 11	LGBT	Gender identity, sexuality and their diversity. Changes in the society
Week 12	Disability	Meaning of "able-bodied person." What it means to live with disability in Japan
Week 13	Hansen's Disease	Social and legal marginalization and the lives of survivors today
Week 14	Hibakusha	Experienced the bombs, yet still discriminated against. What about Fukushima?
Week 15	Conclusion	Reflection and wrap-up

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read assigned articles and be prepared for discussions in class.

## 【テキスト（教科書）】

Texts will be distributed in class.

## 【参考書】

Michael Weiner. 2008. Japan's Minorities: The Illusion of Homogeneity. Routledge.

Other texts will be distributed in class.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and Participation: 20%; Writing assignments 30%; Individual research project 50%



MAN300HA

## Business and Sustainability in Japan 1

竹原 正篤

カテゴリ：SCOPE | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水1

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We human being are facing serious problems on earth such as environmental degradation, poverty and many forms of inequalities. Many of those problems are inter-related and caused by unsustainable economic activities. Governments alone cannot solve those problems anymore, therefore there is growing expectation for businesses to play more important roles to solve those problems. The SDGs, the latest world development goals announce by United Nations in 2015, clearly emphasized the role of business therefore it is increasingly important for us to understand how companies are addressing global issues as their Corporate Social Responsibilities(CSR) and critically review them.

## 【到達目標】

In this course, by discussing various topics related to CSR, we aim at (1) understanding the basic theory and global trend of CSR, and (2) understanding and critically reviewing the roles of companies expected in sustainable society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

In this course, we will discuss the basic theory of CSR and corporate sustainability, and their background thought in Japan, U.S. and Europe from the view point of business management, economics and government policy.

In addition, we will also discuss the mutual relation between companies and society through analysis of various phenomenon taking place in society with many actual cases.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Problem domain of business and society	How to proceed the course Overview of the course
2	Development of companies and business ethics	Development process of companies in Japan, US, Europe and change in business ethics
3	Management of Corporate Social Responsibility(CSR)	(1) What is CSR? (2) Companies as public institutions (3) Peter Drucker's definition on CSR
4	Neoliberalism vs. Third Way	(1) Neoliberalism and its limitations (2) Third Way and New public
5	Emergence of CSR	Reaction to the Neoliberalism and first emergence of CSR
6	Recognition and practice of CSR in Japan and United States	(1) Japan: Employee-centric management; its background, advantage/disadvantage. (2) United States: Shareholder-centric management; its background, advantage/disadvantage. Review some US companies with employee centric principle.
7	Environmental issues in Japan during post-war era and emergence of concept of CSR	(1) Postwar environmental issue and CSR; Intensification of industrial pollution and reinforcement of the environmental regulations (1945-1969). (2) Industrial pollution to development of CSR (1970-1990) (3) Focus on the global environmental issues and CSR (1991-present)
8	Creating Shared Value(CSV)	(1) Overview of CSV (2) Comparison of CSV and CSR

9	Institutionalization of CSR	(1) Overview of ISO26000 (2) How is ISO 26000 positioned in corporate management?
10	Corporate governance and CSR	(1) What is corporate governance? (2) Relation between corporate governance and CSR (3) International comparison of corporate governance (4) Overview of Japan's Corporate Governance Code
11	The role of the investor to promote CSR	(1) The role of the investor to promote CSR (2) What is stewardship code? Background and outlines of Japan Stewardship Code (3) Corporate Governance Code and Stewardship code
12	ESG and SRI investment	(1) Principles for Responsible Investment(PRI) (2) ESG information and the change of the evaluation of corporate value (3) ESG/SRI investment (4) Trend of integrated reporting
13	Special Guest lecture	External CSR expert will come to the class to give special lecture. Details to be announced in the class
14	Decarbonization and its impact on corporate management	(1) Global warming is pressing social economic system to transform (2) What sustainability strategy is needed in the decarbonization era? (3) Implication of Paris agreement (Carbon Bubble Theory, Divestment and Climate finance)
15	CSR through the partnership with NPO/NGO	(1) Role of NPO/NGO to help company advance CSR (2) How should corporate partnership with NPO/NGO be positioned in the business management? (3) Review Case studies of business-NPO/NGO partnership.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Select a company you're interested in and research on how the company have developed its CSR strategy. CSR/Sustainability report is a good source of information.

【テキスト（教科書）】

Materials will be handed out in the class

【参考書】

Additional resources will be introduced in the class, if necessary.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will consist of class participation and final assignment with following ratio.

Class participation 50%

Final assignment 50%

Note that students who miss 4 classes or more cannot pass the subject.

【学生の意見等からの気づき】

N.A. (new class in 2017)

【学生が準備すべき機器他】

There is no special equipment student needs to prepare.

【その他の重要事項】

As all the classes and discussions will be conducted in English.

SOC300HA

## Social Development and Sustainability 1

松村 智雄

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to study the concept of sustainability with examples from Southeast Asian region. Southeast Asia offers ample practices for social sustainability in order to co-exist in a sustainable way among astounding diversity in the scope of ethnicity, religion and language. Students will understand the concept of sustainability with broader scope, not only restricted in environmental problems but also relationship among ethnic groups for co-exist and state-region relation and trans-national (trans-local) practice that people in southeast Asia experience daily.

## 【到達目標】

Understanding a broader way to understand sustainability with examples from Southeast Asia. Students will enrich the concept of sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

This course places emphasis on interaction among the instructor and students in class. Students are expected to actively participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Sustainability in Southeast Asia	Introducing Southeast Asian region and problems relating to sustainability. For example, ethnic relations, conflict, peace building and environmental problems
No.2	The commons	Studying the concept of the commons with examples from southeast Asia
No.3	Environmental problems in Southeast Asia and several approaches to the problems	Studying environmental problems in Southeast Asia and introducing several approaches such as research conducted by Kyoto University
No.4	Ethnic relations and co-existence	Sustainability among various ethnicities in Southeast Asia and local practice for maintaining good relationships
No.5	Religious perspective and sustainability	Variety of religious practice in Southeast Asia and interaction across religions
No.6	Aceh Tsunami, Disaster, Disaster Prevention and resilience of society	Introducing the outcome of research conducted by a team from Kyoto University on disaster and resilience studies in Southeast Asia
No.7	Conflicts and peace building process	Analyzing various cases of conflicts in Southeast Asia and the process of peace building
No.8	Conflicts between regions and the state	Case study on Southeast Asian cases of independent oriented movements in Southeast Asia, such as Aceh
No.9	Majority and minority, Chinese overseas in Southeast Asia, nation building	Discussing majority and minority problems with example of ethnic Chinese in Southeast Asia in the context of nation building in the post independence era up to the present
No.10	Nationalism	History of the formation of nation-state and prevail of nation-state in Southeast Asia
No.11	Industrialization and globalization	Understanding the process of industrialization in Southeast Asia from the 1960s up to the present and influence of globalization on it

No.12	Trans-nationalism, local-local connection	Introducing practice of trans-nationalism in Southeast Asia, and local-local connection (trans-local)
No.13	Border studies	Introduction of "border studies"
No.14	Presentations and discussion	Short presentations by students and discussion on sustainability
No.15	Conclusion	Short presentations by students and discussion and conclusion of the course

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read and study designated reference materials in class, and to make short presentations several times during the term concerning topics mentioned above or their own topics.

## 【テキスト（教科書）】

Handouts

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

In-class participation 25%

Short presentation 25%

Final report 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

Newly installed course from September 2017

ECN300HA

## Practice of Environmental Economics and Japan

## 國則 守生

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to understand how environmental economics has been and will be applied with particular emphasis on Japan's environmental policies.

## 【到達目標】

The purpose of this class is to provide students with a basic and systematic understanding of how the environment is intertwined with the economy and how the environmental problems could be tackled. Students will learn the advantages and limitations of the regulatory measures which have been widely applied in Japan. Students will also learn various forms of “economic instruments” such as environmental taxes and emissions trading to solve the global environmental problems in the decades to come.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Teaching is done mainly in a lecture style. The course introduces numerous kinds of environmental problems in Japan. Environmental economics is explained to understand why some forms of governmental interventions are called for in solving various environmental problems including the transboundary and global ones such as global warming.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Environmental problems in Japan: I	Local issues before the mid-1970s
Week 2	Environmental problems in Japan: II	Local issues after the mid-1970s
Week 3	Measures taken for local environmental problems in Japan: I	Command and control; Safety standard
Week 4	Measures taken for local environmental problems in Japan: II	Roles of local government
Week 5	Introduction to environmental economics	Efficiency of price mechanism; Market failures
Week 6	Negative externality and public “bads”	Definition of technological externality
Week 7	Environmental taxes and subsidies	Correction of market prices
Week 8	Emissions trading	Allowances and emissions reduction credits
Week 9	Transboundary environmental problems	Acid rain
Week 10	International environmental agreements	Japan's involvement
Week 11	Japan's energy policy	Multiple policy goals
Week 12	Global Warming: global perspective	Paris Agreement
Week 13	Japan's policy on global warming: I	Quantity targets
Week 14	Japan's policy on global warming: II	Individual measures
Week 15	Reviews	Wrap-up of the course

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A review of each class is strongly recommended. Do not leave the questions unanswered. Assignments are sometimes given to check each student's understanding.

## 【テキスト（教科書）】

No textbooks are assigned. Handouts are distributed in class.

## 【参考書】

Following books may be helpful in understanding environmental economics:

Turner, R.K. et. al. (1993) Environmental Economics: An Elementary Introduction, The Johns Hopkins University Press.

Field, B. and Field, M.K. (2017) Environmental Economics: An Introduction, 7th Ed. McGraw-Hill Education.

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on assignments (20%) and a submitted report (80%). The title and the number of words of the report will be announced at the end of the final class.

## 【学生の意見等からの気づき】

Asking questions in the class is welcome and highly recommended. The SCOPE students are encouraged to take this course.

## 【学生が準備すべき機器他】

Nothing in particular.

## 【その他の重要事項】

Taking Microeconomics courses is recommended, but not a prerequisite. Important notions and ideas will be explained in the class.

ARS300HA

## Japanese Rural Society

## 傅 凱儀

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is about rural Japan from the early 1900s, when the majority of Japanese were farmers, to today, when farmers form only a very small proportion of the Japanese labor force and the future of domestic agriculture itself is uncertain. Attention will be paid to the changing economics of agriculture over time and to the policies of the Japanese state. Emphases will also be put on on farmers themselves and the ways in which they have sought, individually and collectively, to sustain and improve their lives.

## 【到達目標】

In this course, students will acquire concepts and knowledge on the following aspects:

1. Tools and concepts devised for use in the analysis of economic development
2. Economic history of Japanese rural society
3. Transformation of rural population from backward peasants into small-scale producers
4. Rural changes that accompanied modern industrialization

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

The teaching consists of lectures, discussions and group/individual activities. Students are required to be actively engaged in class activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	The outline of the course, learning method and evaluation criteria will be explained.
Week 2	An overview of the history (1)	Dimensions of change in twentieth-century rural Japan (1)
Week 3	An overview of the history (2)	Dimensions of change in twentieth-century rural Japan (2)
Week 4	An overview of the twentieth century	The women of rural Japan
Week 5	The local improvement movement	The impact of the local improvement movement on farmers and rural communities
Week 6	The tenant unions (1)	Japanese tenant unions in the 1920s (1)
Week 7	The tenant unions (2)	Japanese tenant unions in the 1920s (2)
Week 8	The model village	Rural revitalization and the Great Depression
Week 9	Japanese farmers in Manchuria	Securing prosperity and serving the nation, 1931-33
Week 10	Wartime rural Japan	Colonies and countryside in wartime Japan
Week 11	Rural Japan after the war	Part-time farming and the structure of agriculture in postwar Japan
Week 12	Land use and land reform	Local conceptions of land and land use and the reform of Japanese agriculture
Week 13	Agricultural public works	Agricultural public works and the changing mentality of Japanese farmers in the postwar era
Week 14	Organic farming	Organic farming settlers in Kumano
Week 15	Conclusion	Supplementary topics and conclusion

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to have read the assigned materials before coming to class.

## 【テキスト（教科書）】

This course does not require any textbooks.

Handouts will be distributed in class.

## 【参考書】

1. Penelope Francks. 2006. Rural Economic Development in Japan. Routledge.
2. Shinnosuke Tama and Victor Lee Carpenter. 2007. Japanese Agriculture from a Historical Perspective. Tsukuba-Shobo.
3. Yoshiaki Nishida and Ann Waswo. 2006. Farmers and Village Life in Japan. Routledge.
4. Shu Kitano. 2009. Space, Planning, and Rurality: Uneven Rural Development in Japan. Trafford.
5. Tadashi Fukutake. 1980. Rural society in Japan. University of Tokyo Press.
6. Yujiro Hayami. 1975. A Century of Agricultural Growth in Japan. University of Tokyo Press.
7. Thomas Smith. 1959. The Agrarian Origins of Modern Japan. Stanford University Press.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussion (30%), presentation (40%) and a final paper (30%).

## 【学生の意見等からの気づき】

New course from autumn semester 2016.

We would like to allocate more time for in-class activities and student discussion.

## 【学生が準備すべき機器他】

n/a

## 【その他の重要事項】

n/a

ARS300HA

## Subsistence, Resource Use and Sustainability

Regina FU

カテゴリ：SCOPE | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 1

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Economic globalization and global warming are causing serious impacts on sustainable management of natural resources and human security. Behind these phenomena are the excessive exploitation of natural resources and commoditization of environment. In this course, rules and practices of local community to resist destruction caused by economic globalization and climate change, and their adaptation strategies will be reviewed. Case studies on natural resource use and management of local community will be analyzed. Community-based resource management provides insight into improvement of relationship between human and natural environment, and has received increased attention in recent years as an effective concept in solving environmental problems. In addition to theoretical concepts, we will review case studies from overseas countries and Japan. This course argues that community-based resource management is one of the potential practical solutions that resolve contemporary environmental challenges.

## 【到達目標】

In this course, students will acquire various concepts and knowledge on community-based natural resource management. They will develop a broad view on natural resources preservation and community development. By the end of the course, students should be able to develop their own thinking on sustainable community-based natural resource management and collective action. They should be able to elaborate their ideas using the theoretical concepts and case studies introduced to them throughout the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

The teaching consists of lectures, discussions and group/individual activities. Students are required to be actively engaged in class activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	The outline of the course, learning method and evaluation criteria will be explained.
第2回	Logic of the Commons (1)	The tragedy of the commons; The prisoner's dilemma game; The logic of collective action
第3回	Logic of the Commons (2)	Current policy prescriptions; An alternative solution
第4回	An institutional approach (1)	The commons situation, Interdependence, independent action and collective action
第5回	An institutional approach (2)	The supply, commitment and monitoring puzzles
第6回	Analyzing Commons (1)	Communal tenure in high mountain meadows and forests
第7回	Analyzing Commons (2)	Huerta irrigation institutions
第8回	Analyzing Commons (3)	Similarities among enduring, self-governing commons
第9回	Institutional change (1)	The competitive pumping race; The litigation game
第10回	Institutional change (2)	The entrepreneurship game; The analysis of institutional supply
第11回	Institutional failures (1)	Case studies of commons in Turkey and California
第12回	Institutional failures (2)	Case studies of commons Sri Lanka, Nova Scotian
第13回	Institutional failures (3)	Timber forest management in Nepal and Japan
第14回	Framework for analysis of Commons (1)	A framework for analyzing institutional choice

第15回 Framework for analysis of Commons (2) A challenge to scholarship in social sciences; conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to have read the assigned materials before coming to class.

【テキスト（教科書）】

Ostrom, Elinor. 1990. Governing the commons: the evolution of institutions for collective action, Cambridge: Cambridge University Press.

Handouts will be distributed in class.

【参考書】

1. Ostrom, Elinor. 1992. Crafting institutions for self-governing irrigation systems, San Francisco, California: Institute for Contemporary Studies.

2. Otsuka, Keijiro and Frank Place. 2001. Land Tenure and Natural Resource Management: A Comparative Study of Agrarian Communities in Asia and Africa. The International Food Policy Research Institute.

3. Olson, Mancur. 1965. The Logic of Collective Action: Public Goods and the Theory of Groups. Harvard University Press.

4. Baden, John and Douglas Noonan (eds). 1998. Managing the Commons. Indiana University Press.

5. Hardin, Garrett. 1968. The Tragedy of Commons. Science, 162(3859): 1243-1248.

【成績評価の方法と基準】

Participation (30%), discussion and class activity (30%) and a final paper (40%)

【学生の意見等からの気づき】

New course from autumn semester 2016.

SOC200HA

## Global Human Resources Management

## 長峰 登記夫

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Studying about Global Human Resources (GHR).

## 【到達目標】

This class aims to learn why GHR has been actively discussed in Japan and worldwide in the past two decades or so, and help students understand GHR as part of their career plan and make their own job career in the global business areas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

This class will take up various topics concerning GHR, including topics such as education at middle and higher education institutions, mobility of people between countries and employment of people with a different cultural background and their training.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	What is GHR?	What GHR is will be broadly discussed in the first session.
Week 2	Towards GHR	Along with the globalization of economy, not only Japanese companies but also multi-national companies are taking interest into and trying to employ GHR.
Week 3	Mobility of people between countries	As typically seen in the European Union, people move to work beyond the border of a country. Why and to what extent?
Week 4	Quick move to GHR in Japan	Japanese Government and companies have been trying to develop and looking for GHR in the past years, particularly since around 2010. Why and how?
Week 5	Government policies concerning GHR	Students will learn about the Japanese government policies on GHR.
Week 6	Policies of employer organizations and companies, Japanese case	The policies of employer organizations and companies on GHR in Japan will be discussed.
Week 7	Education towards globalization (1)	Students will learn what type of schools are driving forces for the development of GHR.
Week 8	Education towards globalization (2)	What have Japanese universities been doing for the development of GHR?
Week 9	The employment of students by Japanese and multinational companies in Japan	Students including Japan-made GDR and their employment.
Week 10	International students, Japanese and non-Japanese, and their employment (1)	The employment of Japanese students who studied outside Japan will be examined.
Week 11	International students, Japanese and non-Japanese, and their employment (2)	The employment of non-Japanese students who are studying in Japan will be examined.
Week 12	The employment of GHR in other countries	Cases for the employment of GHR in other countries and their issues will be discussed.
Week 13	Studying overseas and world race for talent	Many young people all over the world are studying and involved in the race for talent.
Week 14	Issues and problems over the education and employment of GHR	It will be discussed what the issues to be argued and problems to be resolved are.

Week 15 Final examination The final examination is conducted in the last session.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should read in advance handouts and other reading materials provided and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions or make comments about them.

## 【テキスト（教科書）】

No specific textbook is used, but various handouts and other reading materials will be provided.

## 【参考書】

Some reference books will be introduced in the first session.

## 【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made based on the final examination. Consideration will also be taken into attendance, results of short exams, participation in the discussion in class. Attendance is important and the minimum attendance to get credits is 80%. Short exams may be conducted frequently in class. The final exam is conducted in the final session.

## 【学生の意見等からの気づき】

This is a newly introduced subject.

## 【学生が準備すべき機器他】

Nothing special.

## 【その他の重要事項】

Those students who wish to take this subject must attend the first session with their marks in English language ability tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei shiken and/or similar others.

CUA200HA

## Human and Environment

Satsuki TAKAHASI

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

“Human and Environment” is an introductory course to learn anthropological theories and discussions on the relationship between cultures and the environment.

## 【到達目標】

Through reading theoretical and ethnographic works by scholars of anthropology — a discipline that has historically investigated questions about the environment — this course aims to explore the ways in which people’s lives are shaped by different cultural, political, and ecological contexts, and how anthropological theories provide tools for understanding complex human-environment relations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

This lecture course’s requirements include in-class reaction papers and two exams.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduce the course objectives and requirements
第2回	What is Environmental Anthropology?	Introduce the field of environmental anthropology and its history
第3回	Hunter-Gatherers	Lecture/discuss on the culture of hunter-gatherers and their relationship with the environment
第4回	Complex Society	Lecture/discuss on the implications of cultural changes for the human-environment relationship
第5回	The Underground Environment	Lecture/discuss on mining and related environmental issues
第6回	Climate Change	Lecture/discuss on climate change and its implications for human societies
第7回	Mid-term Exam	In-class exam
第8回	Religion	Lecture/discuss on religious implications for human-environment relationship
第9回	Population	Lecture/discuss on population and its implications for the environment
第10回	Biodiversity	Lecture/discuss on biodiversity
第11回	Environmental Movements and ethics (1)	Lecture/discuss on environmental movements and ethics
第12回	Environmental Movements and ethics (2)	Lecture/discuss on environmental movements and ethics
第13回	Common Resources	Lecture/discuss on the Commons
第14回	Consumer Cultures	Lecture/discuss on consumerism and the human-environment relationship
第15回	Final Exam	In-class exam

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation: Please read the detailed course syllabus carefully. Students are expected to complete assigned readings before class.

Learning Instructions: Both midterm and final exams ask questions based on assigned readings, lectures, and class discussions. Taking notes during class will help deepening students’ understanding. Lecture notes will also help studying for exams.

## 【テキスト（教科書）】

“Environmental Anthropology” by Patricia K. Townsend (2008, 2nd Edition). Other assigned readings will be announced in the beginning of the semester.

## 【参考書】

The same as above

## 【成績評価の方法と基準】

In-class reaction papers (30%); Midterm and Final Exam (70%)

## 【学生の意見等からの気づき】

N/A

(New course)

## 【学生が準備すべき機器他】

N/A

## 【その他の重要事項】

N/A

## 【関連の深いコース】

N/A

ARS200HA

## Area Studies

松村 智雄

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 1

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Introduction to Area Studies on Southeast Asia. This lecture is designated to study history, culture, politics and economy of Southeast Asian countries, namely Vietnam, Cambodia, Laos, Thailand, Myanmar, Malaysia, Brunei, Indonesia, Singapore, East Timor, The Philippines. Southeast Asia which is now composed of independent nations was colonized by European countries 100 years ago. Also, because of its geographical features, local social orders, the Chinese civilization, the Indian civilization, the Islamic civilization and the European civilization through colonial rule are layered, and the hybrid of them has shaped the present Southeast Asia. Students will study not only contemporary issues of each country, but also transnational activities of people in Southeast Asia.

## 【到達目標】

Students will understand outlines of history and culture of Southeast Asian countries, how the current Southeast Asian countries have been established and changed, and what kinds of problems are currently faced.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Lecture using PPT and discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Outline of Southeast Asian countries	Introducing Southeast Asia and outline of its history
No.2	Southeast Asia before colonization	Understanding political and economic systems in Southeast Asia before colonization
No.3	The process of colonization	Understanding process of colonization of Southeast Asia
No.4	the rise of nationalism	Understanding the process of the rise of nationalism in 20th century
No.5	Independence Movement and the Japanese occupation	Understanding the condition of Southeast Asia during the Japanese occupation and independence movement
No.6	Southeast Asia in post-independence period	Understanding domestic political process in the 1950s, unification of the Third World, Asia-Africa Conference
No.7	Southeast Asia in the context of the Cold War	Understanding political process in the 1950s, influence of the Cold War
No.8	Internationalism and Southeast Asia	Communist movements in Southeast Asia, especially in Indonesia, Malaysia, Singapore, and Thailand
No.9	The history of the Philippines, Vietnam War	Overview of history of the Philippines, understanding the process of the Vietnam War
No.10	Laos, Cambodia and Vietnam after the Vietnam War	Understanding the condition of Indochina region after the Vietnam War
No.11	The formation of ASEAN and its development	Understanding how ASEAN was formed in the 1960s, and its development. Southeast Asia in the post-Cold War era.
No.12	The influence of the end of the Cold War, Democratization in Southeast Asia	Understanding the process of democratization in Southeast Asia from the 1980s up to the present
No.13	Southeast Asia in the 2000s	Understanding current condition of Southeast Asia

No.14 Southeast Asia and Chinese overseas History of Chinese overseas in Southeast Asia and their characteristics in each region

No.15 Relationship between China and Southeast Asian countries Tracing history of relationship between China and Southeast Asian countries, and Chinese overseas

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read and study designated reference materials, and to make short presentations once or twice in the term concerning topics mentioned above.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

Mary Somers Heidhues, Southeast Asia: A Concise History, Thames & Hudson; Revised version, 2001.

Anthony Reid, A History of Southeast Asia: Critical Crossroads (Blackwell History of the World), Wiley-Blackwell, 2015.

Benedict Anderson, Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism, Revised Edition, London-New York: Verso, 1991.

【成績評価の方法と基準】

in-class participation 25%

short presentation 25%

final report 50%

【学生の意見等からの気づき】

newly installed course from September 2017



SOC200HA

## Studies for Environment and Society

## 傅 凱儀

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 1

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on the intersection of the social and natural worlds, and the search for effective social solutions for environmental problems. In this course, we will examine today's environmental controversies within a socio-organizational context. After learning the concept of "pragmatic environmentalism", we will explore the material world: air, water and biodiversity. Pressures exist where ecology and society collide, such as population growth and its associated increased demands for food and energy. We will drill into the social/structural dynamics — including political economy and the international legal system — that create ongoing momentum for environmental ills.

## 【到達目標】

After this course, students will:

1. Recognize the complexity of environmental issues and the human element inherent in them.
2. Be alert to the interrelationship of local and global in environmental problems and issues.
3. Recognize the local and global social sources of conflicts and inequalities of issues such as natural resource use, food/agricultural practices, wilderness preservation, population and climate change.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

The teaching consists of lectures, discussions and group/individual activities. Students are required to be actively engaged in class activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Individuals, societies, and pragmatic environmentalism
Week 2	Theory (1)	The social construction of nature
Week 3	Theory (2)	Theories in environmental sociology
Week 4	Waste	Facts, energy waste, recycling, extended producer responsibility
Week 5	Biodiversity	Facts, community conservation, memory banking, participatory forest management
Week 6	Water	Facts, water governance, China's growing demand for food thus water
Week 7	Population	Socioeconomic development and population explosion
Week 8	Food	Malnutrition and the Green Revolution
Week 9	Energy Production	Facts, clean coal, natural gas, nuclear power, efficiency and curtailment
Week 10	Political economy (1)	The growth imperative, contradiction of capitalism
Week 11	Political economy (2)	Total cost accounting and case studies
Week 12	Governance (1)	Welfare economics and cost-benefit analyses
Week 13	Governance (2)	Sustainability and precautionary principle
Week 14	Inequality and growth	Rethinking growth, the sociology of consumption, a post-growth society
Week 15	Conclusion	From our beliefs to our behaviors

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to have read the assigned materials before coming to class.

## 【テキスト（教科書）】

Carolan, Michael. 2013. Society and the Environment: Pragmatic Solutions to Ecological Issues. Westview Press.

Handouts will be distributed in class.

## 【参考書】

1. Gould, Kenneth A. and Tammy L. Lewis (eds). 2009. Twenty Lessons in Environmental Sociology. Oxford University Press.
2. Hannigan, John. 2014. Environmental Sociology, 3rd edition. Routledge.
3. Bell, M. Mayerfeld and Loka Ashwood. 2015. An Invitation to Environmental Sociology, 5th edition. Sage Publication.

## 【成績評価の方法と基準】

Participation (20%), discussion and in-class activity (40%) and a final paper (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

New course from autumn semester 2016.

We will increase the use of video teaching materials and allocate more time for student activities and discussion.

We will also adjust the pace of teaching according to the needs of students. Time will be allocated for questions and answers, so as to help improve students' understanding. Instructor may use Japanese in time of need to assist Japanese students.

MAN200HA

## Business and Society

竹原 正篤

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The basics of business administration is to understand the significance of the business activity and its roles in the socio-economic system. In this course, we discuss various latest topics and challenges surrounding companies, recognizing the rapidly-changing external environment including the end of the era of mass production and mass consumption, worsening of global environmental problems, growing expectation for corporate social responsibility.

## 【到達目標】

In this course, by discussing various topics related to business management, we aim at understanding (1) the basic theory of business management, and (2) how companies are ensuring their survivability by adapting to rapidly changing business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

We discuss theories and cases of basic functions of a stock company including overall corporate strategy, organization, corporate governance, business strategy and management, marketing, finance, and human resource management. We will also review the major phenomenon impacting corporate management such as decarbonization, advancement of information technology.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	How to proceed the course Overview of the course
2	What is company?	(1) Stock company system (2) Development process of corporation.
3	Company as entity to provide products and services	(1) Company as organization providing products and services (2) Economic development and change of our life (3) Strengths and challenges of big enterprise (4) Long term strategy of the company (5) Internationalization of business
4	Structures of companies and their challenges	(1) History of stock company (2) Feature and the structure of stock company (3) Big enterprise and its economic power
5	Function of large corporations and professional managers	(1) What is the big enterprise? (The economic power of the big businesses) (2) The control structure of the big businesses (3) The nature and function of the big businesses as a social system
6	Companies as organizations	(1) Company and the bureaucracy (The basic structure of the modern corporate organization) (2) Forms of the corporate organization (3) Development of the corporate organization and management theory.
7	Strategy	Overview of corporate/business strategy
8	Marketing	Overview of marketing
9	Special guest lecture	External speaker will talk in the class

10	Structures of Japanese business management	(1) Structure and actual state of Japanese-style company system (2) Japanese company and its employees
11	Information Technology and competitive advantage	Utilization of IT and business innovation
12	Corporate finance	Overview of corporate finance
13	Financial analysis	How to read and analyze financial statements
14	Managing ESG and corporate value	(1) What is ESG? (2) What constitutes corporate value (financial, non-financial)? (3) Corporate value and ESG
15	Human resource management	(1) Overview of human resource management (2) international comparison

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep following major economic and business topics reported in media and try to think what strategic actions companies are taking to survive in rapidly changing environment.

## 【テキスト（教科書）】

Material will be handed out in the class.

## 【参考書】

Additional resources and reference will be introduced in the class, if necessary.

## 【成績評価の方法と基準】

Evaluation will consist of active class participation, final assignment with following ratio.

Active class participation 50%

Assignment 50%

Please note that students who miss 4 classes or more cannot pass the subject.

## 【学生の意見等からの気づき】

New class in 2017

## 【その他の重要事項】

As all the class and discussions will be conducted in English.

INE200HA

## Introduction to Energy and Resources

TETSUYA Kitagawa

カテゴリ：SCOPE | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

None.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The topics in this class contain the fundamentals on resources and their transformation to energy used for power generations, in which the "sustainability" in the field of the resource and energy development is involved. Students learn about the issues on the demand - supply of energy in Japan as well.

## 【到達目標】

The points considered as achievements in this class are (i) to acquire statistical skills for the investigation on resource and energy development, (ii) to understand the characteristics of various resources and the energy conversion systems from the view point of thermodynamics, and (iii) to obtain the knowledge on energy issues in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Natural resources for energy generation.
第 2 回	Energy resources (1)	Resource amount estimation and dispute on the estimation, and survey method using logistics curve.
第 3 回	Energy resources (2)	People's view on resources and energy, and the sustainability.
第 4 回	Unit of energy	Work, heat and power.
第 5 回	Basis of energy conversion (1)	Cycle and work in P-V curve.
第 6 回	Basis of energy conversion (2)	Entropy, heat in T-S curve and efficiency ratio.
第 7 回	Basis of energy conversion (3)	Carnot cycle.
第 8 回	Energy conversion in thermal power plant (1)	Characteristics of water and Rankine cycle.
第 9 回	Energy conversion in thermal power plant (2)	Gas turbine system and Brayton cycle.
第 10 回	Nuclear power (1)	Nuclear reactors, nuclear fuel and nuclear fission.
第 11 回	Nuclear power (2)	Control of nuclear reaction and safety of nuclear power plant.
第 12 回	Nuclear power (3)	Nuclear fuel cycle and nuclear waste.
第 13 回	Wind energy	Structure of wind mill, characteristics of wind power and prediction of electricity output.
第 14 回	Solar energy	Characteristics of solar radiation and amount of electricity generated with solar panels.
第 15 回	Final examination	A written examination.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Completing assignments.

## 【テキスト（教科書）】

None, but handouts will be provided.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価の方法と基準】

Assignments : 50% and the final examination : 50%.

## 【学生の意見等からの気づき】

None.

SOC200HA

## Research Methods 1

佐伯 英子

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to teach the basics of qualitative methods for social science research. Students will learn how to do a literature review, set up research questions, write fieldnotes, and interview informants. At the end of the course, students will write a proposal for an academic research paper.

## 【到達目標】

Through this class, students will learn techniques for qualitative research. Although this is an introductory course on methods and students do not conduct actual social research, they will be familiarized with various methods through lectures, in-class exercises, as well as listening to stories by experienced fieldworkers. Students are also expected to demonstrate their comprehension of the materials by writing a research proposal and give an oral presentation on the project at the end of the semester.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Most class periods consist of lectures, exercises, and discussions. In addition to active participation in class, this course expects that each student completes assignments and brings them to class to maximize the learning experiences.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Goals of this course; What is qualitative research?
Week 2	What is qualitative research 1	Introduction to qualitative methods
Week 3	What is qualitative research 2	What is literature review? How to find previous research
Week 4	What is qualitative research 3	Hypothesis and research questions
Week 5	Techniques for qualitative research 1	Semi-structured interview, its methods and preparation
Week 6	Techniques for qualitative research 2	Participant observation and fieldnotes
Week 7	Techniques for qualitative research 3	Writing a research proposal
Week 8	Learning from experienced researchers 1	Guest lecture by an ethnographer
Week 9	Learning from experienced researchers 2	Guest lecture by an ethnographer
Week 10	Data handling 1	Analysis and interpretation
Week 11	Data handling 2	How to write a research paper
Week 12	Ethical research	Research ethics surrounding qualitative social research
Week 13	Presentations 1	Oral presentations of proposed research projects
Week 14	Presentations 2	Oral presentations of proposed research projects
Week 15	Conclusion	Reflections on the course

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected read assigned articles and complete assignments in a timely manner. In order to have access to all the information and course materials necessary, everyone taking this course is required to sign up in the E'etudes (<https://hcms.hosei.ac.jp/portal>). All the assignment must be submitted through this website. I may also send occasional announcements and messages as well. For this reason, it is critical that you check your university email account regularly and actively use this website.

## 【テキスト（教科書）】

No particular textbook will be assigned. Texts may be assigned during the class.

## 【参考書】

Babbie, Earl R. 2012. The Practice of Social Research. Cengage Learning.

Emerson, Robert M., Rachel I Fretz, and Linda L. Shaw. 2011. Writing Ethnographic Fieldnotes, Second Edition. University of Chicago Press.

Flick, Uwe. 2014. An Introduction to Qualitative Research. Edition 5. SAGE Publications.

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation 30%; Assignments 40%; Presentation 10%; Research proposal 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

n/a

## 【学生が準備すべき機器他】

n/a

## 【その他の重要事項】

n/a

SOC200HA

## Research Methods 2

Regina FU

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：○ 成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces students to the basics of social statistics: techniques that social scientists use to summarize numeric data obtained from censuses, surveys, and experiments. The topics include frequency distribution, central tendency, variability, probability theory, and estimation. Students will also learn how to test hypotheses for group differences in means ( $z$  test,  $t$  test), for association between two variables (correlation, chi-square test), and for the basics of regression analysis.

## 【到達目標】

Upon successful completion of this course, students will be able to:

1. Explain basic concepts of social statistics.
2. Summarize numeric data by computing descriptive statistics and by creating tables and graphs by using SPSS program.
3. Compute various inferential statistics using computer methods.
4. Test hypotheses applying probability theory.
5. Explain the differences among various statistical techniques and identify an appropriate technique for a given set of variables and research questions.
6. Explain the basic concepts and interpretation in regression analysis.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

The teaching consists of lectures, discussions and group/individual activities. Students are required to do group work and individual exercises.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	The outline of the course, learning method and evaluation criteria will be explained.
第 2 回	Basic concepts	Introducing the basic concepts of statistics and SPSS software
第 3 回	Descriptive statistics (1)	Computing and understanding averages
第 4 回	Descriptive statistics (2)	Understanding variability, computing the range, standard deviation and variance
第 5 回	Descriptive statistics (3)	Creating a frequency distribution, histogram, chart and graph
第 6 回	Descriptive statistics (4)	Computing and interpreting correlation coefficients
第 7 回	Descriptive statistics (5)	Predictions and linear regression
第 8 回	Testing hypothesis (1)	The null and research hypotheses
第 9 回	Testing hypothesis (2)	Understanding probability, computing and interpreting $z$ scores
第 10 回	Inferential statistics	The concepts of significance, Type 1 and Type 2 errors
第 11 回	T test	Tests between the Means of different groups and of related groups
第 12 回	ANOVA	Performing an analysis of variance, computing and interpreting the $F$ statistic
第 13 回	Testing relationship	Testing the significance of the correlation coefficient
第 14 回	Nonparametric test	Computing the chi-square test analysis
第 15 回	Final Exam	Final Exam

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will do in-class exercises and homework using a computer program called SPSS.

## 【テキスト（教科書）】

Salkind, Neil. 2014. Statistics for people who (think they) hate statistics, 5th edition. Sage Publications Inc.

## 【参考書】

1. Knoke, David, Bohrnstedt, George and Alisa Potter Mee. 2002. Statistics for social data analysis, 4th edition. Wadsworth Publishing.
2. Holcomb, Zealure. 2014. SPSS Basic: Techniques for a first course in statistics, 5th edition. Ingram.
3. Sweet, Stephen and Karen Grace-Martin. 2010. Data analysis with SPSS: a first course in applied statistics. Prentice Hall.

## 【成績評価の方法と基準】

Participation (20%), Homework assignments (50%), Final exam (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

New course from autumn semester 2016.

## 【学生が準備すべき機器他】

Students will need to use a program called SPSS for doing in-class exercises and homework.

OTR200HA

## Field Workshop

## 学部教員

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：1～4年／2単位

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

A "field workshop" is designed to explore a particular capacity-building environment about sustainability off-campus. Participating students in a field workshop will visit one of the distinctive facilities in different parts of Japan or elsewhere and meet the people who are engaged in various "real" issues.

## 【到達目標】

Students will be able to understand better how to relate classroom knowledge and skill to real-life agenda through a field workshop.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Each field workshop consists of both a field trip itself and ex-ante and ex-post on-campus classes held for preparations and appraisals. Since field workshops differ from one another in their content, applicants are advised to find detailed information about each field workshop when announced.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Outlines of a field workshop
2-4	Preparatory classes	Advance knowledge and preparation of the field workshop
5-11	Fieldwork	Minimum requirement of 4 day stays on site. The program's total trip days may stretch to a week or so depending upon locations of the sites and its content.
12-14	Ex-post classes	Reviews and reflections
15	Report Writing	Writing and submitting an assigned report

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Appropriate instruction is provided in orientation, etc.

## 【テキスト（教科書）】

Same as above.

## 【参考書】

Same as above.

## 【成績評価の方法と基準】

Same as above.

## 【学生の意見等からの気づき】

No comments are to be collected for field workshops.

## 【その他の重要事項】

Participants have to bear the costs of transportation, lodging, insurance, etc.

Cancellation of the participation is, in principle, not allowed after the enrollment is finalized. Furthermore, there is no refund made for the paid expenses if the cancellation is due to personal reasons.

In addition, this course is to be canceled if there is no participant from SCOPE.

OTR200HA

## Co-creative Workshop A I

## 竹原 正篤

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with the significant development challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and Japanese students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project together.

In this class, participants will discuss sustainability issues which involve companies and their stakeholders.

Students are expected to tackle to solve sustainability issues, engaging in role-playing of companies and their stakeholders such as NGOs. Examples of the issues are as follows:

- 1) A global hamburger chain company faces criticism for destroying the environment in developing countries by unsustainable farming. This is beginning to impact on hamburger sales. As CSR manager for the company, you need to work with company's stakeholders to solve this problem. What do you need to do? Students may be divided into two teams; CSR manager team and stakeholder team, to discuss solution.
- 2) You are working for an international NGOs, watching corporate behavior. You are currently working to identify and solve the problem of child labor and other inhumane treatment of workers in supply chain of global apparel manufactures. What can you do? Students may be divided into two teams; NGO team and company team, to discuss solution.

## 【到達目標】

By the end of the semester, students should be able to:

- 1) identify and analyze sustainability problems,
- 2) interact proactively and collaborate among diverse participants
- 3) reach and design collaborative solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

Students will participate in the group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentations will be also given. Methods and Schedule will be subject to change based on discussion with participants.

Note that selection may be done in the first class if the number of participants is too large. Students who are willing to participate should attend the first class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary.
Week 2	Basics	Basic knowledge in business environment
Week 3	Case No.1(1)	Issue Introduction to case (problem) No.1 and defining the issue
Week 4	Case No.1 (2)	Stakeholders Stakeholder analysis
Week 5	Case No.1 (3)	Problem analysis Analyze the issue focusing on causal relationship
Week 6	Case No.1 (4)	Solution Generate ideas and reach collaborative solution
Week 7	Case No.1 (5)	Presentation In class presentation of solutions and feedback from participants
Week 8	Case No.2 (1)	Issue Introduction to case (problem) No.2 and defining the issue
Week 9	Case No.2 (2)	Stakeholders Stakeholder analysis
Week 10	Case No.2 (3)	Problem Analysis Analyze the issue focusing on causal relationship
Week 11	Case No.2 (4)	Objective Analysis (Project Design) Analyze the objectives to solve the issue and design the project

Week 12	Case No.2 (5)	Solution Generate ideas and reach collaborative solution
Week 13	Case No.2 (6)	Business Project Design realistic and effective business projects to solve sustainability issue
Week 14	Case No.2 (7)	Presentation In class presentation of solutions and feedback from participants
Week 15	Summary and Reflection	Reflection on interaction and group works for further study

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to read reference materials, to do necessary research and to prepare for contributing to group work.

**【テキスト（教科書）】**

Materials will be distributed in the class.

**【参考書】**

Additional resources will be introduced in the class,if necessary.

**【成績評価の方法と基準】**

Assessment will consist of in-class participation, performance in the group work, presentations and over-all contribution to the class. Note that students who miss 4 classes or more cannot pass the subject.

**【学生の意見等からの気づき】**

N.A. (new class in 2017)

**【学生が準備すべき機器他】**

There are no equipment student needs to prepare.

**【その他の重要事項】**

As all the classes and group works will be in English, students with lower proficiency may have difficulties.

OTR200HA

## Co-creative Workshop A II

竹原 正篤

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning for dealing with the significant development challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and Japanese students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project together.

In this class, participants will look into sustainability issues in the field of "Business."

Examples of business problems students will tackle to solve in the workshop are:

- 1) Pollution discharges from a factory such as contaminated water or polluted air, and complaints from neighborhood residents.
- 2) Taking social business type of approach, solve poverty problem in developing countries (Topics such as CSV (Creating shared Values) and BOP (Base of the Pyramid) will also be discussed in the workshop).

**【到達目標】**

By the end of the semester, students should be able to:

- 1) identify and analyze sustainability problems,
- 2) interact proactively and collaborate among diverse participants
- 3) reach and design collaborative solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

Students will participate in the group work with diverse fellow learners. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to obtain solutions. Opportunities for concentrated efforts to research and effective presentations will be also given. Methods and Schedule will be subject to change based on discussion with participants.

Note that selection may be done in the first class if the number of participants is too large. Students who are willing to participate should attend the first class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary.
2	Basics	Basic knowledge in business environment
3	Case No.1(1) Issue	Introduction to case (problem) No.1 and defining the issue
4	Case No.1 (2)Stakeholders	Stakeholder analysis
5	Case No.1 (3)Problem analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
6	Case No.1 (4)Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
7	Case No.1 (5)Presentation	In class presentation of solutions and feedback from participants
8	Case No.2 (1) Issue	Introduction to case (problem) No.2 and defining the issue
9	Case No.2 (2)Stakeholders	Stakeholder analysis
10	Case No.2 (3)Problem Analysis	Analyze the issue focusing on causal relationship
11	Case No.2 (4)Objective Analysis (Project Design)	Analyze the objectives to solve the issue and design the project
12	Case No.2 (5)Solution	Generate ideas and reach collaborative solution
13	Case No.2 (6)Business Project	Design realistic and effective business projects to solve sustainability issue
14	Case No.2 (7)Presentation	In class presentation of solutions and feedback from participants
15	Summary and Reflection	Reflection on interaction and group works for further study

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials, to do necessary web-site research and to prepare for contributing to group work.

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in the class.

## 【参考書】

Additional resources will be introduced in the class, if necessary.

## 【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation, performance in the group work, presentations and over-all contribution to the class. Please note that students who miss 4 classes or more cannot pass the subject.

## 【学生の意見等からの気づき】

N.A. (new class in 2017)

## 【学生が準備すべき機器他】

There are no equipment student needs to prepare in this class.

## 【その他の重要事項】

As all the classes and group works will be in English, students with lower proficiency may have difficulties.

OTR400HA

## SCOPE Seminar

## 傅 凱儀

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Economies and Cultures

This course introduces students to the issues, methods, and concepts of economic anthropology. Economic anthropologists try to ask questions about human nature, power and social life in all cultures. In doing this, economic anthropology takes a position in the main intellectual battlefield of the last 100 years, engaging with dramatic questions about the basic nature of the human condition. The material for the course will consider issues of production, distribution, and consumption in non-Western societies as well as Western societies. We will be thinking about the purpose of work and material goods, the comparison of gifts and commodities, why poverty exists, the evolution of regional and global economies, and the way contemporary capitalist economies shape other aspects of society and culture.

## 【到達目標】

- 1.To expose students to the basic arguments and literature of economic anthropology, so as to encourage students to think about cross-cultural economic phenomena.
- 2.To train students to be more effective readers of academic literature.
- 3.To train students to be more effective at oral argumentation, by encouraging them to discuss their ideas and interpretations in class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

The course will be run as a seminar. Each week there will be a brief lecture introducing the theme of the week, and then there will be a mixture of student-led discussion, presentations and task-based exercises. Students are expected to read in advance and bring comments and questions to the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Guidance	Outline of the course, learning method and evaluation criteria
Week 2	Controversy and Social Science (1)	The Formalist-Substantivist debate
Week 3	Controversy and Social Science (2)	Economic anthropology after the Great Debate
Week 4	The Problem of Human Nature (1)	Defining the economy
Week 5	The Problem of Human Nature (2)	Redefining economic anthropology
Week 6	Self-Interest and Neoclassical Microeconomics (1)	Adam Smith and the birth of western economics
Week 7	Self-Interest and Neoclassical Microeconomics (2)	Neoclassical microeconomics
Week 8	Social and Political Economy (1)	Social humans, power and politics
Week 9	Social and Political Economy (2)	Karl Marx: Putting politics into the economy
Week 10	Culture Economics (1)	The roots of moral economics
Week 11	Culture Economics (2)	The question of rationality and culture
Week 12	Gifts and Exchange (1)	What is a gift?
Week 13	Gifts and Exchange (2)	Reciprocity and gifting
Week 14	Complex Economic Human Beings	Resolving the fundamental issues
Week 15	Conclusions	Rethinking human nature

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to have read the assigned materials before coming to class.

## 【テキスト（教科書）】

This course does not require any textbooks. Handouts will be distributed in class.



## 【参考書】

1. Richard R. Wilk and Lisa C. Cliggett (2007) *Economies and Cultures: Foundations of Economic Anthropology* (2nd edition), Westview Press.
2. James G. Carrier (ed) (2012) *A Handbook of Economic Anthropology* (2nd edition), Edward Elgar Publishing.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation (30%), presentation (40%) and a final paper (30%)

## 【学生の意見等からの気づき】

We will try to increase the use of video teaching materials and allocate more time for student activities and discussion.

We will also adjust the pace of teaching according to the needs of students. Time will be allocated for questions and answers, so as to help improve students' understanding. Instructor may use Japanese in time of need to assist Japanese students.

## 【学生が準備すべき機器他】

n/a

## 【その他の重要事項】

n/a

OTR400HA

## SCOPE Seminar

## 傅 凱儀

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Society and Development of Africa

This course offers an introduction to contemporary African social and developmental issues. The African continent, with its immense quantity of natural resources and rapid economic growth, is becoming the new development frontier of the world. On the other hand, African countries are undergoing drastic social transformation and massive environmental destruction. The impoverished are becoming increasingly vulnerable to changes in human society as well as in the natural environment. Through reviewing literature and other class materials, our goal is to introduce students to the most pressing social and developmental problems African countries have faced in recent decades. Many challenges in Africa, such as poverty and ethnic conflict, are indeed related to natural resource management and environmental problems. We will start with an overview of the natural and social characteristics of the continent, and then we will examine various developmental and environmental challenges in African countries. With the general perspective that the development of Africa relies on agricultural development, this course will cover materials addressing the problems of the African agricultural sector, and the local development initiatives of farmers to cope with changes.

## 【到達目標】

1. To expose students to the basic arguments and literature of African society and development, so as to encourage students to think about issues such as the world system, economic inequality, causes and resolution of conflict, and sustainable development.
2. To train students to be more effective readers of academic literature.
3. To train students to be more effective at oral argumentation, by encouraging them to discuss their ideas and interpretations in class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

The course will be run as a seminar. Each week there will be a brief lecture introducing the theme of the week, and then there will be a mixture of student-led discussion, presentations and task-based exercises. Students are expected to read in advance and bring comments and questions to the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Guidance	Outline of the course, learning method and evaluation criteria
Week 2	Geography	Physical environment, climate and biogeography of Africa
Week 3	Population	Population and human development, demographic changes
Week 4	Environment	Climate change, desertification, natural disaster
Week 5	History (1)	Indigenous heritage, the emergence of civilizations, the era of modern kingdoms, and the diffusion of Islam
Week 6	History (2)	The western influence in sub-Saharan Africa, the slave trade, colonialism and independence
Week 7	Civil war of Africa	The Rwandan genocide, international involvement
Week 8	Conflict and post-conflict	Conflict in the Great Lakes region, the conflict in Darfur, indigenous justice and reconciliation in Rwanda
Week 9	Agriculture development	Farming system, cash crops and food crops, indigenous agricultural systems, challenges and local adaptation

Week 10	Urban Africa	Urbanization and megacities of Africa
Week 11	Late development of Africa	Structural adjustment, country ownership, trade and investment, governance and development
Week 12	Natural resources	Diamonds' of War: Africa's Blood Diamonds
Week 13	Japan in Africa	Japan-Africa relations
Week 14	China in Africa	Chinese investment in Africa, migration and land grabbing
Week 15	Conclusions	Additional topics, conclusion

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students will be expected to have read the assigned materials before coming to class.

**【テキスト（教科書）】**

This course does not require any textbooks.

Handouts will be distributed in class.

**【参考書】**

1. Binns, Tony, Alan Dixon and Etienne Nel. 2012. Africa, Diversity and Development. London, New York: Routledge.
2. Aryeetey-Attoh, Samuel. (ed). 2010. Geography of sub-Saharan Africa (3rd edition). Upper Saddle River: Pearson Prentice Hall.
3. Grosz-Ngatè, Maria, John H. Hanson, and Patrick O'Meara. (eds). 2014. Africa (4th edition). Bloomington: Indiana University Press.

**【成績評価の方法と基準】**

Attendance and participation (30%), presentation (40%) and a final report (30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

n/a

**【学生が準備すべき機器他】**

n/a

**【その他の重要事項】**

n/a

OTR400HA

## SCOPE Seminar

佐伯 英子

カテゴリ：SCOPE | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Tokyo – A multi-disciplinary approach

**【到達目標】**

This seminar is designed to explore the development of the modern city, beginning with the transition from Edo to Tokyo and ending with the initial preparations for the 2020 Olympics. We will examine Tokyo from the perspectives of social, environmental, and economic sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

Using two of the great calamities that modern Tokyo has faced (the 1923 Kanto earthquake and the fire bombings near the end of World War II), we will see how Tokyo has been rebuilt, with its “coming out” in the Tokyo Olympics of 1964. Following this, we will consider how Tokyo then took its place as a global city, and how that positioning reflects Japan's period of high-speed economic growth. Finally, the course will consider changes in Tokyo during the post-bubble era and what the preparations for the 2020 Olympics will bring. To engage with these dramatic changes, we will examine a variety of materials, including literature, film, and ethnography. Further, with periodic field trips, we will make use of being in Tokyo, to see the city “come alive” with our new understanding.

In this course, you will choose a specific area of Tokyo to research on the topic of your choosing (e.g., history, literature, arts, entertainment, social customs, and current experiences). The final project will be an integration of the individual areas of concentration, and they will be compiled into an E-book.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Overview of the course
Week 2	History of Tokyo 1	Edo: Culture and everyday life of people in the urban center
Week 3	History of Tokyo 2	Transition of the City: From Edo to Tokyo
Week 4	History of Tokyo 3	Modernization and the 1923 Kanto earthquake and its aftermath
Week 5	History of Tokyo 4	Wartime
Week 6	History of Tokyo 5	Rebuilding of the city and the 1964 Tokyo Olympics
Week 7	History of Tokyo 6	Economic and social ups and downs
Week 8	History of Tokyo 7	Future: Preparation to the 2020 Olympics and beyond
Week 9	Field trip	Location TBA
Week 10	Reading about Tokyo 1	Literature
Week 11	Reading about Tokyo 2	Ethnography 1
Week 12	Reading about Tokyo 3	Ethnography 2
Week 13	Presentations 1	Oral presentations of research projects
Week 14	Presentations 2	Oral presentations of research projects
Week 15	Conclusion	Reflection and discussions

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected read assigned articles and complete assignments in a timely manner.

**【テキスト（教科書）】**

Texts will be assigned during the class.

**【参考書】**

- Bestor, Theodore C. 2004. Tsukiji: The Fish Market at the Center of the World. Berkeley: University of California Press.
- Cybriwsky, Roman. 2011. Roppongi Crossing: The Demise of a Tokyo Nightclub District and the Reshaping of a Global City. Athens: University of Georgia Press.
- Freedman, Alisa. 2010. Tokyo in Transit: Japanese Culture on the Rails and Road. Stanford: Stanford University Press.

Rogers, Lawrence. 2002. Tokyo Stories: A Literary Stroll. Berkeley: University of California Press.  
 White, Merry I. 2012. Coffee Life in Japan. Berkeley: University of California Press.

**【成績評価の方法と基準】**

Participation 30%; presentations on the reading 20%; individual project 40% (research, reports, and a presentation); report on the field trip 10%

**【学生の意見等からの気づき】**

n/a (This seminar will be offered for the first time)

**【学生が準備すべき機器他】**

n/a

**【その他の重要事項】**

In order to have access to all the information and course materials necessary, everyone taking this course is required to sign up in the H'etudes (<https://hcms.hosei.ac.jp/portal>). All the assignment must be submitted through this website. I may also send occasional announcements and messages as well. For this reason, it is critical that you check your university email account regularly and actively use this website.

OTR400HA

**SCOPE Seminar**

竹原 正篤

カテゴリ：SCOPE | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

We human being are facing serious problems such as environmental degradation, poverty and various forms of inequalities. Governments alone cannot solve those problems anymore, therefore there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles to solve those problems. Under such circumstances, increasing numbers of global companies are tackling those problems as their business, together with their stakeholders to accelerate the transition to a more sustainable world. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders across their value chains to deliver high-impact business solutions to the challenging sustainability issues. Through this seminar, we learn various efforts of global companies on challenges on earth, how they are creating shared values(CSV) with their stakeholders and leading them to the enhancement of their corporate values. We will also make a comparative study of sustainability strategy of US, European, Asian and Japanese companies.

**【到達目標】**

This course offers students opportunities to have deeper understanding of global sustainability and the role of business. More specifically, we aim at achieving following goals.

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are maximizing their competitive advantage by tackling social and environmental problems.
- (2) Train logical thinking skill to consider systematically by setting agenda individually and collecting, analyzing necessary information
- (3) Train skill to form our own opinion and effectively communicate to others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. During the first half of the seminar, to acquire basic knowledge on global sustainability and role of companies, we will review several sustainability reports issued by major global companies, and related literatures/reports. (The summary of those materials will be reported by students). During the second half of the seminar, students will conduct research on a topic of their interest and are expected to share the research findings with other members of the seminar.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Reading academic literatures 1	Short lectures and discussions
3	Reading academic literatures 2	Short lectures and discussions
4	Reading academic literatures 3	Short lectures and discussions
5	Reading academic literatures 4	Short lectures and discussions
6	Reading academic literatures 5	Short lectures and discussions
7	Reading academic literatures 6	Short lectures and discussions
8	Reading academic literatures 7	Short lectures and discussions
9	Student presentations 1	Student presentation and discussions
10	Student presentations 2	Student presentation and discussions
11	Student presentations 3	Student presentation and discussions
12	Student presentations 4	Student presentation and discussions
13	Student presentations 5	Student presentation and discussions

14	Student presentations	Student presentation and discussions
15	Wrap up	Reflection and discussions

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time.

## 【テキスト（教科書）】

Materials will be disseminated in class.

## 【参考書】

References will be introduced in class.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance and active participation: 50%  
Presentations 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

N/A (This course will be offered for the first time in 2017)

SOC200MA

## 文化経営論

荒川 裕子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

## 【到達目標】

文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメントする」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のNPOなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら授業を進めます。一方的な講義に終始することなく、学生自身が実際に文化の現場に出かけ、そのマネジメントのありようを分析したり、文化に関わるイベント等の企画立案を試みたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	日本の文化政策①	明治から昭和初期までをたどる。
第3回	日本の文化政策②	第二次世界大戦から戦後の文化政策の転換までを概観する。
第4回	日本の文化政策③	高度経済成長期の特徴を探索する。
第5回	日本の文化政策④	今日の文化政策の動向を概観する。
第6回	文化と法	「文化芸術振興基本法」をはじめ、文化を支える法的基盤について学ぶ。
第7回	文化と経済①	文化予算とファンドレイズについて理解する。
第8回	文化と経済②	文化産業／創造産業について考察する。
第9回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第10回	市民社会と文化①	「創造都市」を中心に文化と社会の関わりを考える。
第11回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化にアプローチする。
第12回	文化のマネジメント①	学生によるプレゼンテーション
第13回	文化のマネジメント②	学生によるプレゼンテーション
第14回	文化のマネジメント③	学生によるプレゼンテーション
第15回	まとめと振り返り	授業を通して得られた知見を整理し、今後の文化経営について考える。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中には毎回プリント資料を配布します。

## 【参考書】

授業中に適宜、参考図書および参考URLを提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題の成果、プレゼンテーション／ディスカッションへの参加など）：50%  
期末試験（論述式）：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

知的発見が非常に多い授業との評価をいただいておりますが、ともすれば受け身の講義になってしまうため、学生の積極的な参画を促すべく、プレゼンテーションやディスカッションの機会を確実に設けていきたいと思っております。

発行日：2021/6/1

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）